

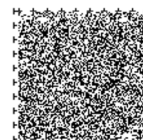
# 和歌山県 人権に関する県民意識調査

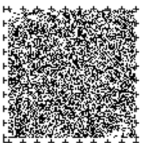
## 調査結果報告書

～人権が尊重される社会づくりのために～

令和6年3月

和歌山県





## はじめに

人権とは、全ての人が生まれながらに持っている、人として幸せに生きていくために必要な、誰からも侵されることのない権利です。

和歌山県では、全ての人の人権が尊重される豊かな社会を実現するため、平成14年4月に「和歌山県人権尊重の社会づくり条例」を制定し、これに基づき平成16年8月に県の人権施策の基本的な方向を示す「和歌山県人権施策基本方針」を策定しました。以降、概ね5年ごとに改定を行い、さまざまな人権施策に取り組んでいるところです。

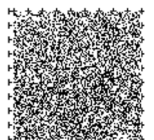
こうしたなか、近年、人権をとりまく社会情勢の変化がみられることから、県民の皆さんの人権意識や、企業等における人権尊重の取組等を把握するため、「和歌山県人権に関する県民意識調査及び事業所アンケート調査」を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

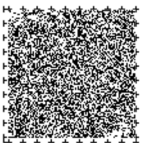
調査の結果については、人権が尊重される社会づくりのための施策の検討に活用していくこととしています。

最後に、調査の実施にあたりまして、貴重な御助言をいただきました和歌山県人権施策推進審議会委員並びに調査に御協力いただきました県民の皆さんに、厚くお礼申し上げます。

令和6年3月

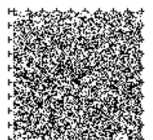
和歌山県企画部長 前 昌治



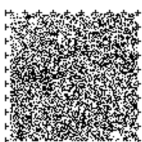


# 目 次

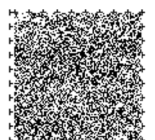
<b>I 調査概要</b> .....	1
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査の項目 .....	1
3. 調査設計 .....	1
4. 回収結果 .....	1
5. 報告書の見方 .....	2
6. 調査の精度 .....	2
<b>II 回答者の属性</b> .....	3
1. 性別 .....	3
2. 年齢 .....	3
3. 職業 .....	4
4. 居住地域 .....	4
<b>III 調査結果の概要</b> .....	5
1. 「人権」について.....	5
2. 人権侵害を受けた経験.....	6
3. 人権侵害を受けたことを見聞きした経験.....	6
4. 虐待や暴力がまわりで起きていることを知ったときの対応 .....	6
5. 女性に関する事柄で、問題だと思うこと.....	7
6. 子供に関する事柄で、問題だと思うこと.....	7
7. 高齢者に関する事柄で、問題だと思うこと.....	7
8. 障害のある人に関する事柄で、問題だと思うこと .....	7
9. 外国人に関する事柄で、問題だと思うこと.....	8
10. HIV感染者やかかってハンセン病を患った人、難病患者に関する事柄で、問題だ だと思うこと .....	8
11. 犯罪被害者とその家族に関する事柄で、問題だと思うこと .....	8
12. インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害で、問題だ と思うこと .....	8
13. 性的少数者に関する事柄で、問題だと思うこと.....	9
14. 働く人に関する事柄で、問題だと思うこと.....	9
15. 医療の現場における患者に関する事柄で、問題だと思うこと .....	9
16. 同和問題（部落差別）についての考え.....	9
17. 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害についての考え .....	10
18. 人権全般について .....	10

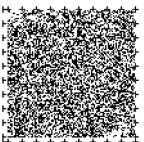


IV 調査結果 .....	11
1. 「人権」について.....	11
問1 あなたは、人権についてどのようにお考えですか.....	11
問2 「人権」に関する次のAからCの各設問について、あなたはどのようにお考えですか... 14	14
問3 次にあげる人権課題の中で、あなたが関心をもっているものは何ですか .....	23
2. 人権侵害を受けた経験.....	29
問4 あなたは、過去5年間に、人権侵害を受けたことがありますか.....	29
問4-1 そのときどうされましたか .....	31
問4-2 なぜそのようにされたのですか .....	36
3. 人権侵害を受けたことを見聞きした経験.....	40
問5 あなたは、過去5年間に、他の人が人権侵害を受けたことを見たり聞いたりしたこ とがありますか.....	40
問5-1 そのときどうされましたか .....	42
問5-2 なぜそのようにされたのですか .....	47
4. 虐待や暴力がまわりで起きていることを知ったときの対応 .....	52
問6 子供、配偶者、高齢者、障害のある人などへの虐待や暴力が、あなたのまわりで起 きていることを知った場合、あなたならどのように対応すると思いますか.....	52
5. 女性に関する事柄で、問題だと思うこと.....	57
問7 女性に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか .....	57
6. 子供に関する事柄で、問題だと思うこと.....	64
問8 子供に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか .....	64
問9 高齢者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか .....	69
8. 障害のある人に関する事柄で、問題だと思うこと .....	74
問10 障害（身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害など）のある人 に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか .....	74
9. 外国人に関する事柄で、問題だと思うこと.....	81
問11 日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思 いますか.....	81
10. HIV感染者やかかつてハンセン病を患った人、難病患者に関する事柄で、問題 だと思うこと .....	86
問12 HIV感染者やかかつてハンセン病を患った人、難病患者に関する事柄で、人権上、 特にどのようなことが問題だと思いますか .....	86
11. 犯罪被害者とその家族に関する事柄で、問題だと思うこと .....	91
問13 犯罪被害者とその家族に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思 いますか.....	91
12. インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害で、問題だ と思うこと .....	96
問14 インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害につい て、特にどのようなことが問題だと思いますか .....	96



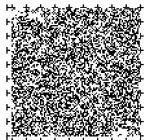
13. 性的少数者に関する事柄で、問題だと思うこと.....	101
問15 性的少数者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか .	101
14. 働く人に関する事柄で、問題だと思うこと.....	106
問16 働く人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか .....	106
15. 医療の現場における患者に関する事柄で、問題だと思うこと .....	111
問17 医療の現場における患者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか.....	111
16. 同和問題（部落差別）についての考え.....	116
問18 同和問題（部落差別）について、どういうきっかけで知りましたか .....	116
問19 同和問題（部落差別）に関して、現在、どのような問題があると思えますか .....	121
問20 仮に、あなたに子供がおり、あなたの子供が結婚しようとする相手の方が、同和地区の人であるとわかったとき、あなたはどのようにしますか .....	126
問21 新型コロナウイルス感染症に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか.....	129
問22 人権に関する様々な法律や県の条例について知っていますか.....	134
問23 あらゆる人権問題に関する啓発活動の推進と情報発信の拠点である「(公財)和歌山県人権啓発センター」のことを知っていますか .....	165
問24 すべての人の人権が尊重される社会の実現のため、和歌山県や(公財)和歌山県人権啓発センターでは次のような取組を行っていますが、その中で関心があるのはどの取組ですか.....	167
<b>V 自由意見 .....</b>	<b>173</b>
<b>資料 人権に関する県民意識調査票 .....</b>	<b>177</b>

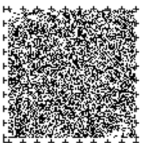






# I 調査概要





# I 調査概要

## 1. 調査の目的

和歌山県人権尊重の社会づくり条例に基づき、県民の人権に関する意識等の実態を把握し、和歌山県人権施策基本方針をはじめとした人権関係施策の基本的方向を検討するための基礎資料とするために実施した。

## 2. 調査の項目

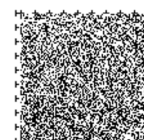
- (1) 回答者の属性
- (2) 人権について
- (3) さまざまな人権課題について（女性、子供、高齢者、障害のある人、外国人、H I V感染者やかつてハンセン病を患った人、難病患者、犯罪被害者とその家族、インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害、性的少数者、働く人、医療の現場における患者）
- (4) 同和問題（部落差別）について
- (5) 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害について
- (6) その他人権全般について

## 3. 調査設計

- (1) 調査地域 和歌山県全般
- (2) 調査対象 満18歳以上の県民3,000人（令和5年4月1日現在）
- (3) 抽出方法 層化無作為抽出
- (4) 抽出台帳 住民基本台帳から抽出
- (5) 調査方法 郵送による調査票の配布・回収
- (6) 調査期間 令和5年6月2日（金）～6月30日（金）

## 4. 回収結果

(1) 発送数	a	3,000
(2) 未着返送数（住所不明・転送先不明等）	b	18
(3) 実発送数	$c=a-b$	2,982
(4) 回収数	d	1,358
(5) 無効票（白票等の無効回答）	e	2
(6) 有効回答数	$f=d-e$	1,356
(7) 有効回答率	$f/c$	45.5%



## 5. 報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の意味である。
- ③ クロス集計において、比率算出の基数となるサンプル数が少ない層は、回答結果の比率に偏りが生じている可能性があるため、結果の読み取りには注意を要す。
- ④ 性別の「その他」（n=3）は母数が少ないことから、性別のクロス集計では当該カテゴリーの表示は省略している。
- ⑤ 年齢別の「10歳代」（n=19）、職業別の「その他」（n=15）は、母数が少ないことから一概に適正な比率とは言えないため、傾向をみるための参考とする。

## 6. 調査の精度

この調査は標本調査であり、今回得られた結果から和歌山県全体（満18歳未満の県民を除く）としての意見を推測することができる。この場合、標本誤差は次の式より近似値を求めることができる。（ただし、信頼度95%とする）

$$\delta = k \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}}$$

$\delta$  = 標本誤差

n = 有効回収数（1,356人）

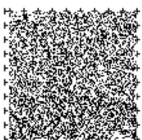
p = 結果の比率

k = 信頼度による定数（±1.96）

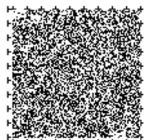
たとえば、回答者総数（1,356人）を100%とする質問で、ある回答選択肢に対する回答比率が50%であったとすると、母集団（県民全体）における回答比率は、47.3～52.7%の間であると推測される。信頼度95%というのは、同じ方法で100回調査すれば、95回は母集団の真の値から、上式で求められた誤差の範囲内に入ることである（下記参照）。

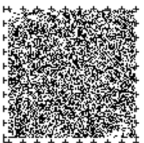
【標本誤差】

回答比率（p）	標本誤差（ $\delta$ ）
10%または90%	±1.6%
20%または80%	±2.1%
30%または70%	±2.4%
40%または60%	±2.6%
50%	±2.7%



## Ⅱ 回答者の属性





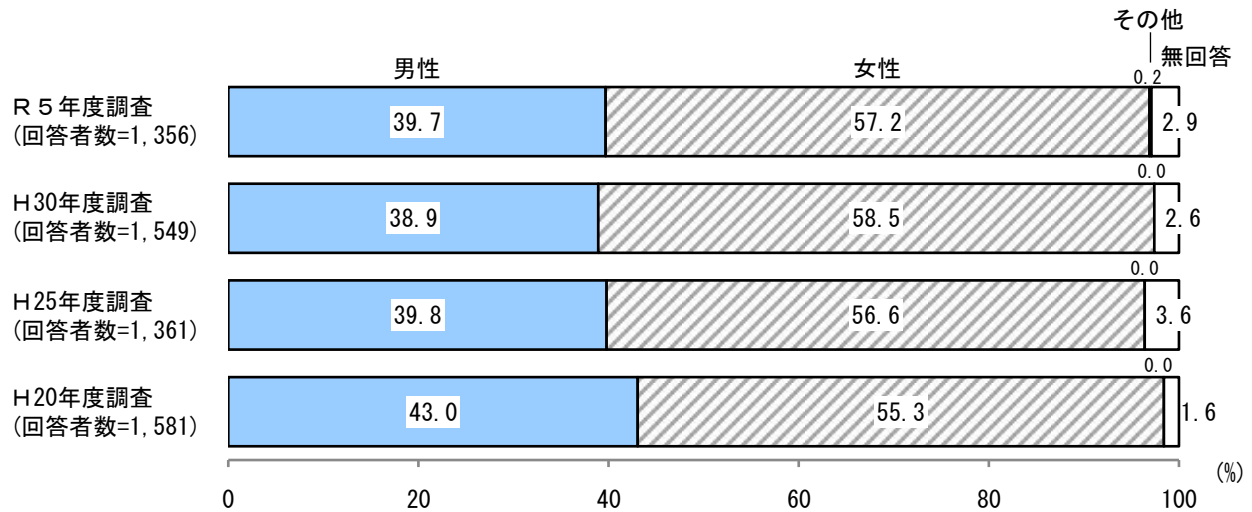
## Ⅱ 回答者の属性

### 1. 性別

#### ①あなたの性別を教えてください

「男性」の割合が39.7%、「女性」の割合が57.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

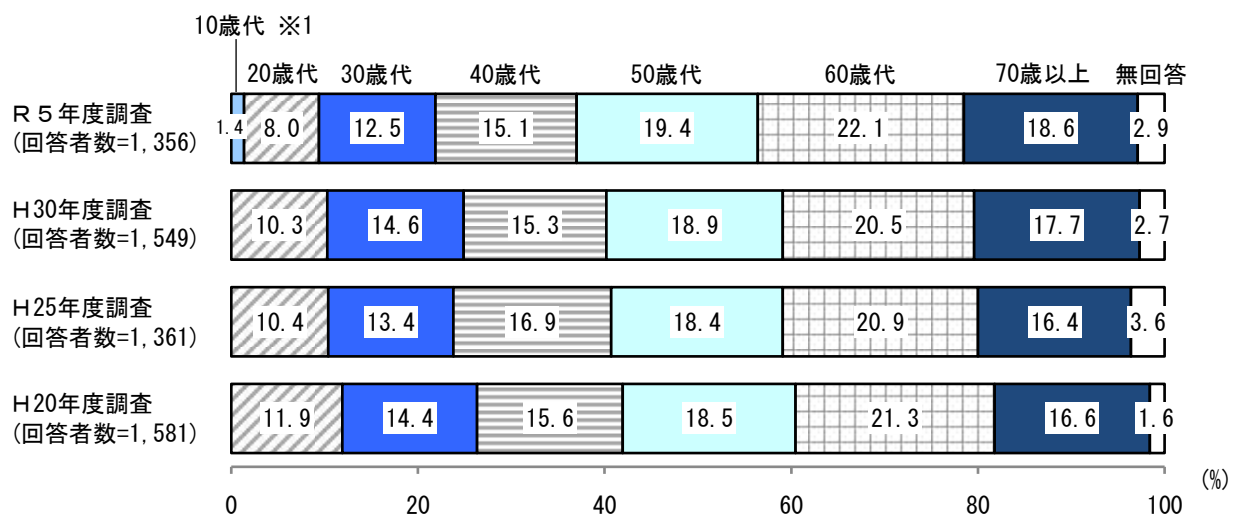


### 2. 年齢

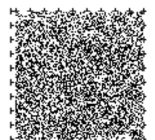
#### ②あなたの年齢を教えてください

「60歳代」の割合が22.1%で最も多く、次いで「50歳代」が19.4%、「70歳以上」が18.6%、「40歳代」が15.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、今回、対象年齢の拡大により追加となった「10歳代」の割合が1.4%となっているものの、他の年代は大きな変化はみられません。



※1 R5年度で新たに設けた選択肢

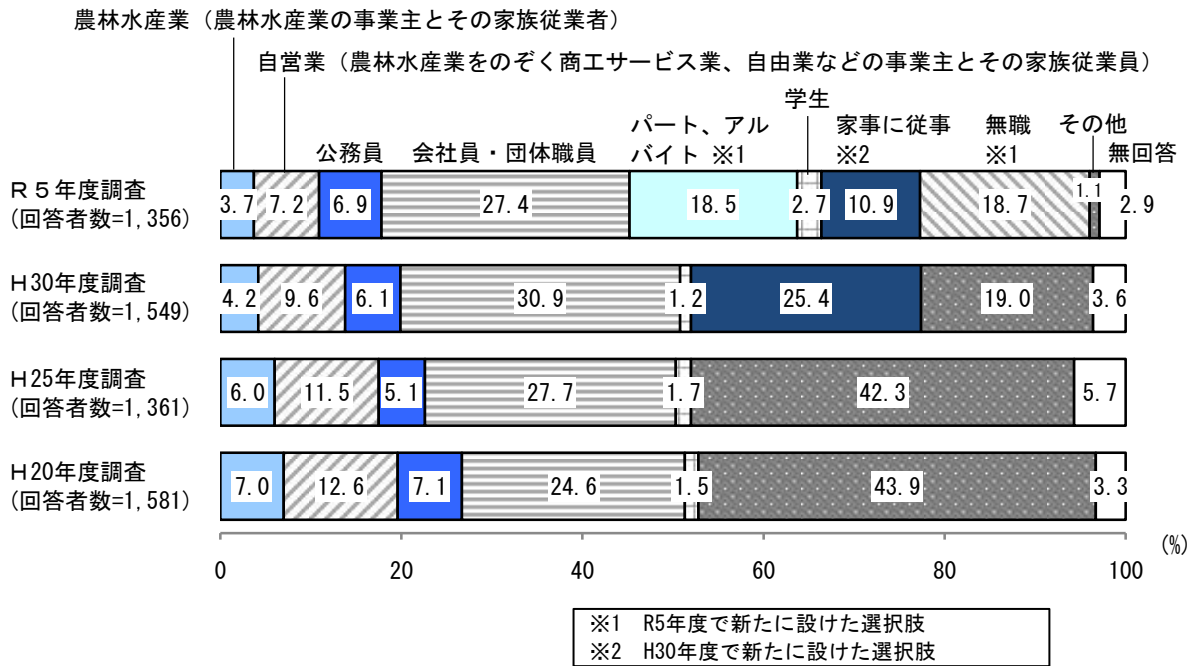


### 3. 職業

#### ③あなたの職業を教えてください（主なもの1つだけに○）

「会社員・団体職員」の割合が27.4%で最も多く、次いで「無職」が18.7%、「パート、アルバイト」が18.5%となっています。

今回、新たに選択肢として追加した「無職」が18.7%、「パート・アルバイト」が18.5%となっています。

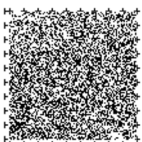
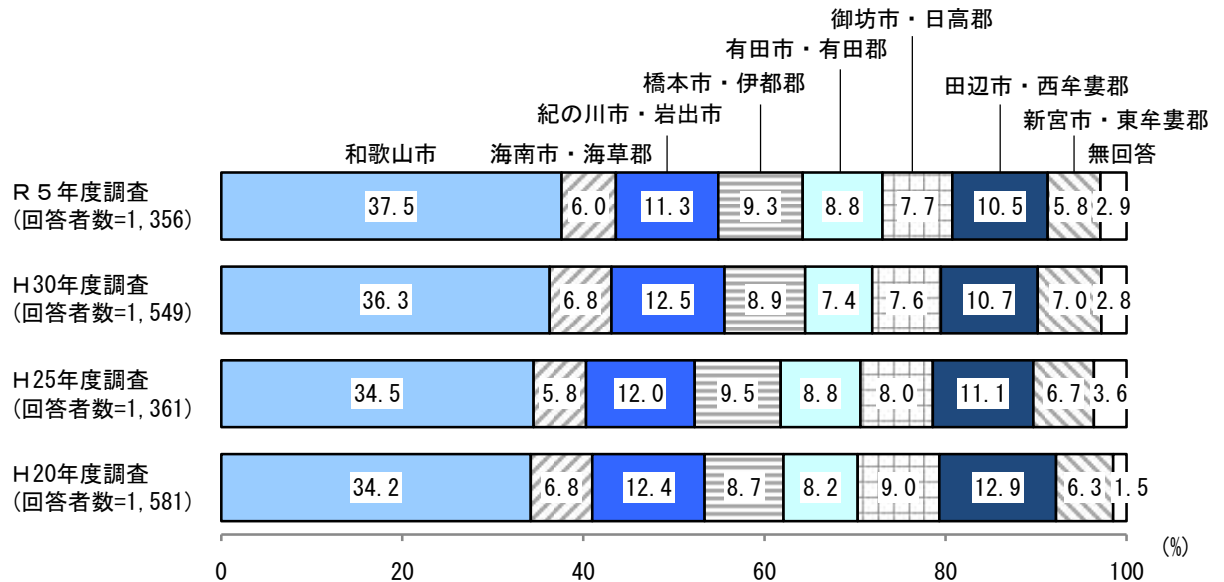


### 4. 居住地域

#### ④あなたが住まいの市町村が含まれている地域の番号に○をつけてください

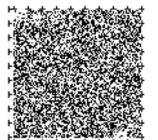
「和歌山市」の割合が37.5%で最も多く、次いで「紀の川市・岩出市」が11.3%、「田辺市・西牟婁郡」が10.5%となっています。

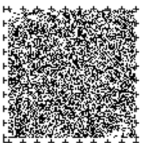
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。





### Ⅲ 調査結果の概要





### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1. 「人権」について

##### (1) 人権についての考え

「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が37.2%で最も多く、次いで「一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が35.9%となっており、この2項目で約7割を占めています。

平成30年度調査と比較すると、「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合は1.6ポイント減少、「一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合は5.2ポイント減少、「人権という名のもとに、権利の乱用がみられることがあるので、むしろ制限されるべきである」の割合は2.5ポイント減少となっています。

##### (2) 人権に関する意識

A 今の和歌山県では、人権は十分守られていると思いますかについて、『守られていると思う』（「守られていると思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合が47.9%に対し、『守られていると思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「守られていると思わない」の合計）が6.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、『守られていると思う』（平成30年度までは「そう思う」「まあそう思う」の合計、B・Cも同様）の割合が1.2ポイント減少、『守られていると思わない』（平成30年度までは「そうは思わない」「あまりそう思わない」の合計、B・Cも同様）の割合も3.9ポイント減少しています。

B 今の和歌山県では、人権を守る教育・啓発活動が十分行われていると思いますかについて、『行われていると思う』（「行われていると思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合が38.0%、『行われていると思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「行われていると思わない」の合計）が13.4%となっています。

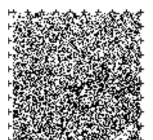
平成30年度調査と比較すると、『行われていると思う』の割合が1.0ポイント増加、『行われていると思わない』の割合が6.7ポイント減少しています。

C 5年前に比べて県民の人権意識は高くなってきていると思いますかについて、『高くなってきていると思う』（「高くなってきていると思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合が33.0%、『高くなってきていると思わない』（「どちらかといえばそう思わない」と「高くなってきていると思わない」の合計）の割合が14.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、『高くなってきていると思う』の割合が3.9ポイント増加、『高くなってきていると思わない』の割合が6.9ポイント減少しています。

##### (3) 人権課題の中で関心をもっているもの

「障害のある人の人権」の割合が55.5%で最も多く、次いで「働く人の人権」が46.5%、「情報化社会における人権侵害」が45.6%となっています。今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、



「女性の人権」(42.7%)の割合が21.2ポイント、「情報化社会における人権侵害」が17.8ポイントそれぞれ増加するなど、いずれの人権においても割合が増加しています。

## 2. 人権侵害を受けた経験

### (1) 人権侵害を受けた経験の有無

「ある」の割合が11.9%で、「ない」が77.1%となっています。

### (2) 人権侵害を受けたときの対応

「何もしなかった」の割合が32.7%で最も多く、次いで「家族や親せきに相談した」が31.5%、「職場の同僚、上司に相談した」が25.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「友人や先輩に相談した」の割合が17.6ポイント減少(ただし、新設の選択肢「職場の同僚、上司に相談した」は25.3%)し、「何もしなかった」(32.7%)の割合が、今回調査では「黙って我慢をした」の選択肢を除外したことで28.6ポイント増加しています。

### (3) 人権侵害を受けたときに何もしなかった理由

「相手に抗議や誰かに(どこかに)相談しても解決しないと思ったから」の割合が56.6%で最も多く、次いで「自分が我慢すればよいと思ったから」が32.1%、「抗議や相談することで相手との関係が悪くなると思ったから」が26.4%となっています。

## 3. 人権侵害を受けたことを見聞きした経験

### (1) 人権侵害を受けたことを見聞きした経験の有無

「ある」の割合が14.7%で、「ない」が67.0%となっています。

### (2) 人権侵害を受けたことを見聞きしたときの対応

「人権侵害を受けている本人に話を聞いた」の割合が42.7%で最も多く、次いで「何もしなかった」が22.6%、「職場の同僚、上司に相談した」が21.1%となっています。

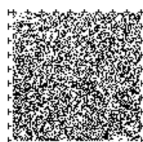
平成30年度調査と比較すると、「近所の人、近くに住んでいる友達・先輩に相談した」(8.5%)の割合が、今回調査では「職場の同僚、上司に相談した」(21.1%)を新設したことで26.4ポイント減少しています。

### (3) 人権侵害を受けたことを見聞きしたときに何もしなかった理由

「相手に抗議や誰かに(どこかに)相談しても、解決しないと思ったから」の割合が37.8%で最も多く、次いで「トラブルに巻き込まれなくなかったから」が28.9%、「相談するとプライバシーが守られないと思ったから」が20.0%となっています。

## 4. 虐待や暴力がまわりで起きていることを知ったときの対応

「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、



障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が45.4%で最も多く、次いで「虐待や暴力を受けている本人に話を聞く」が40.3%、「県、市町村、法務局、人権擁護委員に相談する」が39.2%となっています。

平成30年以前の調査結果でも、「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」や「県、市町村、法務局、人権擁護委員に相談する」「虐待や暴力を受けている本人に話を聞く」が上位となっています。

## 5. 女性に関する事柄で、問題だと思うこと

「家事・育児や介護などを男女が共同に行う社会の仕組みが十分に整えられていない」の割合が50.4%で最も多く、次いで「男は仕事、女は家事・育児」など、男女の固定的な役割分担意識がある」が40.0%、「職場において、採用や昇進などで男女の処遇に違いがある」が32.4%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「女性の政治への参画や会社役員、管理職などへの登用が少ない」(32.2%)の割合が20.1ポイント、「職場においてセクハラ(性的嫌がらせ)がある」(25.1%)の割合が14.5ポイント、それぞれ増加しています。

## 6. 子供に関する事柄で、問題だと思うこと

「仲間はずれ」や「無視」、身体への暴力や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行う」の割合が69.0%で最も多く、次いで「携帯電話などによりインターネットの書き込みなどで特定の子供が攻撃される」が59.9%、「親(保護者)が子供に暴力をふるったり育児を放棄するなどの虐待をする」が51.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としていますが、平成30年度調査に比べ、「親(保護者)が子供に暴力をふるったり育児を放棄するなどの虐待をする」の割合は5.2ポイント減少し、「携帯電話などによりインターネットの書き込みなどで特定の子供が攻撃される」の割合は35.6ポイント増加しています。

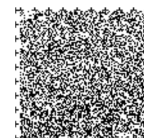
## 7. 高齢者に関する事柄で、問題だと思うこと

「低所得のために経済的自立が難しい」の割合が42.8%で最も多く、次いで「悪質商法などの消費者被害が多い」が39.7%、「認知症の内容や認知症患者のニーズが理解されていない」が29.7%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「認知症の内容や認知症患者のニーズが理解されていない」の割合が12.0ポイント、「低所得のために経済的自立が難しい」の割合が10.4ポイント、それぞれ増加しています。

## 8. 障害のある人に関する事柄で、問題だと思うこと

「障害についての理解や認識が十分でない」の割合が64.2%で最も多く、次いで「仕事に就く機会が少なく、また障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でない」が41.7%、「道路や駅などのバリアフリー化が進んでいないため外出しづらい」が29.0%となっています。



今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「判断能力が十分でないことに乗じ、詐欺などの被害が発生している」(23.0%)の割合が17.4ポイント、「障害のある人を避ける、あるいは傷つける言葉や障害をたとえた表現を使う」(27.3%)の割合が12.4ポイント、それぞれ増加しています。

## 9. 外国人に関する事柄で、問題だと思うこと

「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」の割合が46.7%で最も多く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれている」が31.1%、「日常生活において、外国語の情報が少ないために、十分なサービスを受けることができない」が31.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としていますが、平成30年度調査と同様、傾向として、「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」が最も多く、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれている」の割合が13.3ポイント増加しています。

## 10. HIV感染者やかつてハンセン病を患った人、難病患者に関する事柄で、問題だと思うこと

「病気についての理解や認識が十分でない」の割合が66.1%で最も多く、次いで「病気の後遺症が残っている、感染している、難病であるというだけで本人や家族が世間から好奇または偏見の目で見られる」が33.1%、「医療保険が対象とならない治療方法があるなどの理由で、医療費が高額になり、十分な治療が受けられない」が24.9%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「興味本位の報道がなされる」(18.7%)の割合が8.7ポイント、「本人やその家族の結婚のときに周囲が反対する」(15.7%)の割合が6.9ポイント、それぞれ増加しています。

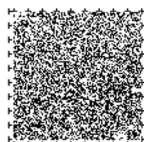
## 11. 犯罪被害者とその家族に関する事柄で、問題だと思うこと

「被害や被害者などがうわさ話などの対象となり、二次被害を受けている」の割合が50.3%で最も多く、次いで「捜査や裁判に関して心理的・時間的・経済的な負担が大きい」が48.1%、「マスメディアによる行き過ぎた取材のため日常的な生活を送ることができない」が44.1%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「捜査や裁判に関して心理的・時間的・経済的な負担が大きい」の割合が20.9ポイント、「被害者に対する金銭の公的な支援制度が十分でない」(28.9%)の割合が16.7ポイント、「被害者の苦しみについて職場や学校での十分な理解を得られない」(27.1%)が16.6ポイント、それぞれ増加しています。

## 12. インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害で、問題だと思うこと

「インターネット上に他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現を用いた情報を掲載する」の割合が65.3%で最も多く、次いで「子供たちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している」が49.3%、「SNSなどが犯罪や自殺



を誘発する場となっている」が49.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「インターネットを利用した詐欺などが発生している」(46.1%)の割合が35.1ポイント増加しています。

### 13. 性的少数者に関する事柄で、問題だと思うこと

「理解や認識が不足している」の割合が59.4%で最も多く、次いで「性的指向・性自認について公表できる・したいと思える社会になっていない」が37.2%、「侮辱や、いやがらせがある」が26.4%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「侮辱や、いやがらせがある」の割合が7.7ポイント増加しています。

### 14. 働く人に関する事柄で、問題だと思うこと

「長時間労働が続く、あるいは休暇が取得しづらい」の割合が52.9%で最も多く、次いで「サービス残業が発生している」が48.2%、「育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でない」が38.8%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「心の病などの健康に関して相談する体制が整備されていない」(29.9%)の割合が12.5ポイント増加しています。

### 15. 医療の現場における患者に関する事柄で、問題だと思うこと

「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）を受ける機会が十分ではない」の割合が32.7%で最も多く、次いで「医療過誤（医療ミス）が発生した場合に、患者の権利が守られる体制がない」が30.5%、「救急患者の受け入れが拒否されることがある」が27.7%となっています。

なお、平成30年度調査では、「医療の現場における患者に関する事柄で、人権上、特に関心があること」を問う設問とし、質問の趣旨が異なるため、今回の調査結果との比較は行っていません。

### 16. 同和問題（部落差別）についての考え

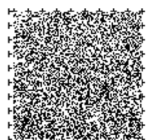
#### (1) 同和問題（部落差別）を知ったきっかけ

「学校の授業で教わった」の割合が33.7%で最も多く、次いで「家族から聞いた」が15.9%、「同和問題（部落差別）は知っているが、きっかけは覚えていない」が10.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「同和問題（部落差別）は知っているが、きっかけは覚えていない」(10.6%)の割合が5.3ポイント減少しています。

#### (2) 同和問題（部落差別）に関して問題だと思うこと

「結婚のときに周囲の人が反対をする」の割合が34.8%で最も多く、次いで「家を購入するときなどは、同和地区や同じ小学校区域を避ける」が15.3%、



「身元調査が行われている」が14.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「結婚のときに周囲の人が反対をする」の割合が5.5ポイント減少しています。

### (3) 子供の結婚相手が同和地区の人だとわかったときの対応

「子供の意思を尊重する」の割合が54.9%で最も多く、次いで「反対だが、子供の意思であれば、仕方がない」が10.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「反対だが、子供の意思であれば、仕方がない」の割合が5.5ポイント減少しています。

## 17. 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害についての考え

「感染者やその家族、あるいは集団感染が発生した施設に対して誹謗中傷が行われる」の割合が29.8%で最も多く、次いで「新型コロナウイルス感染症についての理解や認識が十分でない」が27.3%、「マスク着用やワクチン接種ができない人などに対して誹謗中傷が行われる」が25.3%となっています。

## 18. 人権全般について

### (1) 人権に関する法律や県の条例についての認知度

「内容も知っている」の割合は、“7. 男女雇用機会均等法”が53.0%で最も高く、次いで“10. 児童虐待防止法”が36.0%、“8. 育児・介護休業法”が35.2%となっています。

「内容も知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」をあわせた認知度は、“7. 男女雇用機会均等法”が89.1%で最も高く、次いで“10. 児童虐待防止法”が88.5%、“8. 育児・介護休業法”が83.1%となっています。

一方、「まったく知らない」の割合は“15. 和歌山県犯罪被害者等支援条例”が64.7%で最も高くなっています。

### (2) 「(公財)和歌山県人権啓発センター」の認知度

「知らない」の割合が50.3%で最も多く、次いで「名前は聞いたことがある」が37.2%、「知っている」が9.3%となっています。「知っている」と「名前は聞いたことはある」をあわせた認知度は46.5%となっています。

### (3) 関心がある和歌山県や(公財)和歌山県人権啓発センターの取組

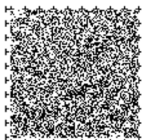
「人権侵害を受けた人への相談や支援」の割合が58.6%で最も多く、次いで「テレビやラジオなどのメディアを使った啓発活動」が28.0%、「ホームページやSNSを使った啓発活動」と「人権啓発イベント(ふれあい人権フェスタなど)の開催」がともに19.1%となっています。

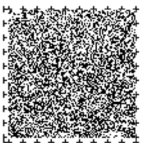
平成30年度調査と比較すると、いずれの項目も大きな変化はありませんが、「人権啓発イベント(ふれあい人権フェスタなど)の開催」の割合は増加傾向にあります。





## IV 調査結果





## IV 調査結果

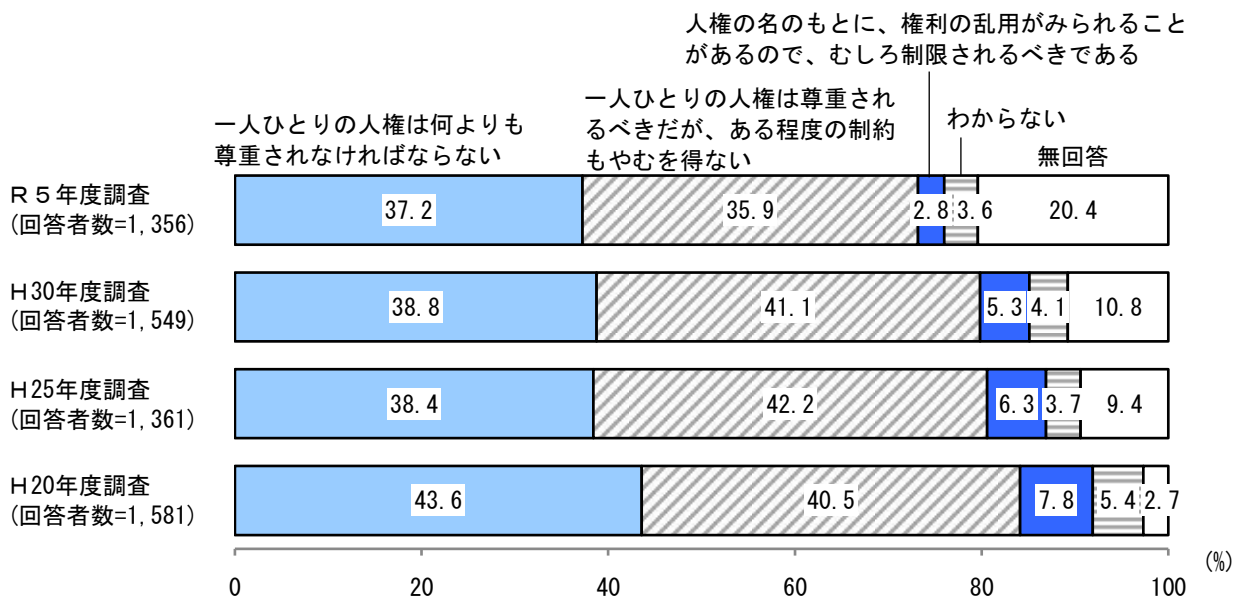
### 1. 「人権」について

#### (1) 人権についての考え

問1 あなたは、人権についてどのようにお考えですか（○は1つだけ）

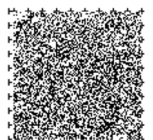
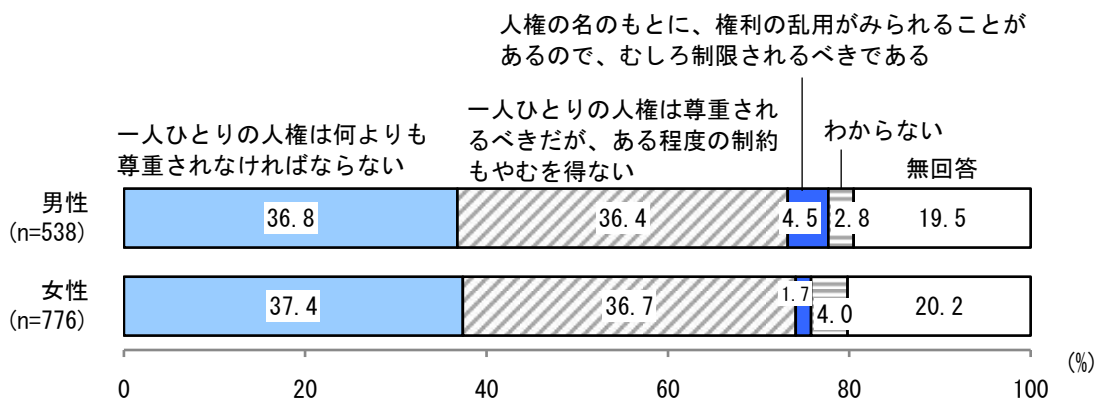
「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が37.2%で最も多く、次いで「一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が35.9%となっており、この2項目で約7割を占めています。

平成30年度調査と比較すると、「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合は1.6ポイント減少、「一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合は5.2ポイント減少、「人権という名のもとに、権利の乱用がみられることがあるので、むしろ制限されるべきである」(2.8%)の割合は2.5ポイント減少となっています。



#### 【性別】

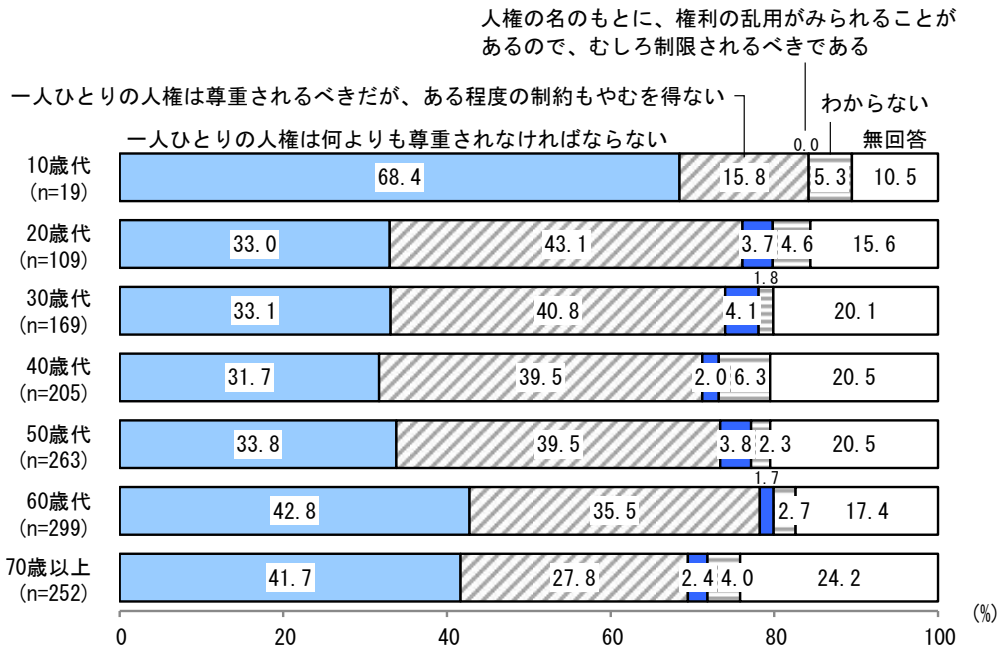
性別で見ると、男性、女性ともに「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が最も高くなっています。



## 【年齢別】

年齢別でみると、20歳代から50歳代では「一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が最も多く、60歳代以上の年代では「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が最も多くなっています。

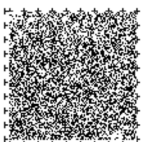
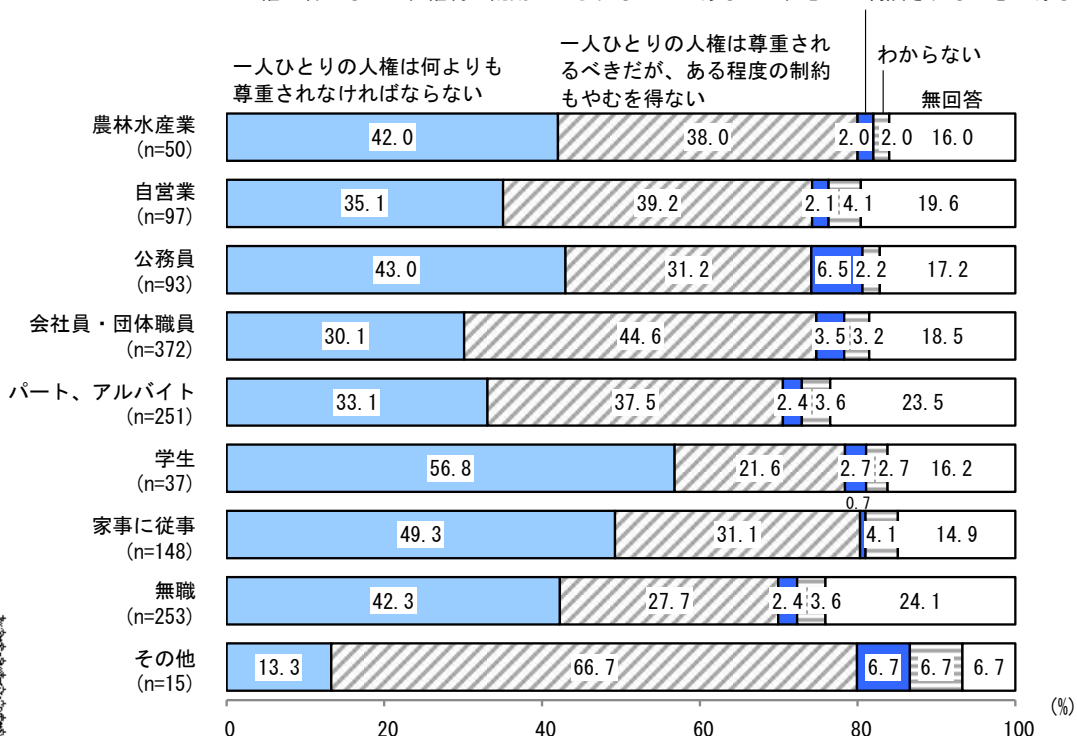
※「10歳代」は回答者数が19人と少なく、結果を見る際には注意が必要であるため、結果のコメントは省略しています。(以下同様)



## 【職業別】

職業別でみると、自営業、会社員・団体職員、パート、アルバイトでは「一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が最も多いですが、それ以外では、「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が最も多くなっています。

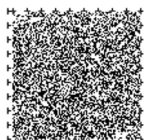
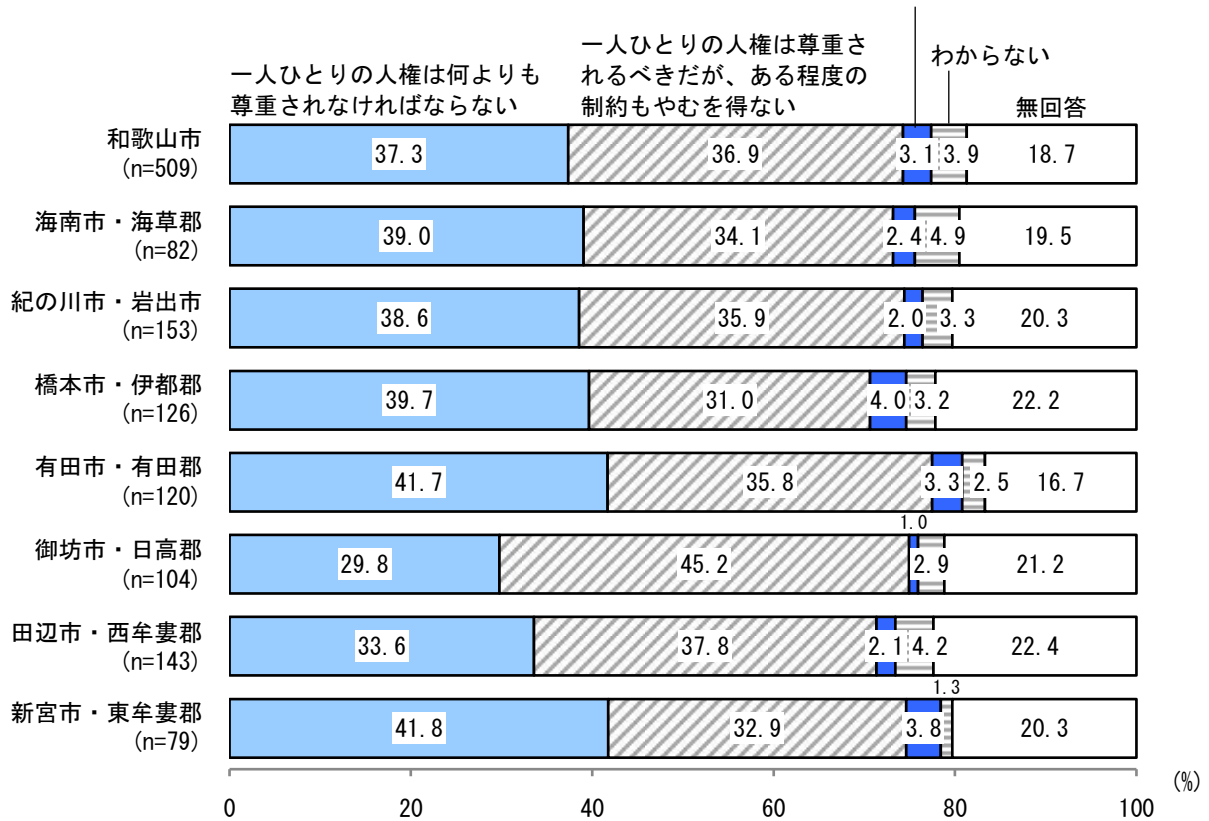
人権の名のもとに、権利の乱用がみられることがあるので、むしろ制限されるべきである



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、御坊市・日高郡と田辺市・西牟婁郡では「一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が最も多いですが、それ以外の地域では「一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない」の割合が最も多くなっています。

人権の名のもとに、権利の乱用がみられることがあるので、むしろ制限されるべきである



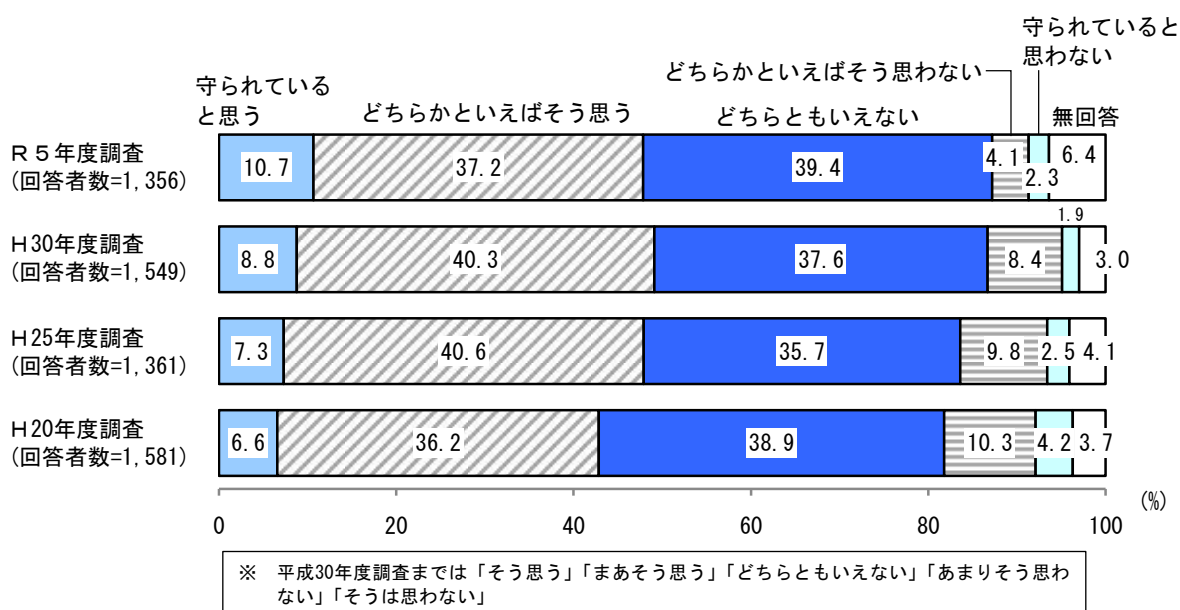
## (2) 人権に関する意識

問2 「人権」に関する次のAからCの各設問について、あなたはどのようにお考えですか  
(○はそれぞれ1つずつ)

### A 今の和歌山県では、人権は十分守られていると思いますか

「守られていると思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『守られていると思う』の割合が47.9%、「どちらかといえばそう思わない」と「守られていると思わない」をあわせた『守られていると思わない』の割合が6.4%となっています。

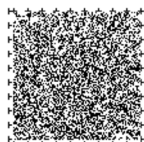
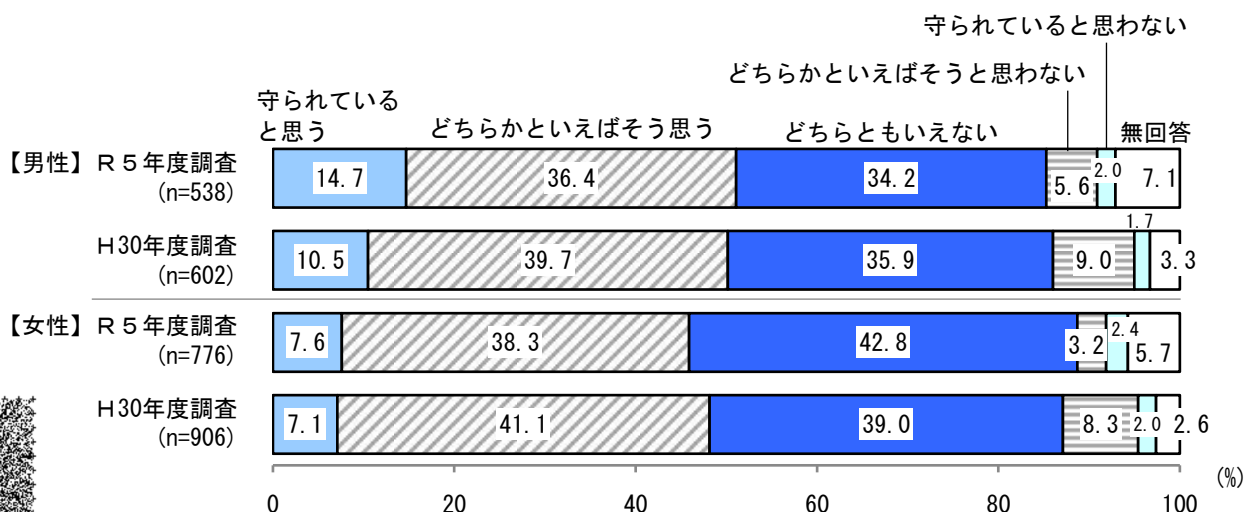
平成30年度調査と比較すると、『守られていると思う』(平成30年度までは「そう思う」「まあそう思う」の合計)の割合が1.2ポイント減少、『守られていると思わない』(平成30年度までは「そうは思わない」「あまりそう思わない」の合計)の割合も3.9ポイント減少しています。



### 【性別】

性別でみると、『守られていると思う』の割合は男性が51.1%、女性が45.9%となっています。

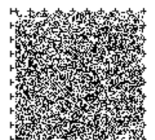
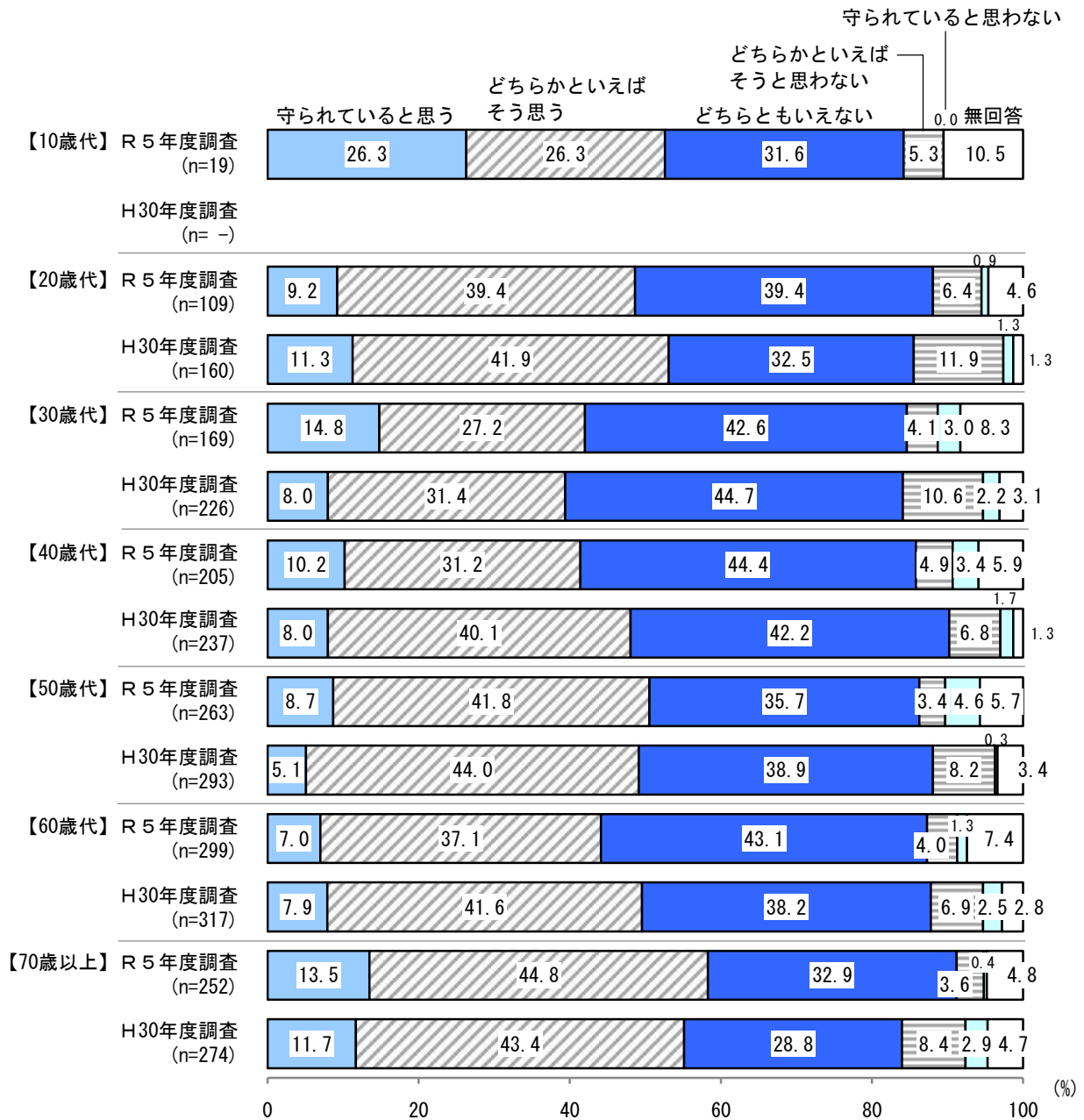
平成30年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



## 【年齢別】

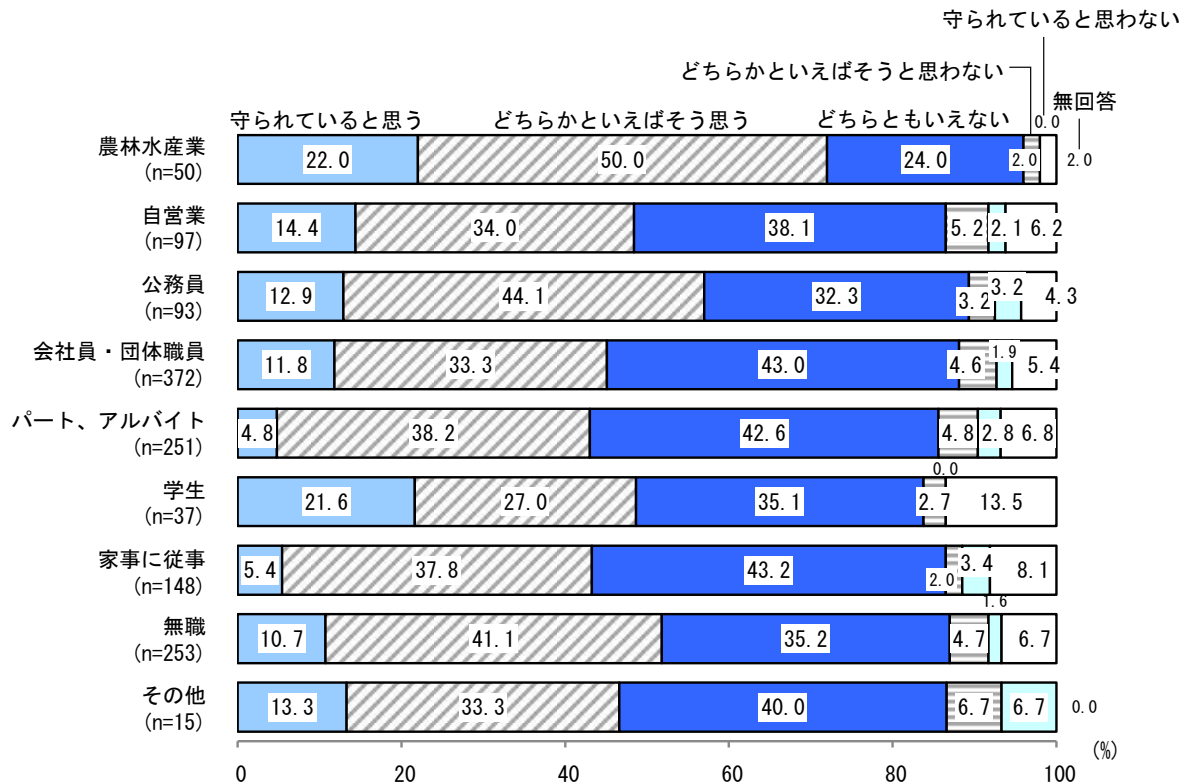
年齢別でみると、『守られていると思う』は70歳以上が58.3%で最も割合が高く、40歳代が41.4%で最も低くなっています。一方、『守られていると思わない』は40歳代が8.3%で最も割合が高く、70歳以上が4.0%で最も低くなっています。

平成30年度調査と比較すると、20歳代、40歳代、60歳代で『守られていると思う』の割合が減少しています。



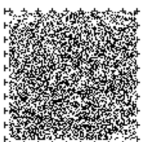
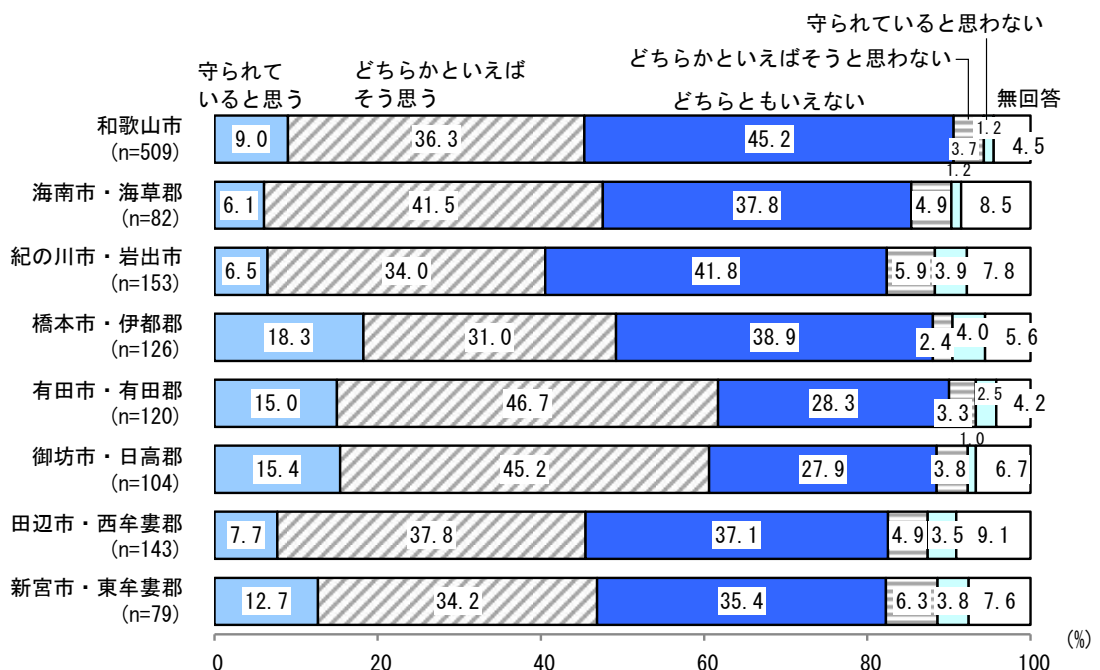
## 【職業別】

職業別でみると、『守られていると思う』は農林水産業が72.0%で最も割合が高く、パート、アルバイトが43.0%で最も低くなっています。一方、『守られていると思わない』はパート、アルバイトが7.6%で最も割合が高く、農林水産業が2.0%で最も低くなっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、『守られていると思う』は有田市・有田郡が61.7%で最も割合が高く、紀の川市・岩出市が40.5%で最も低くなっています。一方、『守られていると思わない』は新宮市・東牟婁郡が10.1%で最も割合が高く、御坊市・日高郡が4.8%で最も低くなっています。

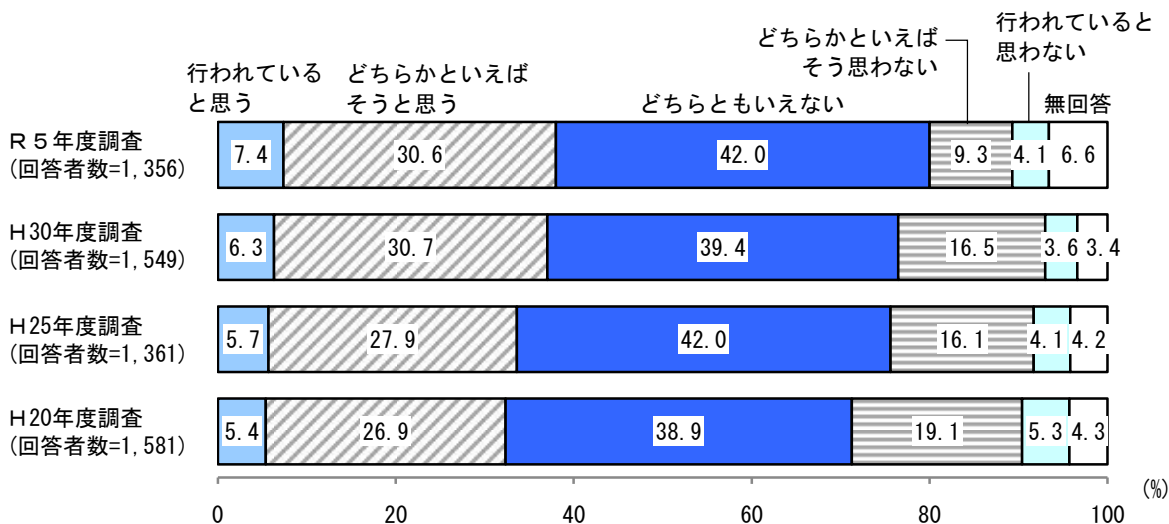




## B 今の和歌山県では、人権を守る教育・啓発活動が十分行われていると思いますか

「行われていると思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『行われていると思う』の割合が38.0%、「どちらかといえばそう思わない」と「行われていると思わない」をあわせた『行われていると思わない』の割合が13.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、『行われていると思う』（平成30年度までは「そう思う」「まあそう思う」の合計）の割合が1.0ポイント増加、『行われていると思わない』（平成30年度までは「そうは思わない」「あまりそう思わない」の合計）の割合が6.7ポイント減少しています。

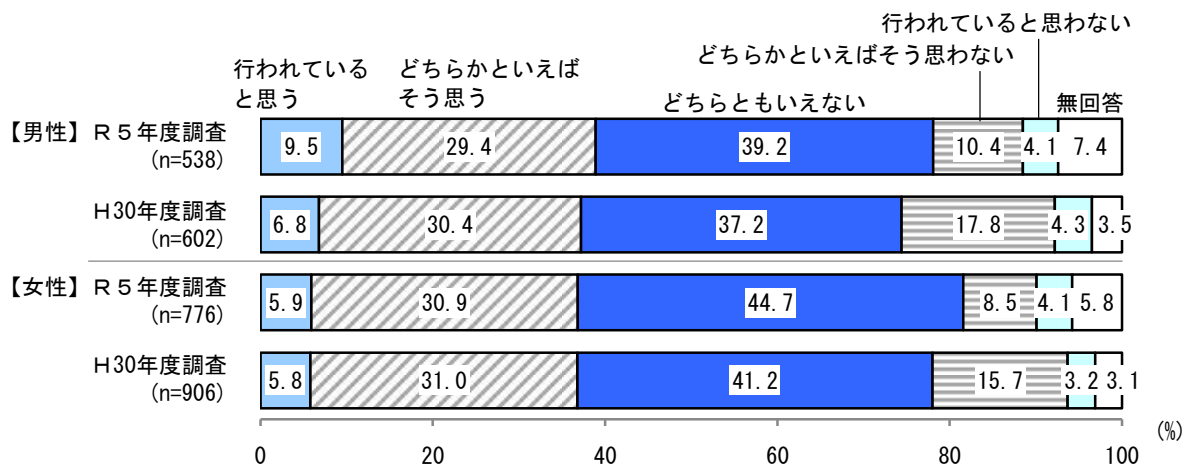


※ 平成30年度調査までの選択肢は「そう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そうは思わない」

### 【性別】

性別でみると、『行われていると思う』の割合が男性では38.9%、女性では36.8%となっています。

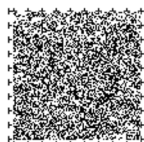
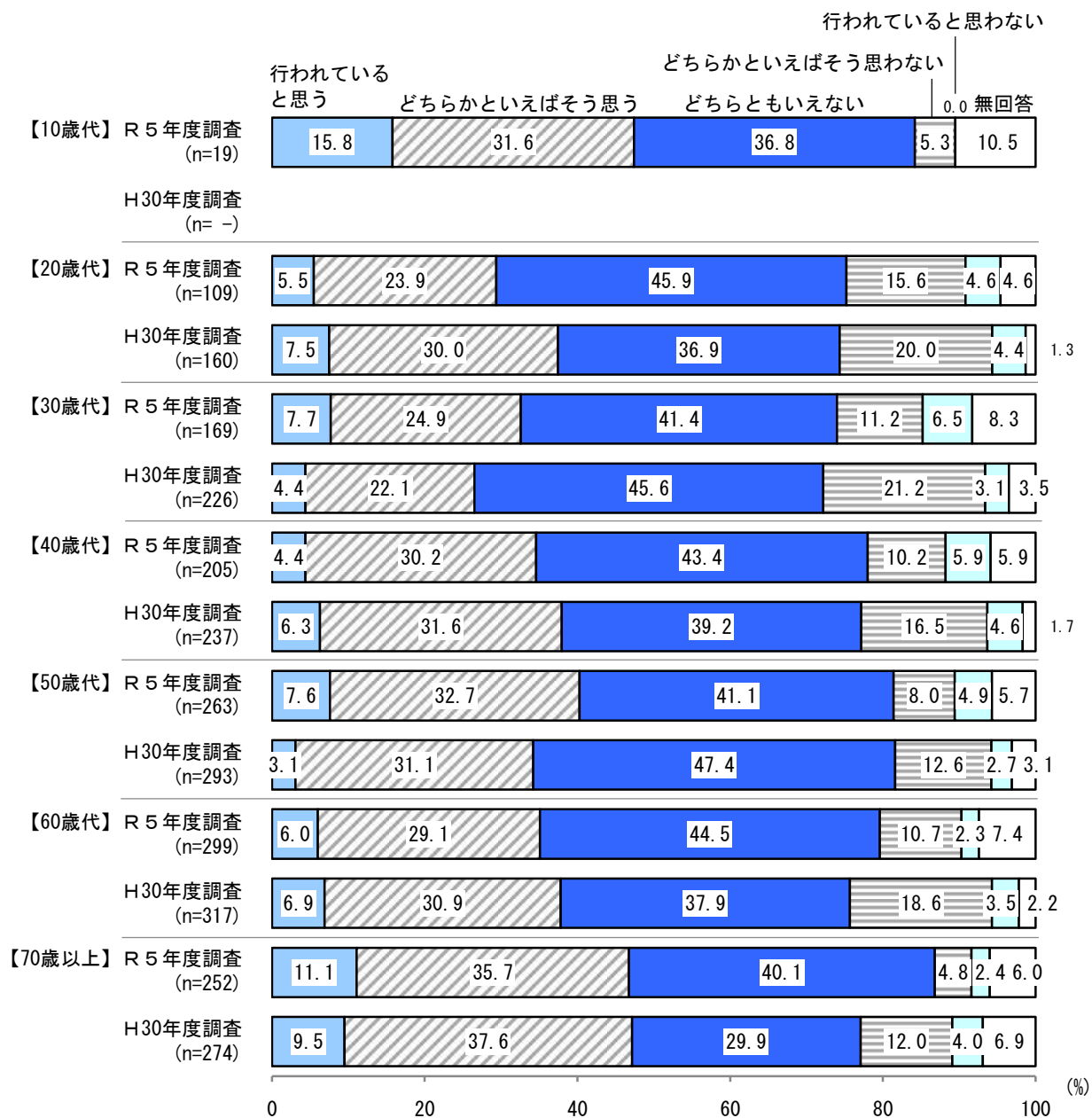
平成30年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



## 【年齢別】

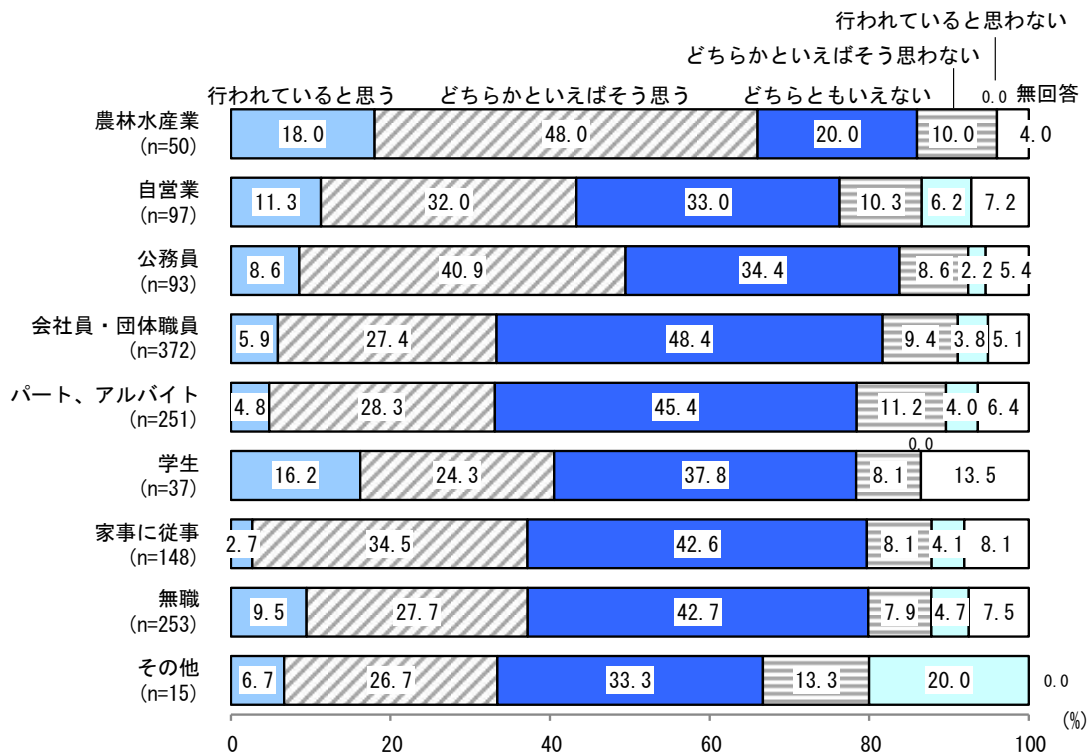
年齢別でみると、『行われていると思う』は70歳以上が46.8%で最も割合が高く、20歳代が29.4%で最も低くなっています。一方、『行われていると思わない』は20歳代が20.2%で最も割合が高く、70歳以上が7.2%で最も低くなっています。

平成30年度調査と比較すると、『行われていると思う』の割合が30歳代と50歳代でそれぞれ6.1ポイント増加しています。



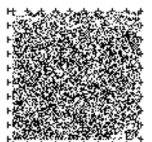
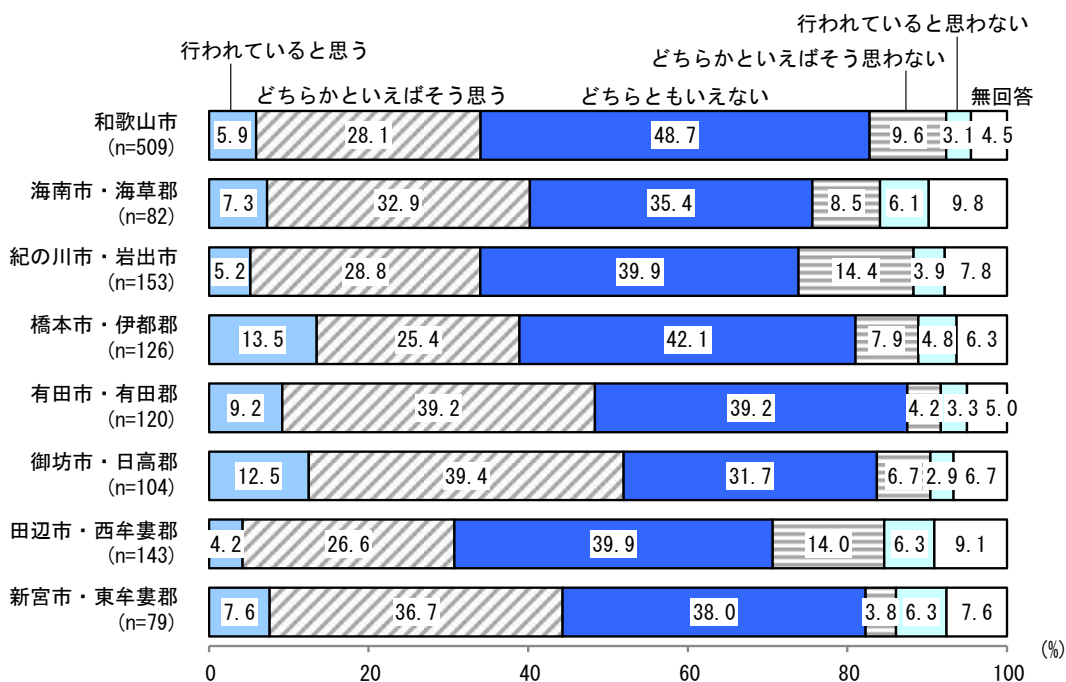
## 【職業別】

職業別でみると、『行われていると思う』は農林水産業が66.0%で最も割合が高く、パート、アルバイトが33.1%で最も低くなっています。一方、『行われていると思わない』は自営業が16.5%で最も割合が高く、学生が8.1%で最も低くなっています。



## 【居住地域別】

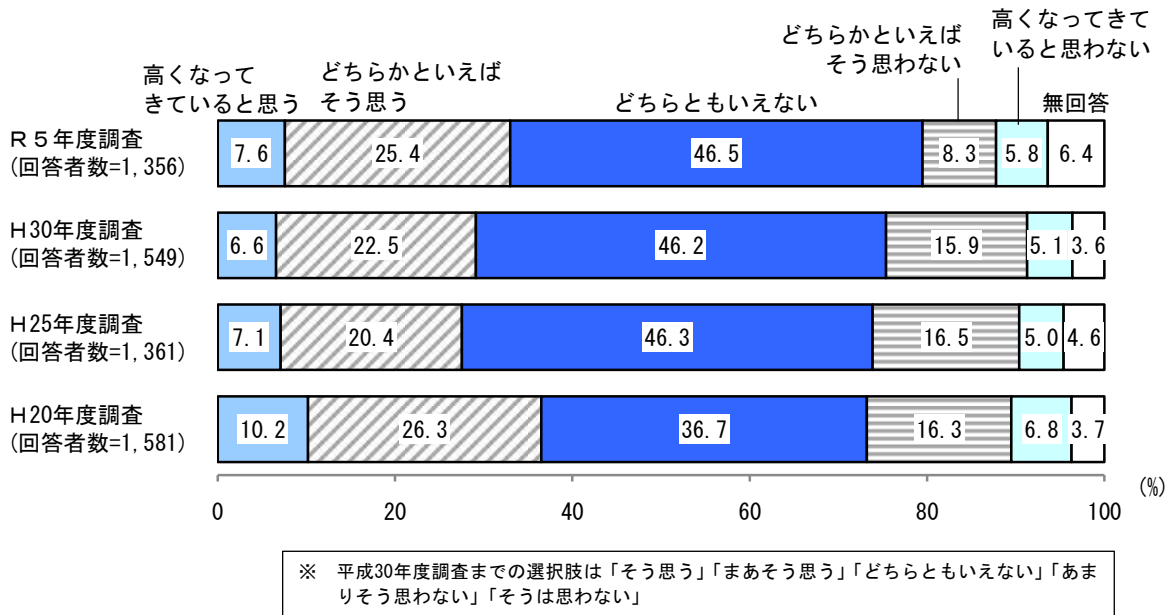
居住地域別でみると、『行われていると思う』は御坊市・日高郡が51.9%で最も割合が高く、田辺市・西牟婁郡が30.8%で最も低くなっています。一方、『行われていると思わない』は田辺市・西牟婁郡が20.3%で最も割合が高く、有田市・有田郡が7.5%で最も低くなっています。



### C 5年前に比べて県民の人権意識は高くなってきていると思いますか

「高くなってきていると思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『高くなってきていると思う』の割合が33.0%、「どちらかといえばそう思わない」と「高くなってきていると思わない」をあわせた『高くなってきていると思わない』の割合が14.1%となっています。

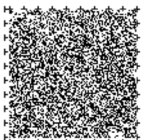
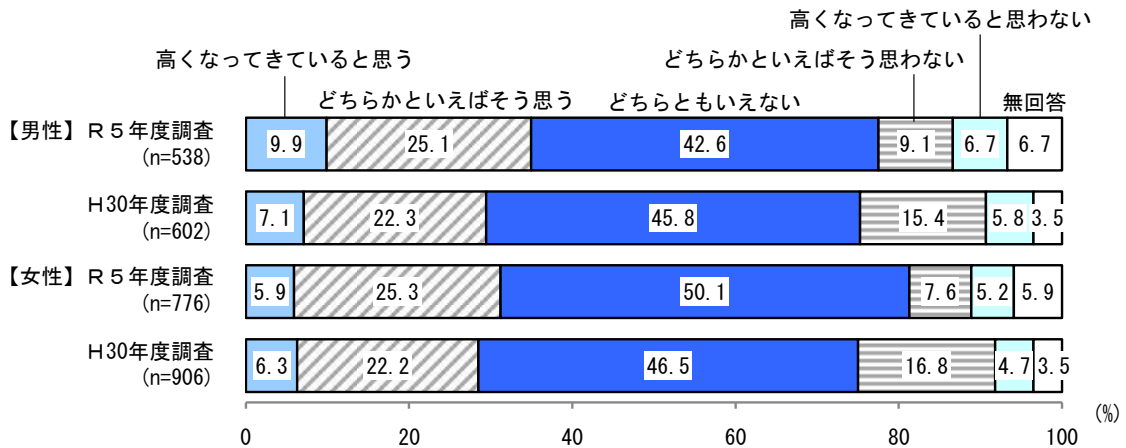
平成30年度調査と比較すると、『高くなってきていると思う』（平成30年度までは「そう思う」「まあそう思う」の合計）の割合が3.9ポイント増加、『高くなってきていると思わない』（平成30年度までは「そうは思わない」「あまりそう思わない」の合計）の割合が6.9ポイント減少しています。



#### 【性別】

性別で見ると、『高くなってきていると思う』の割合が男性では35.0%、女性では31.2%となっています。

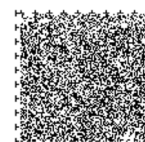
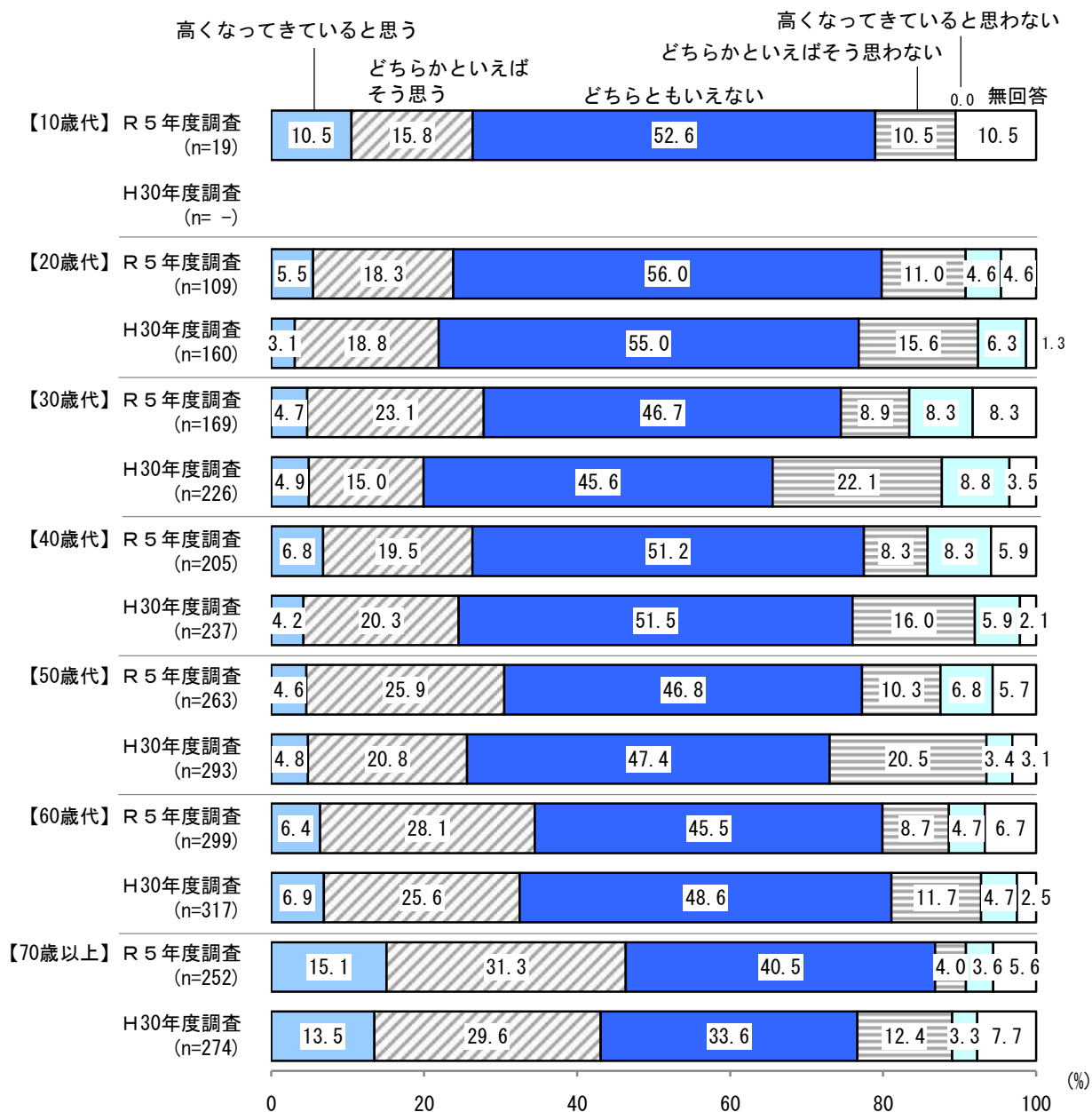
平成30年度調査と比較すると、男性は『高くなってきていると思う』の割合が5.6ポイント増加しています。



## 【年齢別】

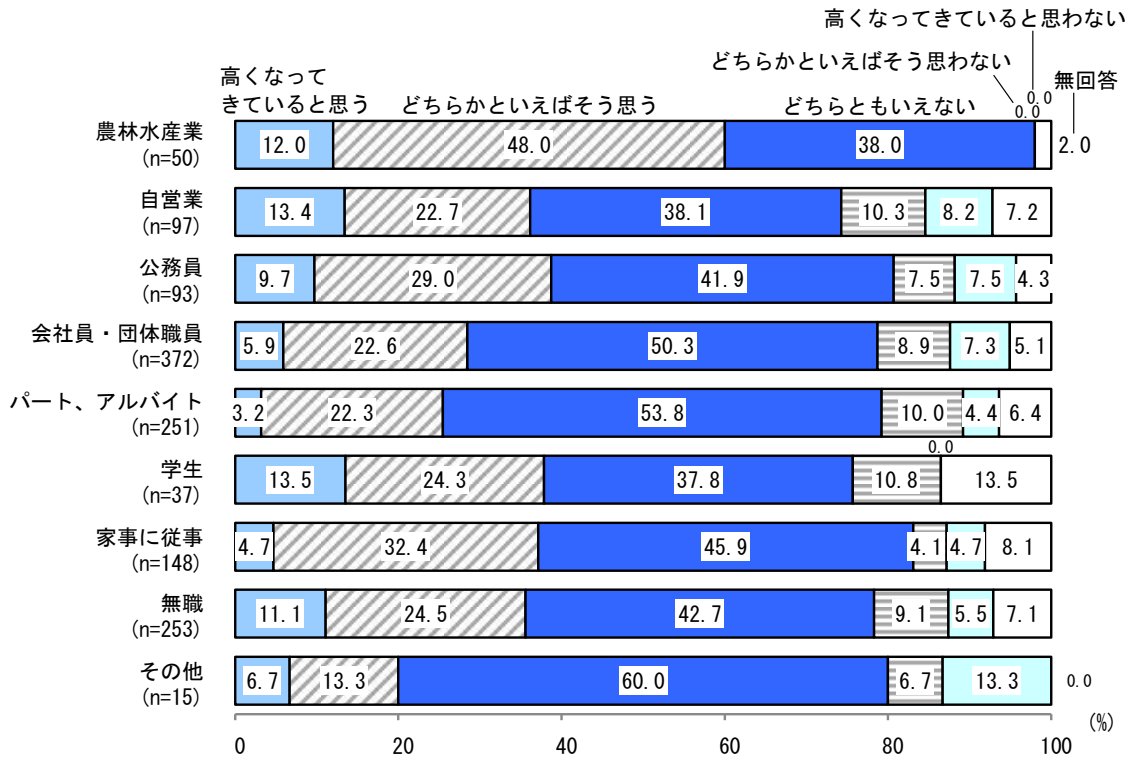
年齢別でみると、『高くなってきていると思う』は70歳以上が46.4%で最も割合が高く、20歳代が23.8%で最も低くなっています。一方、『高くなってきていると思わない』は30歳代が17.2%で最も割合が高く、70歳以上が7.6%で最も低くなっています。

平成30年度調査と比較すると、『高くなってきていると思う』の割合が30歳代で7.9ポイント増加しています。



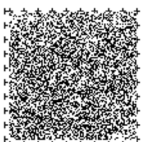
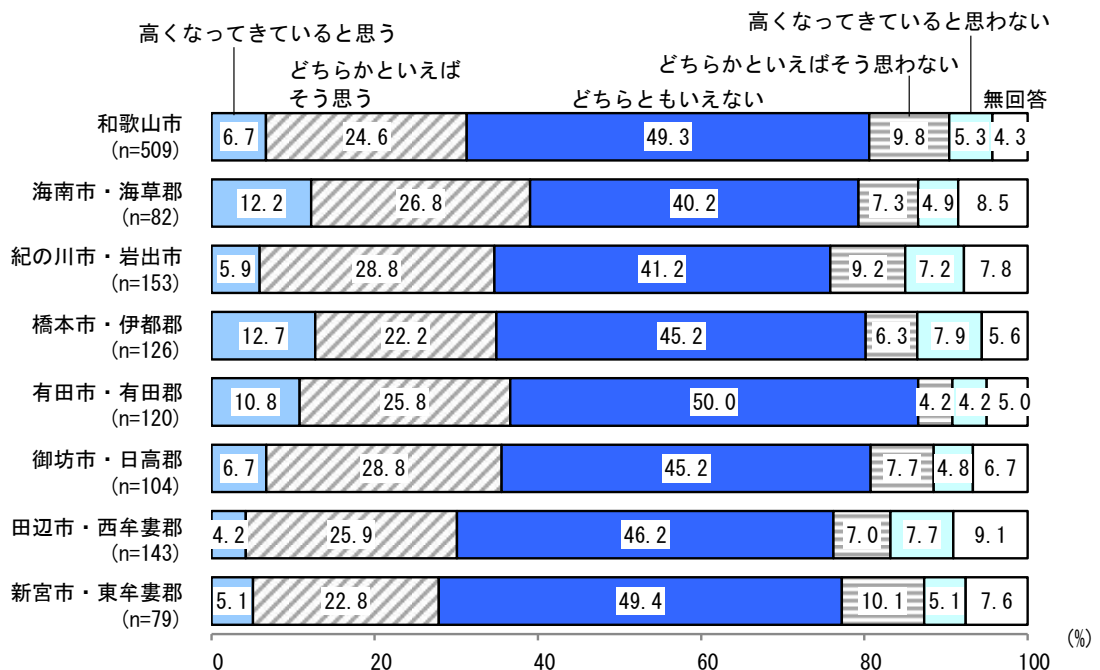
### 【職業別】

職業別でみると、『高くなってきていると思う』は農林水産業が60.0%で最も割合が高く、パート、アルバイトが25.5%で最も低くなっています。一方、『高くなってきていると思わない』は自営業が18.5%で最も割合が高く、農林水産業が0.0%で最も低くなっています。



### 【居住地域別】

居住地域別でみると、『高くなってきていると思う』は海南省・海草郡が39.0%で最も割合が高く、新宮市・東牟婁郡が27.9%で最も低くなっています。一方、『高くなってきていると思わない』は紀の川市・岩出市が16.4%で最も割合が高く、有田市・有田郡が8.4%で最も低くなっています。

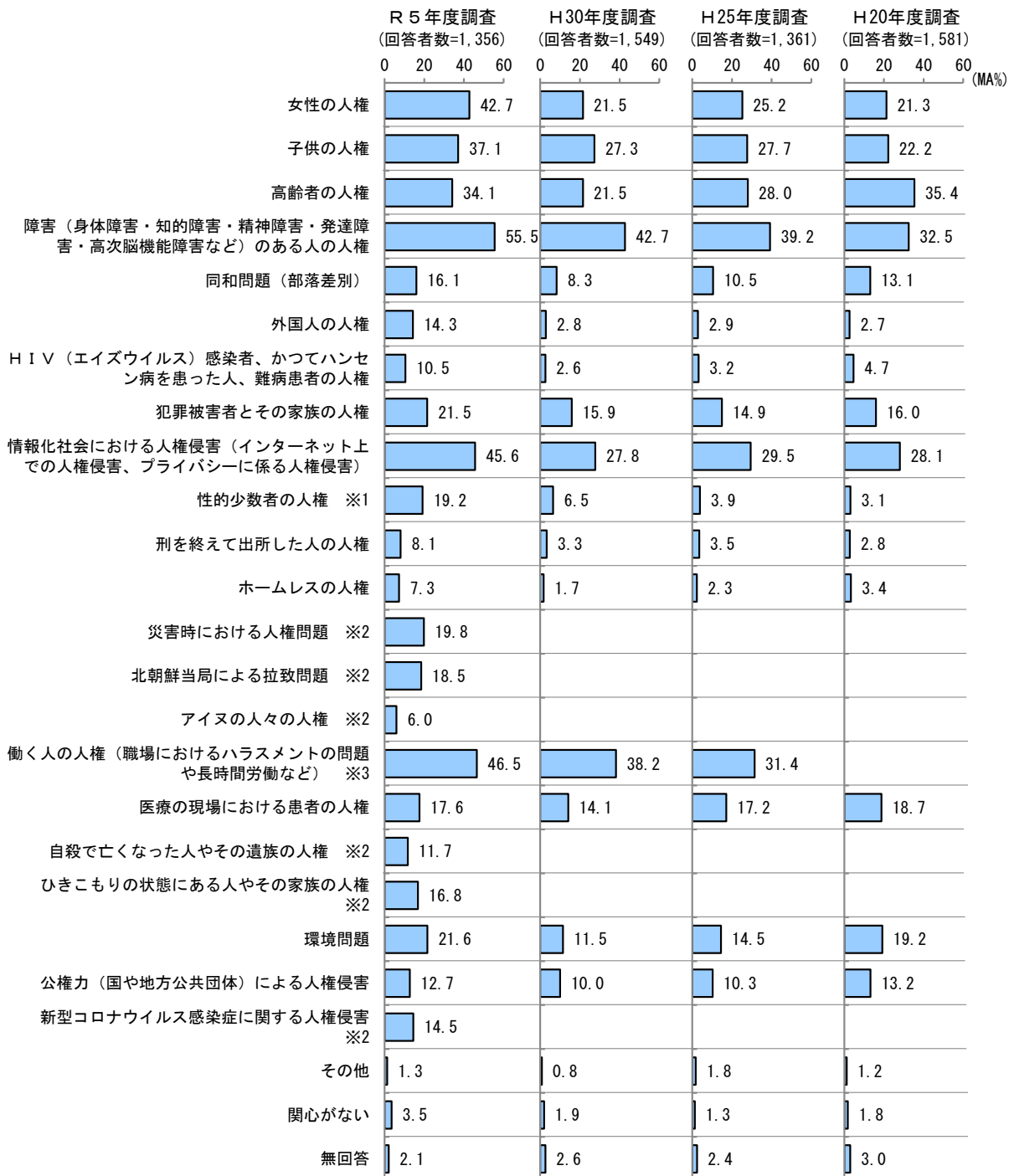


### (3) 人権課題の中で関心をもっているもの

問3 次にあげる人権課題の中で、あなたが関心をもっているものは何ですか（〇はいくつでも）

「障害のある人の人権」の割合が55.5%で最も多く、次いで「働く人の人権」が46.5%、「情報化社会における人権侵害」が45.6%となっています。

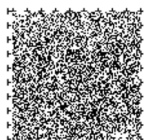
今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「女性の人権」（42.7%）の割合が21.2ポイント、「情報化社会における人権侵害」が17.8ポイントそれぞれ増加するなど、いずれの人権においても割合が増加しています。



※1 H30年度調査までは「LGBTや性同一性障害のある人などの人権」

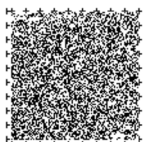
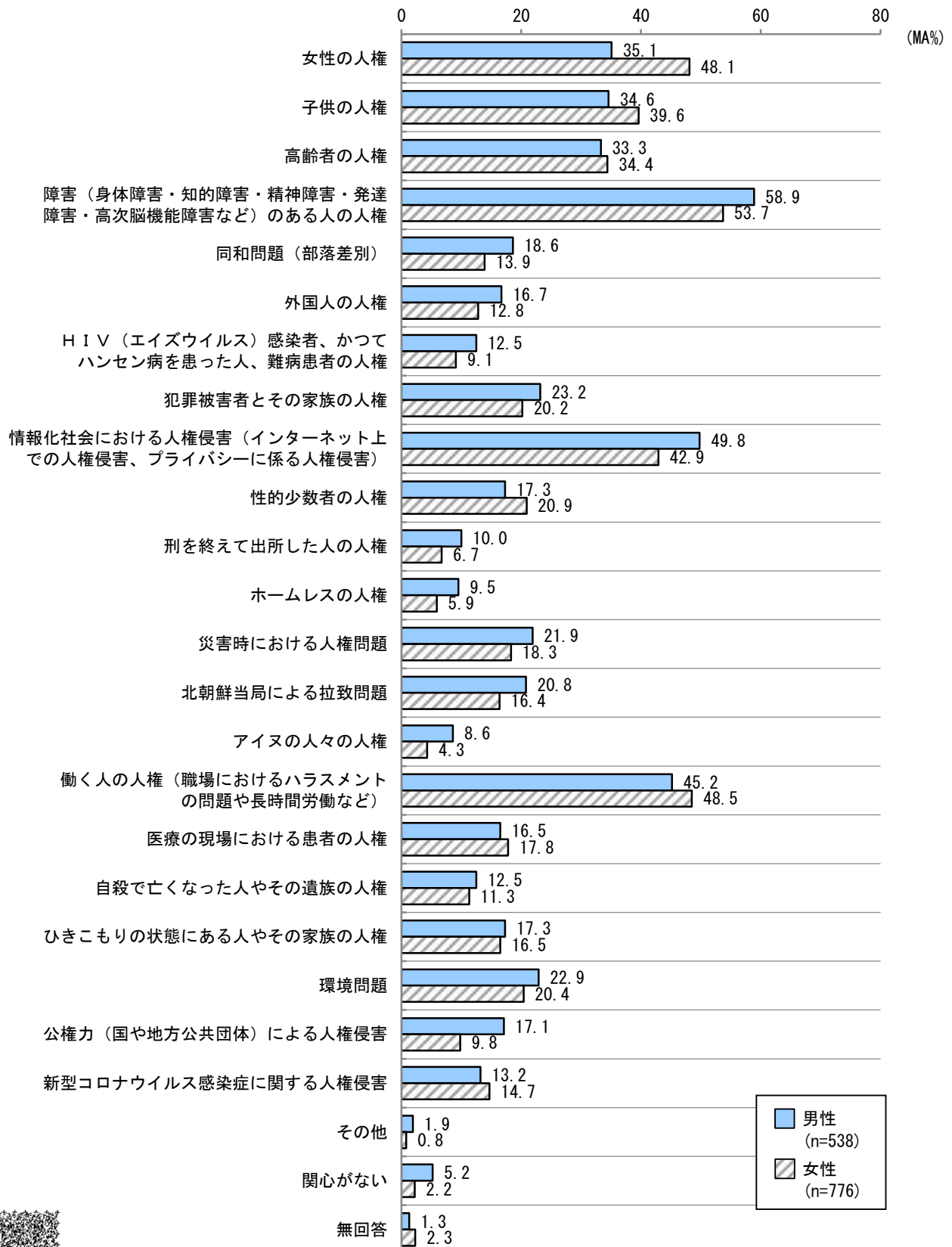
※2 R5年度で新たに設けた選択肢

※3 H25年度で新たに設けた選択肢



## 【性別】

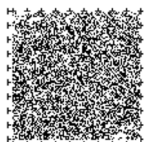
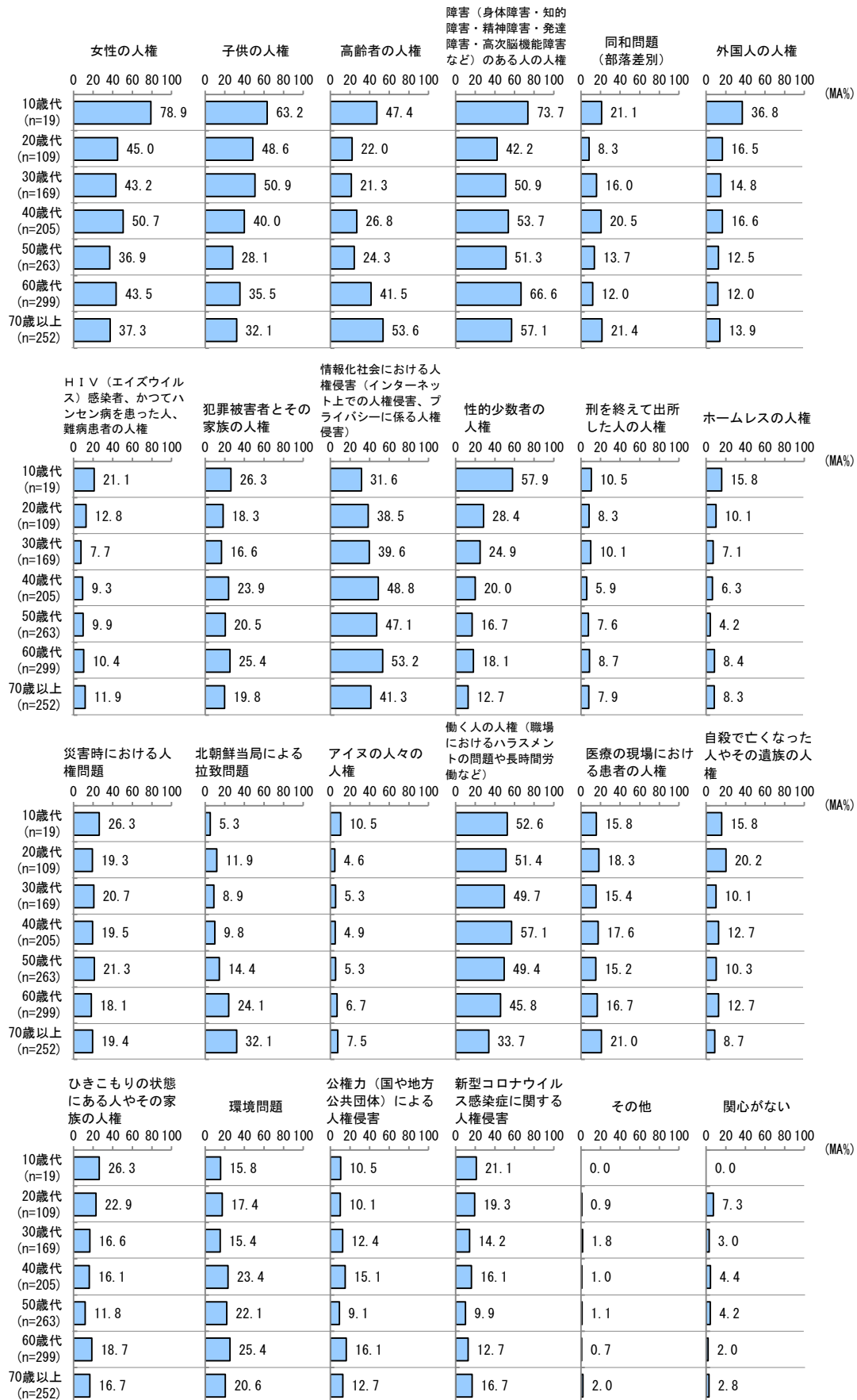
性別で見ると、女性に比べ、男性で「公権力（国や地方公共団体）による人権侵害」「情報化社会における人権侵害」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「女性の人権」の割合が高くなっています。





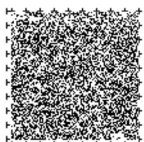
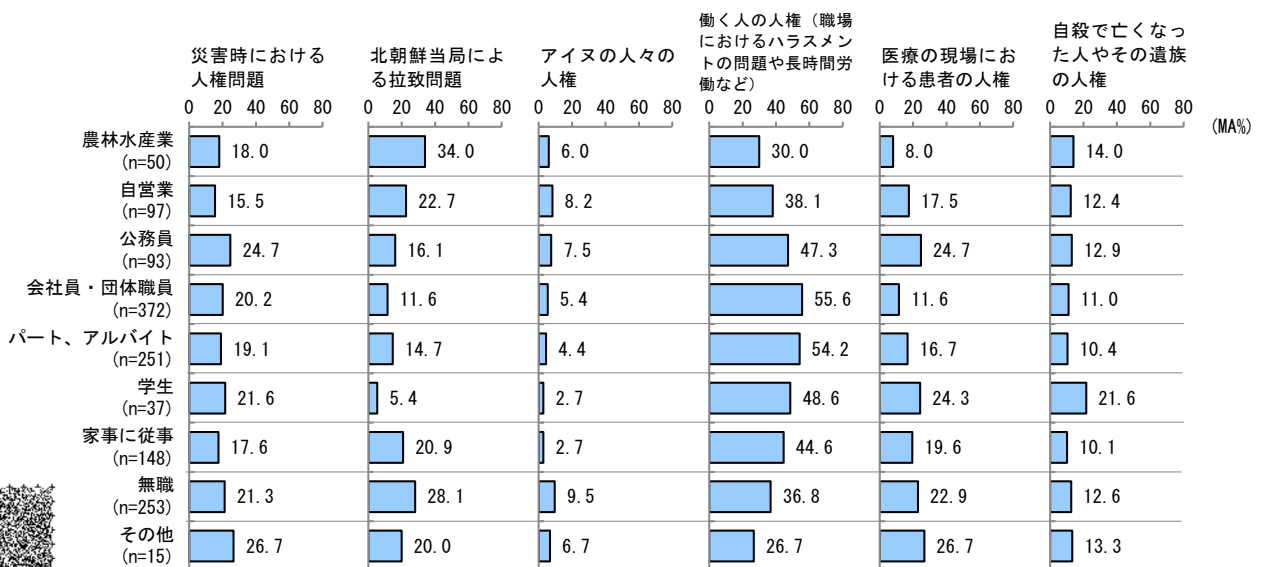
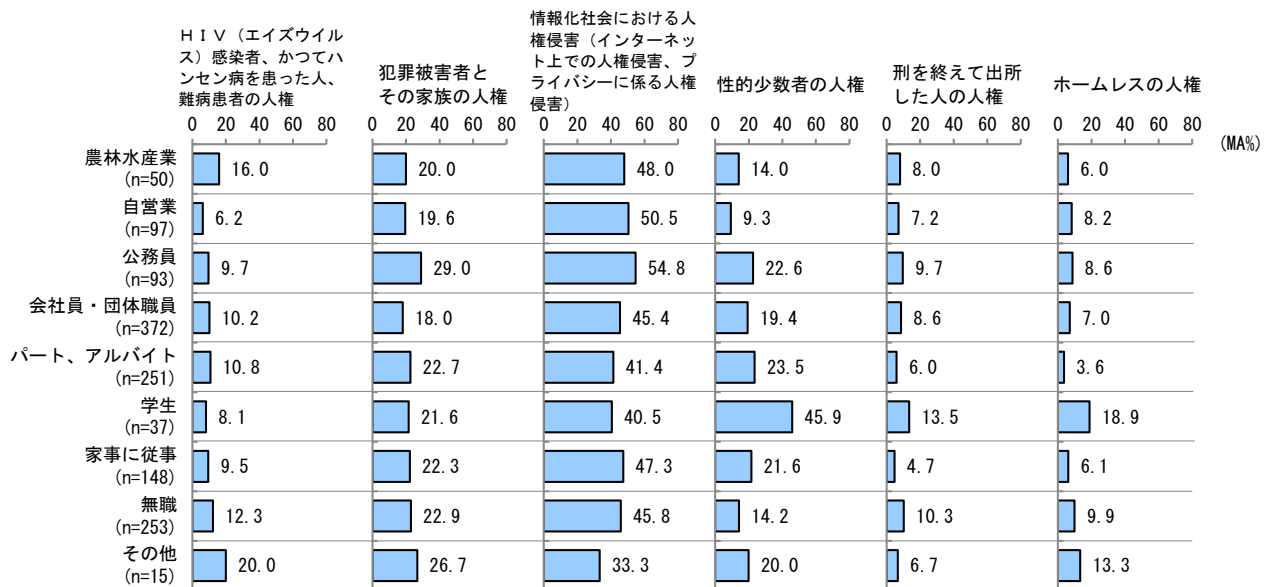
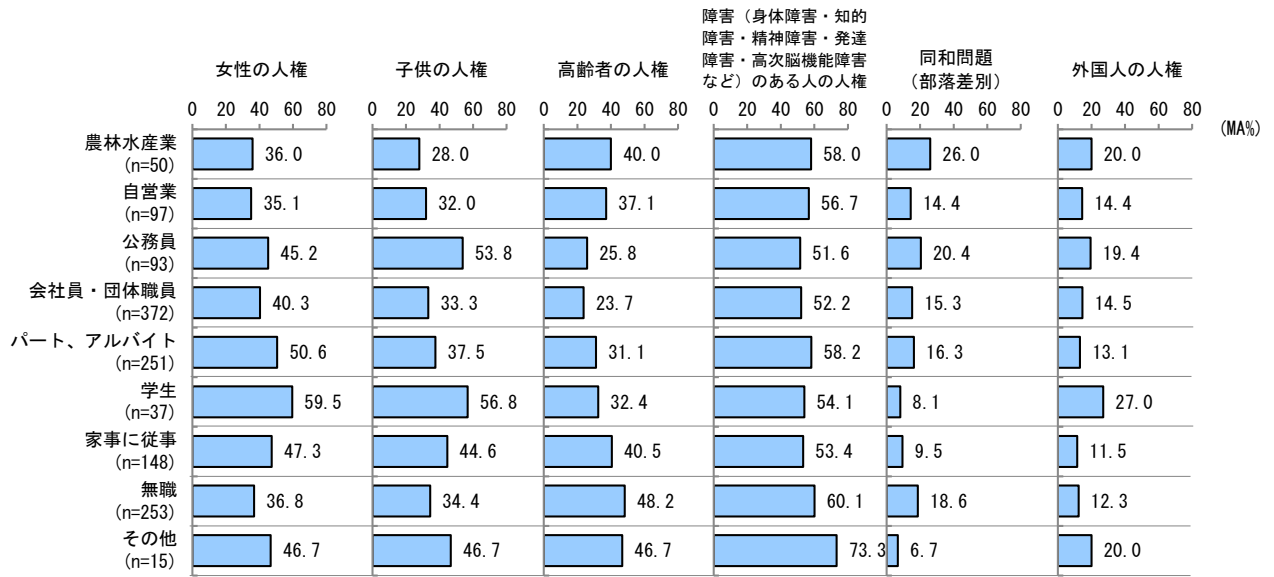
## 【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるほど「北朝鮮当局による拉致問題」の割合が高く、一方で、若い年代ほど「性的少数者の人権」の割合が高くなる傾向がみられます。

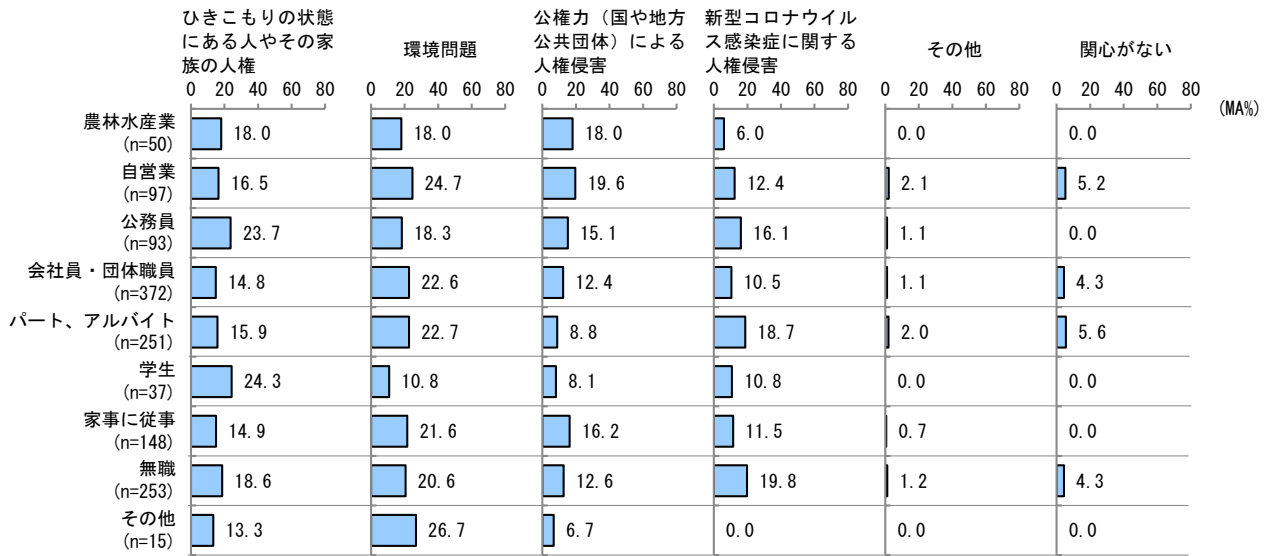


【職業別①】

職業別でみると、農林水産業、自営業、パート、アルバイト、家事に従事、無職では「障害のある人の人権」の割合が最も高くなっています。

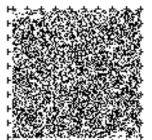
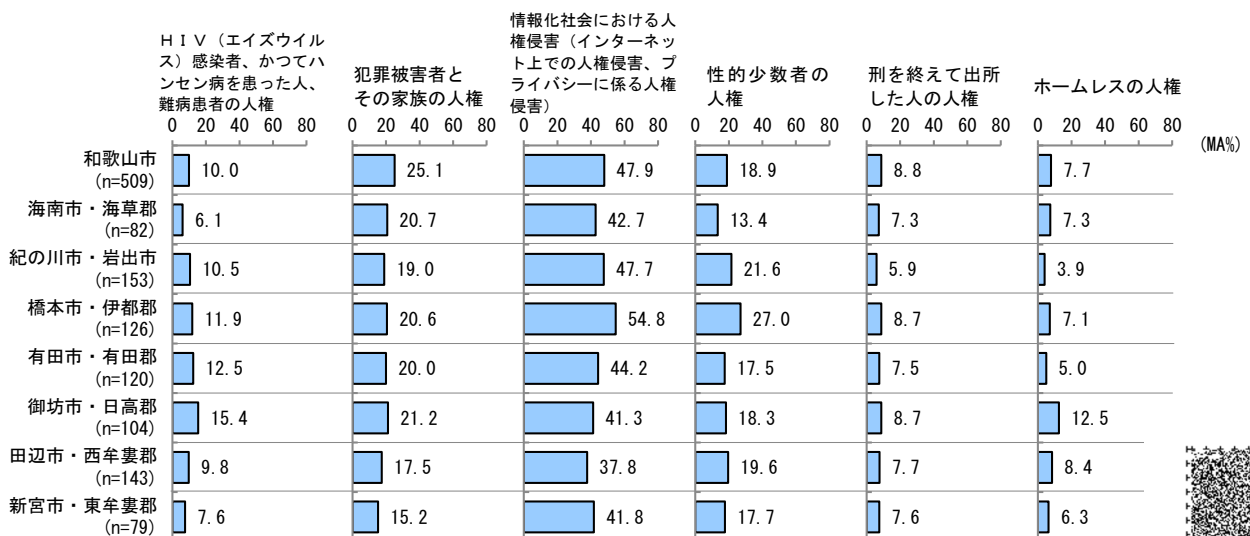
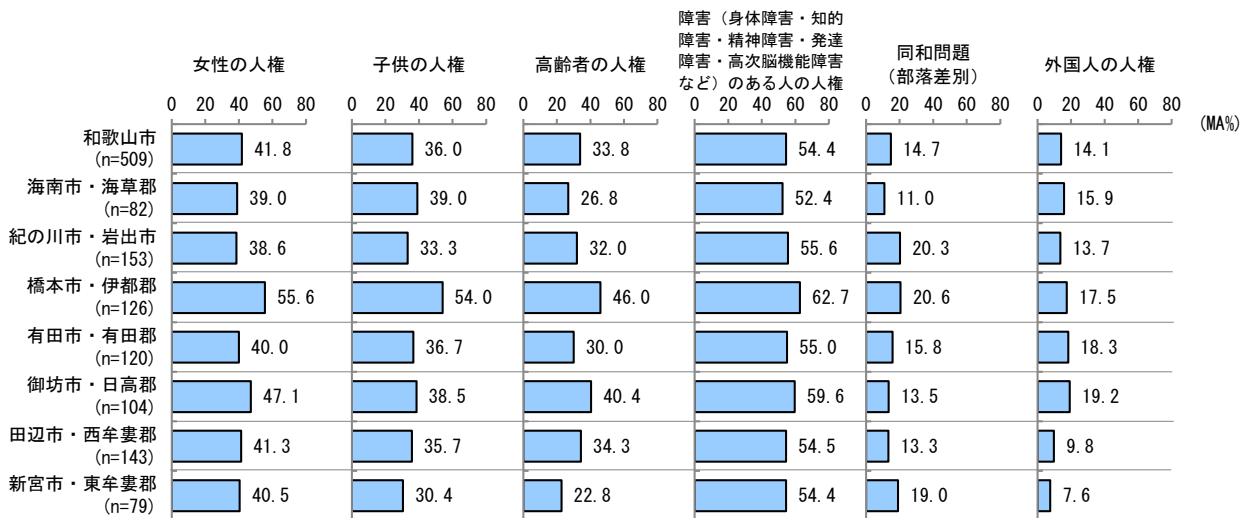


## 【職業別②】

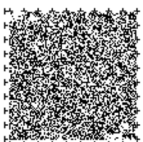
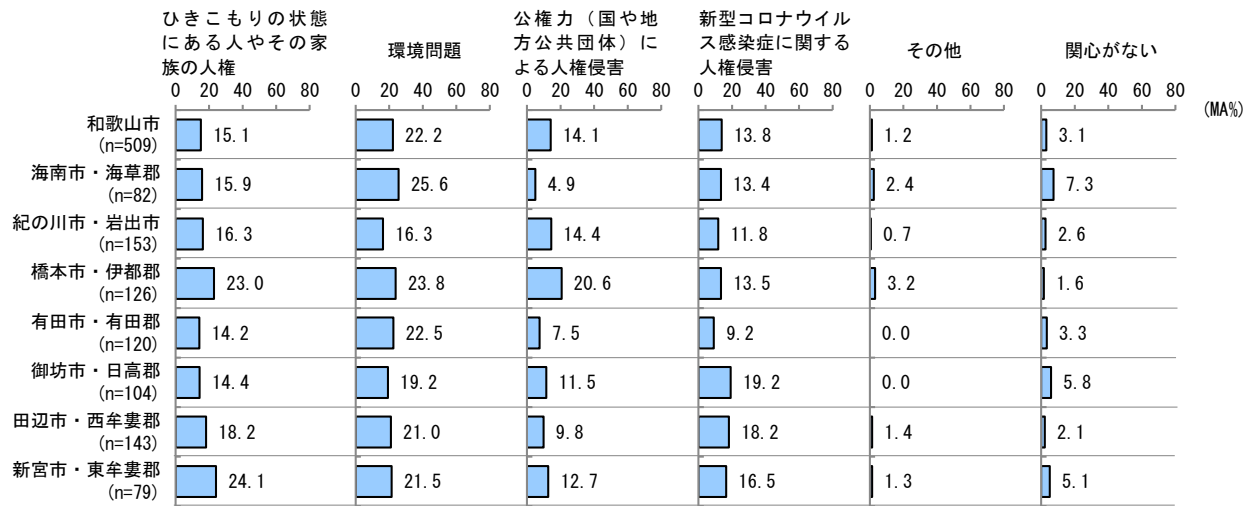
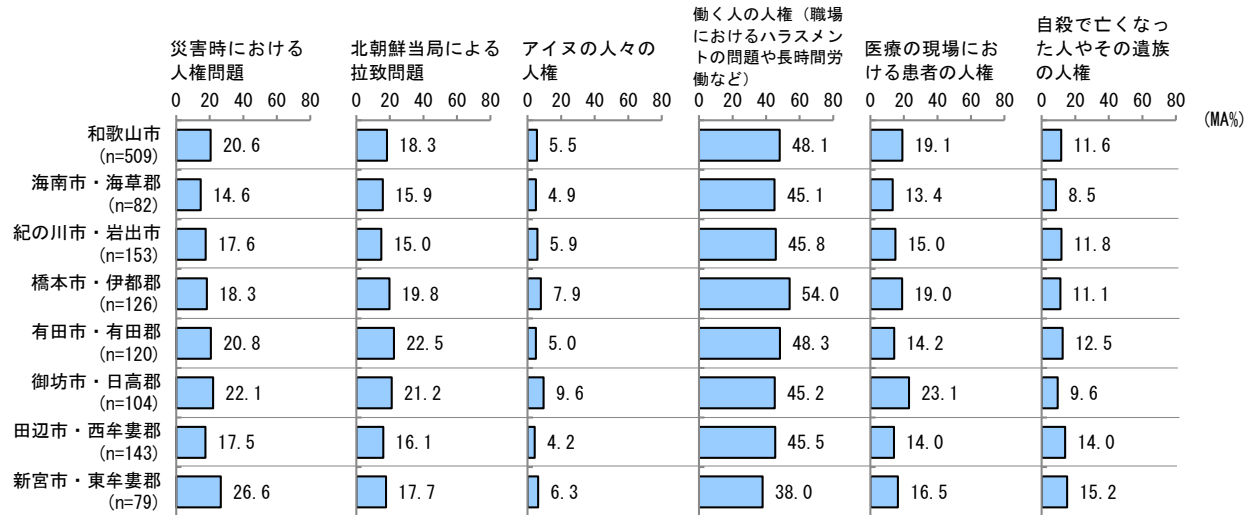


## 【居住地域別①】

居住地域別でみると、いずれの地域も「障害のある人の人権」の割合が最も高くなっています。



【居住地域別②】

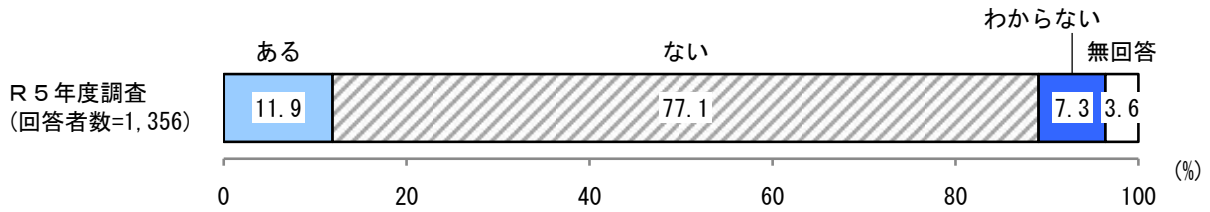


## 2. 人権侵害を受けた経験

### (1) 人権侵害を受けた経験の有無

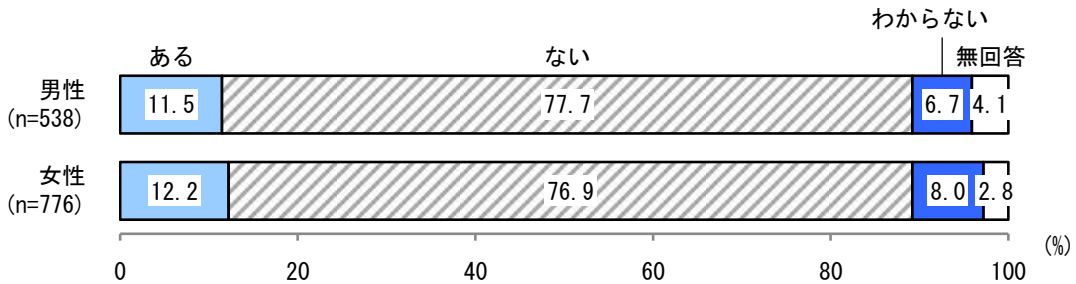
問4 あなたは、過去5年間に、人権侵害を受けたことがありますか（○は1つだけ）  
（人権侵害：暴力、いじめ、差別、虐待、プライバシーの侵害など）

「ある」の割合が11.9%で、「ない」が77.1%となっています。



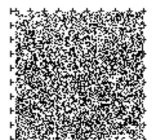
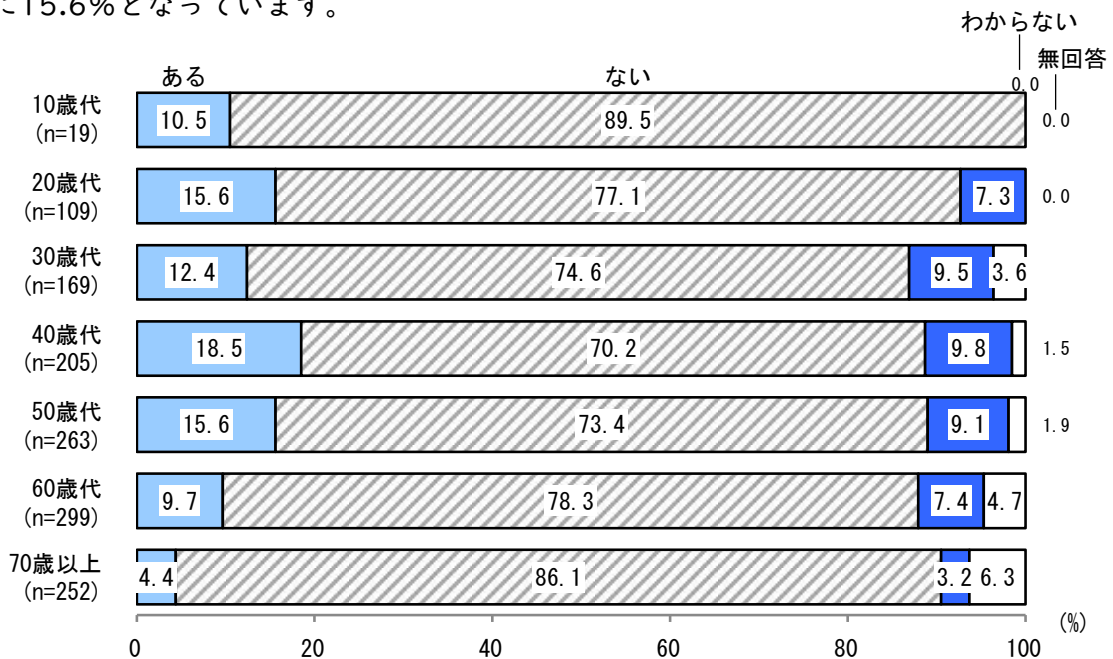
#### 【性別】

性別でみると、「ある」の割合は、男性が11.5%、女性が12.2%で、大きな差はみられません。



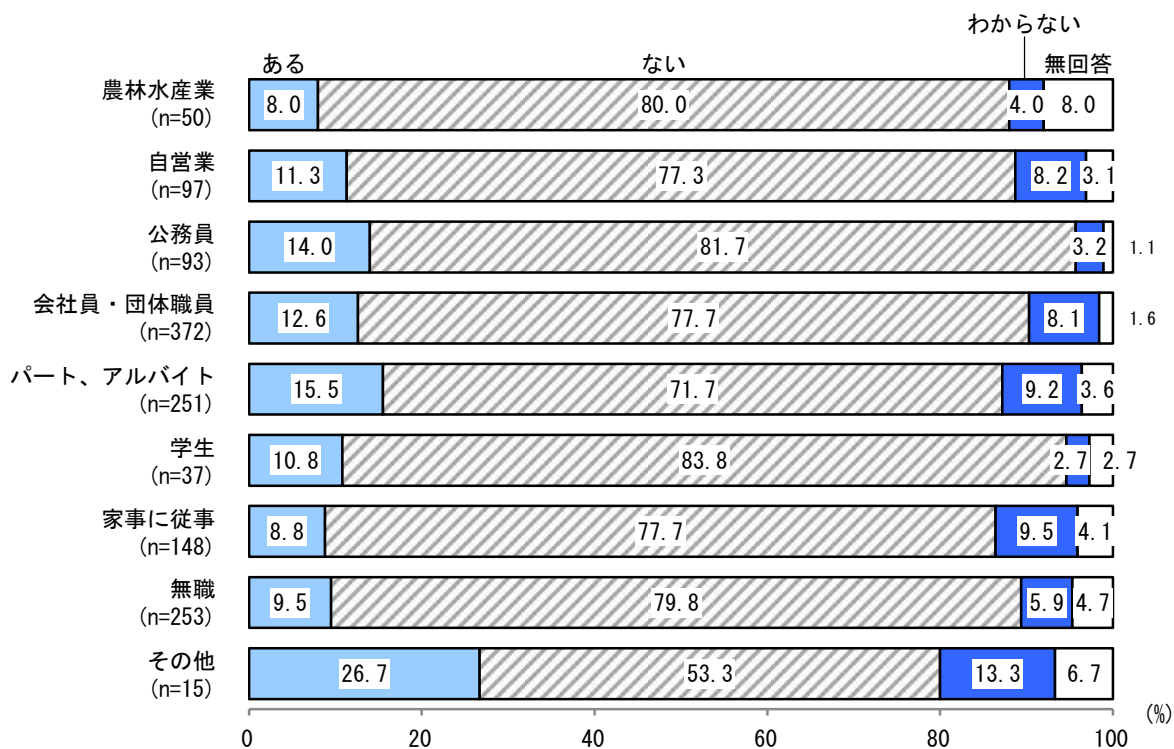
#### 【年齢別】

年齢別でみると、「ある」の割合は40歳代が18.5%で最も高く、次いで20歳代と50歳代がともに15.6%となっています。



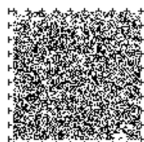
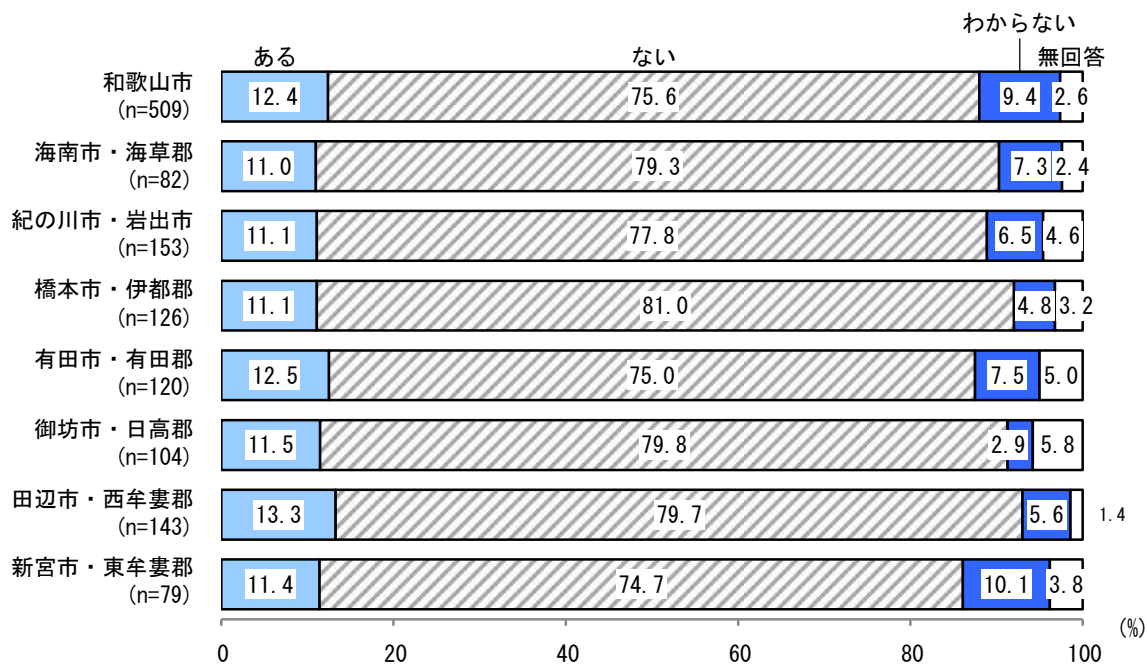
### 【職業別】

職業別でみると、「ある」の割合はパート、アルバイトが15.5%で最も高く、次いで公務員が14.0%となっています。



### 【居住地域別】

居住地域別でみると、大きな差はみられません。



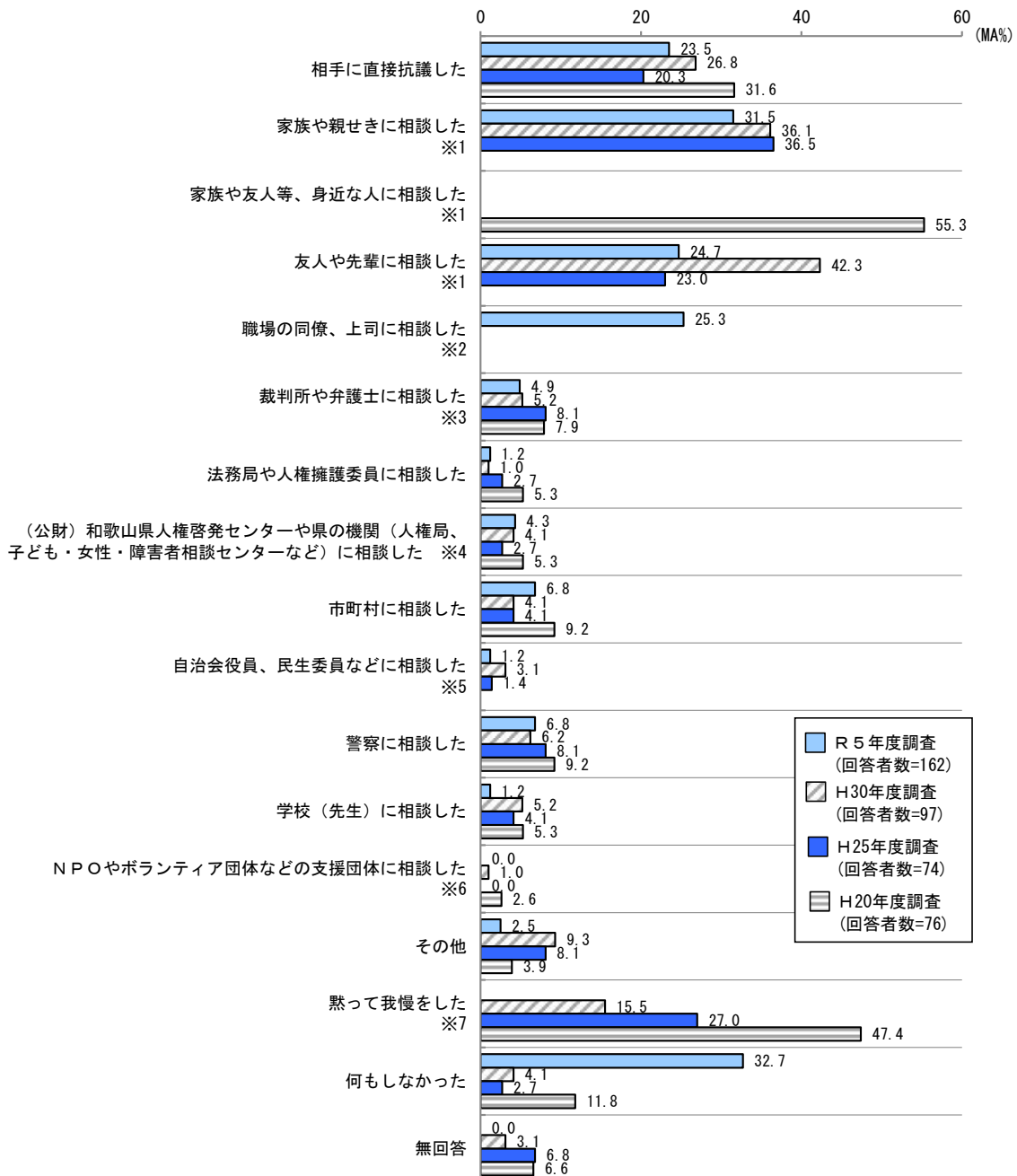
## (2) 人権侵害を受けたときの対応

問4で、「1. ある」と回答された方におたずねします。

問4-1 そのときどうされましたか (〇はいくつでも)

「何もしなかった」の割合が32.7%で最も多く、次いで「家族や親せきに相談した」が31.5%、「職場の同僚、上司に相談した」が25.3%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「友人や先輩に相談した」の割合が17.6ポイント減少し、「何もしなかった」(32.7%)の割合が28.6ポイント増加しています。



※1 H20年度調査の「家族や友人等、身近な人に相談した」は、H25年度以降では「家族や親せきに相談した」と「友人や先輩に相談した」に分けて調査を実施。

※2 R5年度で新たに設けた選択肢

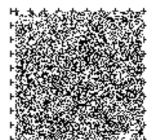
※3 H30年度調査までは「弁護士に相談した」

※4 H30年度調査までは「(公財)和歌山県人権啓発センターや県の機関に相談した」

※5 H25年度で新たに設けた選択肢

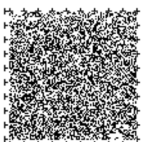
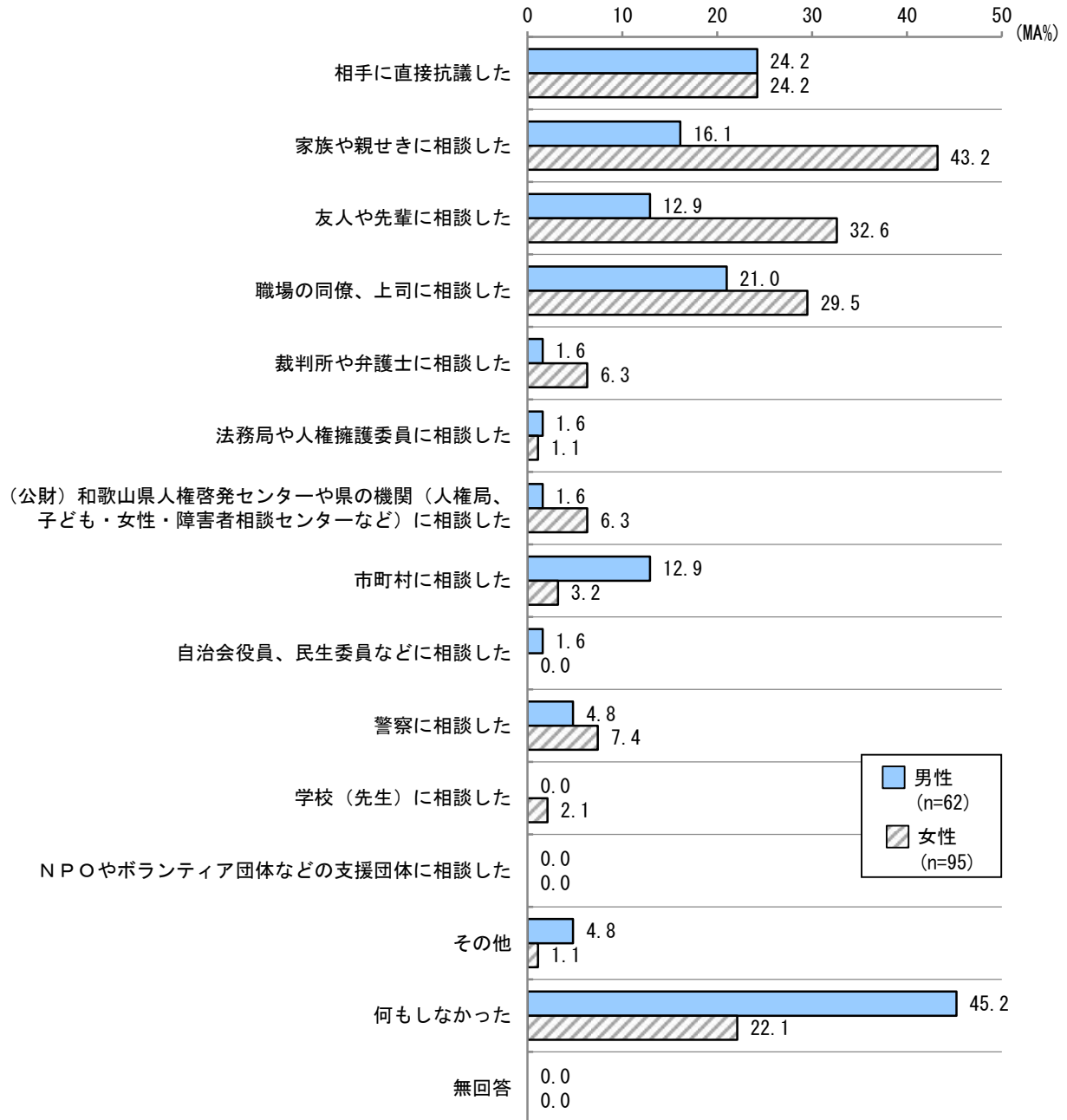
※6 H25年度調査までは「NPO等、民間の人権団体に相談した」

※7 R5年度調査では「黙って我慢をした」は除外



## 【性別】

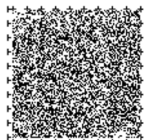
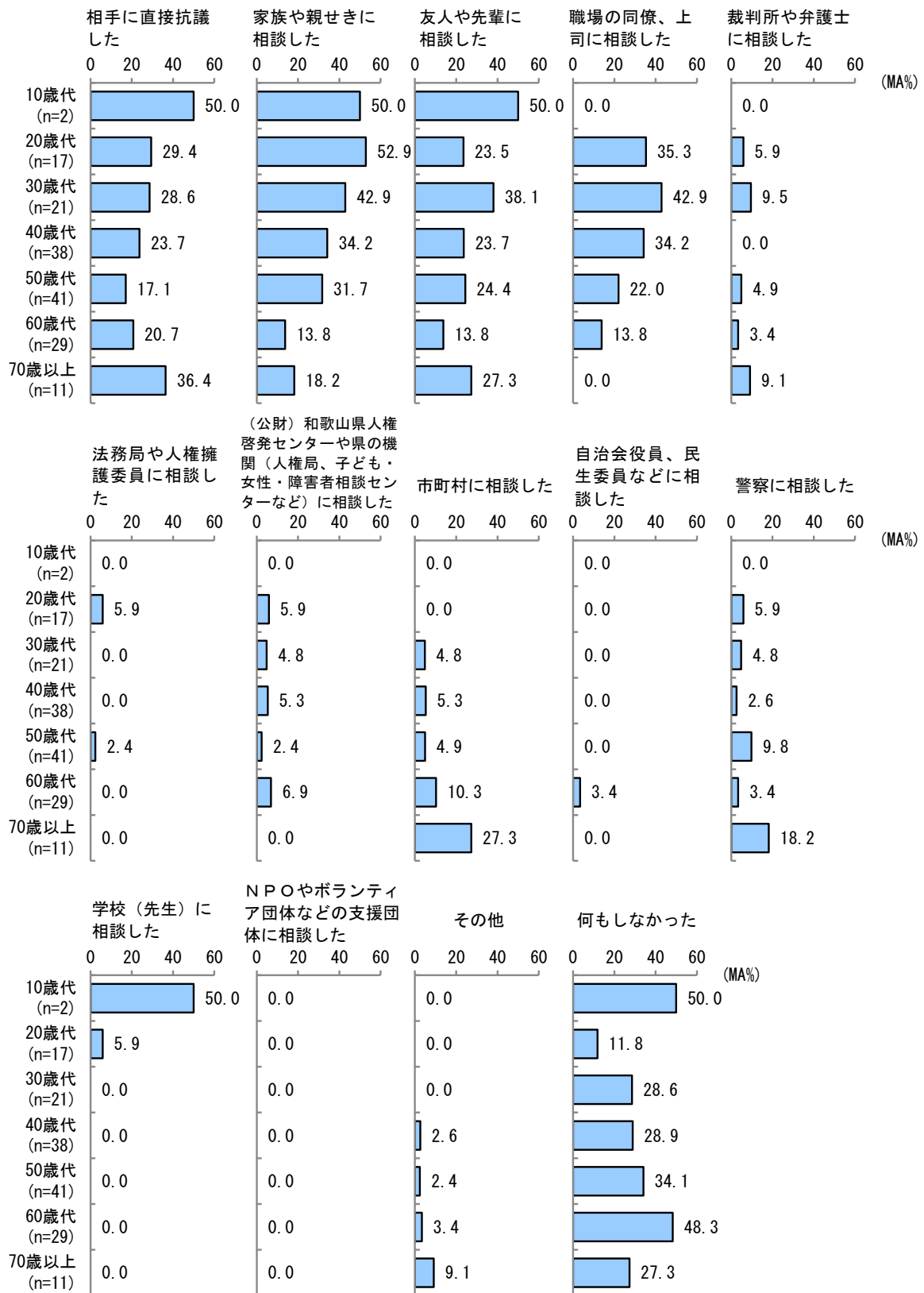
性別で見ると、男性は「何もしなかった」の割合が45.2%で最も高く、女性より23.1ポイント高くなっています。女性では「家族や親せきに相談した」の割合が43.2%で最も高く、男性より27.1ポイント高くなっています。





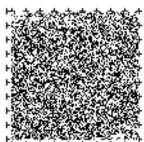
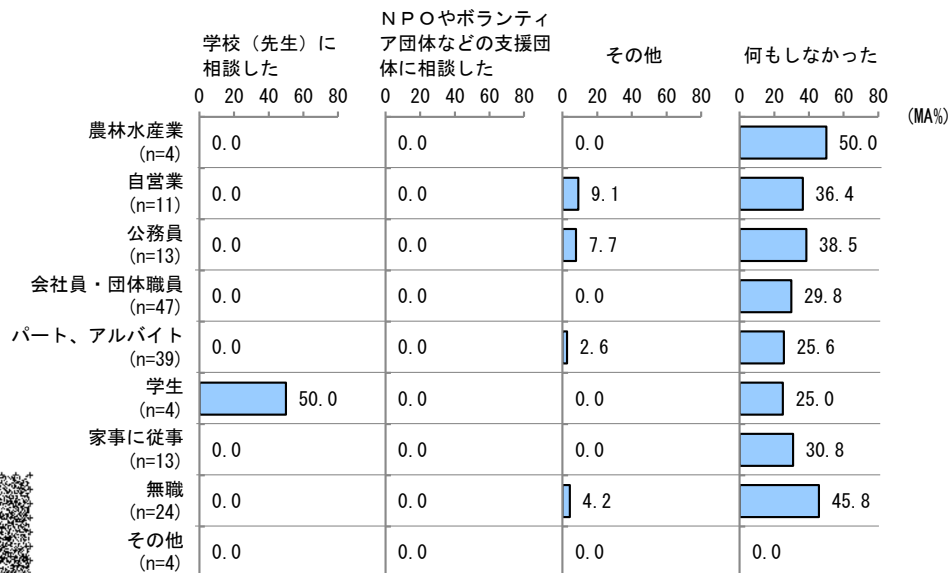
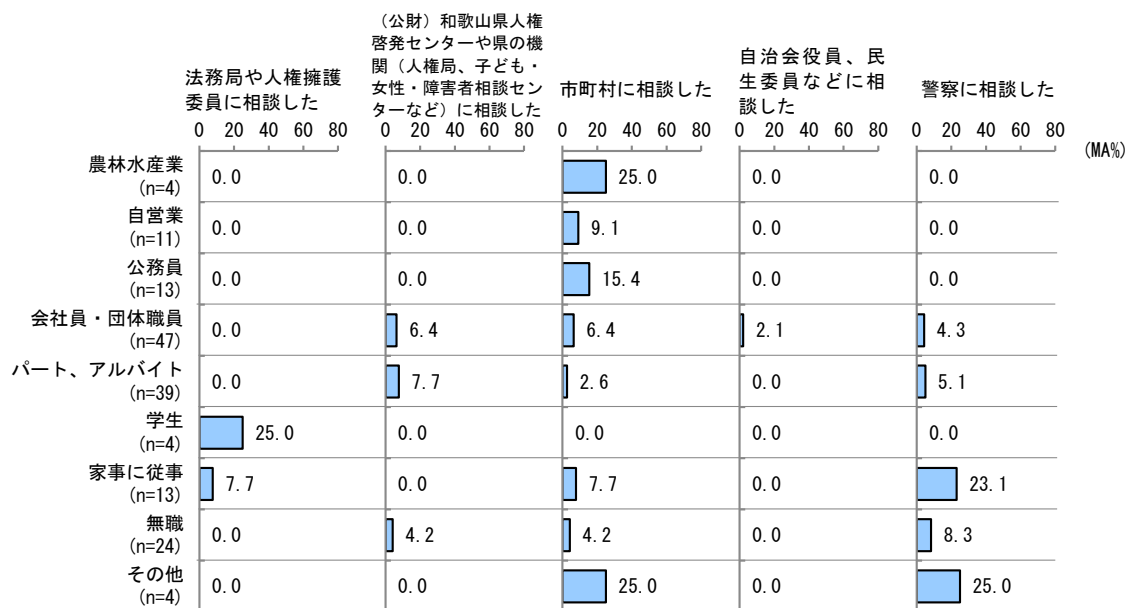
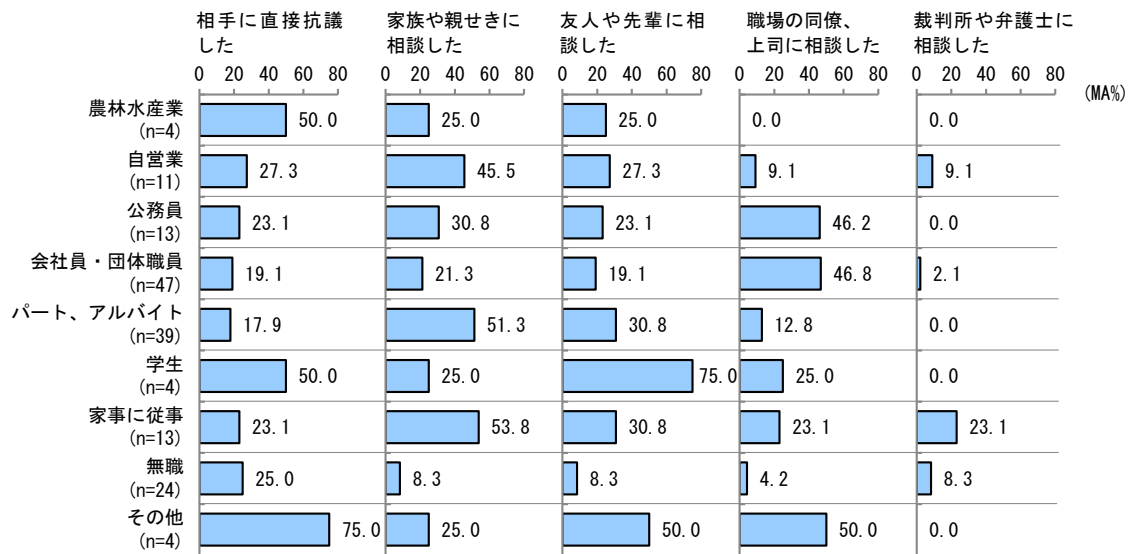
【年齢別】

年齢別でみると、「何もしなかった」の割合は60歳代が最も高く、「家族や親せきに相談した」「職場の同僚、上司に相談した」の割合は若い年代で高くなっています。



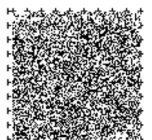
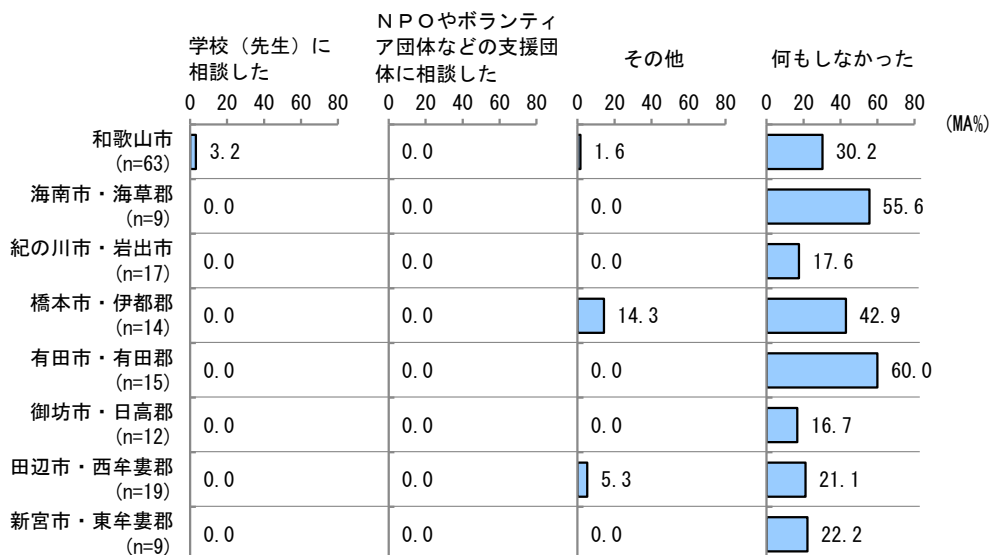
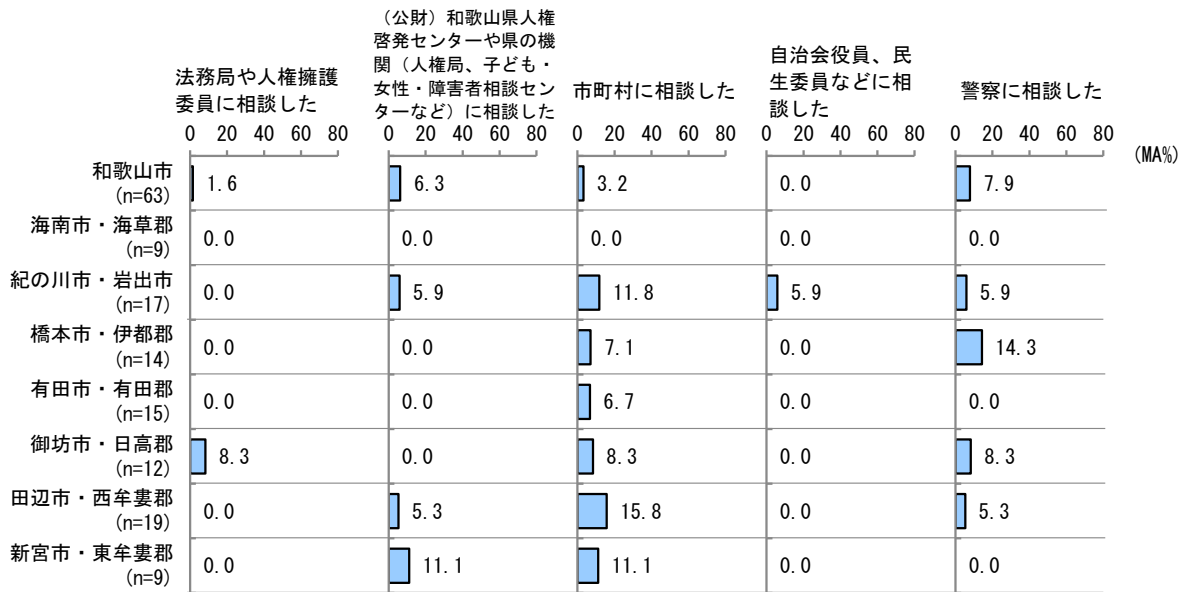
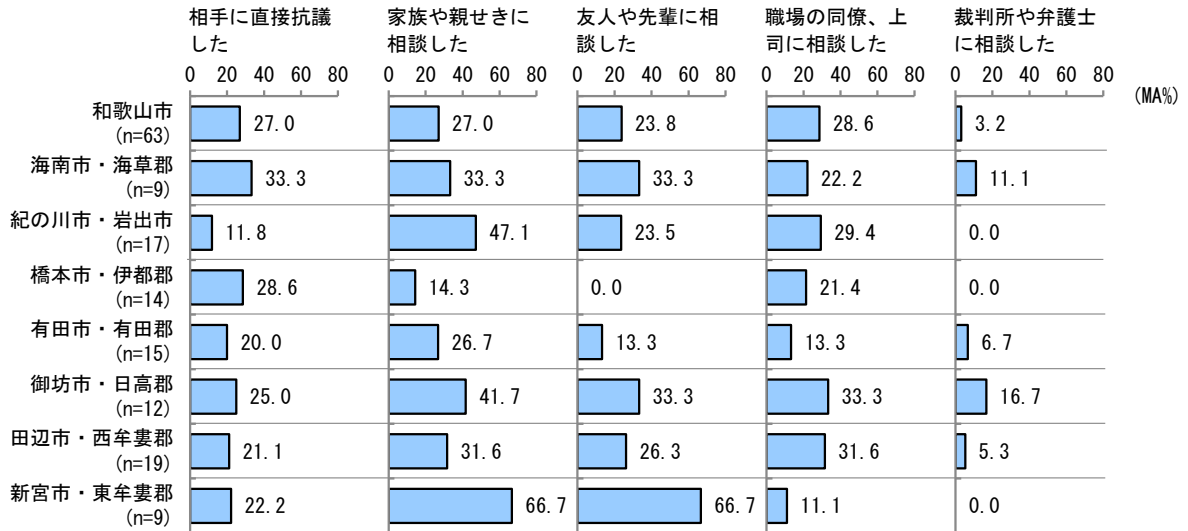
## 【職業別】

職業別でみると、農林水産業などで「何もしなかった」の割合が高く、公務員、会社員・団体職員などで「職場の同僚、上司に相談した」の割合が高くなっています。



【居住地域別】

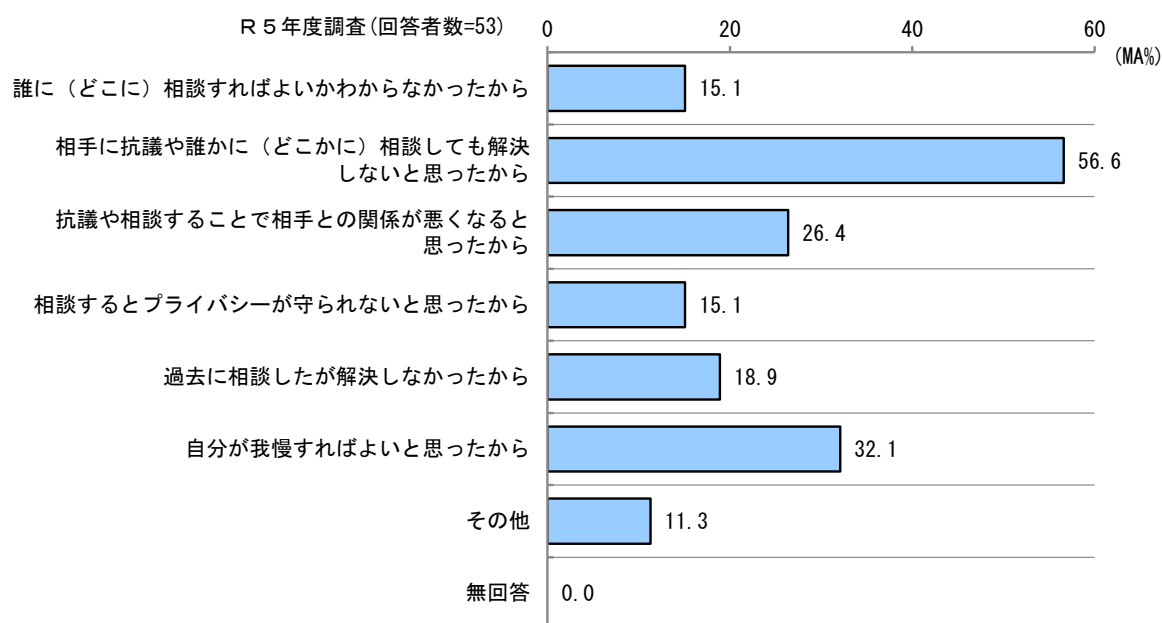
居住地域別でみると、「何もしなかった」の割合は海南市・海草郡（55.6%）、有田市・有田郡（60.0%）などで高く、「家族や親せきに相談した」の割合は紀の川市・岩出市（47.1%）、御坊市・日高郡（41.7%）、新宮市・東牟婁郡（66.7%）などで高くなっています。



### (3) 人権侵害を受けたときに何もしなかった理由

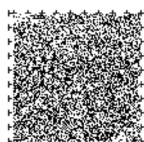
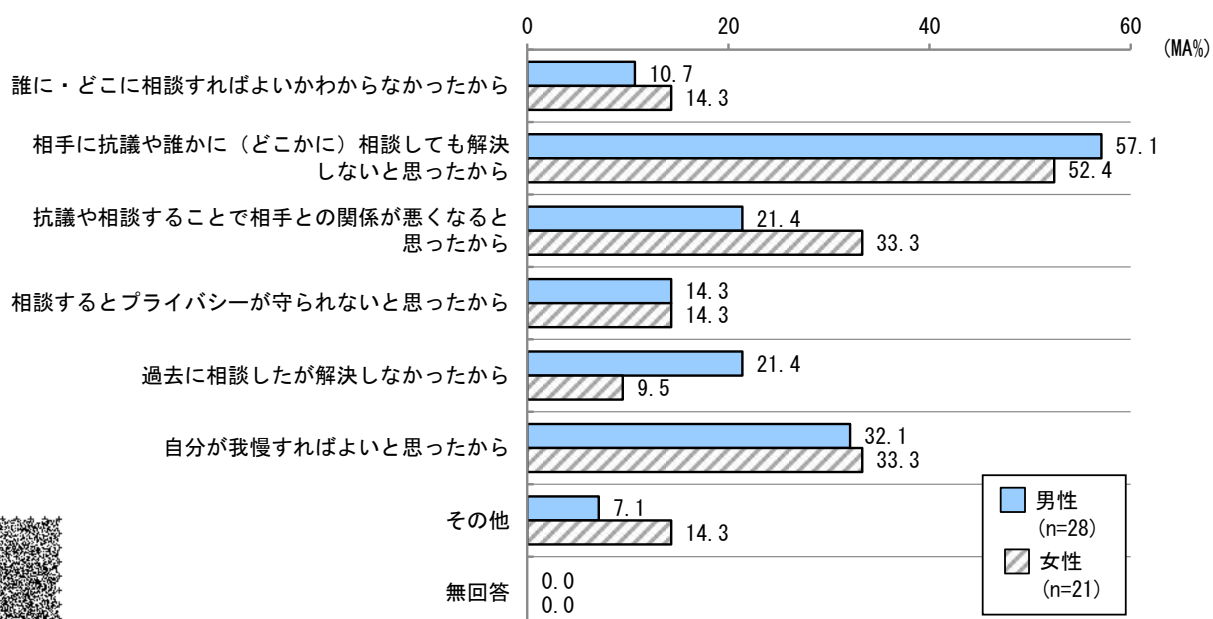
問4-1で、「14. 何もしなかった」と回答された方におたずねします  
 問4-2 なぜそのようにされたのですか（〇はいくつでも）

「相手に抗議や誰かに（どこかに）相談しても解決しないと思ったから」の割合が56.6%で最も多く、次いで「自分が我慢すればよいと思ったから」が32.1%、「抗議や相談することで相手との関係が悪くなると思ったから」が26.4%となっています。



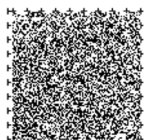
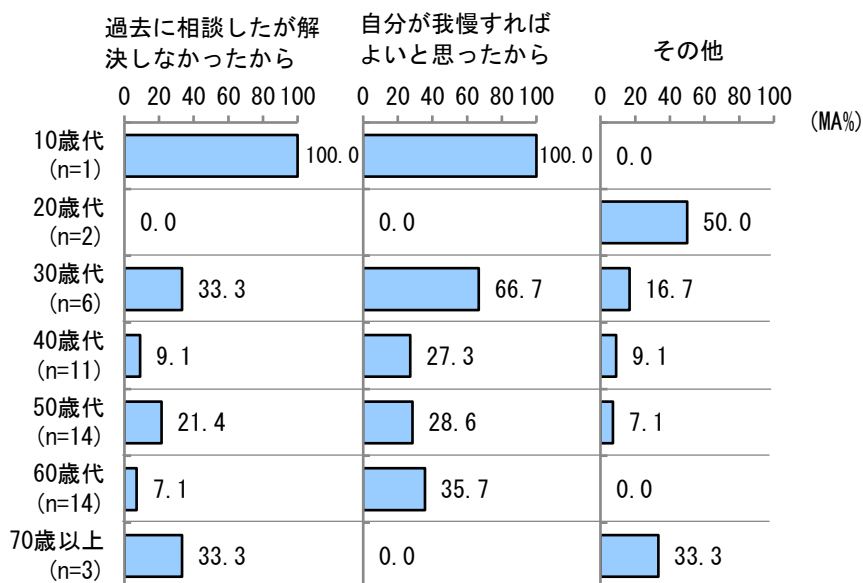
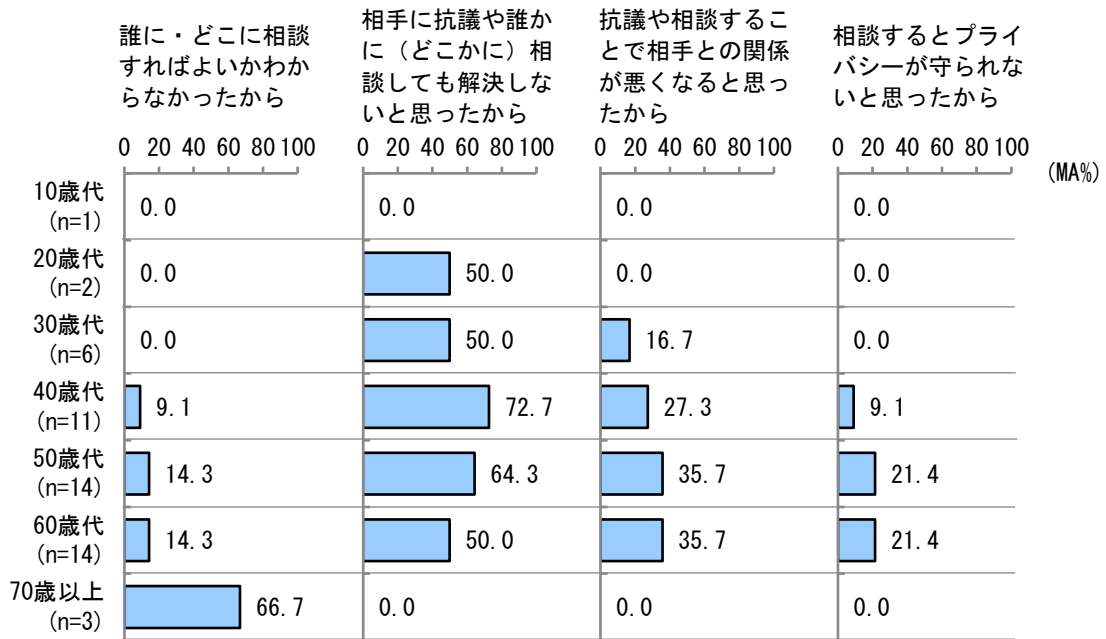
#### 【性別】

性別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、男性、女性とも「相手に抗議や誰かに（どこかに）相談しても解決しないと思ったから」の割合が最も高く、女性（52.4%）より男性（57.1%）のほうが4.7ポイント高くなっています。一方、「抗議や相談することで相手との関係が悪くなると思ったから」の割合は男性（21.4%）より女性（33.3%）のほうが11.9ポイント高くなっています。



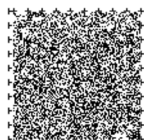
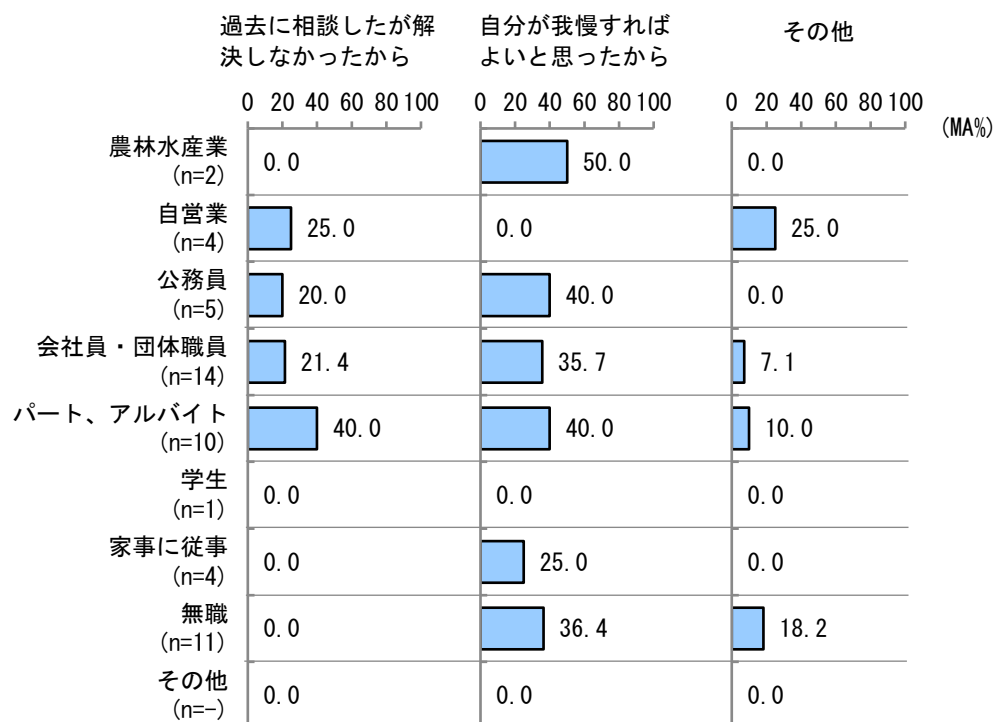
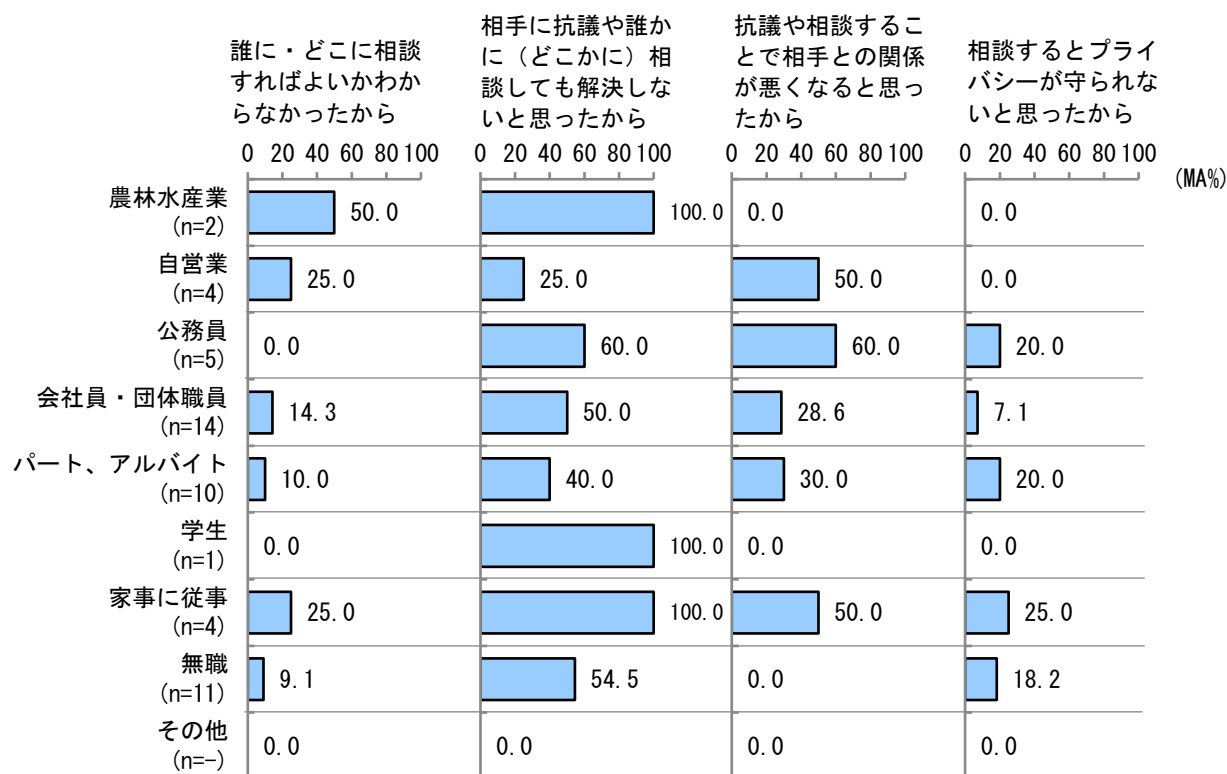
【年齢別】

年齢別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、40歳代から60歳代では「相手に抗議や誰かに（どこかに）相談しても解決しないと思ったから」の割合が高くなっています。



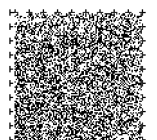
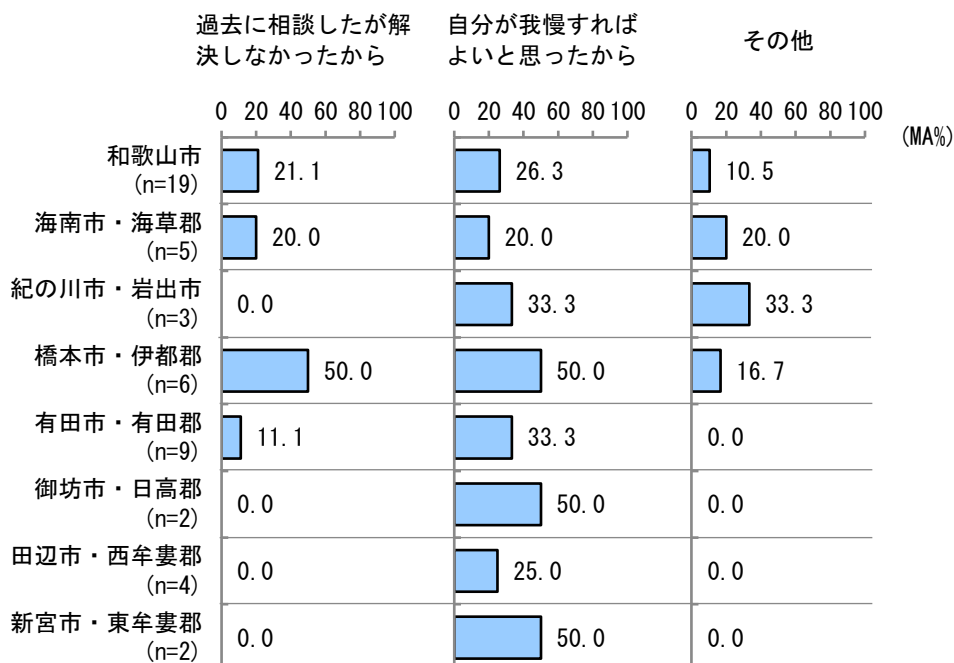
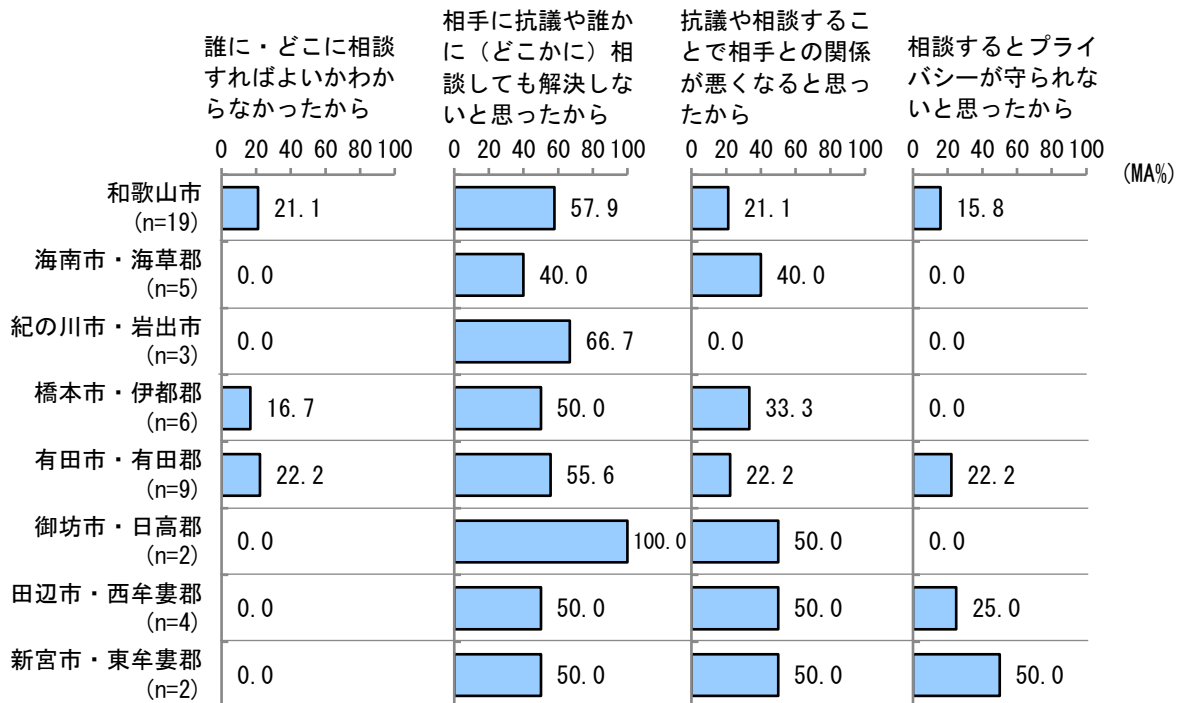
## 【職業別】

職業別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、ほとんどの職業では「相手に抗議や誰かに（どこかに）相談しても解決しないと思ったから」の割合が多くなっていますが、自営業では「抗議や相談することで相手との関係が悪くなると思ったから」（50.0%）の割合が最も高くなっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、いずれの地域も「相手に抗議や誰かに（どこかに）相談しても解決しないと思ったから」の割合が高い傾向にあります。

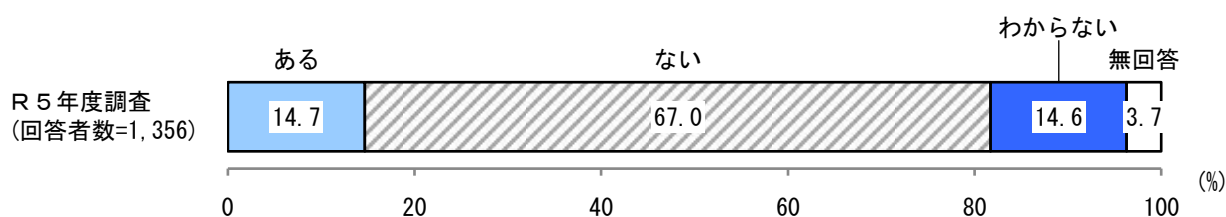


### 3. 人権侵害を受けたことを見聞きした経験

#### (1) 人権侵害を受けたことを見聞きした経験の有無

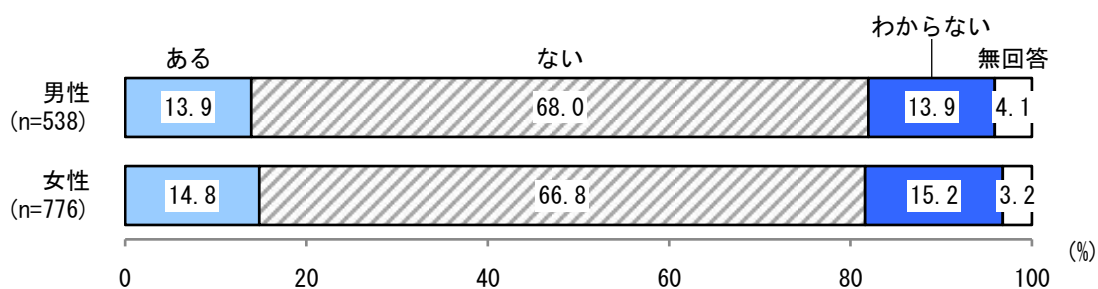
問5 あなたは、過去5年間に、他の人が人権侵害を受けたことを見たり聞いたりしたことがありますか（○は1つだけ）

「ある」の割合が14.7%で、「ない」が67.0%となっています。



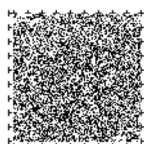
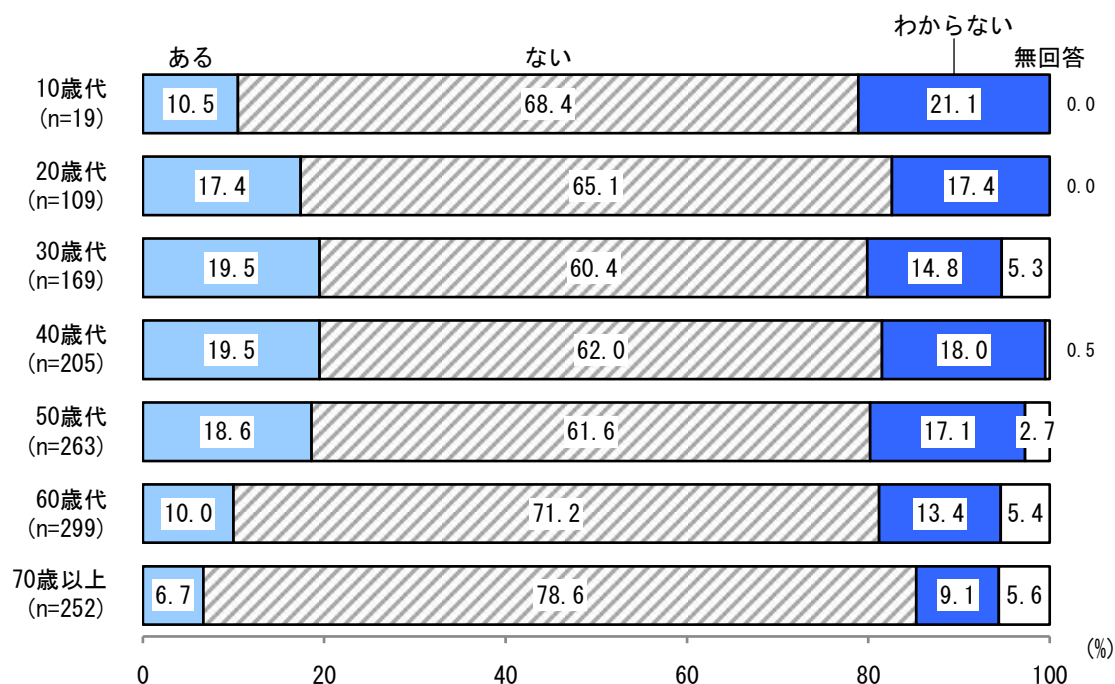
#### 【性別】

性別でみると、「ある」の割合は、男性13.9%、女性14.8%で、大きな差はみられません。



#### 【年齢別】

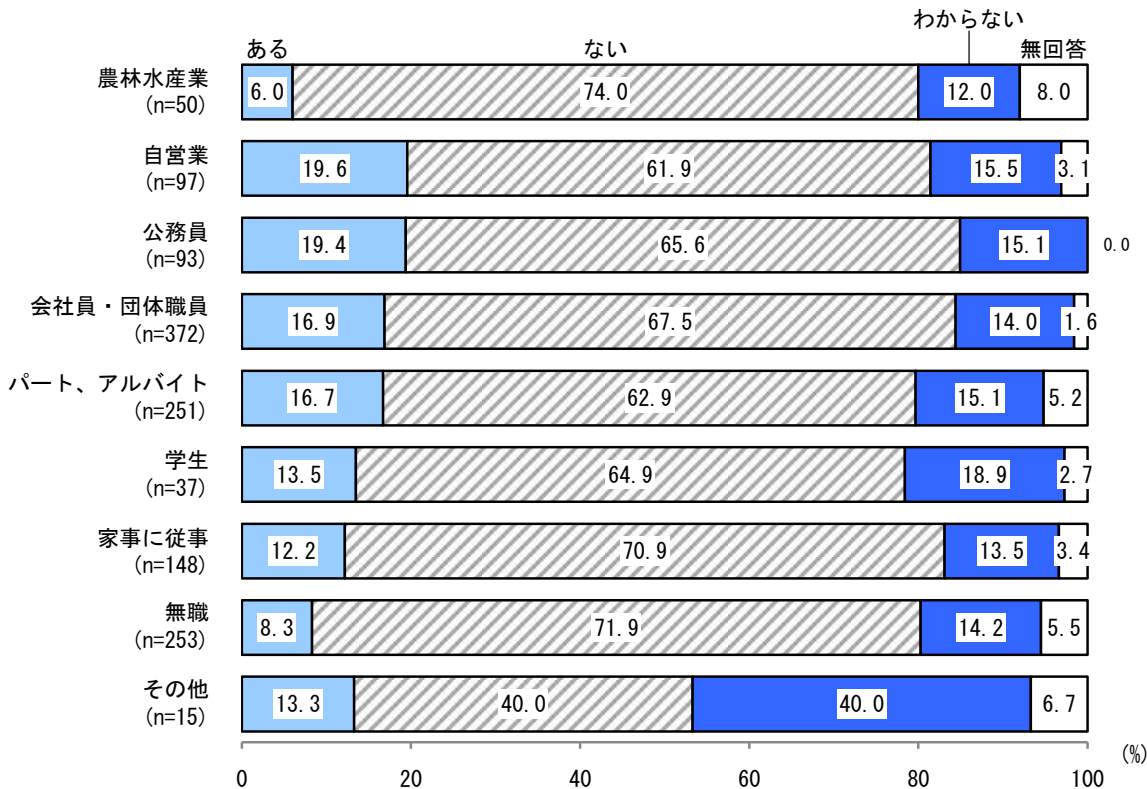
年齢別でみると、「ある」の割合は30歳代と40歳代がともに19.5%で最も高くなっています。





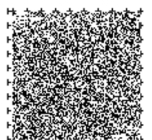
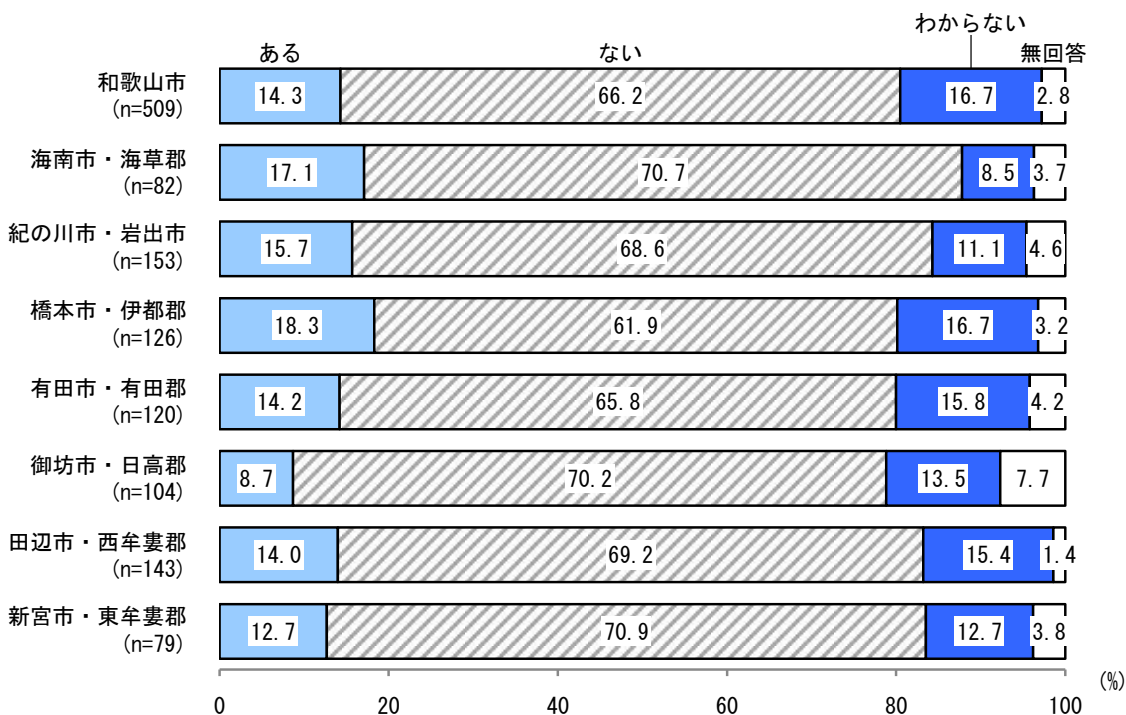
### 【職業別】

職業別でみると、「ある」の割合は自営業が19.6%で最も高く、次いで公務員が19.4%となっています。



### 【居住地域別】

居住地域別でみると、「ある」の割合は橋本市・伊都郡が18.3%で最も高く、次いで海南市・海草郡が17.1%となっています。



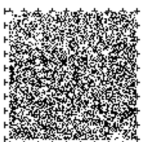
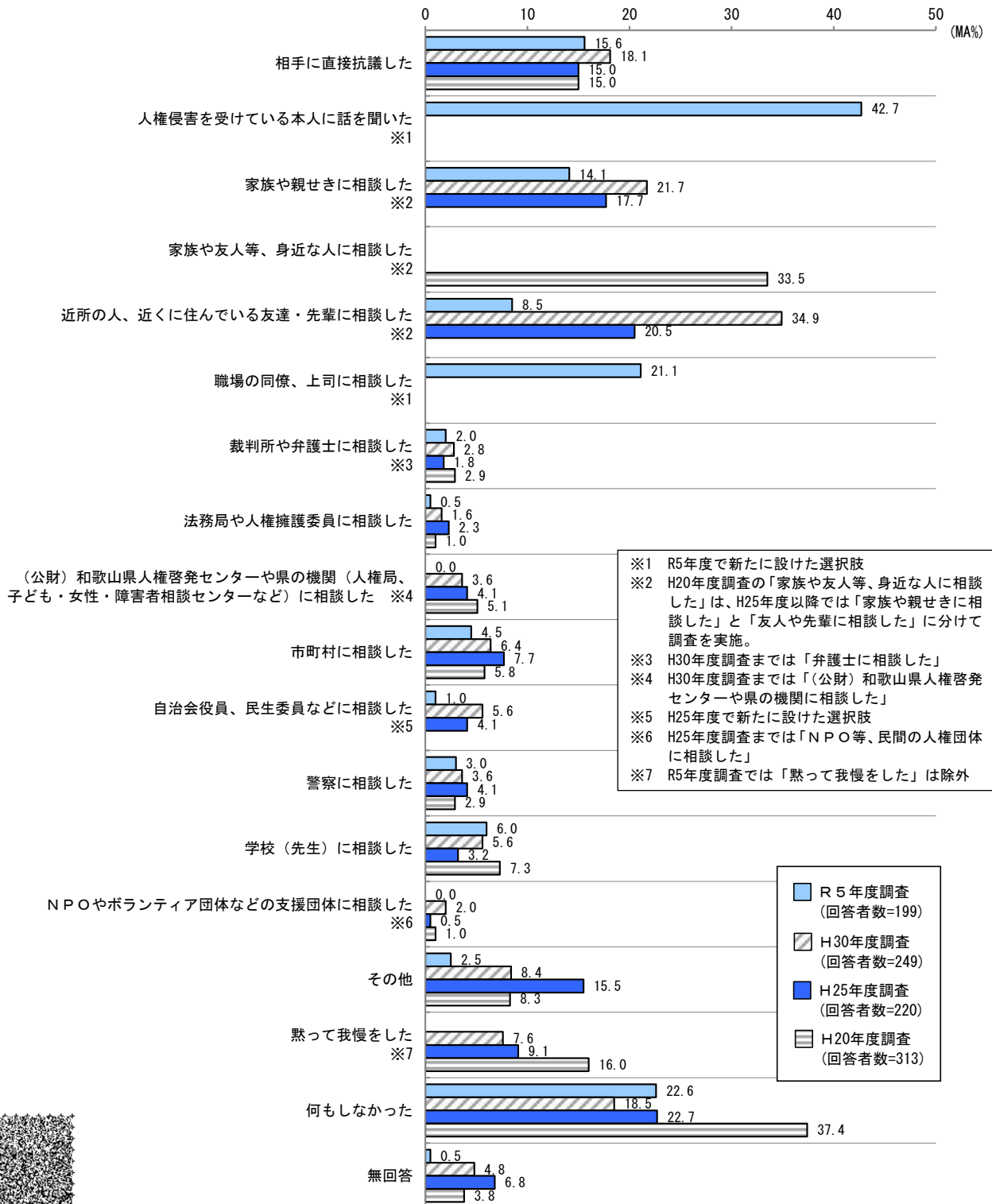
## (2) 人権侵害を受けたことを見聞きしたときの対応

問5で、「1. ある」と回答された方におたずねします。

問5-1 そのときどうされましたか (〇はいくつでも)

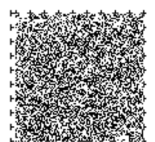
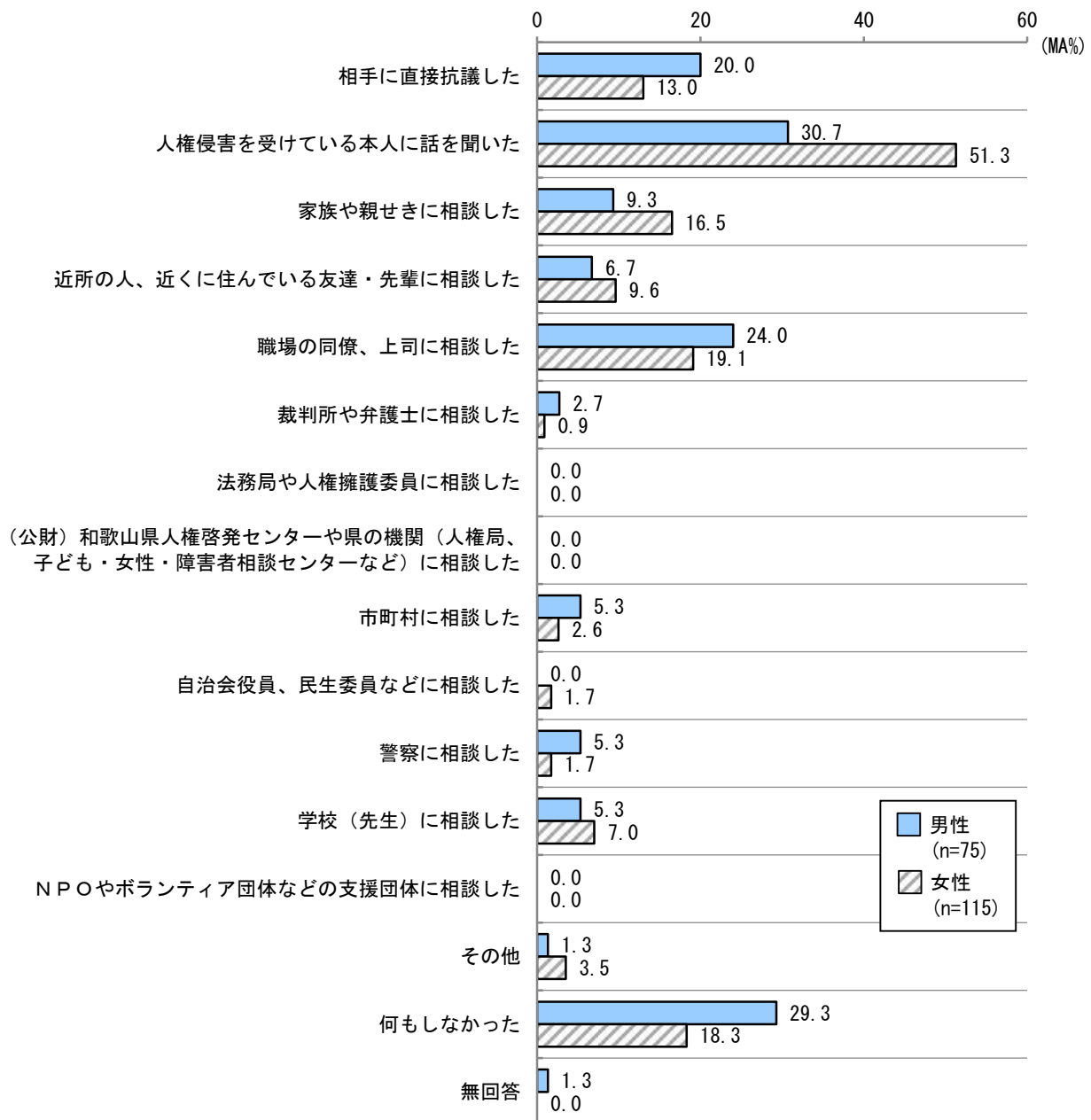
「人権侵害を受けている本人に話を聞いた」の割合が42.7%で最も多く、次いで「何もしなかった」が22.6%、「職場の同僚、上司に相談した」が21.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「近所の人、近くに住んでいる友達・先輩に相談した」(8.5%)の割合が、今回調査では「職場の同僚、上司に相談した」(21.1%)を新設したことで26.4ポイント減少しています。



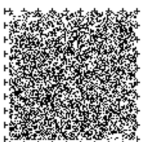
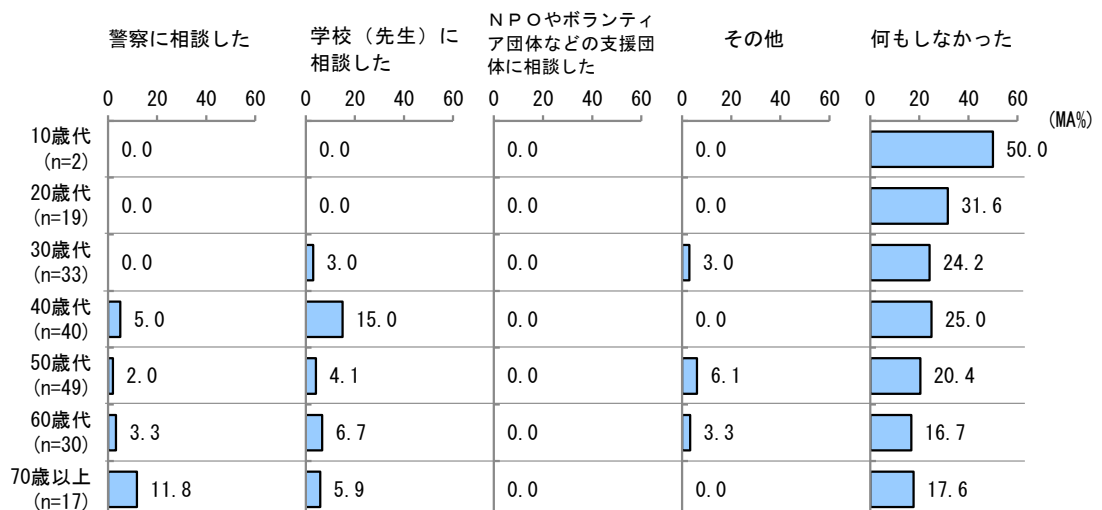
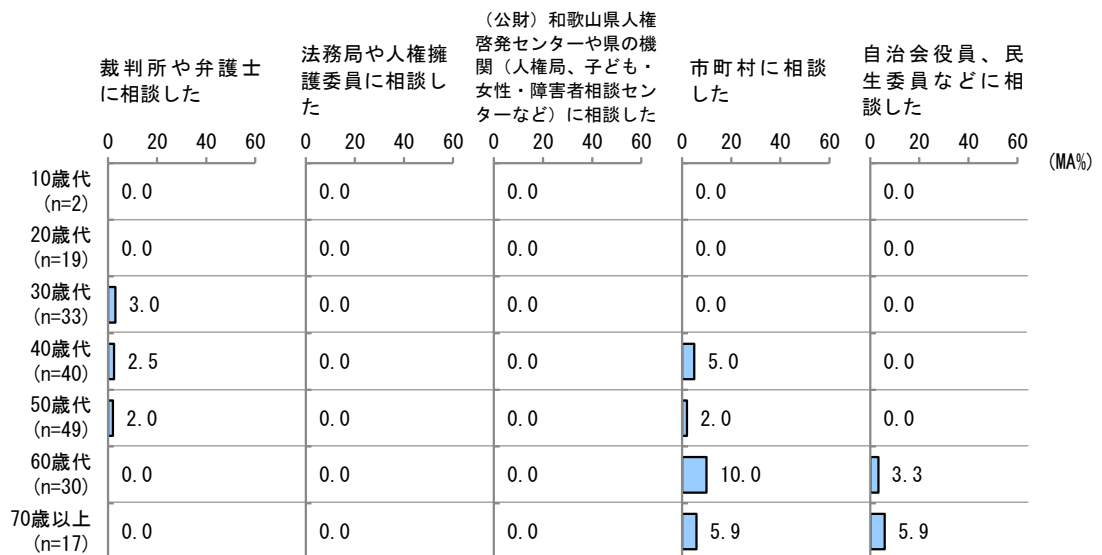
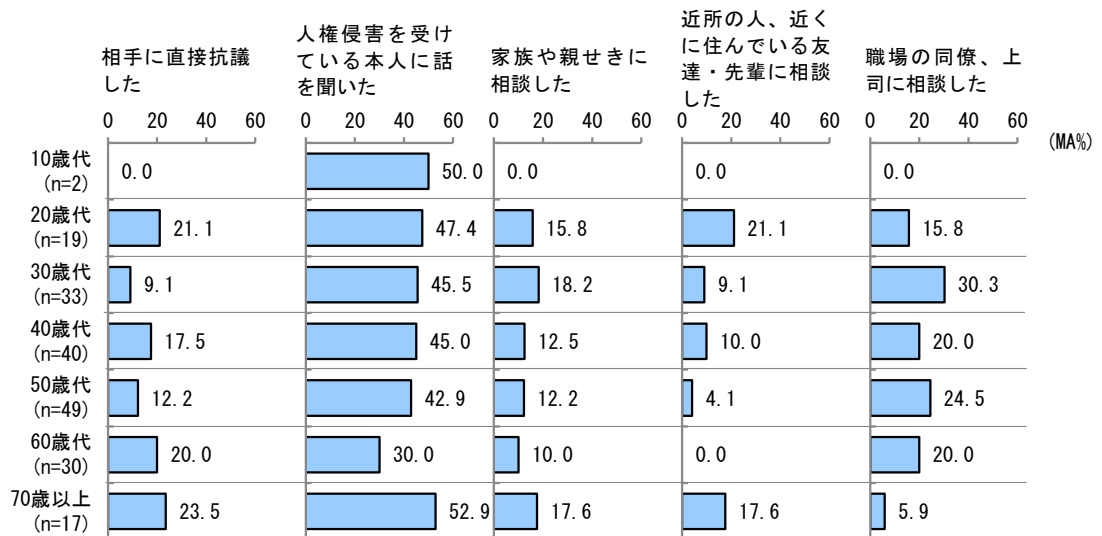
## 【性別】

性別で見ると、「何もしなかった」の割合は女性（18.3%）より男性（29.3%）のほうが11.0ポイント高くなっています。「人権侵害を受けている本人に話を聞いた」の割合は男性（30.7%）より女性（51.3%）のほうが20.6ポイント高くなっています。



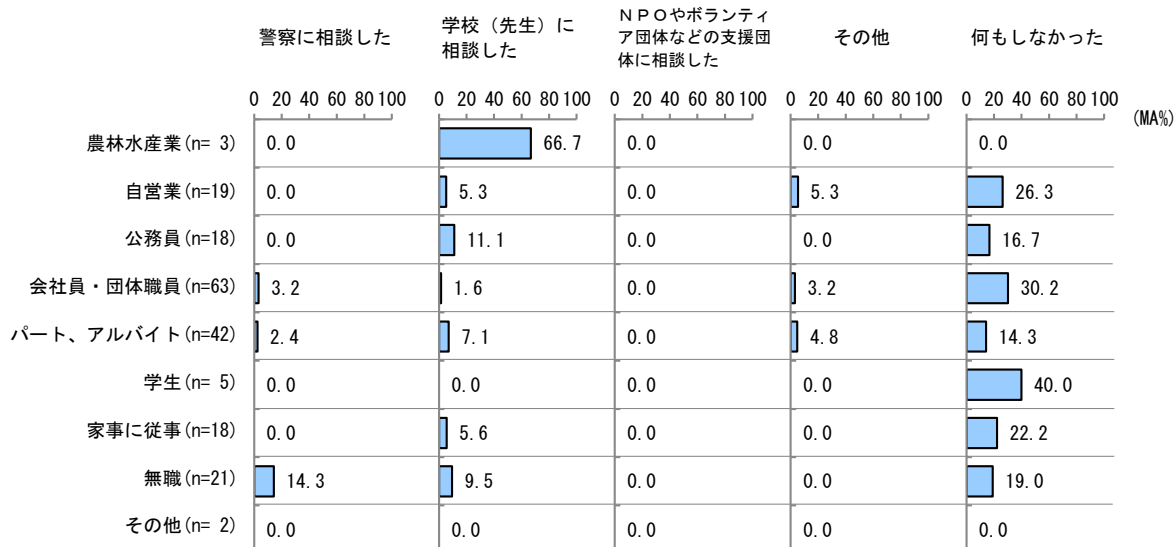
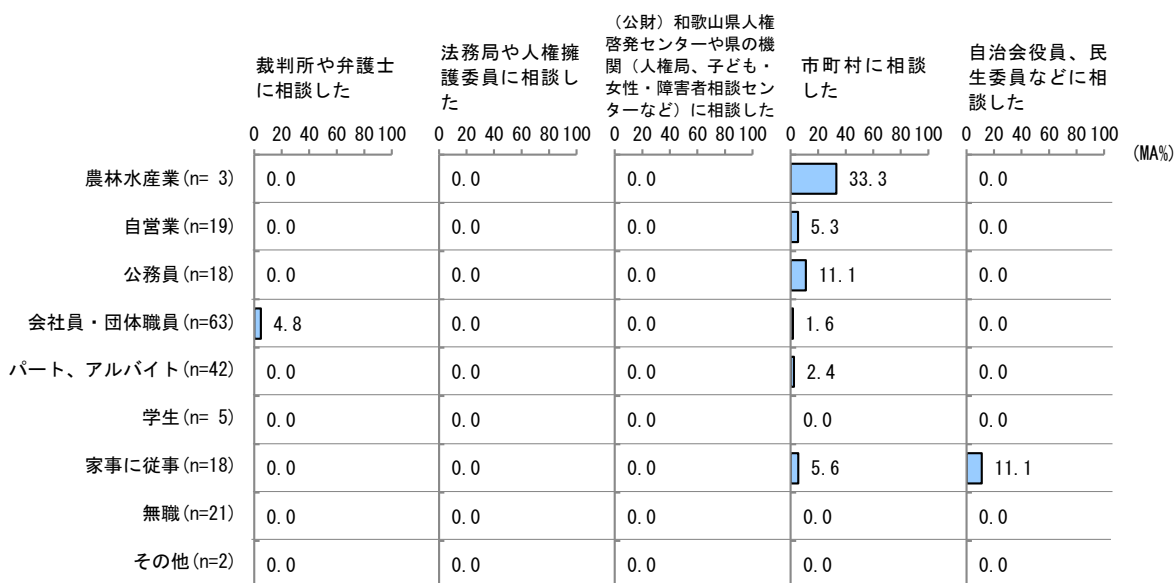
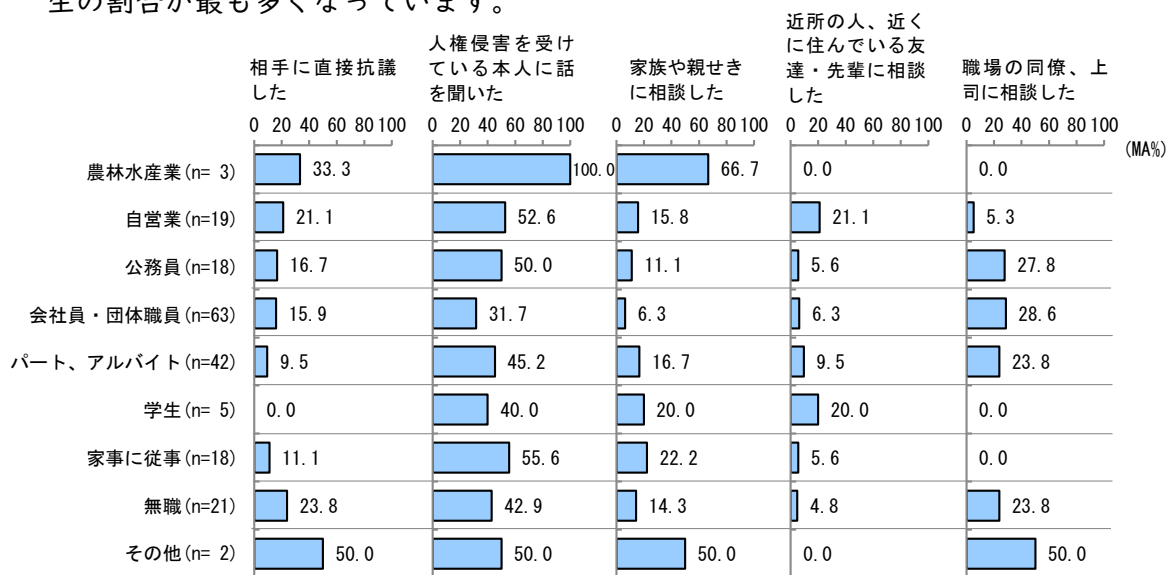
## 【年齢別】

年齢別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、いずれの年代も「人権侵害を受けている本人に話を聞いた」の割合が最も多くなっており、「何もしなかった」では若い世代の割合が多くなっています。



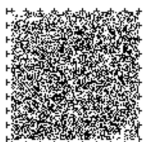
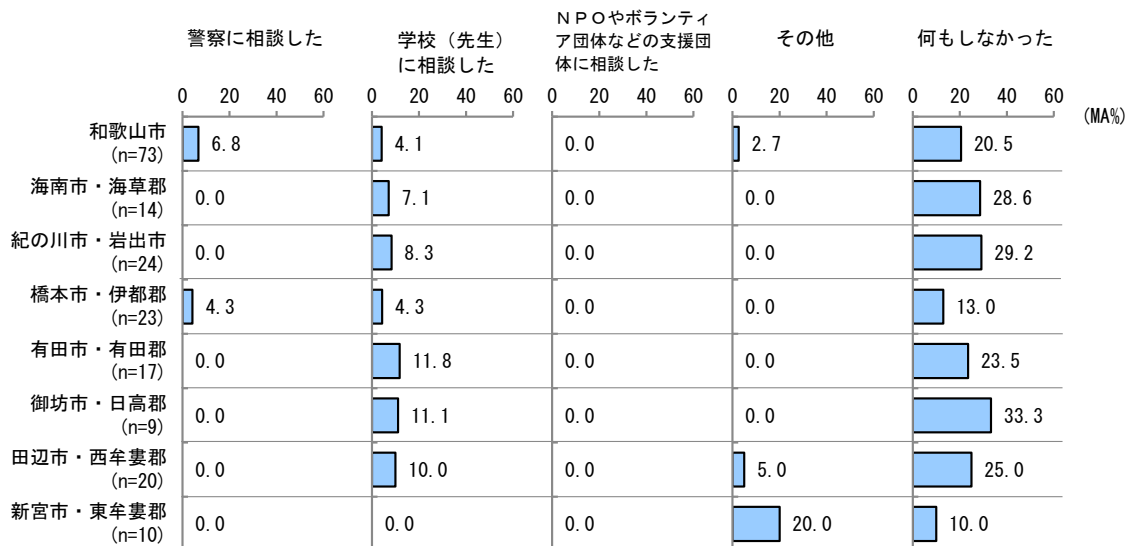
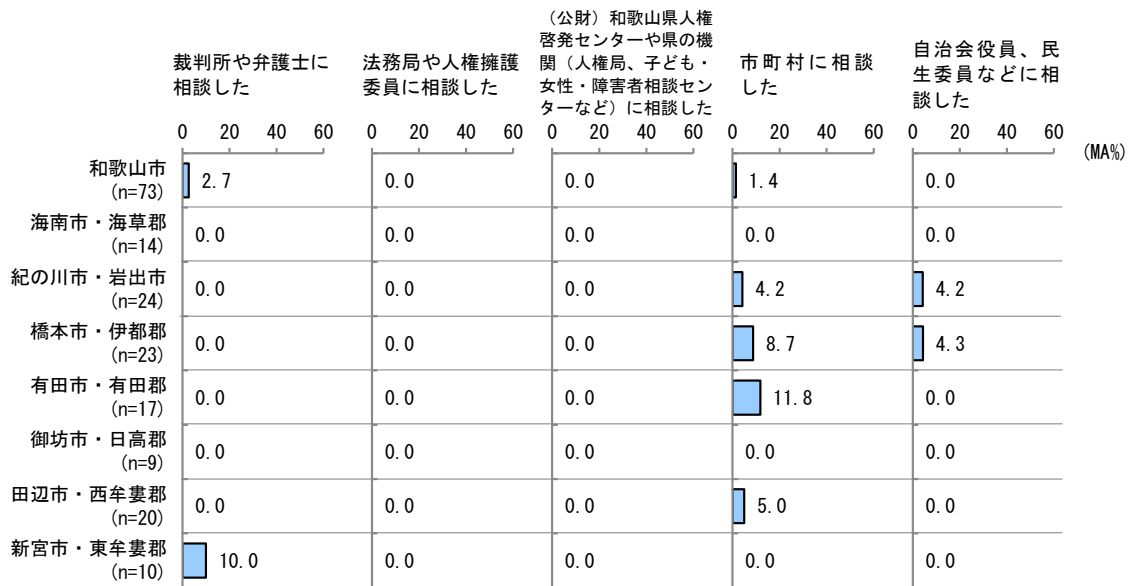
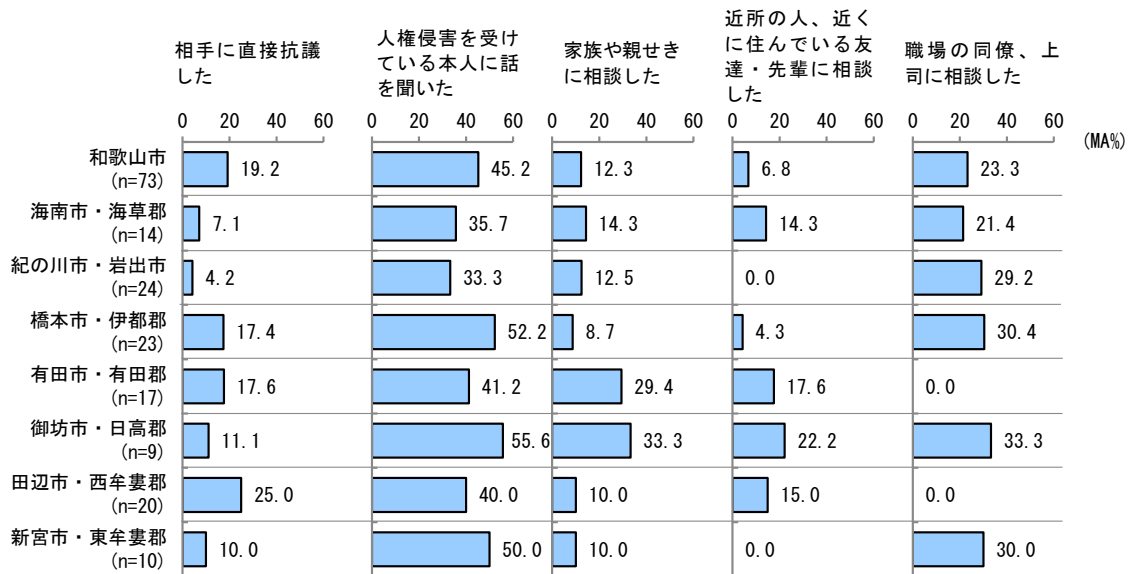
## 【職業別】

職業別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、いずれの職業も「人権侵害を受けている本人に話を聞いた」の割合が最も多くなっており、「何もしなかった」では学生の割合が最も多くなっています。



## 【居住地域別】

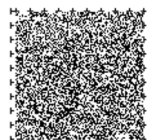
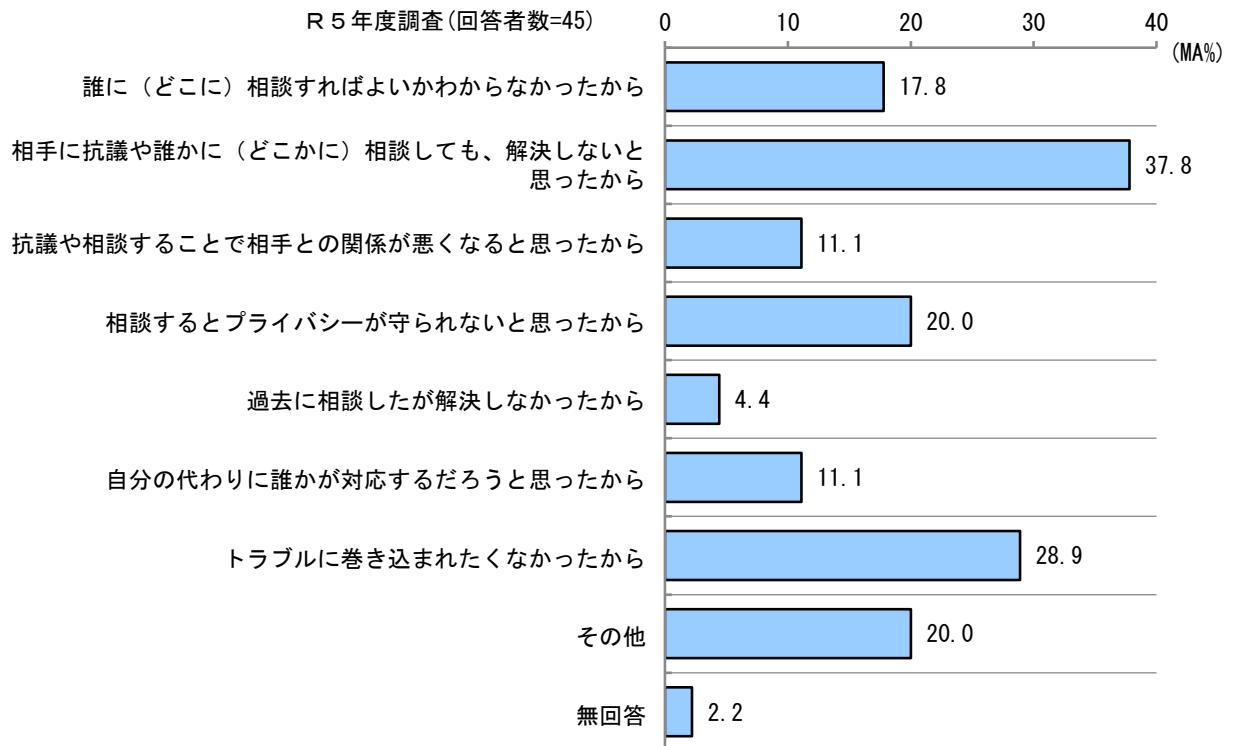
居住地域別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、いずれの地域も「人権侵害を受けている本人に話を聞いた」の割合が最も多くなっており、「何もしなかった」では御坊市・日高郡の割合が最も多くなっています。



### (3) 人権侵害を受けたことを見聞きしたときに何もしなかった理由

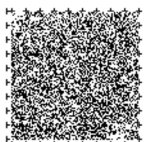
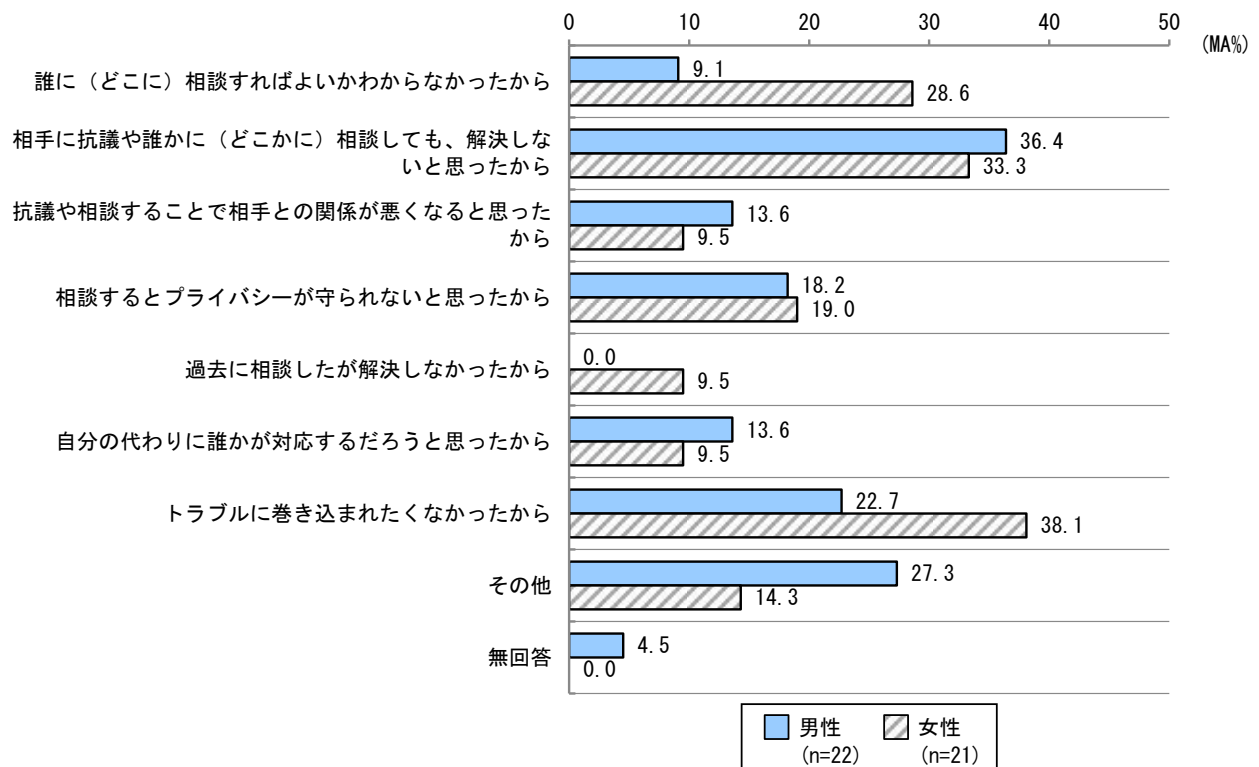
問5-1で、「15. 何もしなかった」と回答された方におたずねします  
問5-2 なぜそのようにされたのですか (〇はいくつでも)

「相手に抗議や誰かに(どこかに)相談しても、解決しないと思ったから」の割合が37.8%で最も多く、次いで「トラブルに巻き込まれたいくなかったから」が28.9%、「相談するとプライバシーが守られないと思ったから」が20.0%となっています。



## 【性別】

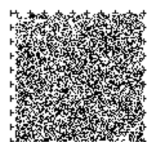
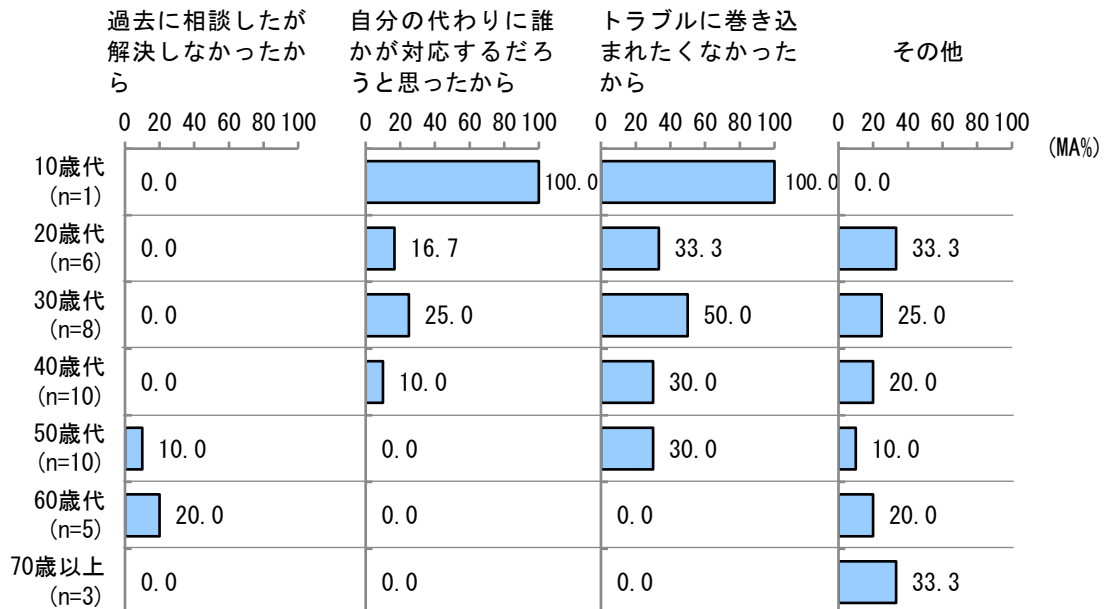
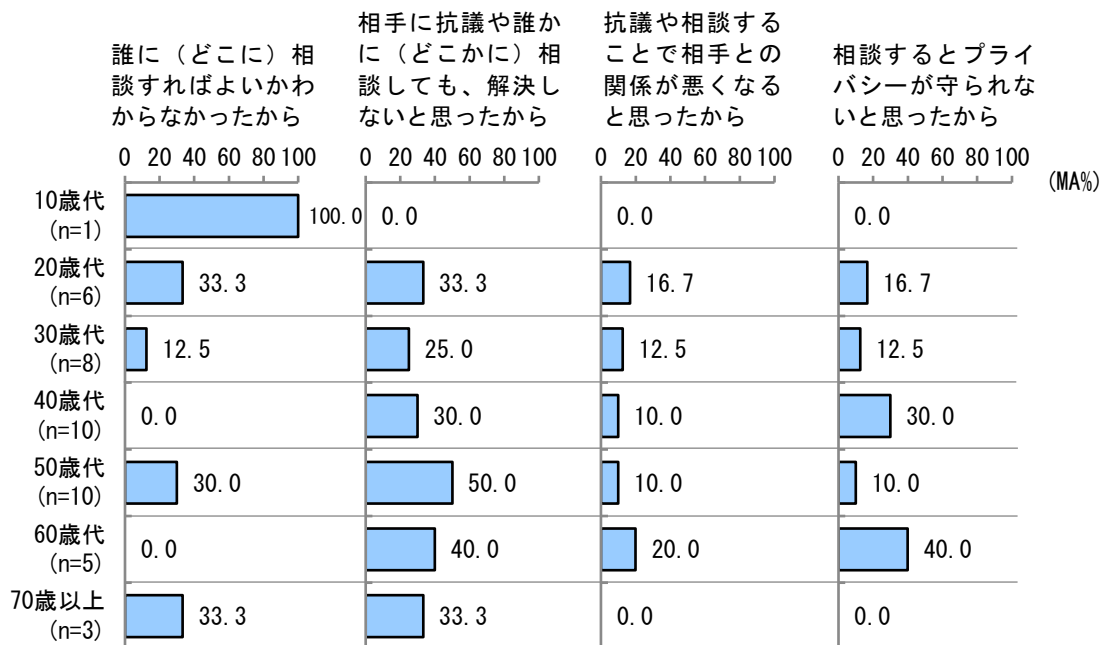
性別で見ると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、「誰に（どこに）相談すればよいかわからなかったから」の割合は男性（9.1%）より女性（28.6%）のほうが19.5ポイント、「トラブルに巻き込まれたいくなかったから」の割合は男性（22.7%）より女性（38.1%）のほうが15.4ポイント、それぞれ高くなっています。





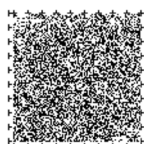
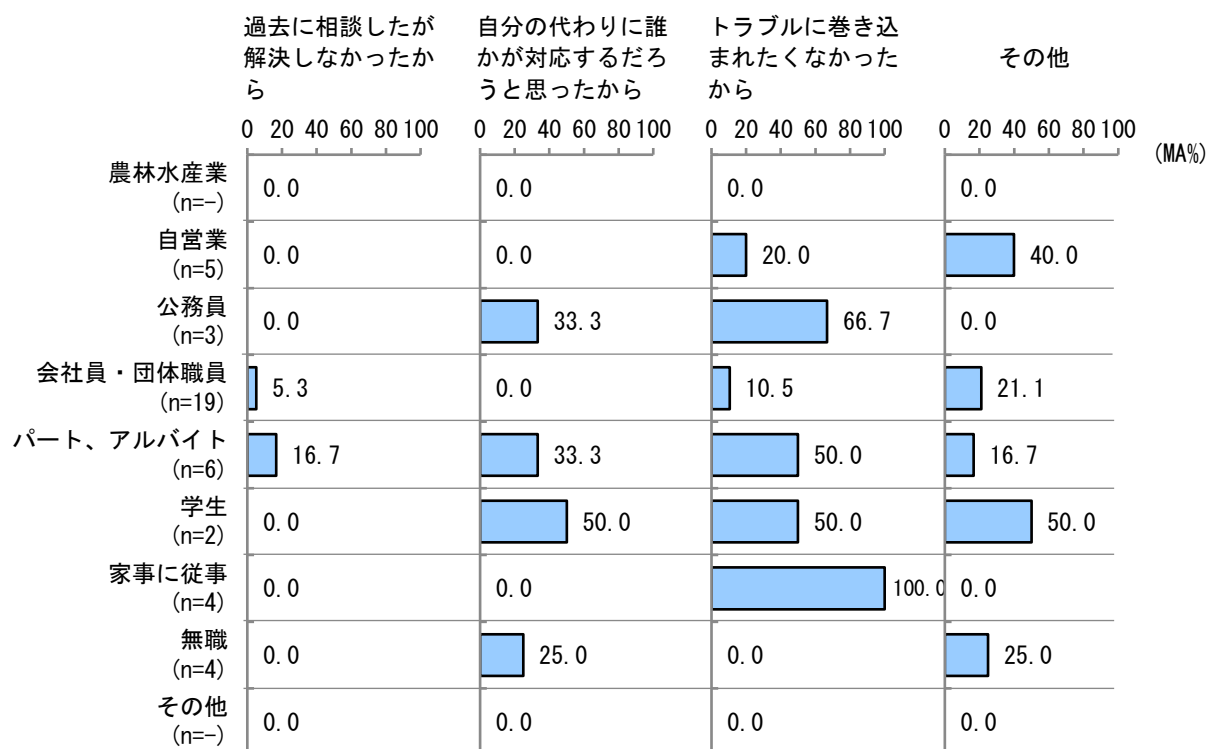
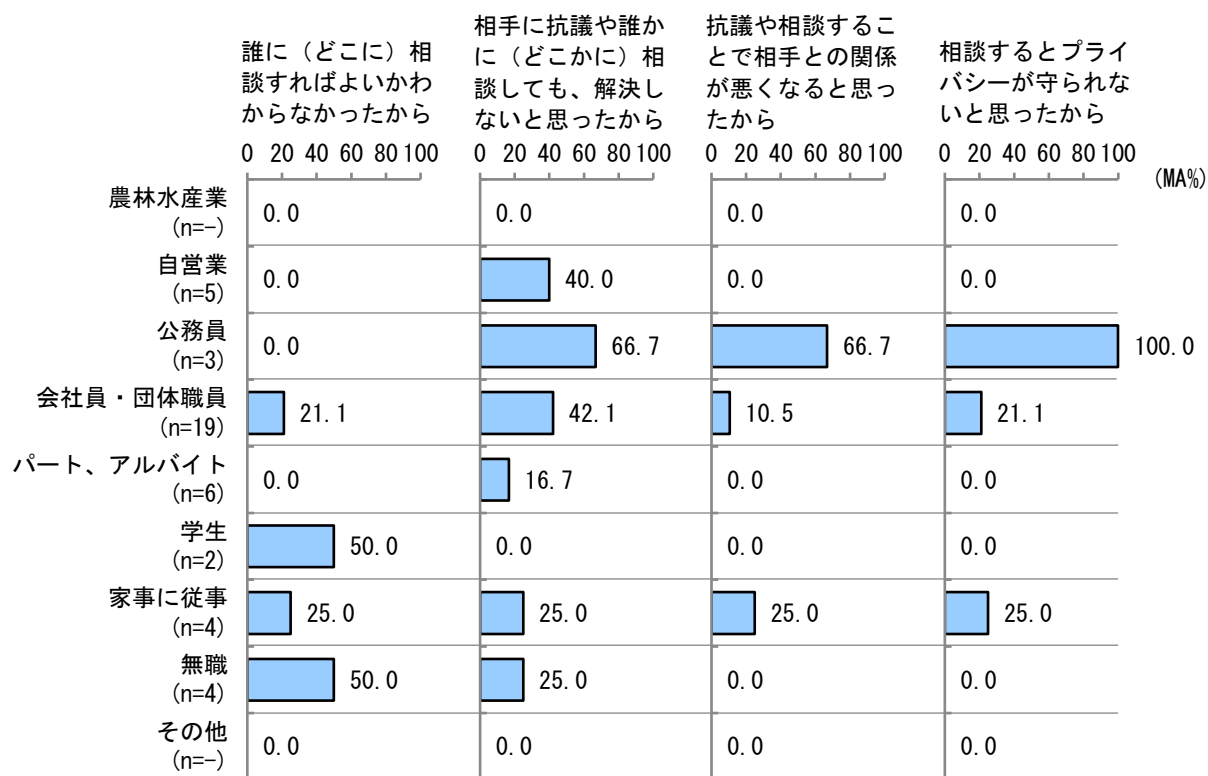
## 【年齢別】

年齢別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、30歳代では「トラブルに巻き込まれたくなかったから」（50.0%）の割合が最も多く、50歳代では「相手に抗議や誰かに（どこかに）相談しても、解決しないと思ったから」（50.0%）の割合が最も多くなっています。



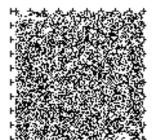
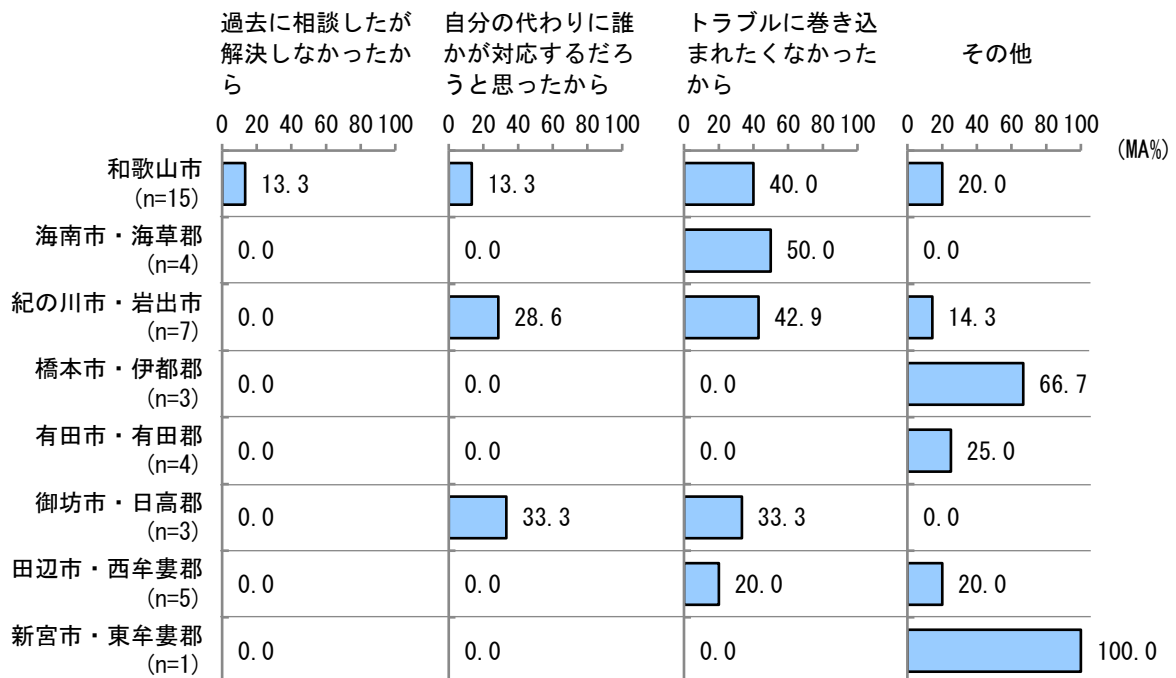
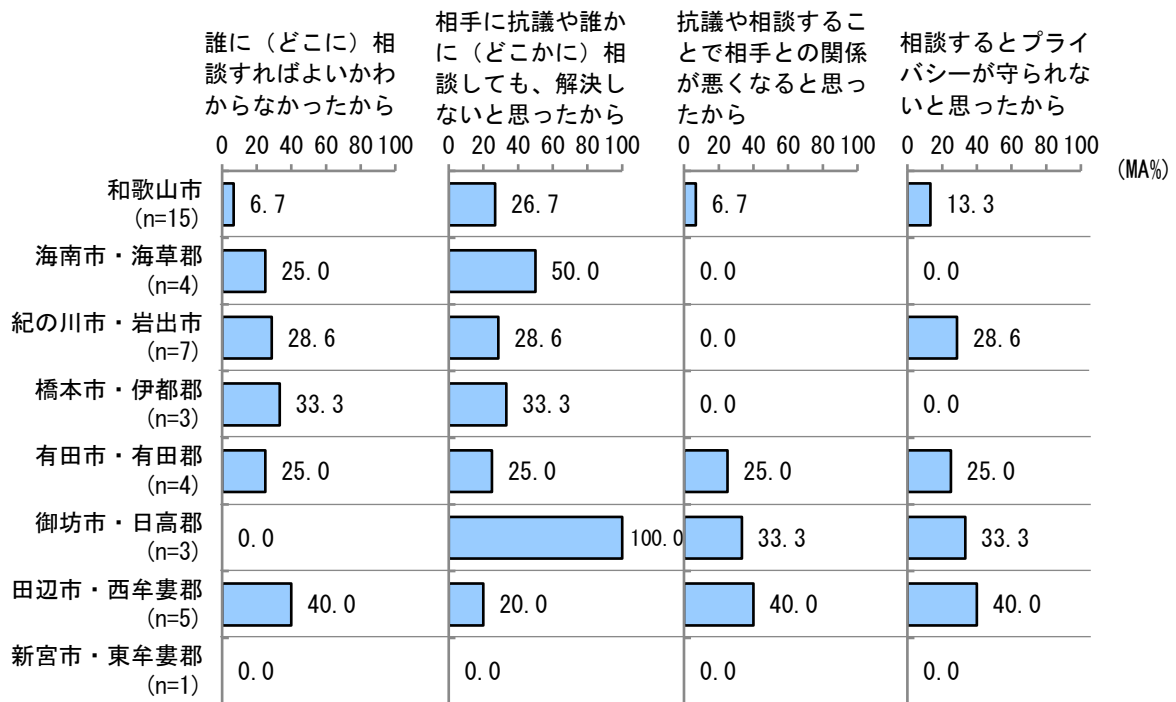
## 【職業別】

職業別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、会社員・団体職員では「相手に抗議や誰かに（どこかに）相談しても、解決しないと思ったから」（42.1%）が最も多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別でみると、回答者数が少ないため一概には言えませんが、和歌山市では「トラブルに巻き込まれたいくなかったから」(40.0%)が最も多くなっています。

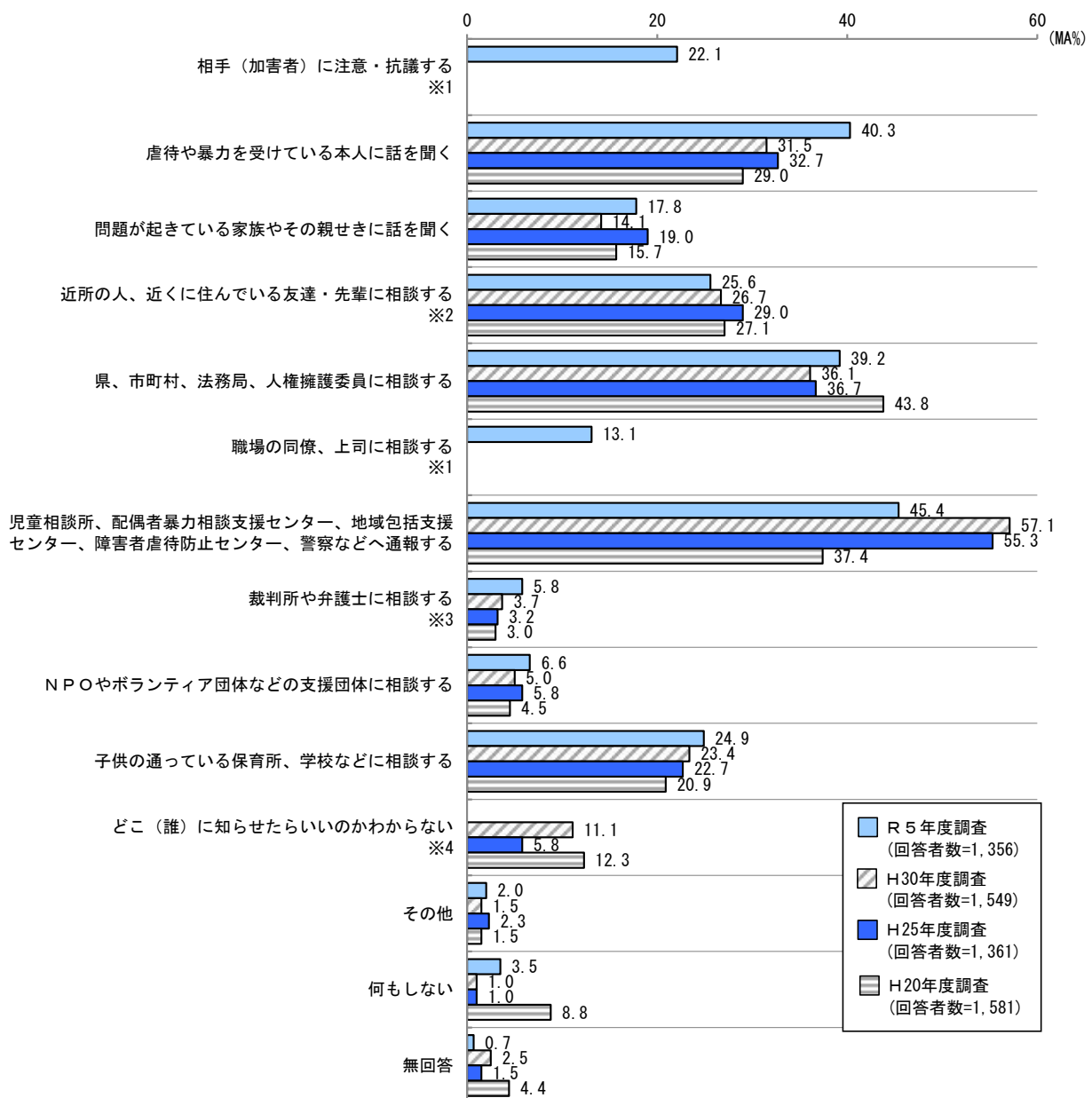


#### 4. 虐待や暴力がまわりで起きていることを知ったときの対応

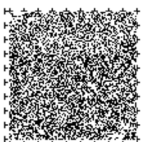
問6 子供、配偶者、高齢者、障害のある人などへの虐待や暴力が、あなたのまわりで起きていることを知った場合、あなたならどのように対応したいと思いますか（〇はいくつでも）

「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が45.4%で最も多く、次いで「虐待や暴力を受けている本人に話を聞く」が40.3%、「県、市町村、法務局、人権擁護委員に相談する」が39.2%となっています。

平成30年以前の調査結果でも、「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」や「県、市町村、法務局、人権擁護委員に相談する」「虐待や暴力を受けている本人に話を聞く」が上位となっています。

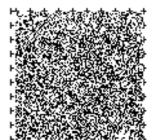
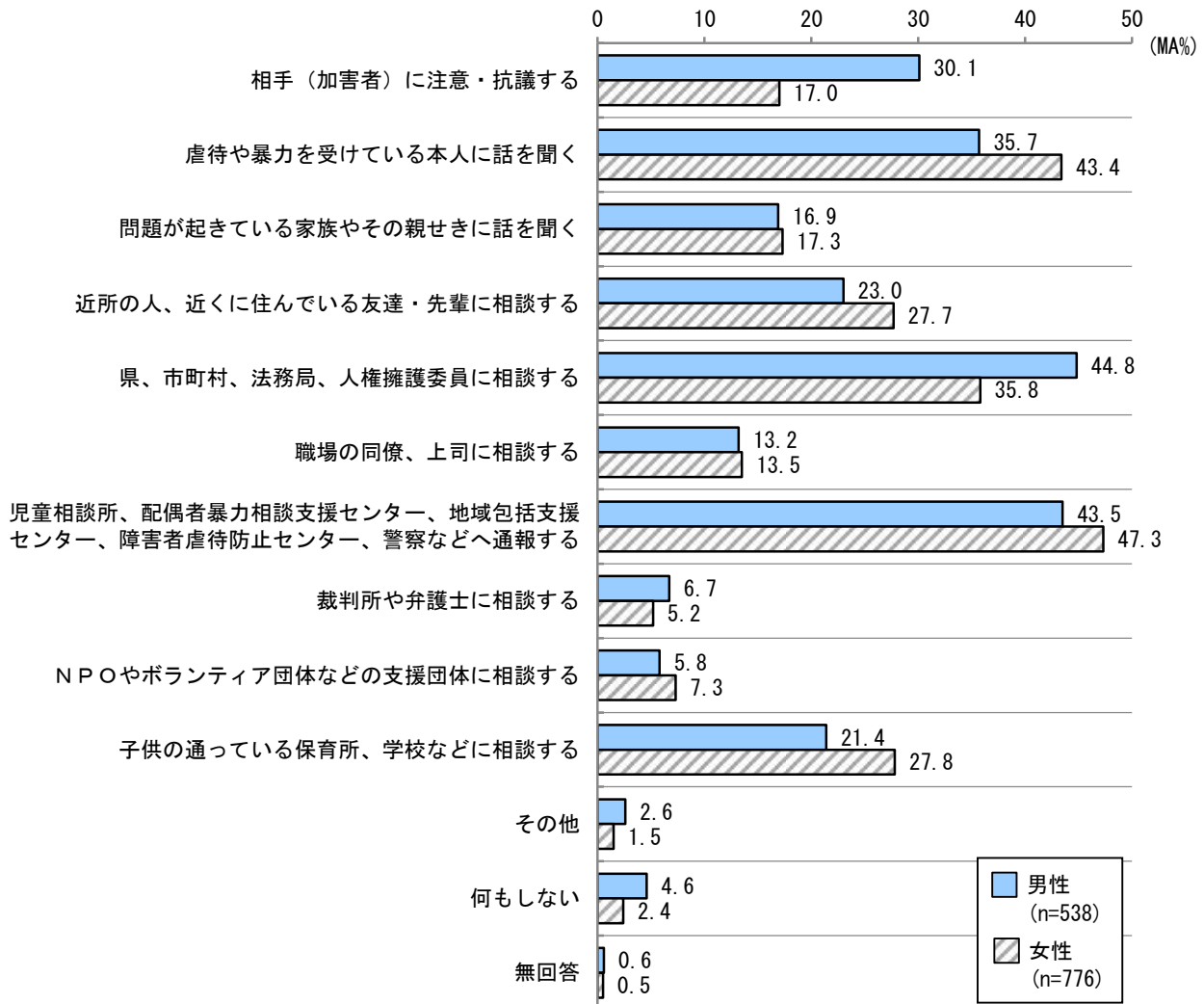


※1 R5年度で新たに設けた選択肢  
 ※2 H30年度調査までは「近所の人、近くに住んでいる友達に相談する」  
 ※3 H30年度調査までは「弁護士に相談する」  
 ※4 R5年度調査では「どこ（誰）に知らせたらいいのかわからない」は除外



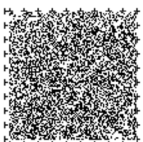
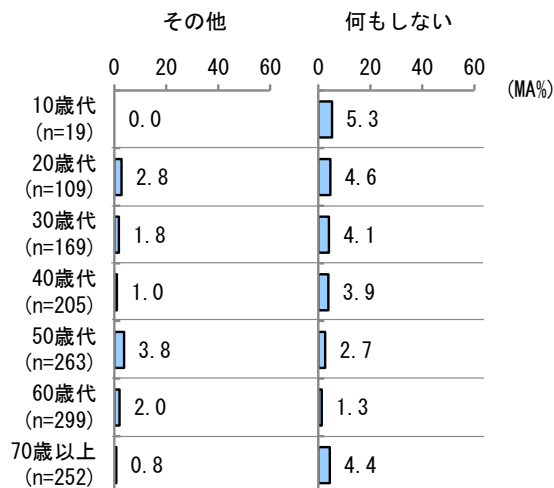
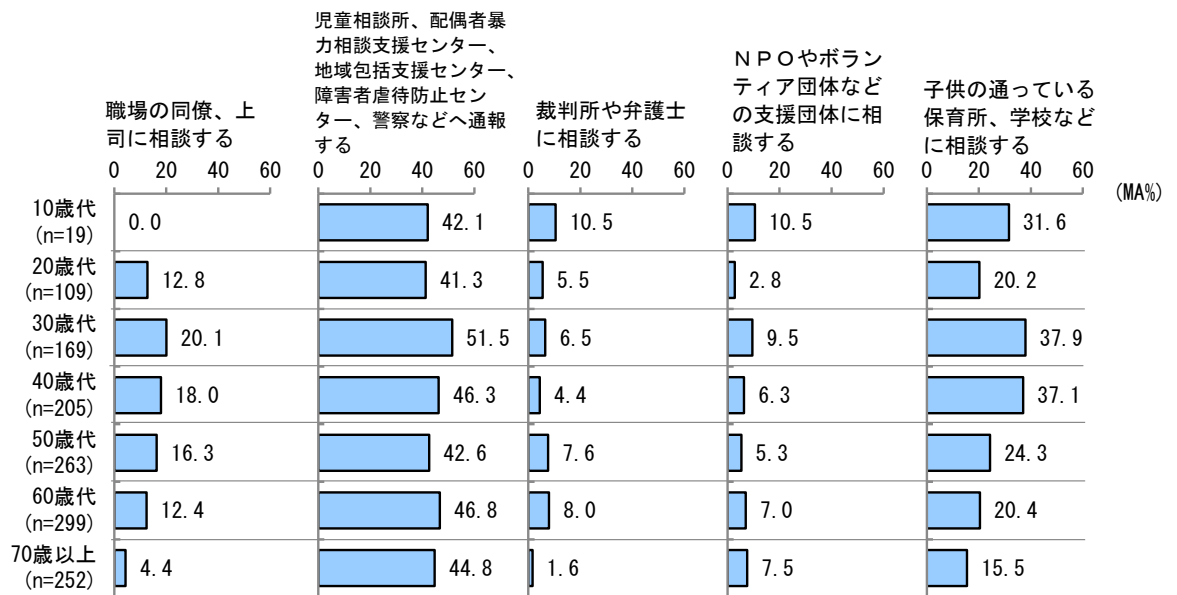
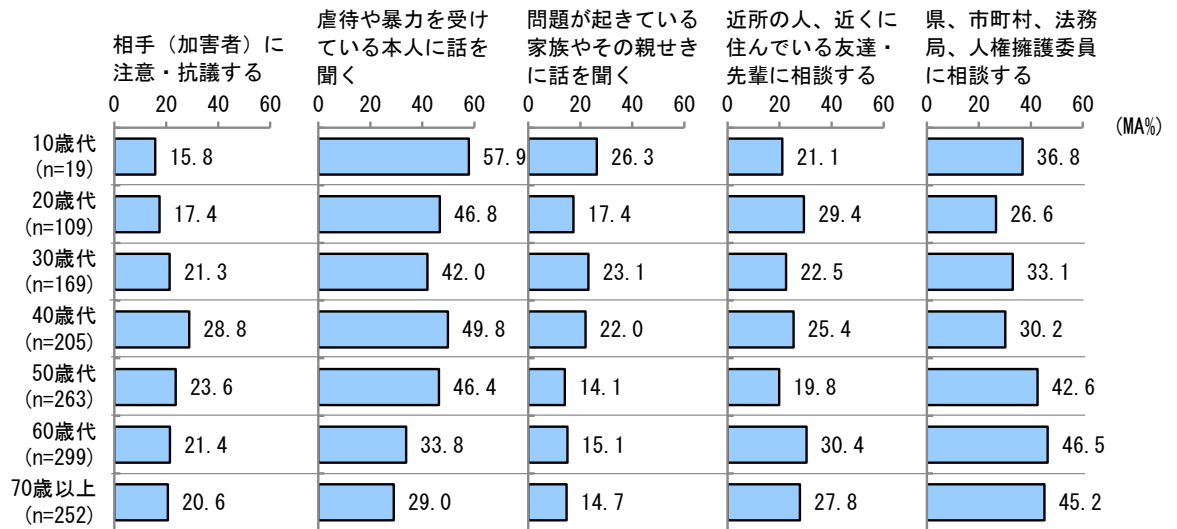
## 【性別】

性別で見ると、「相手(加害者)に注意・抗議する」の割合は女性(17.0%)より男性(30.1%)のほうが13.1ポイント、「県、市町村、法務局、人権擁護委員に相談する」の割合は女性(35.8%)より男性(44.8%)のほうが9.0ポイント、それぞれ高くなっています。



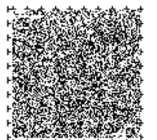
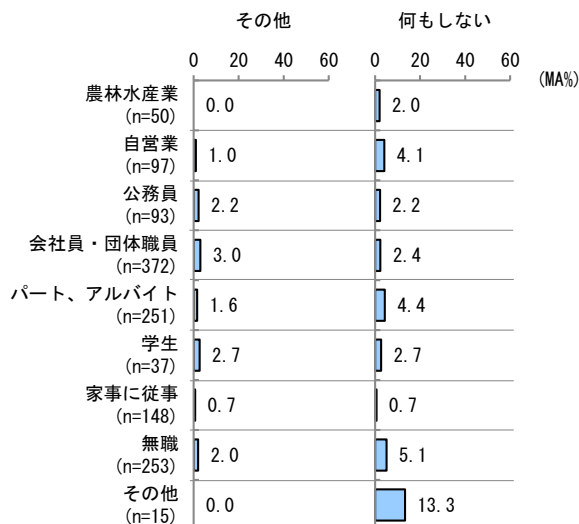
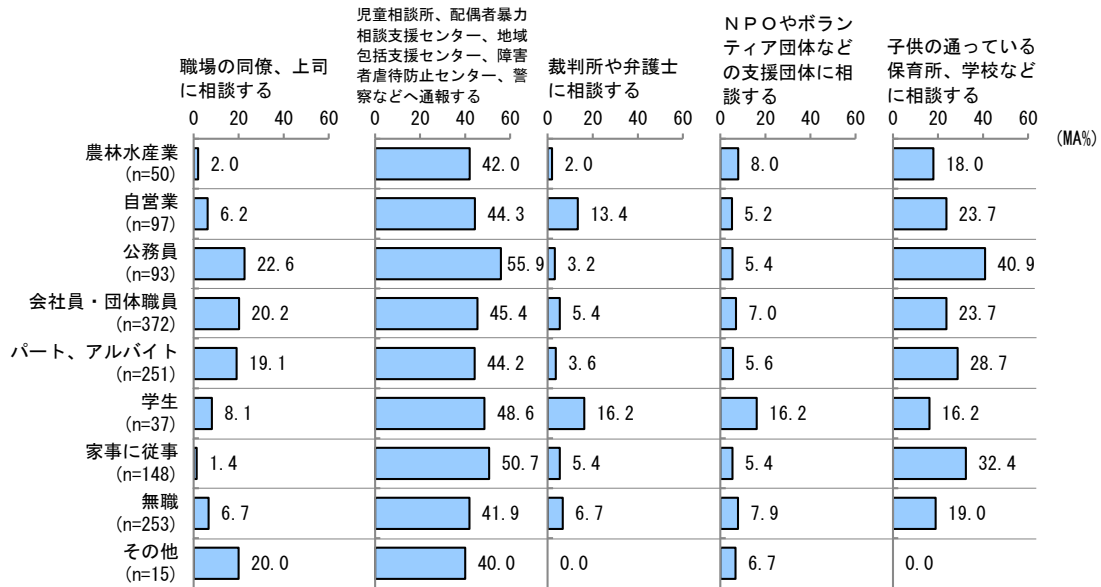
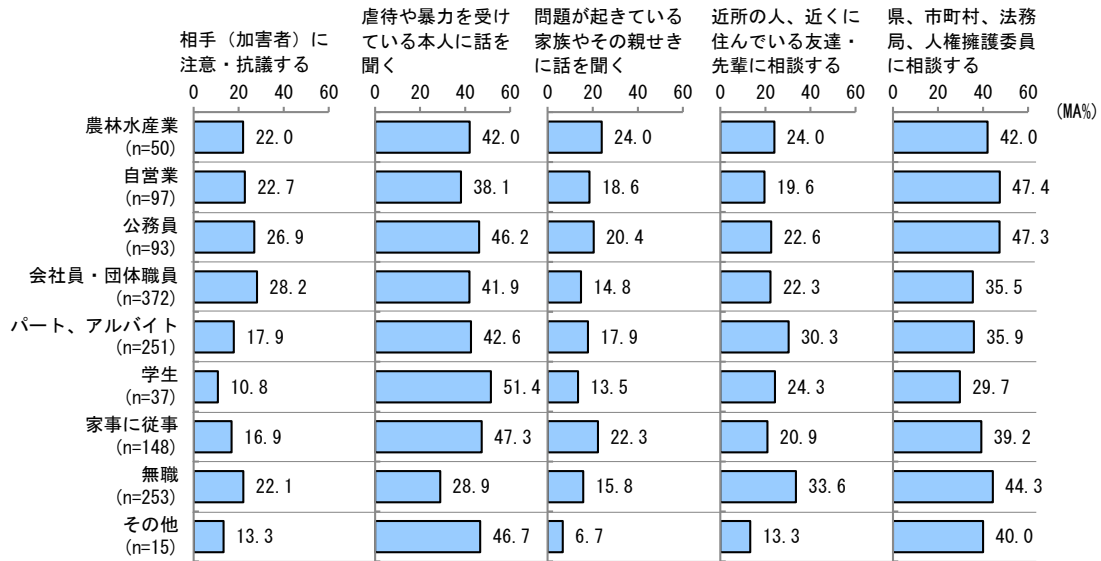
## 【年齢別】

年齢別でみると、「虐待や暴力を受けている本人に話を聞く」の割合は50歳代以下の年代で4割を超えており、「県、市町村、法務局、人権擁護委員に相談する」は50歳代以上の年代で4割を超えて高くなっています。



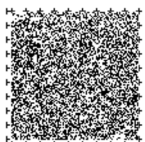
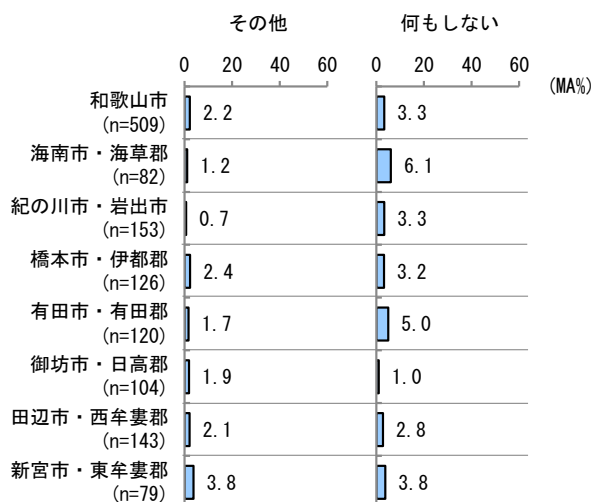
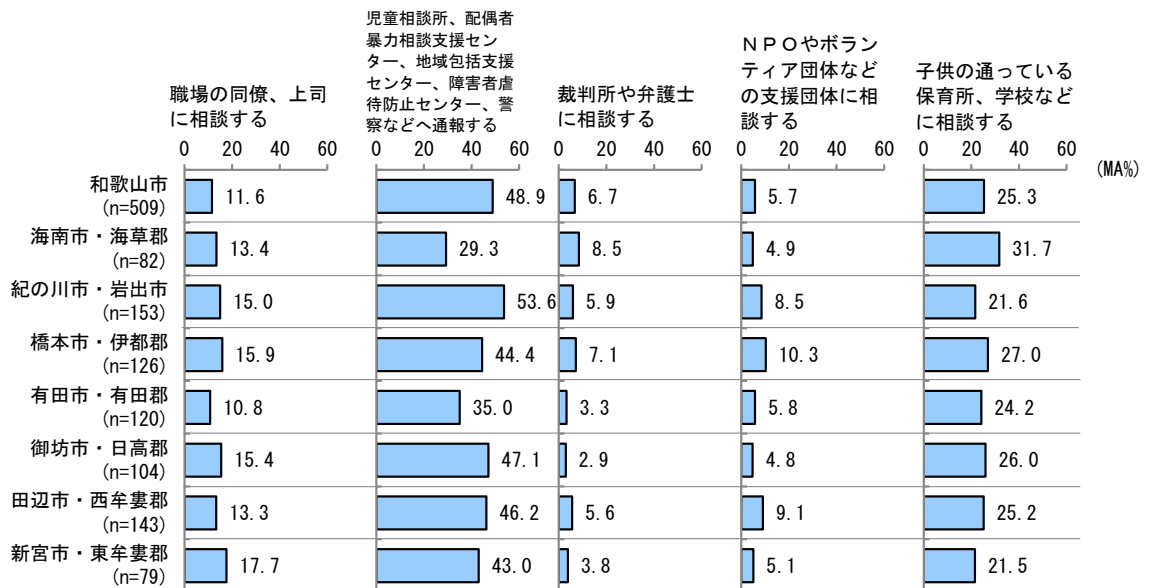
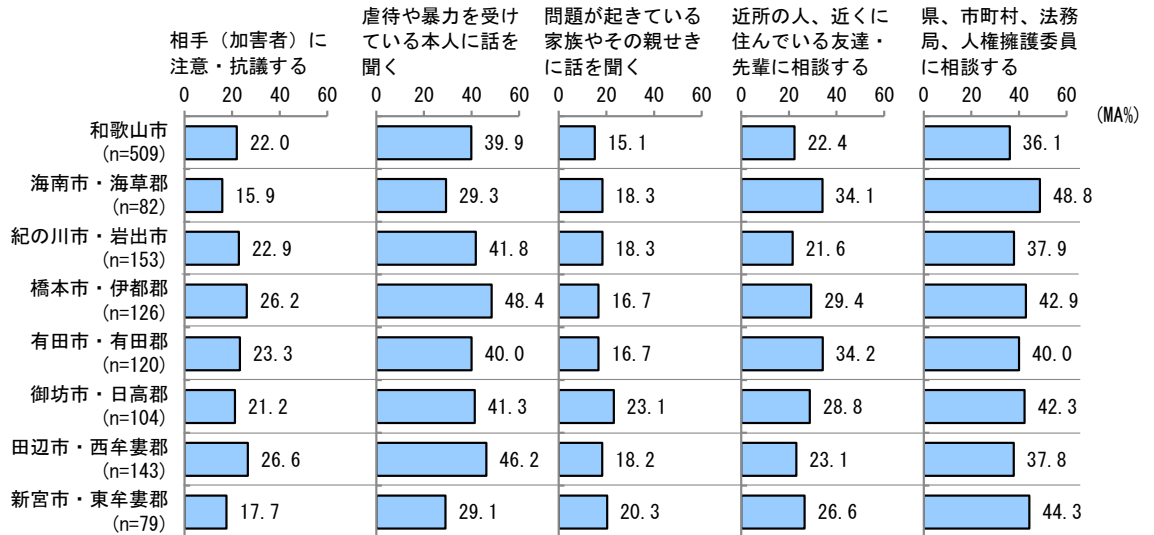
## 【職業別】

職業別でみると、公務員、会社員・団体職員、パート、アルバイト、家事に従事では「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が最も多くなっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、和歌山市、紀の川市・岩出市、御坊市・日高郡、田辺市・西牟婁郡では「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が最も多く、田辺市・西牟婁郡では同率で「虐待や暴力を受けている本人に話を聞く」も最も多くなっています。



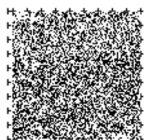
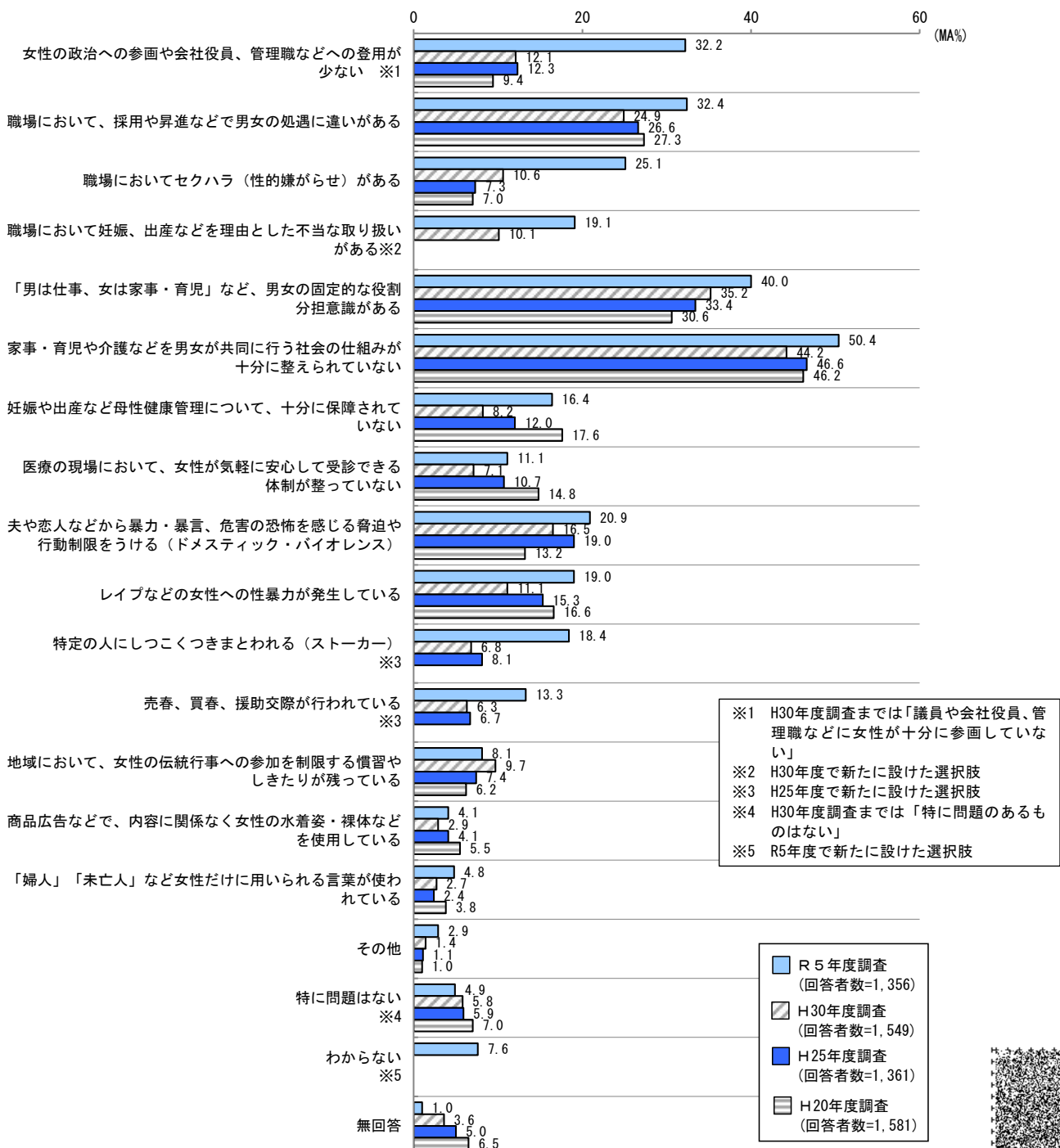


## 5. 女性に関する事柄で、問題だと思ふこと

問7 女性に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思ひますか（○はいくつでも）

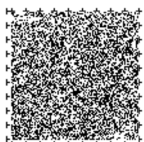
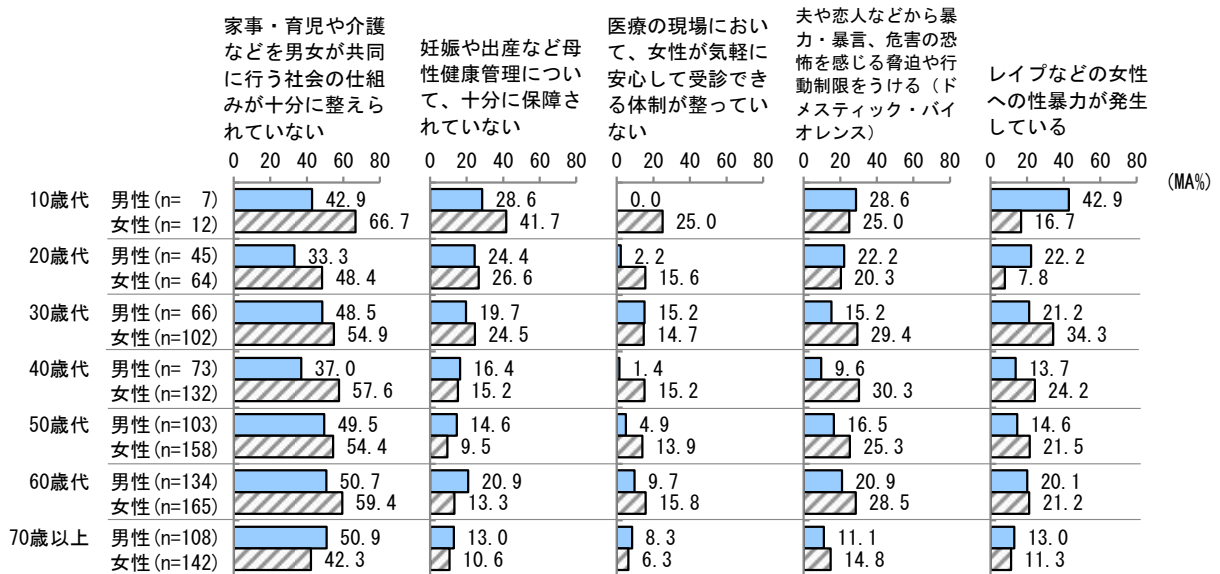
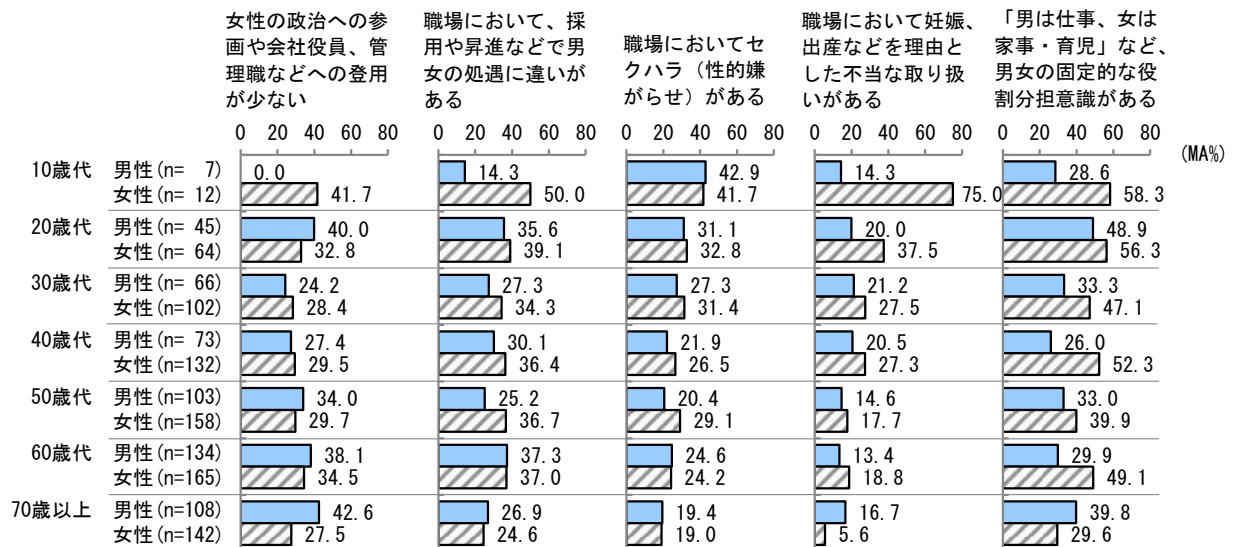
「家事・育児や介護などを男女が共同に行う社会の仕組みが十分に整えられていない」の割合が50.4%で最も多く、次いで「男は仕事、女は家事・育児」など、男女の固定的な役割分担意識がある」が40.0%、「職場において、採用や昇進などで男女の処遇に違いがある」が32.4%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「女性の政治への参画や会社役員、管理職などへの登用が少ない」（32.2%）の割合が20.1ポイント、「職場においてセクハラ（性的嫌がらせ）がある」（25.1%）の割合が14.5ポイント、それぞれ増加しています。

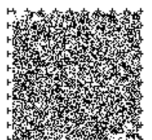
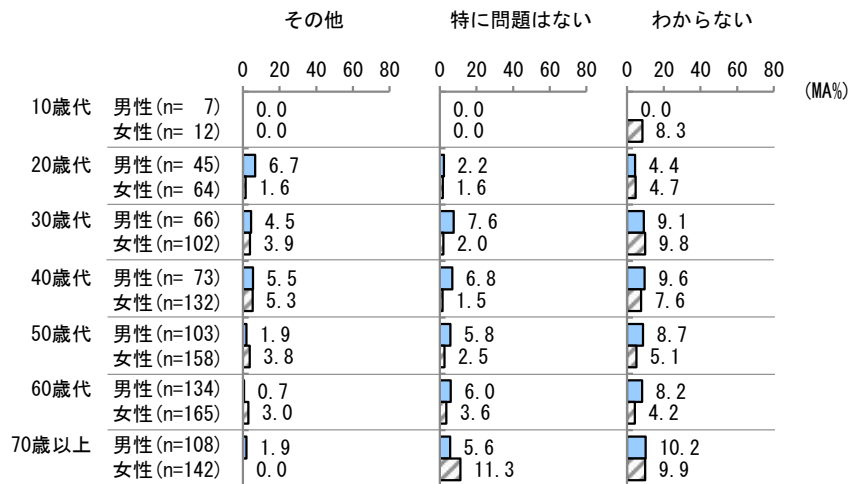
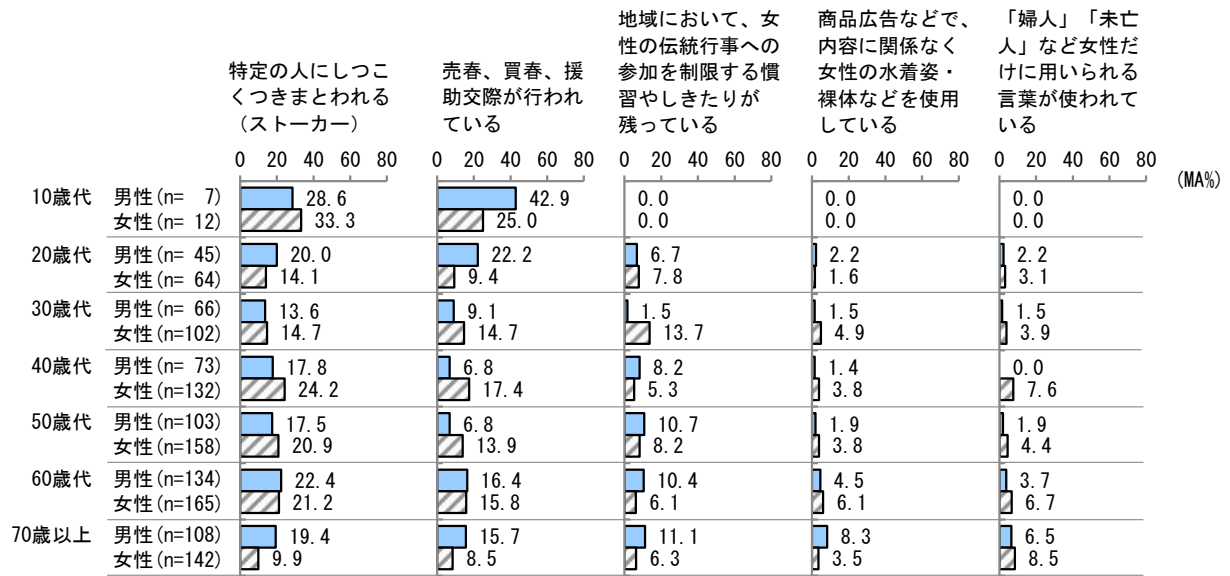


【性・年齢別①】

性・年齢別でみると、男性、女性とも20歳代は「男は仕事、女は家事・育児」など、男女の固定的な役割分担意識がある」の割合が最も高く、30歳代以上の年代において「家事・育児や介護などを男女が共同に行う社会の仕組みが十分に整えられていない」の割合が最も高くなっています。

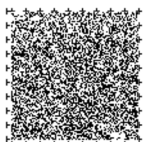
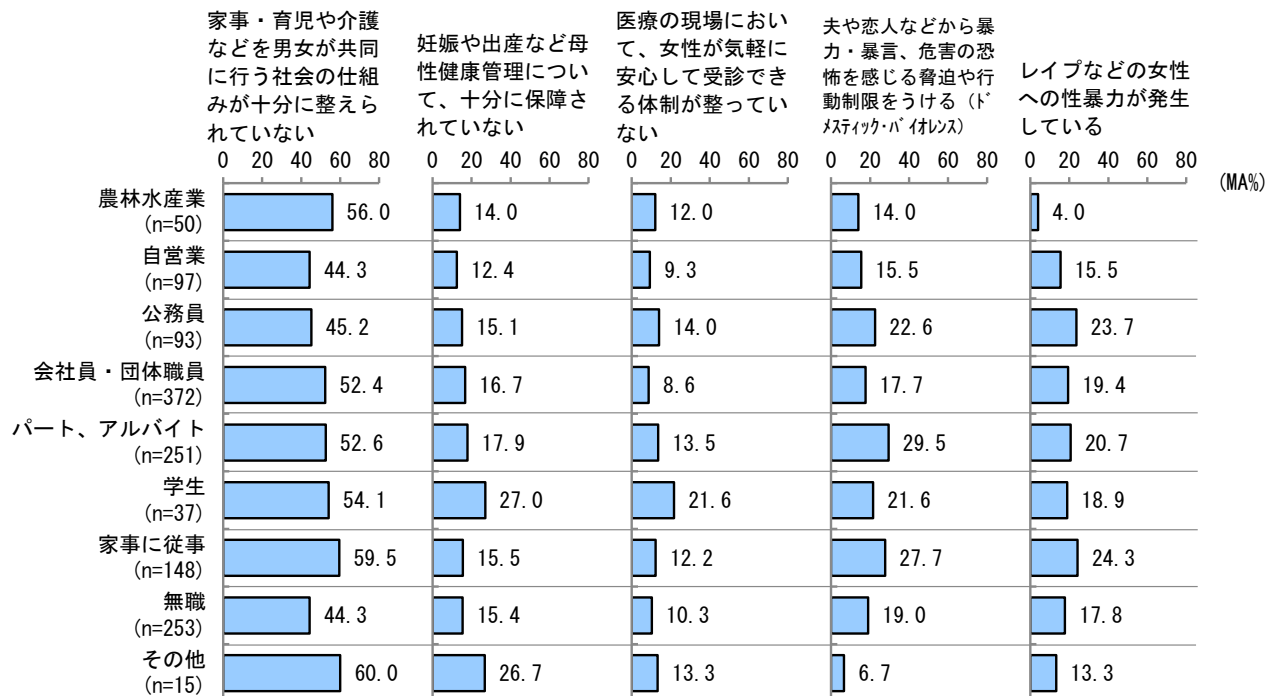
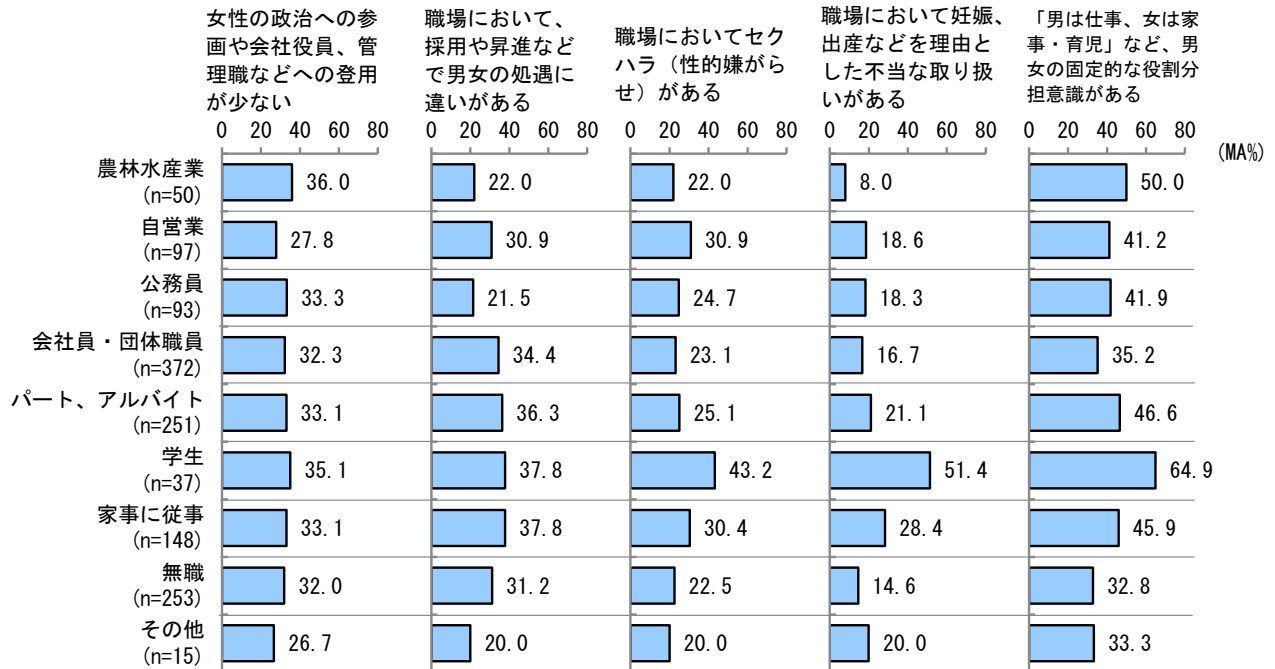


【性・年齢別②】

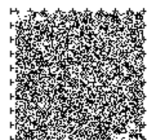
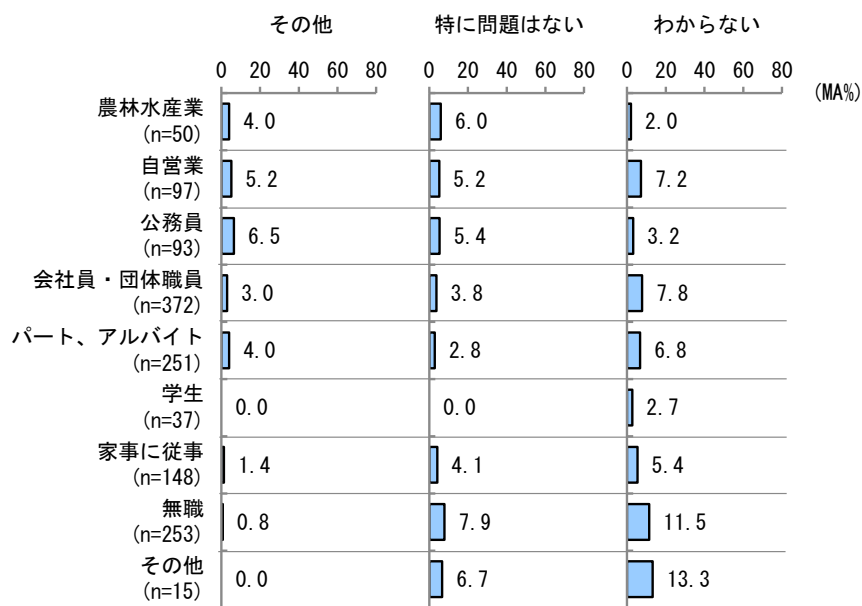
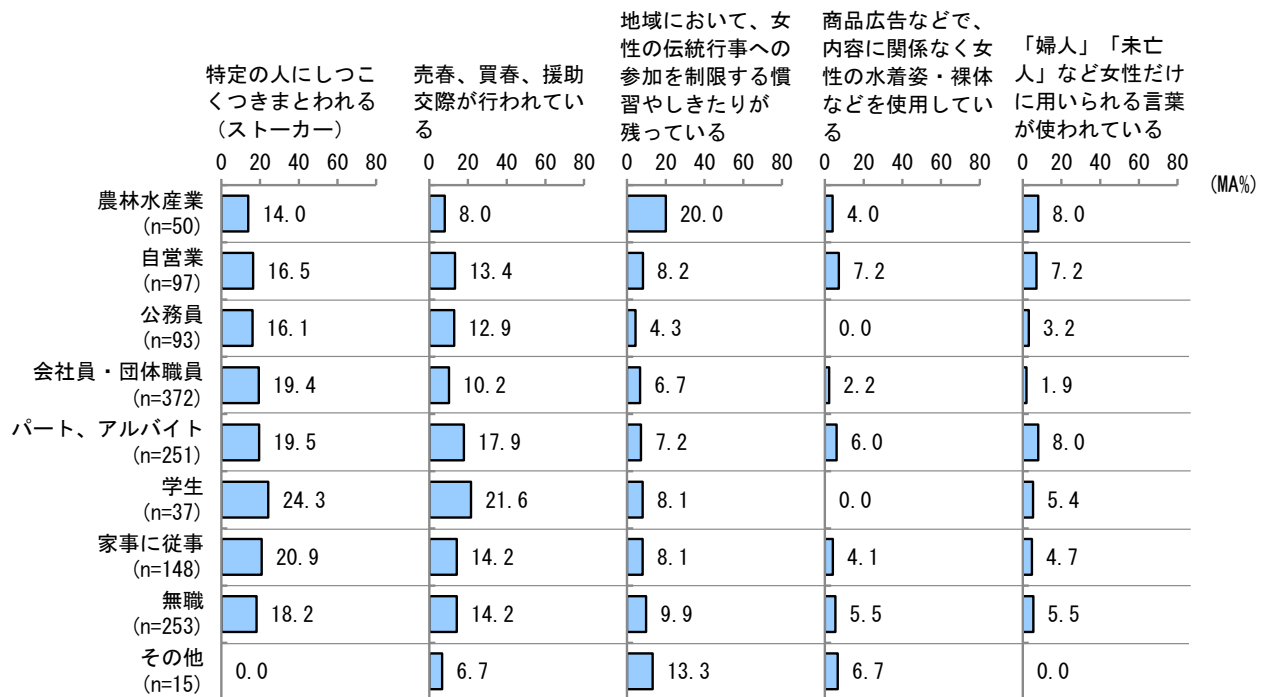


## 【職業別①】

職業別でみると、学生は「男は仕事、女は家事・育児」など、男女の固定的な役割分担意識がある」の割合が64.9%で最も高く、それ以外の職業では「家事・育児や介護などを男女が共同に行う社会の仕組みが十分に整えられていない」の割合が最も高くなっています。

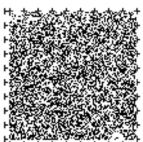
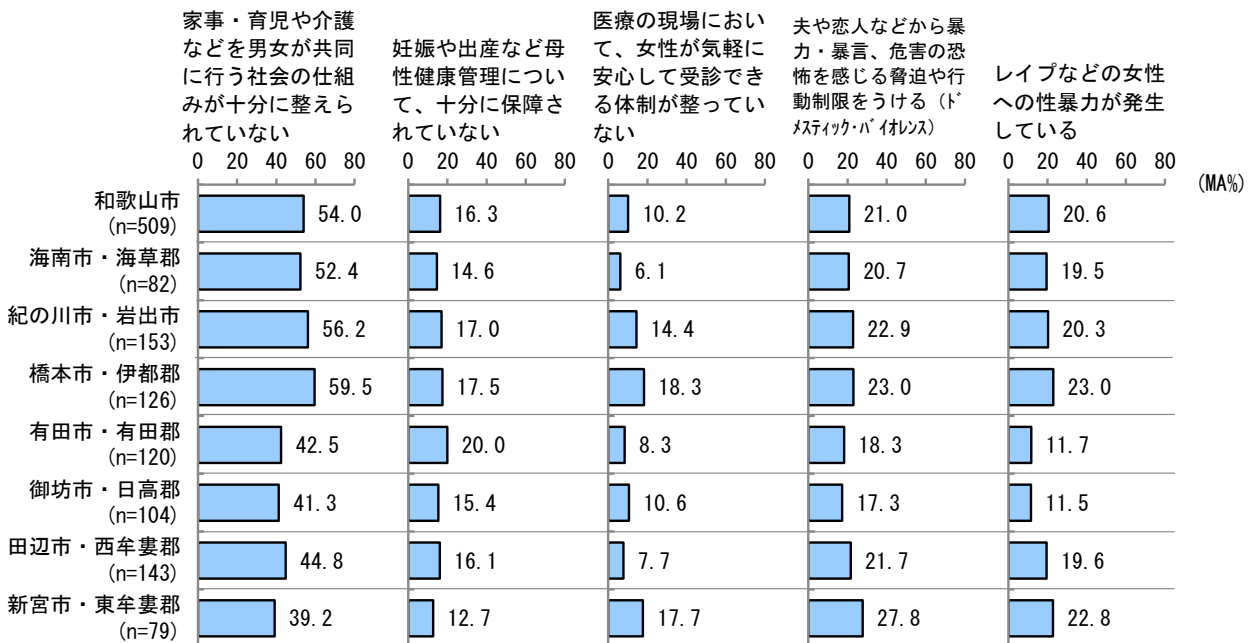
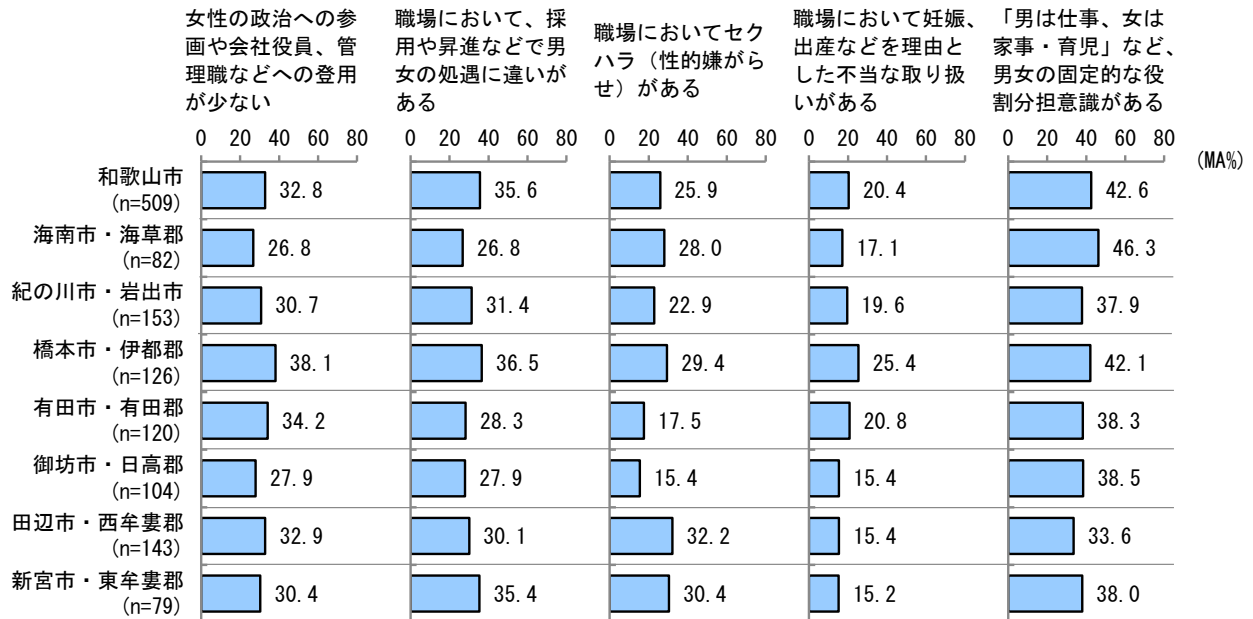


【職業別②】

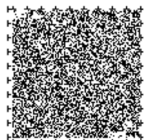
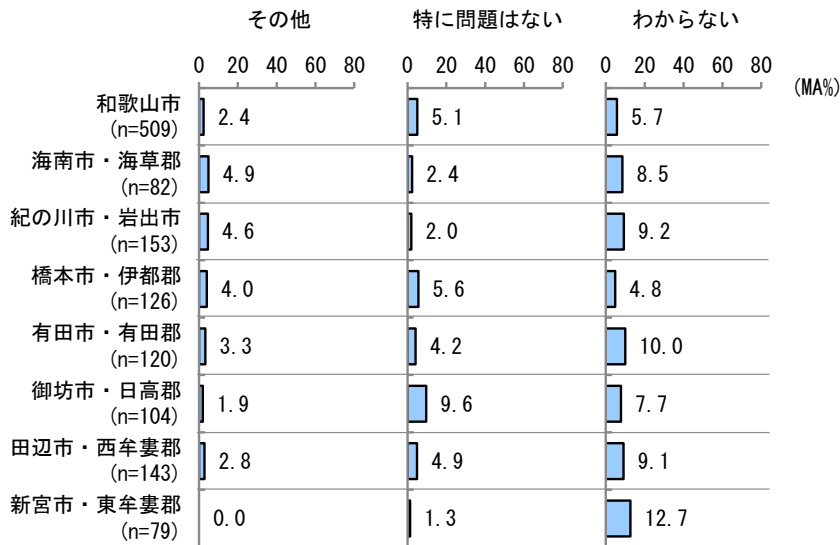
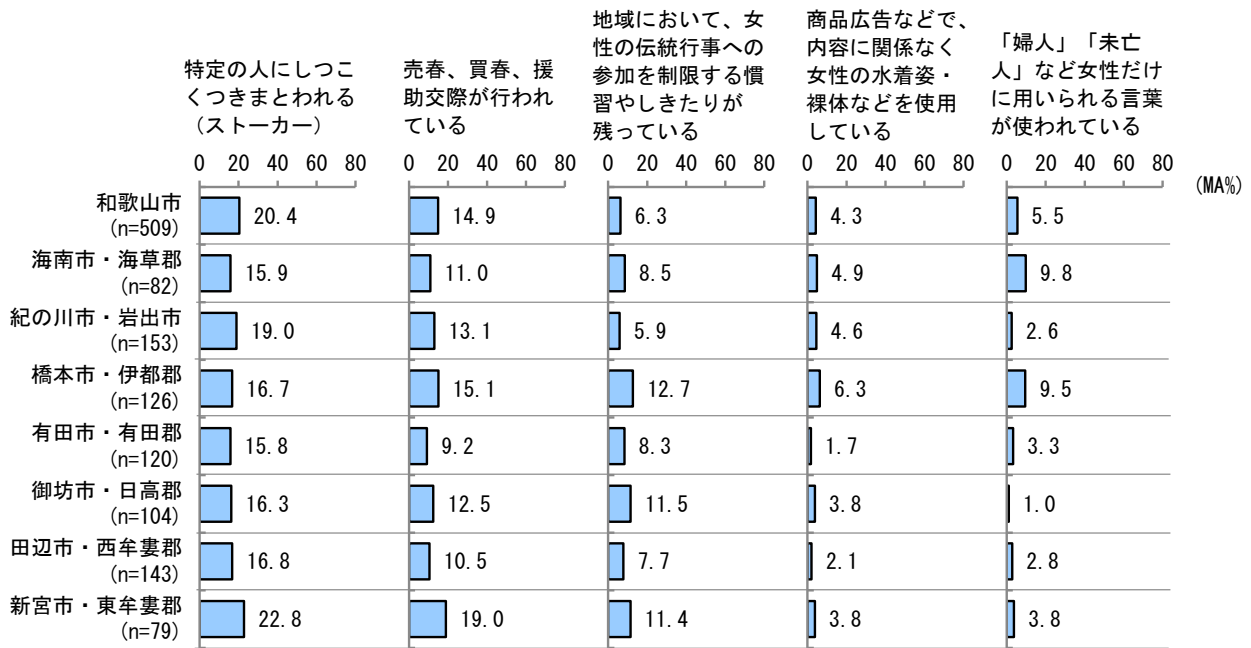


## 【居住地域別①】

居住地域別でみると、すべての地域で「家事・育児や介護などを男女が共同に行う社会の仕組みが十分に整えられていない」の割合が最も高くなっています。



【居住地域別②】

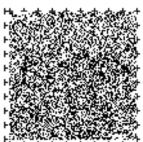
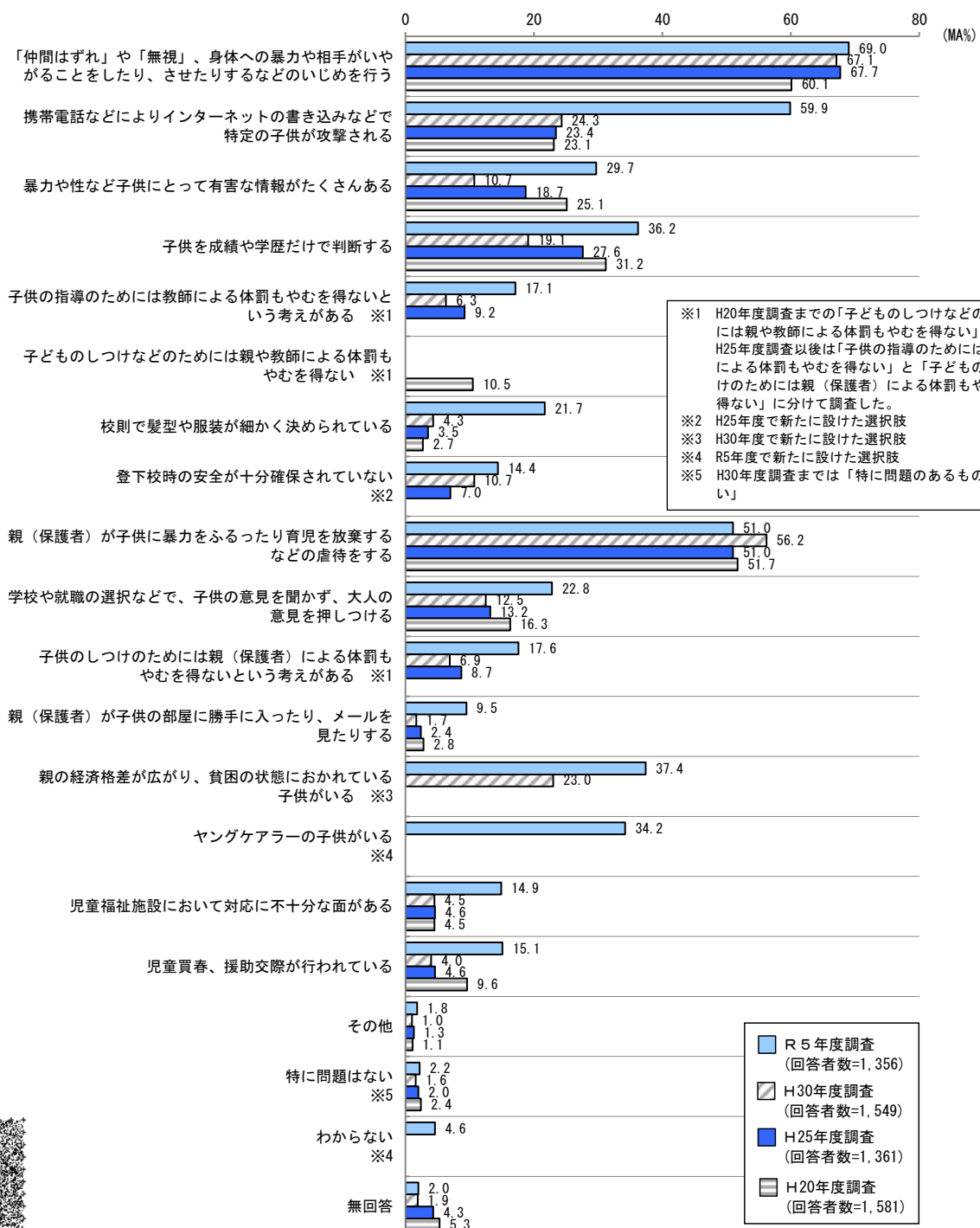


## 6. 子供に関する事柄で、問題だと思ふこと

問8 子供に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思ひますか（〇はいくつでも）

「仲間はずれ」や「無視」、身体への暴力や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行う」の割合が69.0%で最も多く、次いで「携帯電話などによりインターネットの書き込みなどで特定の子供が攻撃される」が59.9%、「親（保護者）が子供に暴力をふるったり育児を放棄するなどの虐待をする」が51.0%となっています。

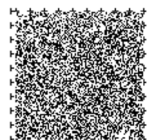
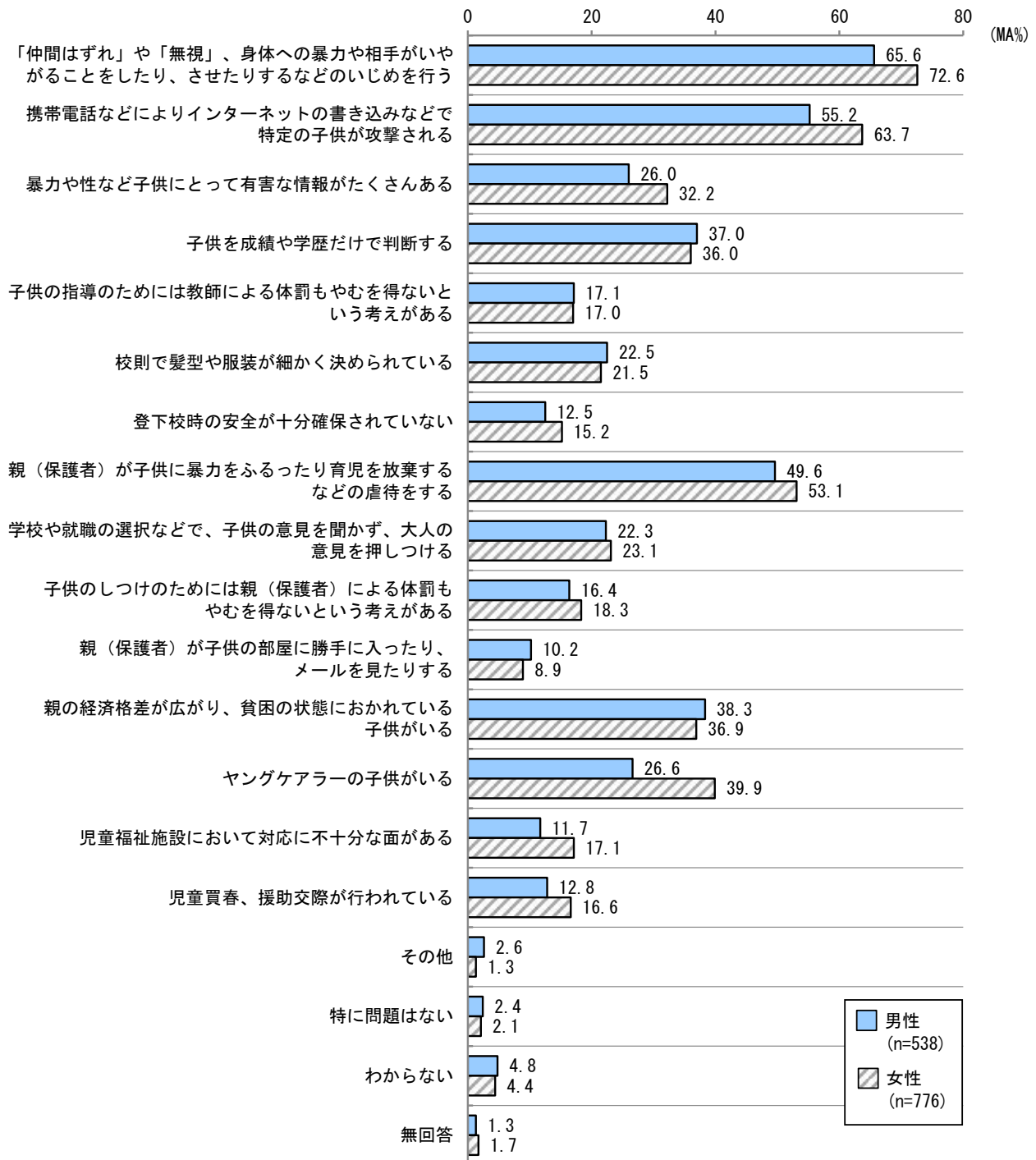
今回の調査からいくつでも選択可としていますが、平成30年度調査に比べ、「親（保護者）が子供に暴力をふるったり育児を放棄するなどの虐待をする」の割合は5.2ポイント減少し、「携帯電話などによりインターネットの書き込みなどで特定の子供が攻撃される」の割合は35.6ポイント増加しています。





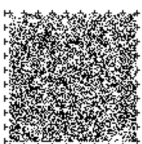
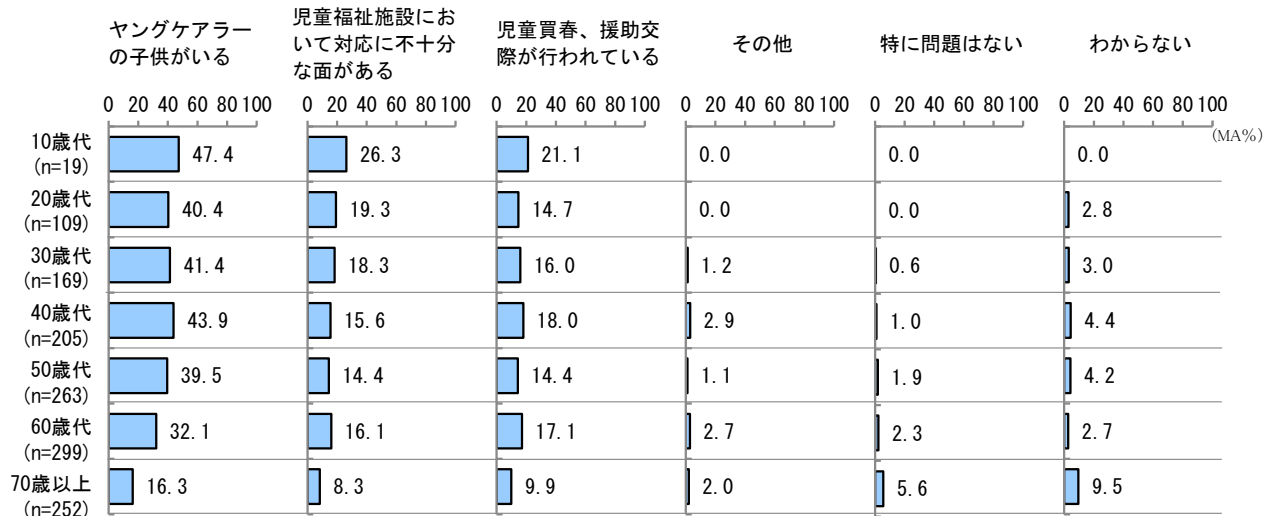
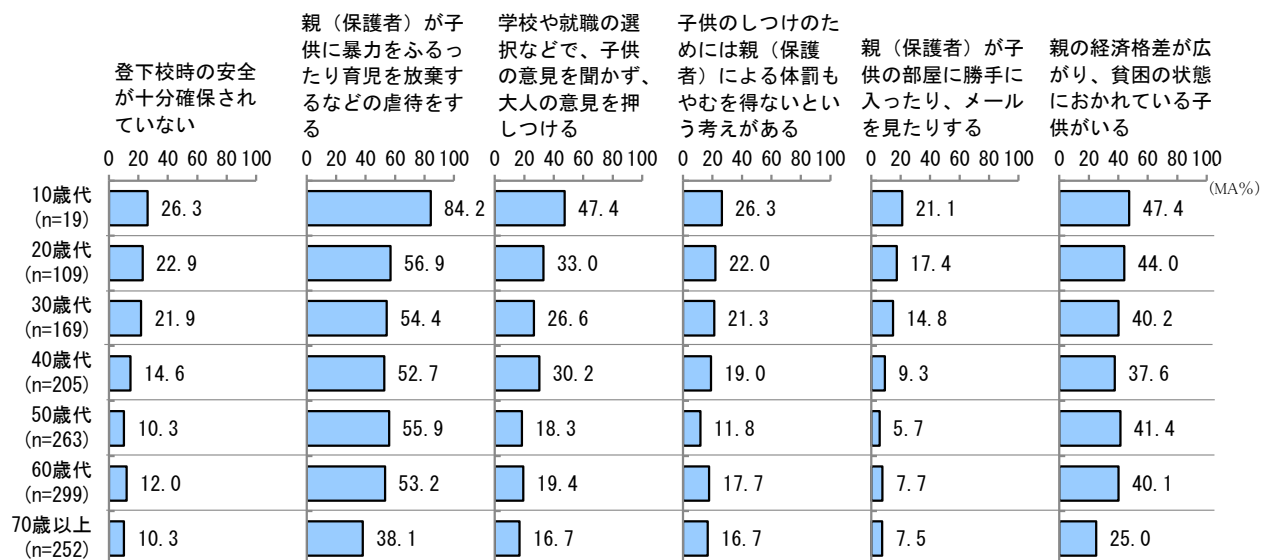
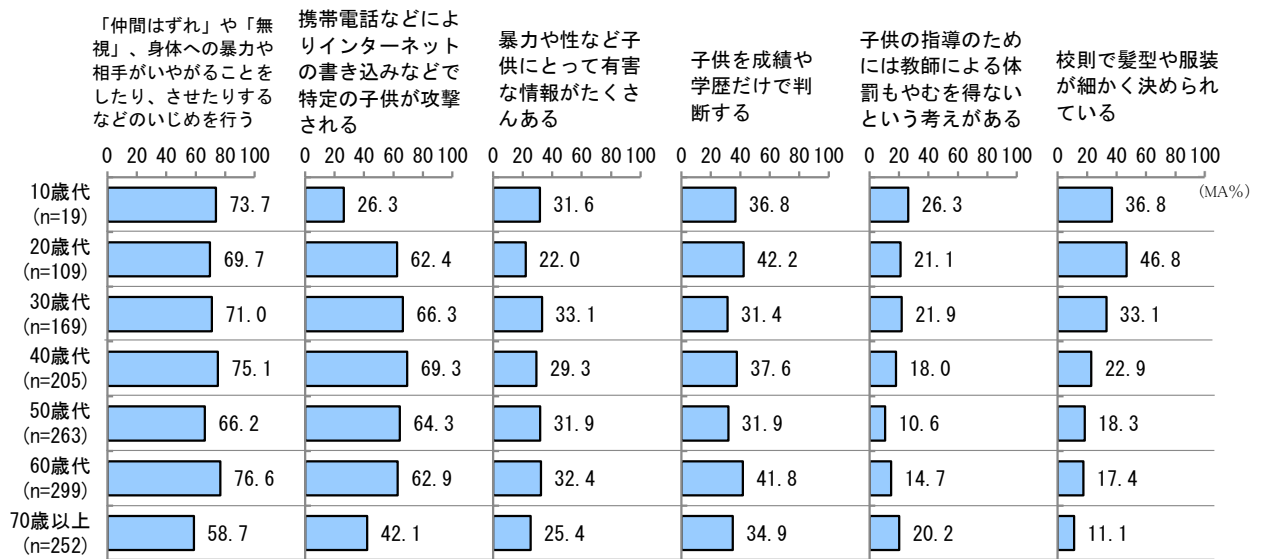
## 【性別】

性別でみると、「ヤングケアラーの子供がいる」の割合は男性(26.6%)より女性(39.9%)のほうが13.3ポイント高く、「携帯電話などによりインターネットの書き込みなどで特定の子供が攻撃される」の割合も男性(55.2%)より女性(63.7%)のほうが8.5ポイント高くなっています。



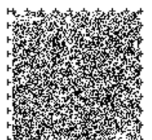
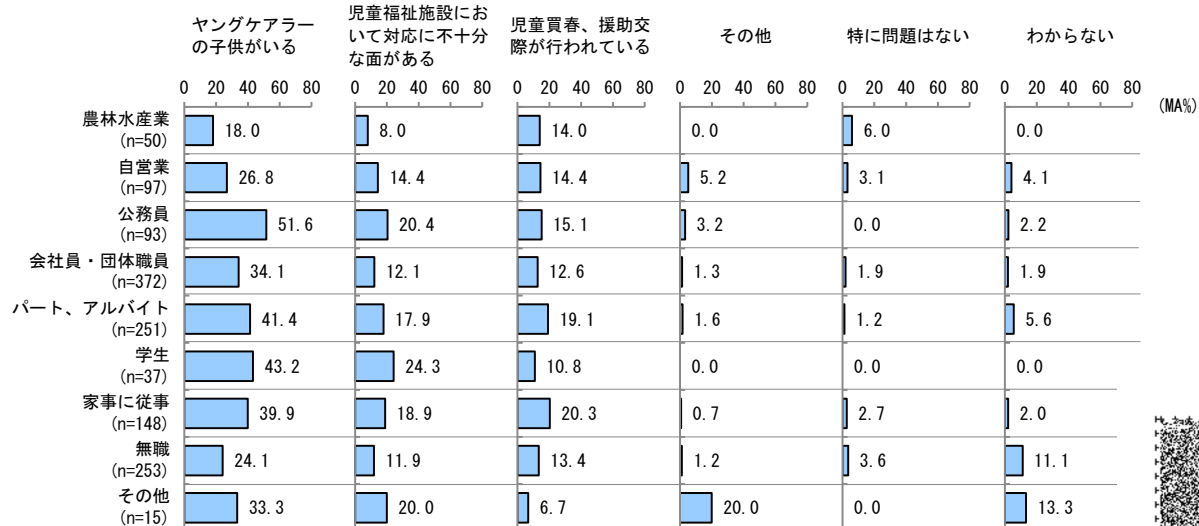
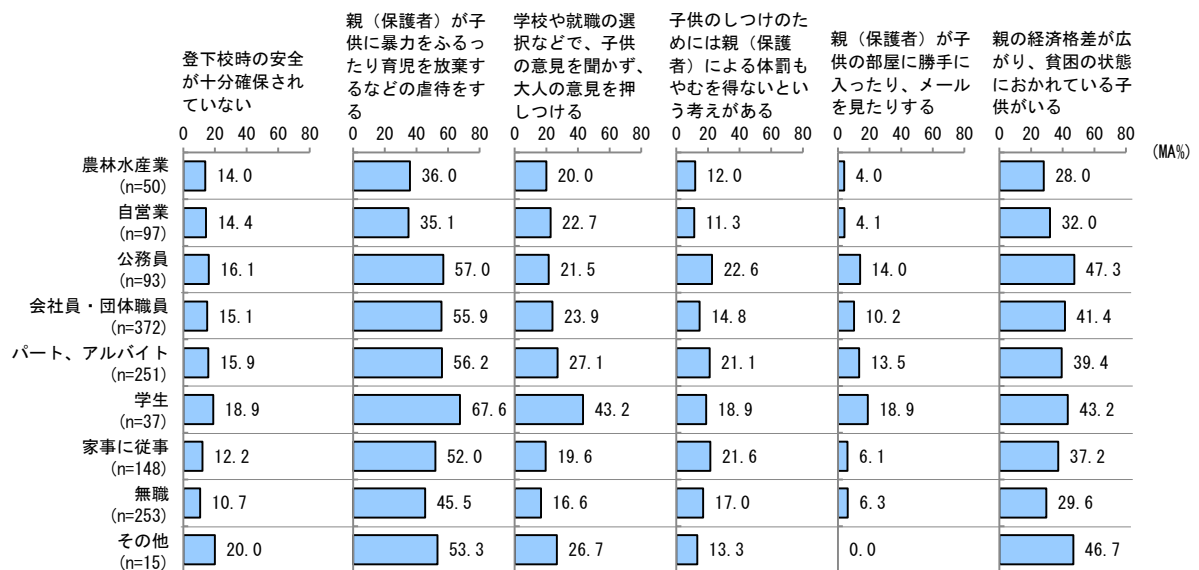
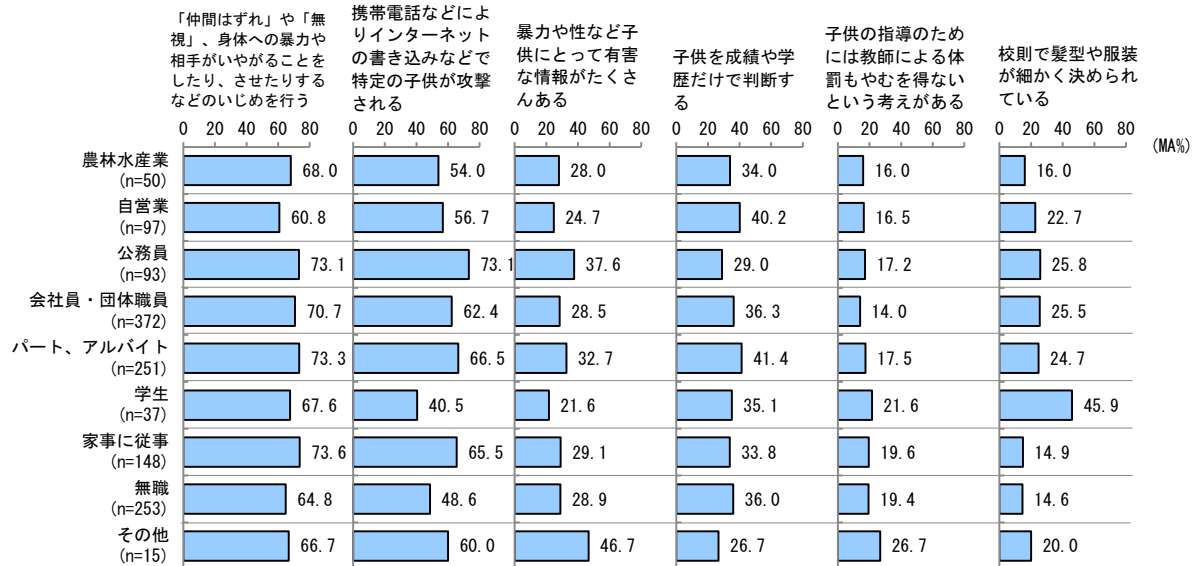
【年齢別】

年齢別でみると、いずれの年齢も「仲間はずれ」や「無視」、身体への暴力や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行う」の割合が最も多くなっています。



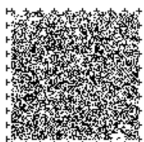
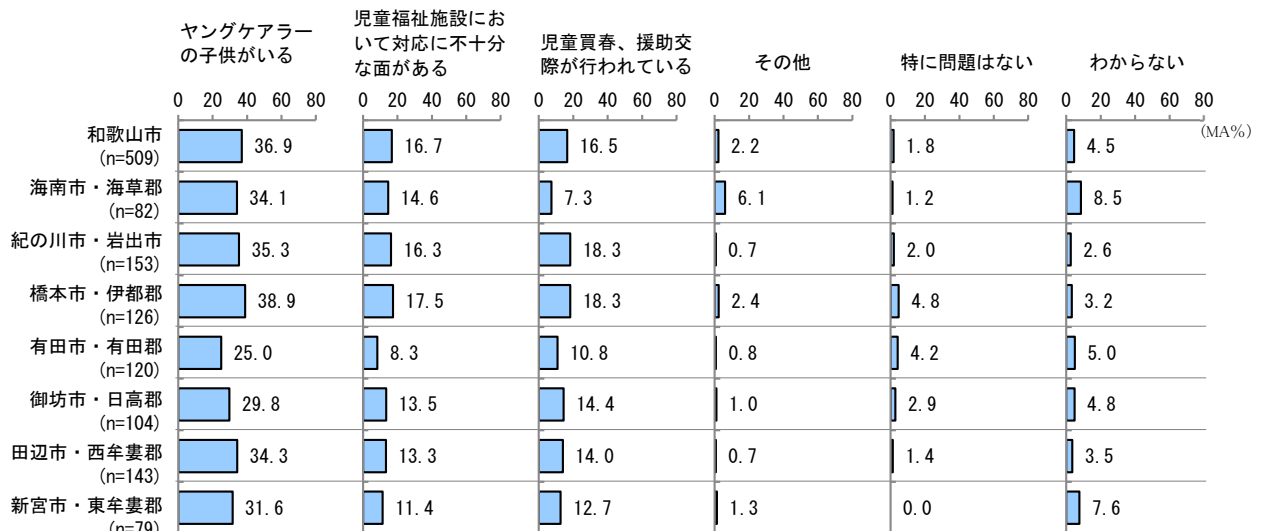
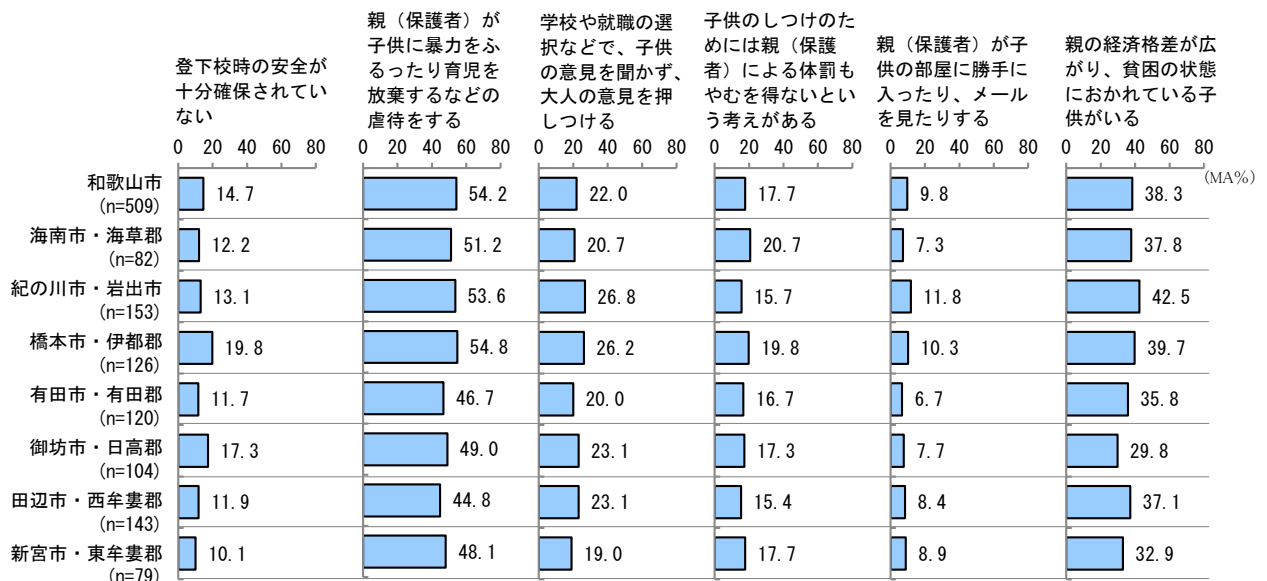
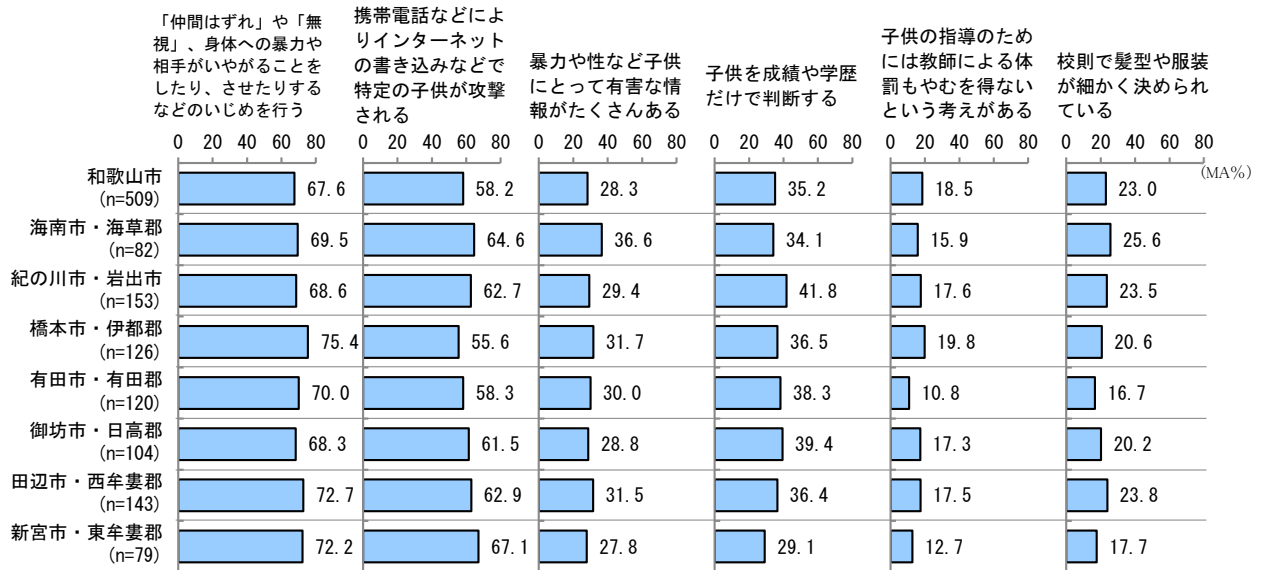
【職業別】

職業別でみると、いずれの職業も「仲間はずれ」や「無視」、身体への暴力や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行う」の割合が最も多く、また、学生は同率で「親（保護者）が子供に暴力をふるったり育児を放棄するなどの虐待をする」（67.6%）も最も多くなっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、いずれの地域も「仲間はずれ」や「無視」、身体への暴力や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行う」の割合が最も多くなっています。

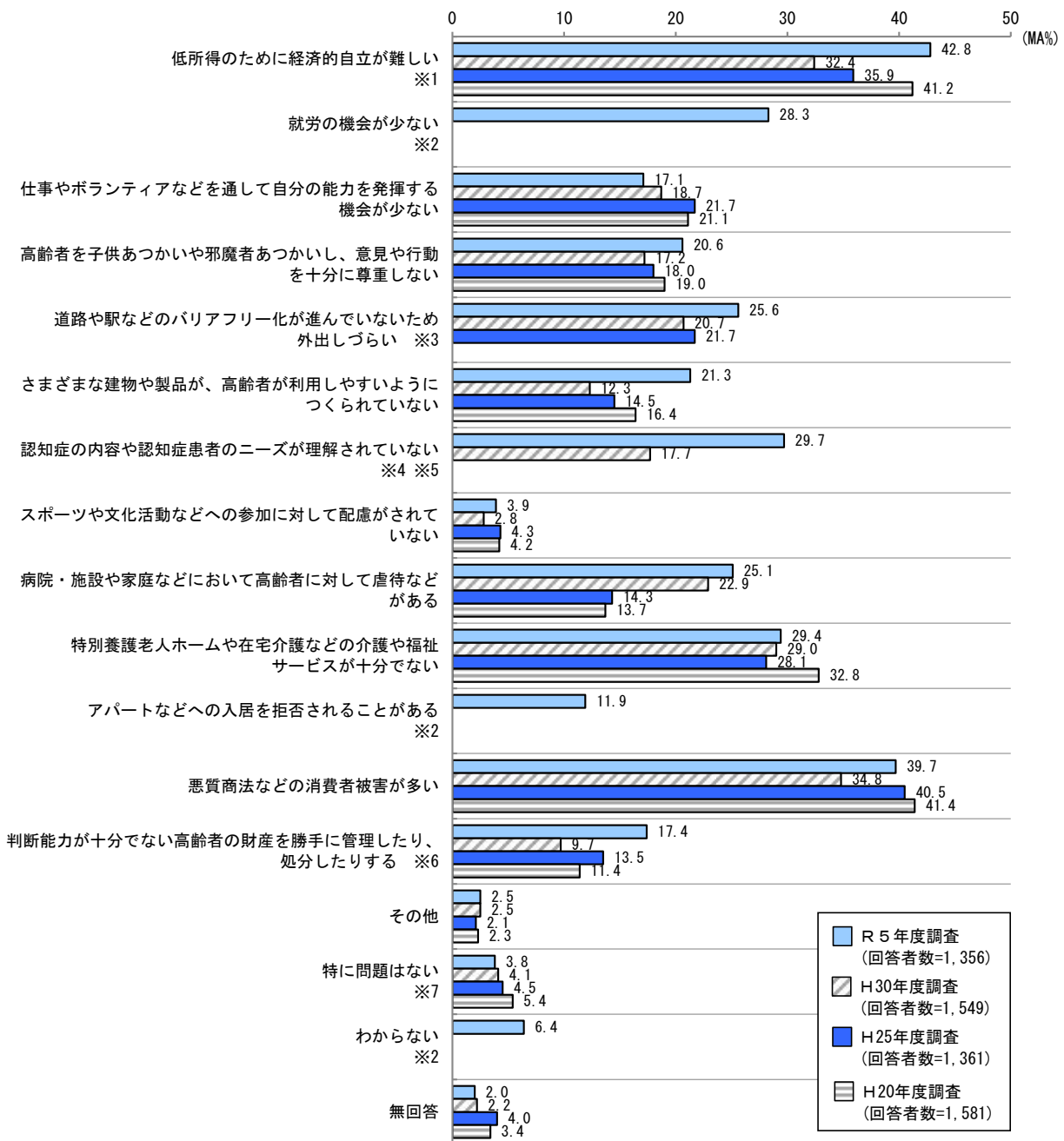


## 7. 高齢者に関する事柄で、問題だと思うこと

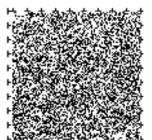
問9 高齢者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか（〇はいくつでも）

「低所得のために経済的自立が難しい」の割合が42.8%で最も多く、次いで「悪質商法などの消費者被害が多い」が39.7%、「認知症の内容や認知症患者のニーズが理解されていない」が29.7%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「認知症の内容や認知症患者のニーズが理解されていない」の割合が12.0ポイント、「低所得のために経済的自立が難しい」の割合が10.4ポイント、それぞれ増加しています。

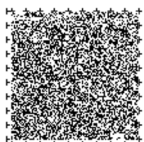
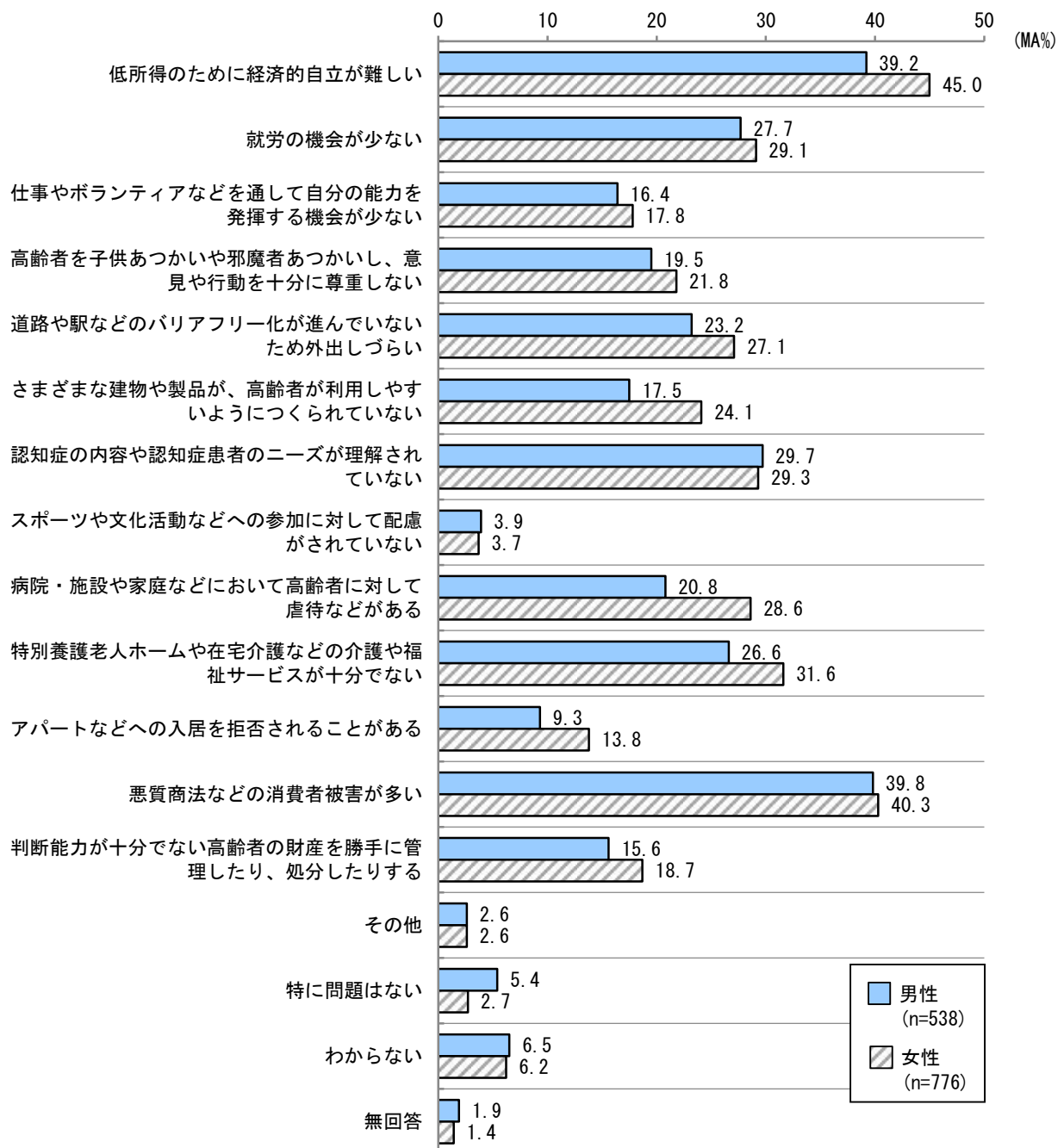


- ※1 H30年度調査までは「仕事に就く機会が少ないために経済的な自立が難しい」
- ※2 R5年度調査で新たに設けた選択肢
- ※3 H25年度調査で新たに設けた選択肢
- ※4 H30年度調査で新たに設けた選択肢
- ※5 H30年度調査までは「認知症の原因や症状を理解せずに認知症高齢者の視点やニーズを重視しない対応をしている」
- ※6 H30年度調査までは「判断能力が十分でない高齢者に、財産管理など生活をめぐる権利侵害がある」
- ※7 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」



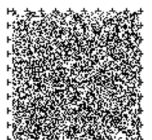
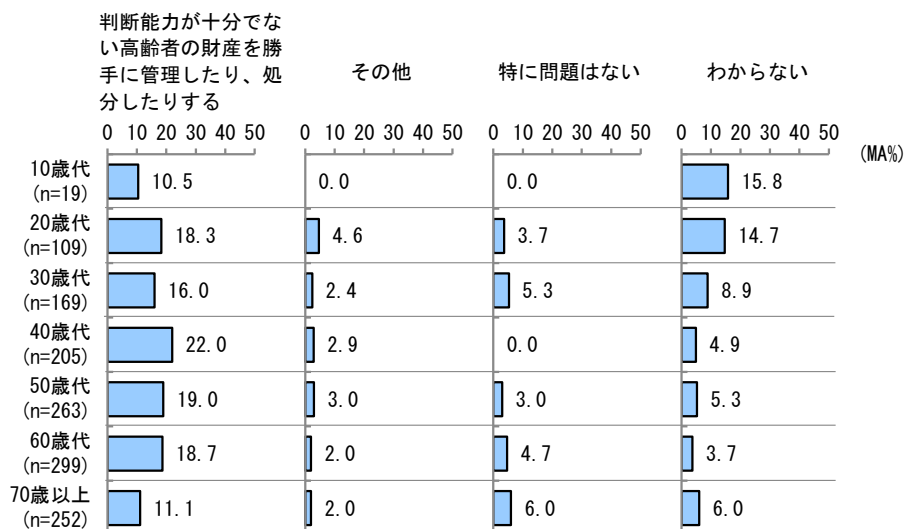
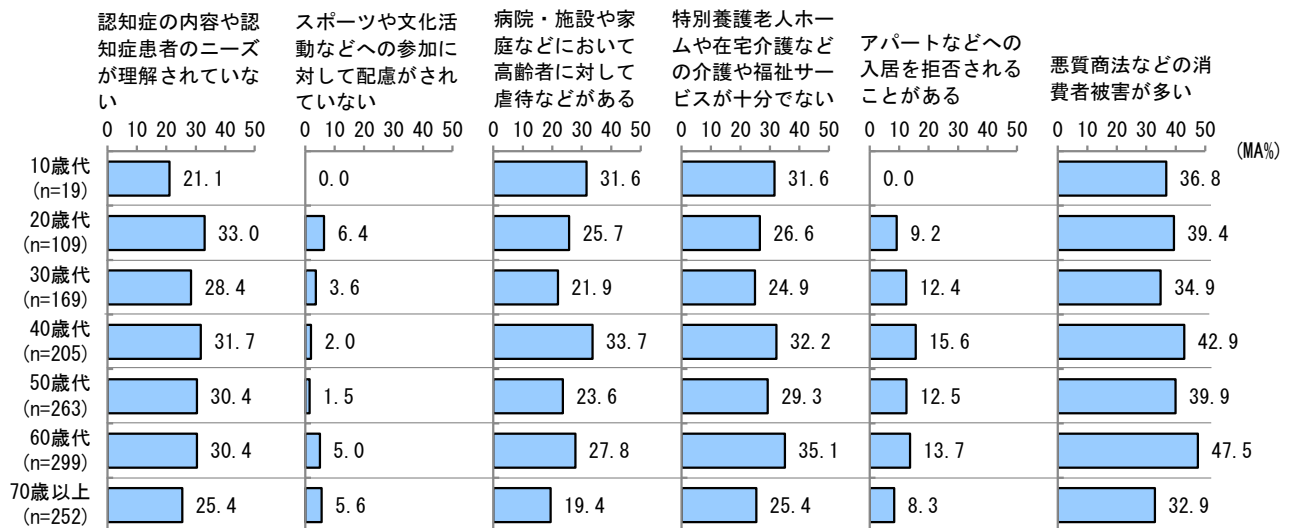
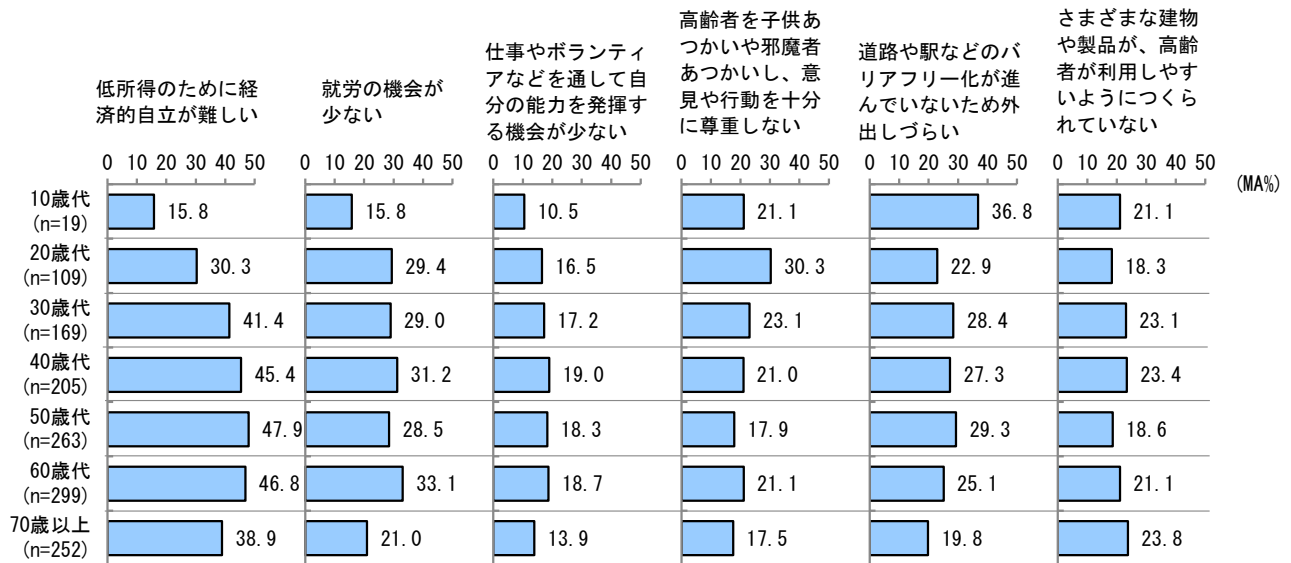
## 【性別】

性別で見ると、男性は「悪質商法などの消費者被害が多い」の割合が39.8%で最も多く、女性では「低所得のために経済的自立が難しい」の割合が45.0%で最も高くなっています。



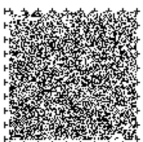
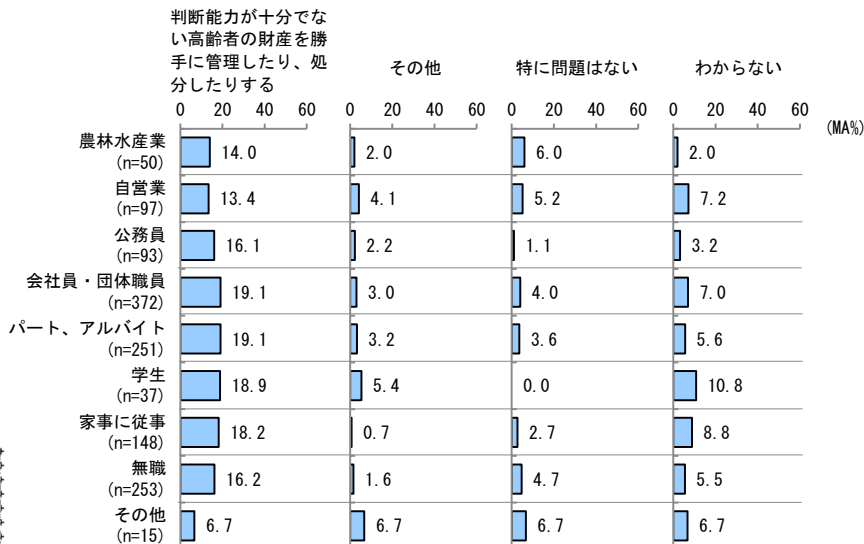
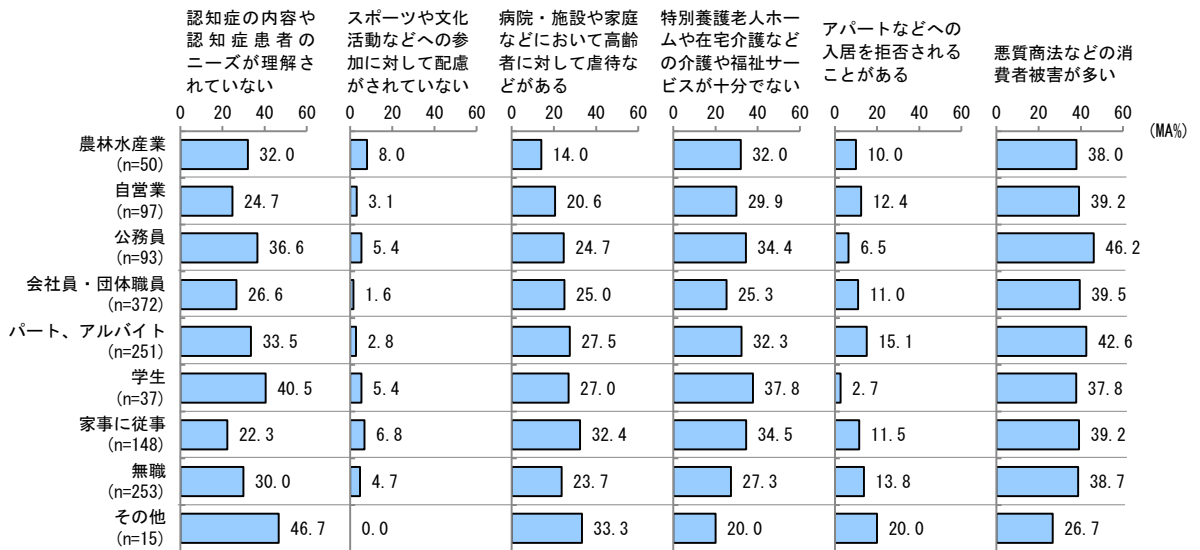
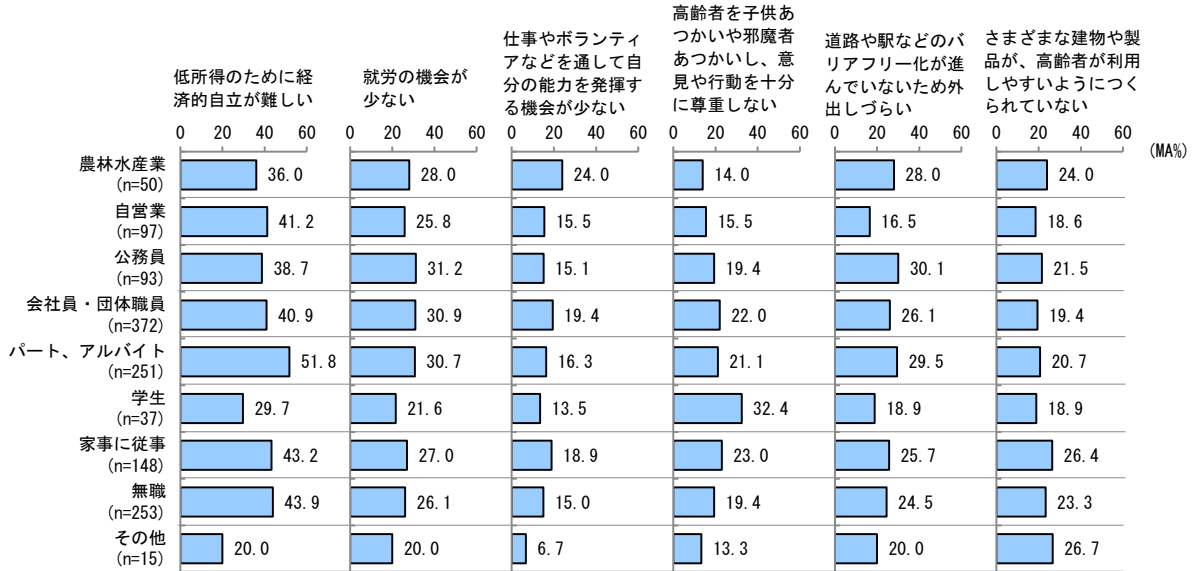
## 【年齢別】

年齢別でみると、30歳代～50歳代及び70歳以上の年代では「低所得のために経済的自立が難しい」の割合が最も多く、20歳代と60歳代では「悪質商法などの消費者被害が多い」の割合が最も多くなっています。



【職業別】

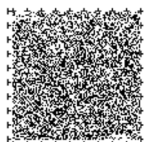
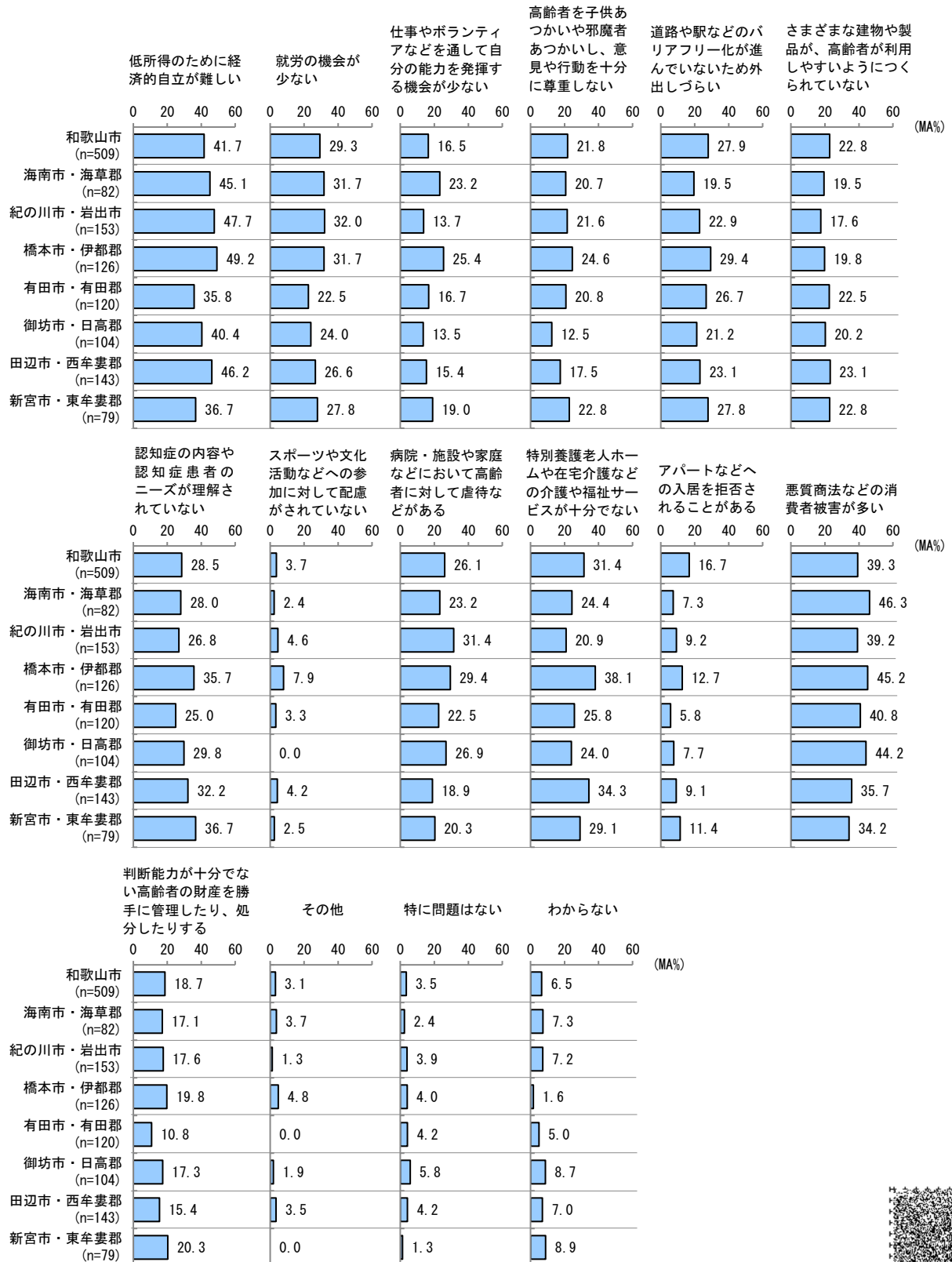
職業別でみると、農林水産業と公務員では「悪質商法などの消費者被害が多い」、学生では「認知症の内容や認知症患者のニーズが理解されていない」がそれぞれ最も多くなっています。





## 【居住地域別】

居住地域別でみると、和歌山市、紀の川市・岩出市、橋本市・伊都郡、田辺市・西牟婁郡では「低所得のために経済的自立が難しい」の割合が最も多く、海南市・海草郡、有田市・有田郡、御坊市・日高郡では「悪質商法などの消費者被害が多い」の割合が最も多くなっています。また、新宮市・東牟婁郡では「低所得のために経済的自立が難しい」と「認知症の内容や認知症患者のニーズが理解されていない」の割合が同率で最も多くなっています。

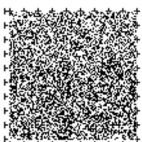
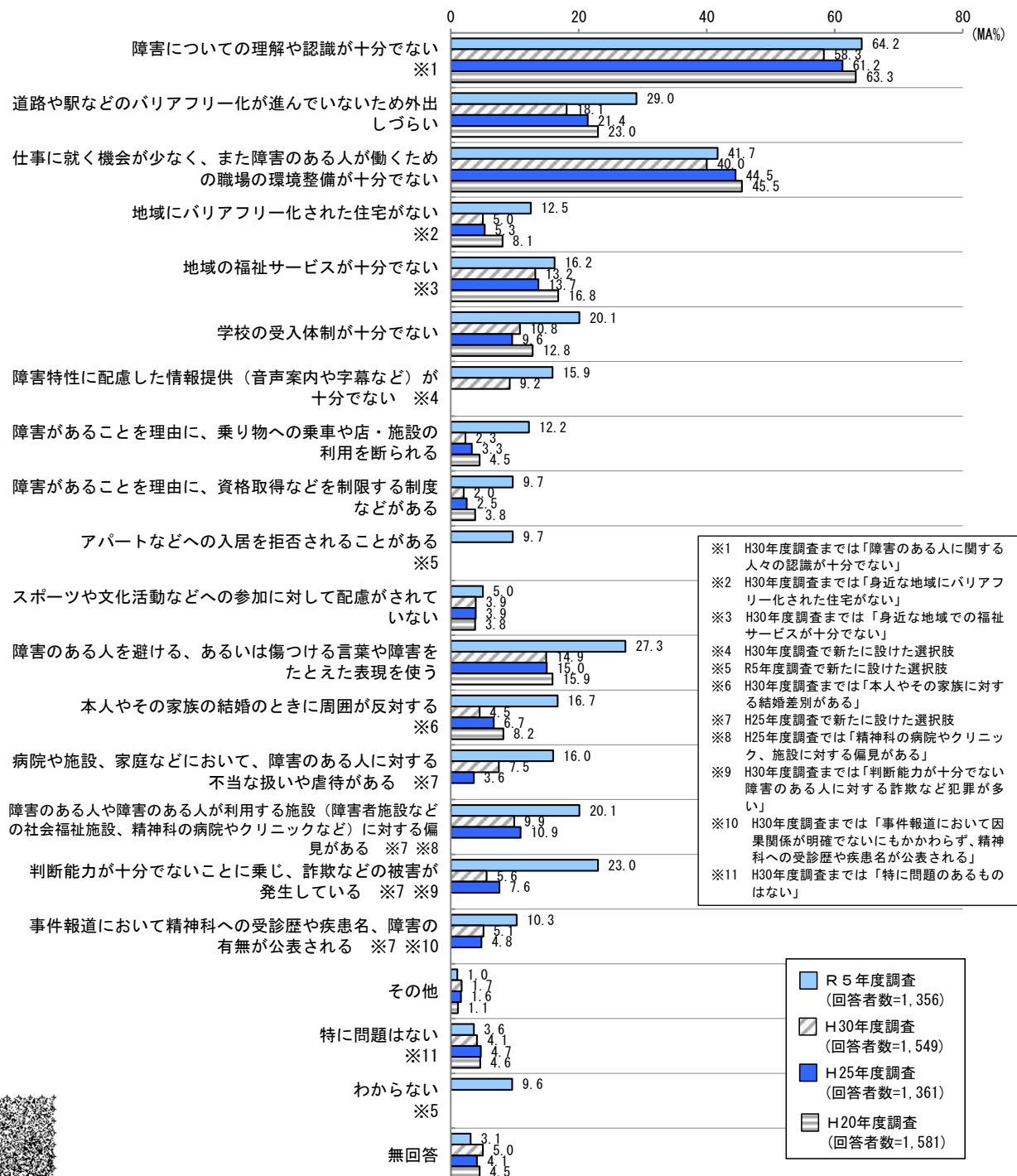


## 8. 障害のある人に関する事柄で、問題だと思うこと

問10 障害（身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害など）のある人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか（〇はいくつでも）

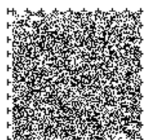
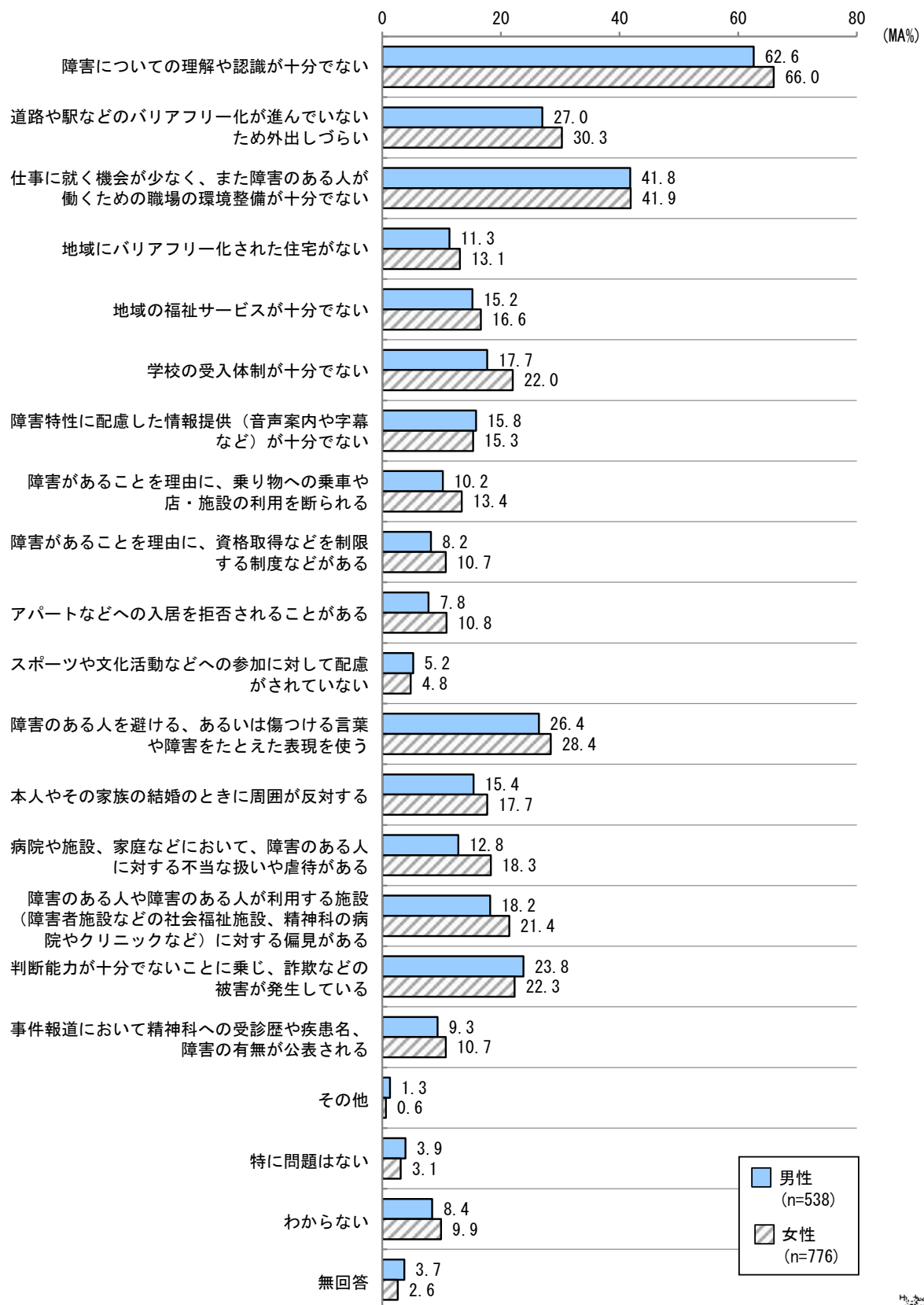
「障害についての理解や認識が十分でない」の割合が64.2%で最も多く、次いで「仕事に就く機会が少なく、また障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でない」が41.7%、「道路や駅などのバリアフリー化が進んでいないため外出しづらい」が29.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「判断能力が十分でないこと」に乘じ、詐欺などの被害が発生している」（23.0%）の割合が17.4ポイント、「障害のある人を避ける、あるいは傷つける言葉や障害をたとえた表現を使う」（27.3%）の割合が12.4ポイント、それぞれ増加しています。



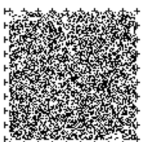
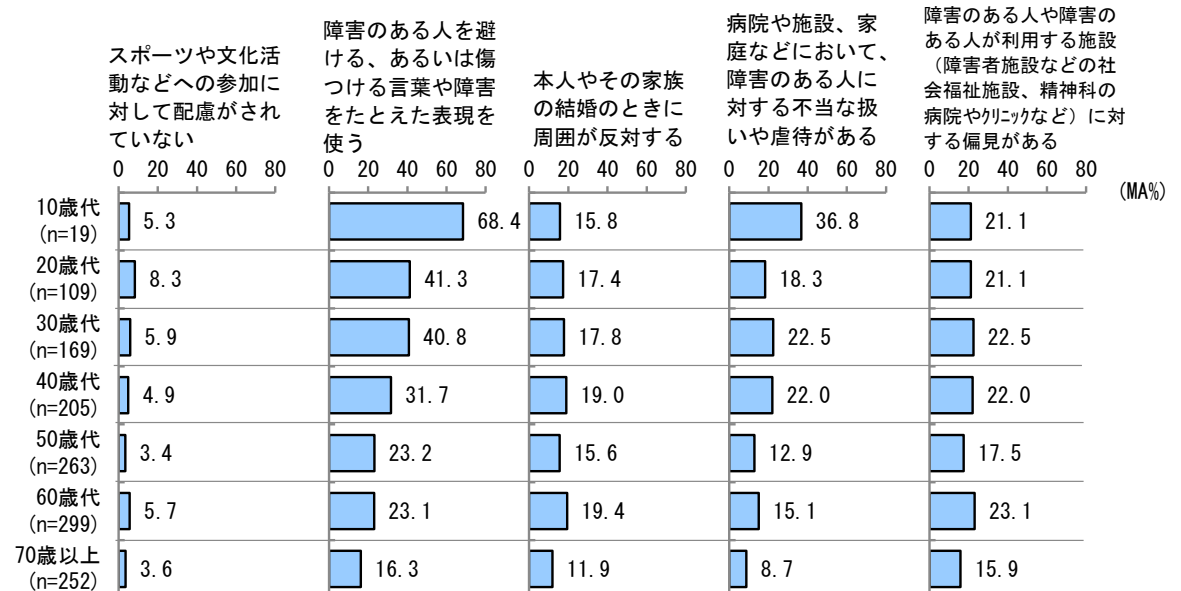
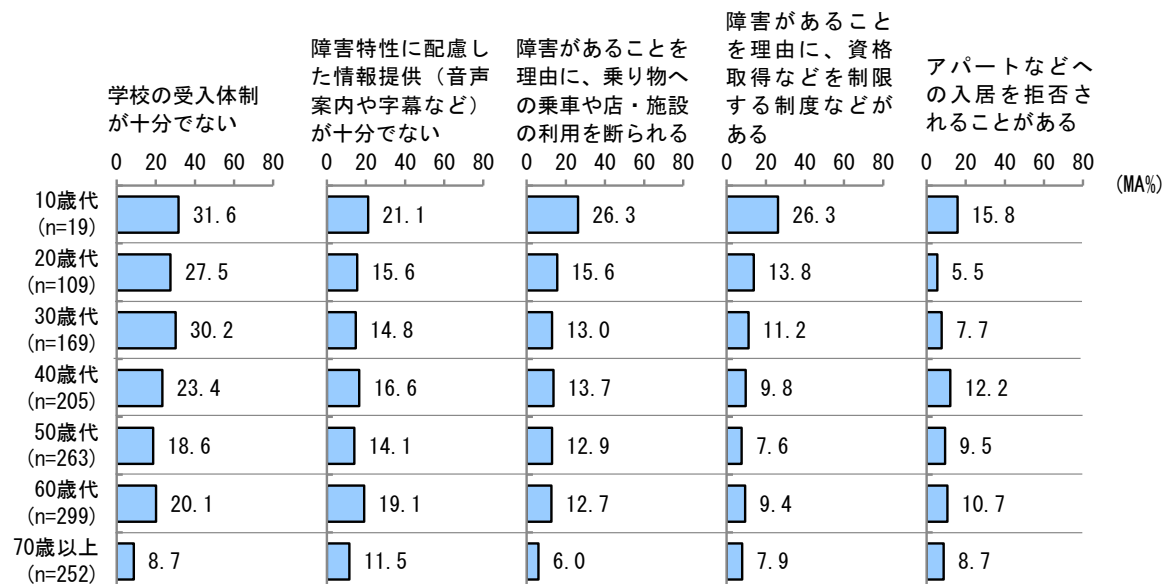
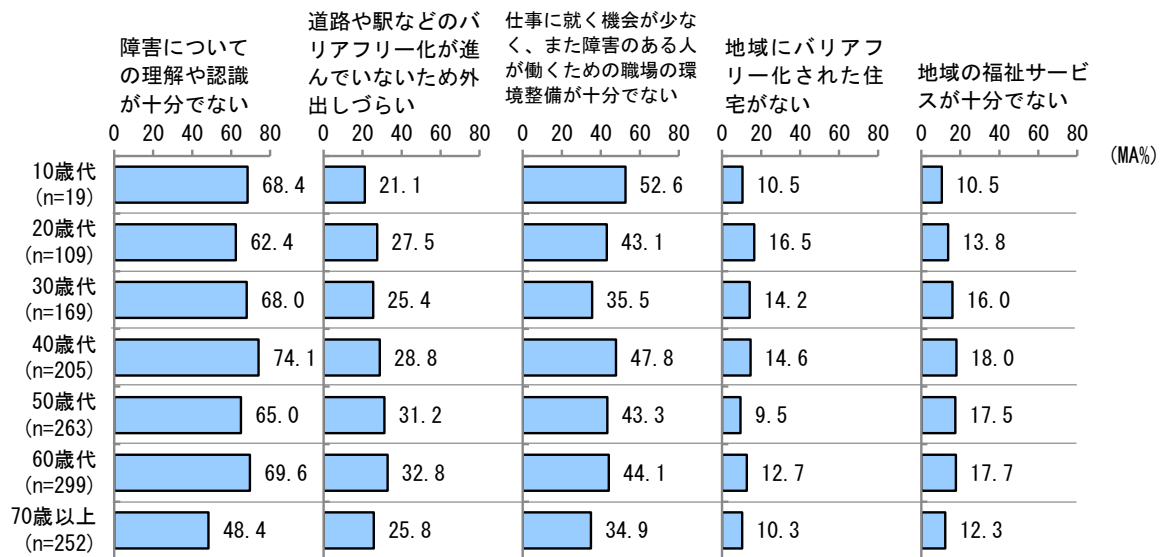
## 【性別】

性別で見ると、男女とも「障害についての理解や認識が十分でない」の割合が最も多く、男性（62.6%）より女性（66.0%）のほうが3.4ポイント高くなっています。

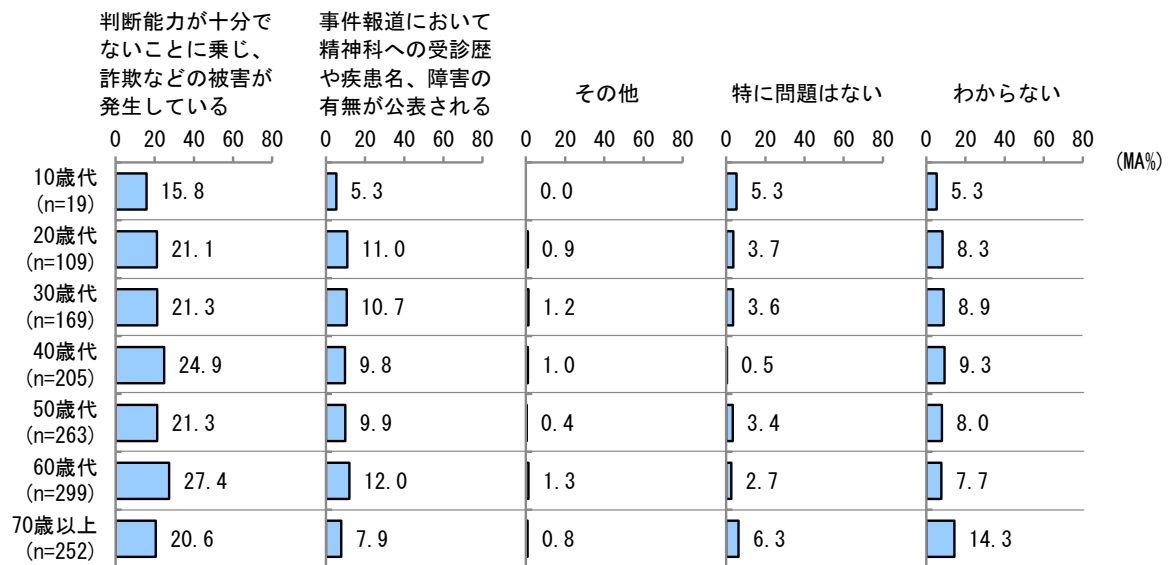


## 【年齢別①】

年齢別で見ると、いずれの年齢も「障害についての理解や認識が十分でない」の割合が最も多くなっています。

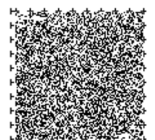
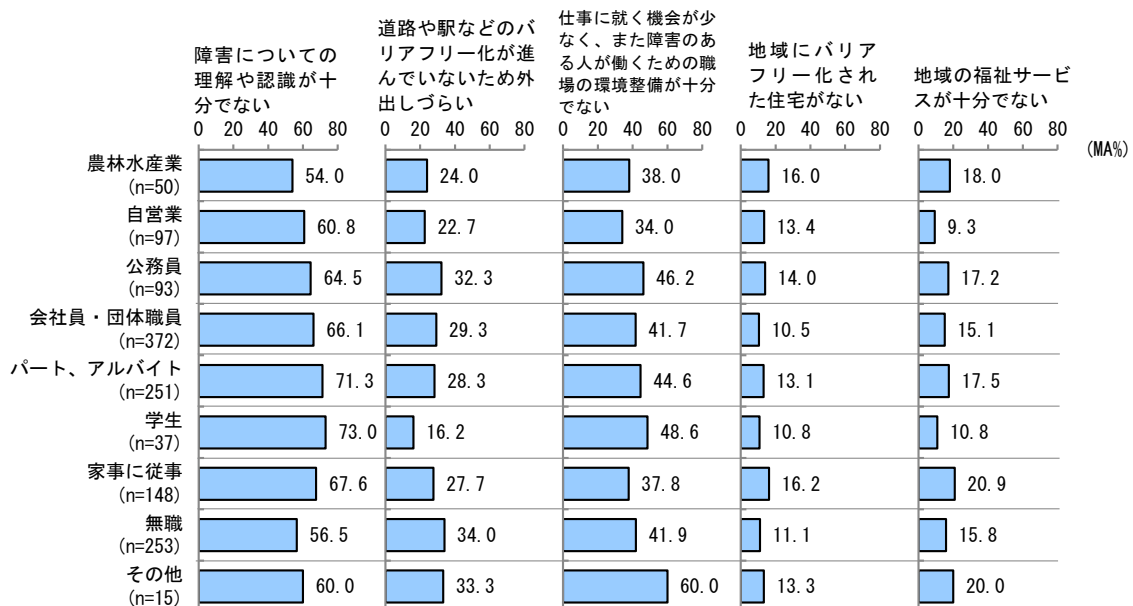


## 【年齢別②】

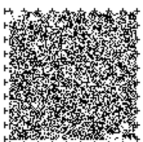
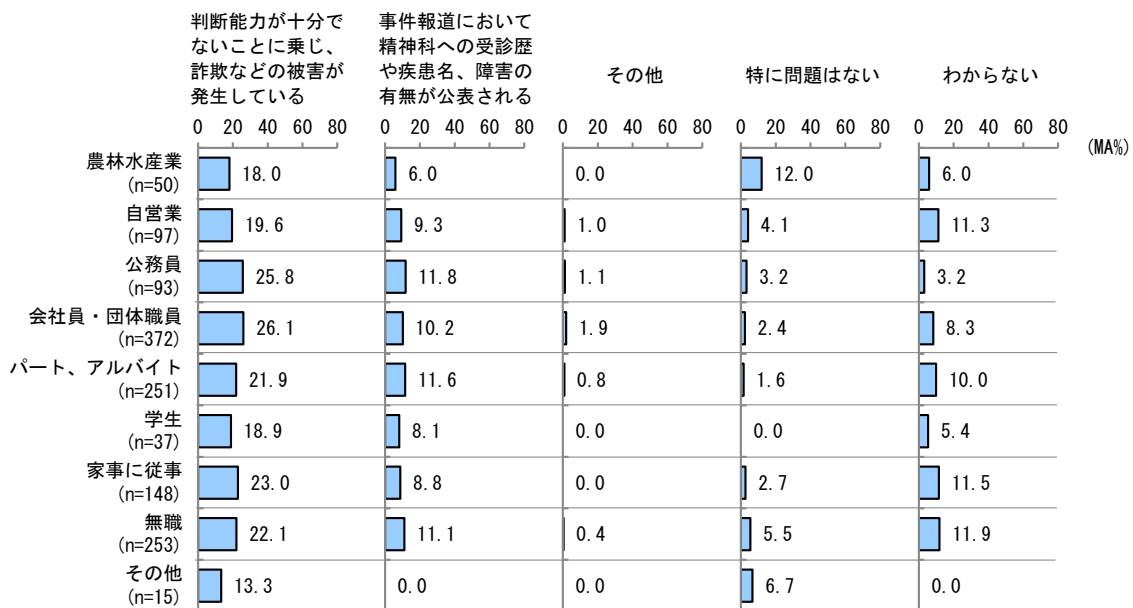
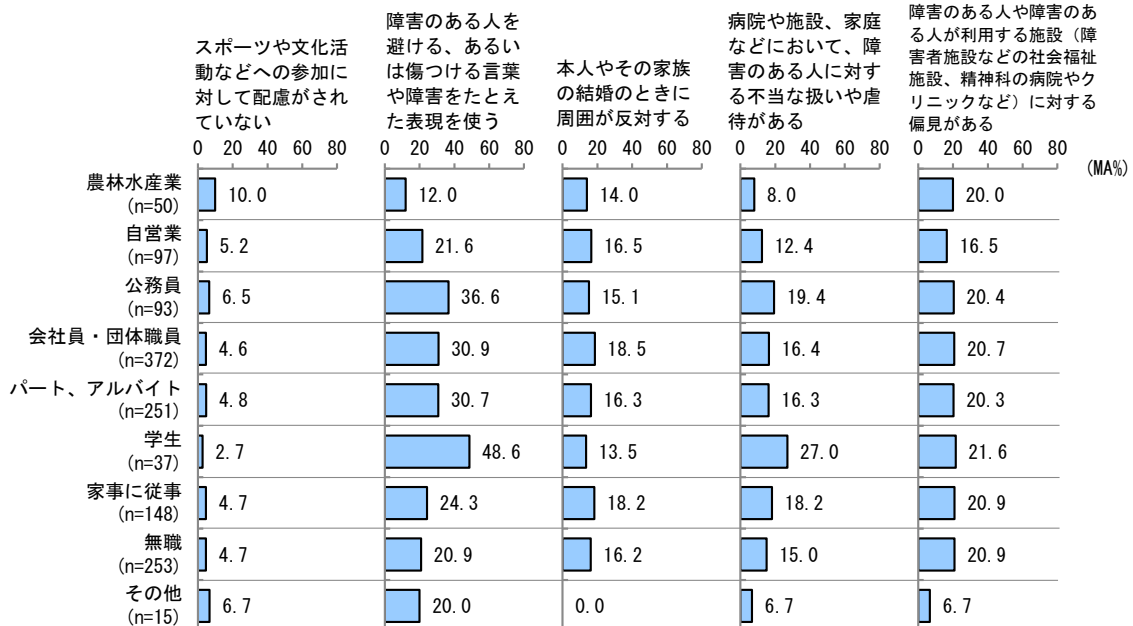
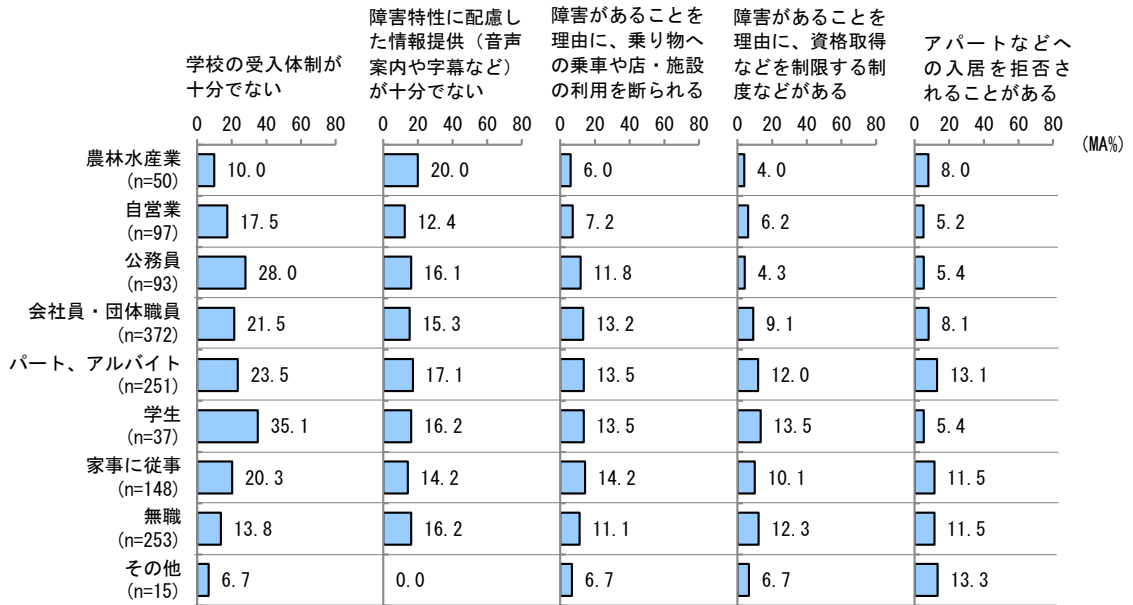


## 【職業別①】

職業別でみると、いずれの職業も「障害についての理解や認識が十分でない」の割合が最も多くなっています。

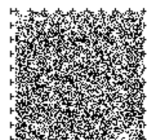
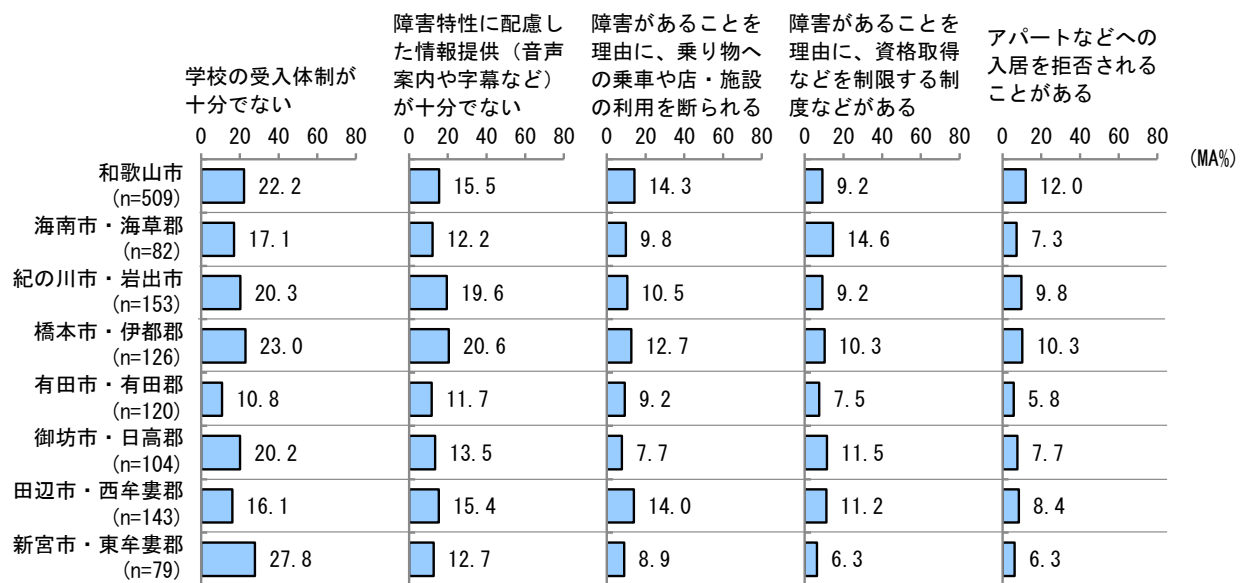
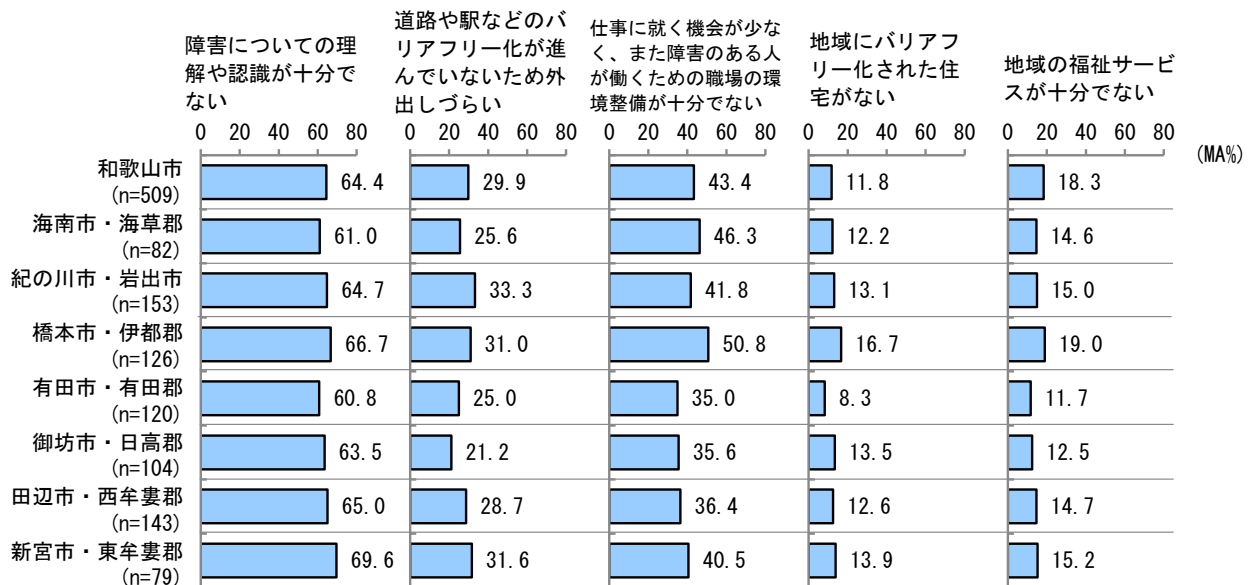


【職業別②】

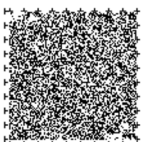
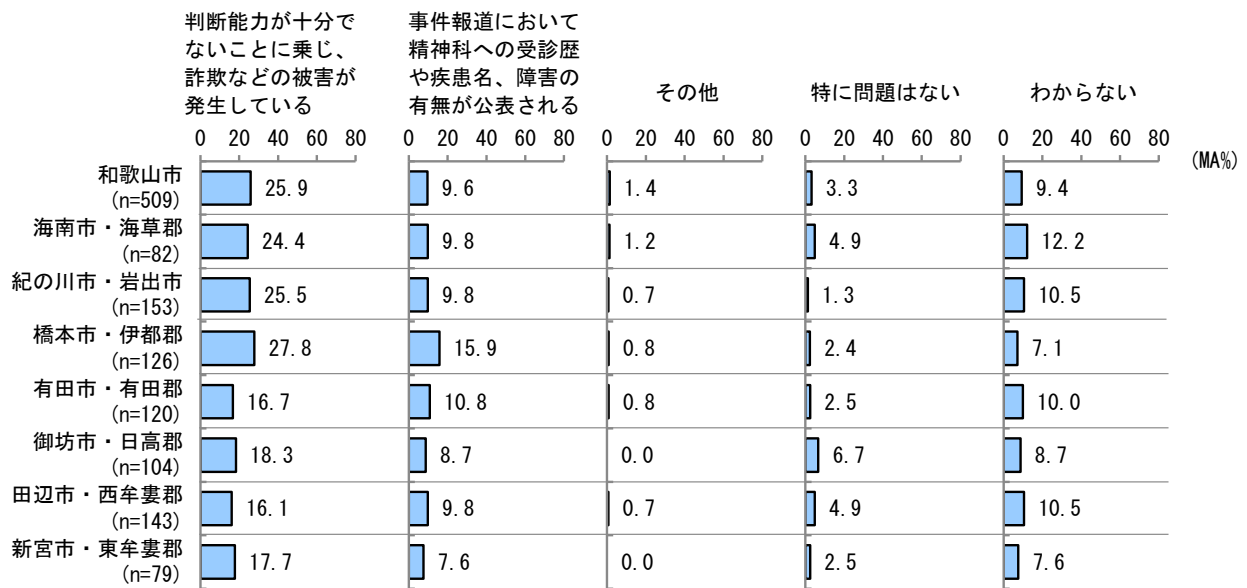
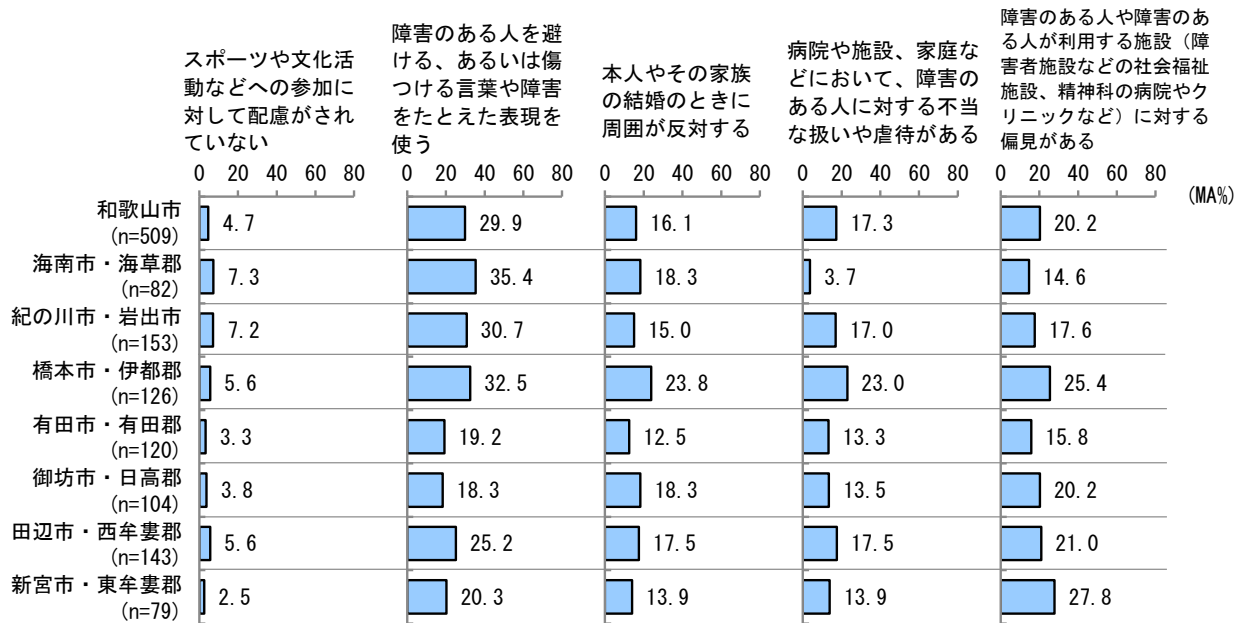


## 【居住地域別①】

居住地域別でみると、いずれの地域も「障害についての理解や認識が十分でない」の割合が最も多く、新宮市・東牟婁郡が69.6%で最も高い割合となっています。



【居住地域別②】



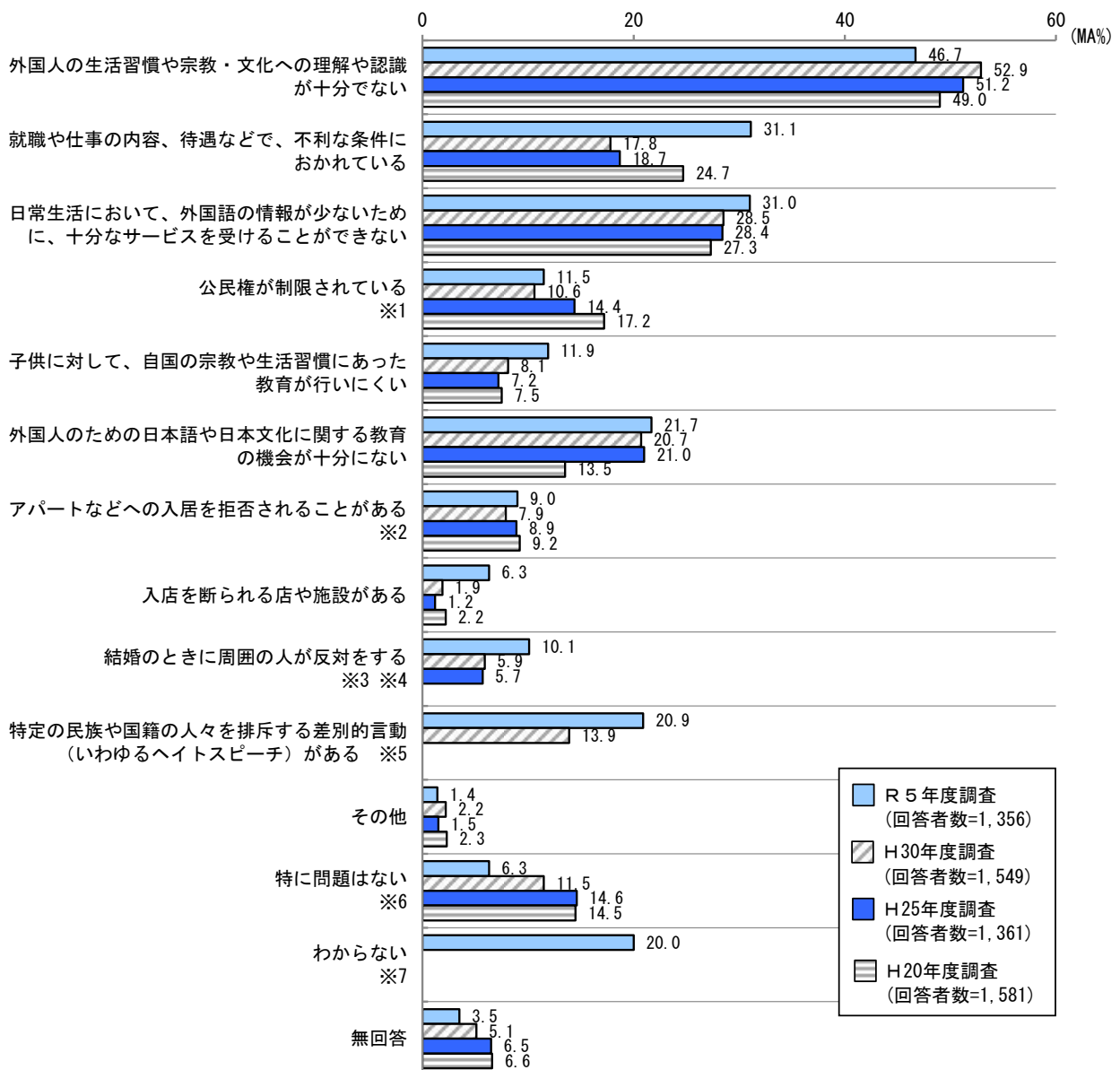


## 9. 外国人に関する事柄で、問題だと思うこと

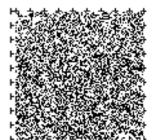
問11 日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか（〇はいくつでも）

「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」の割合が46.7%で最も多く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれている」が31.1%、「日常生活において、外国語の情報が少ないために、十分なサービスを受けることができない」が31.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としていますが、平成30年度調査と同様、傾向として、「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」が最も多く、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれている」の割合が13.3ポイント増加しています。

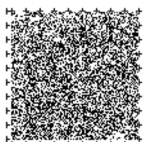
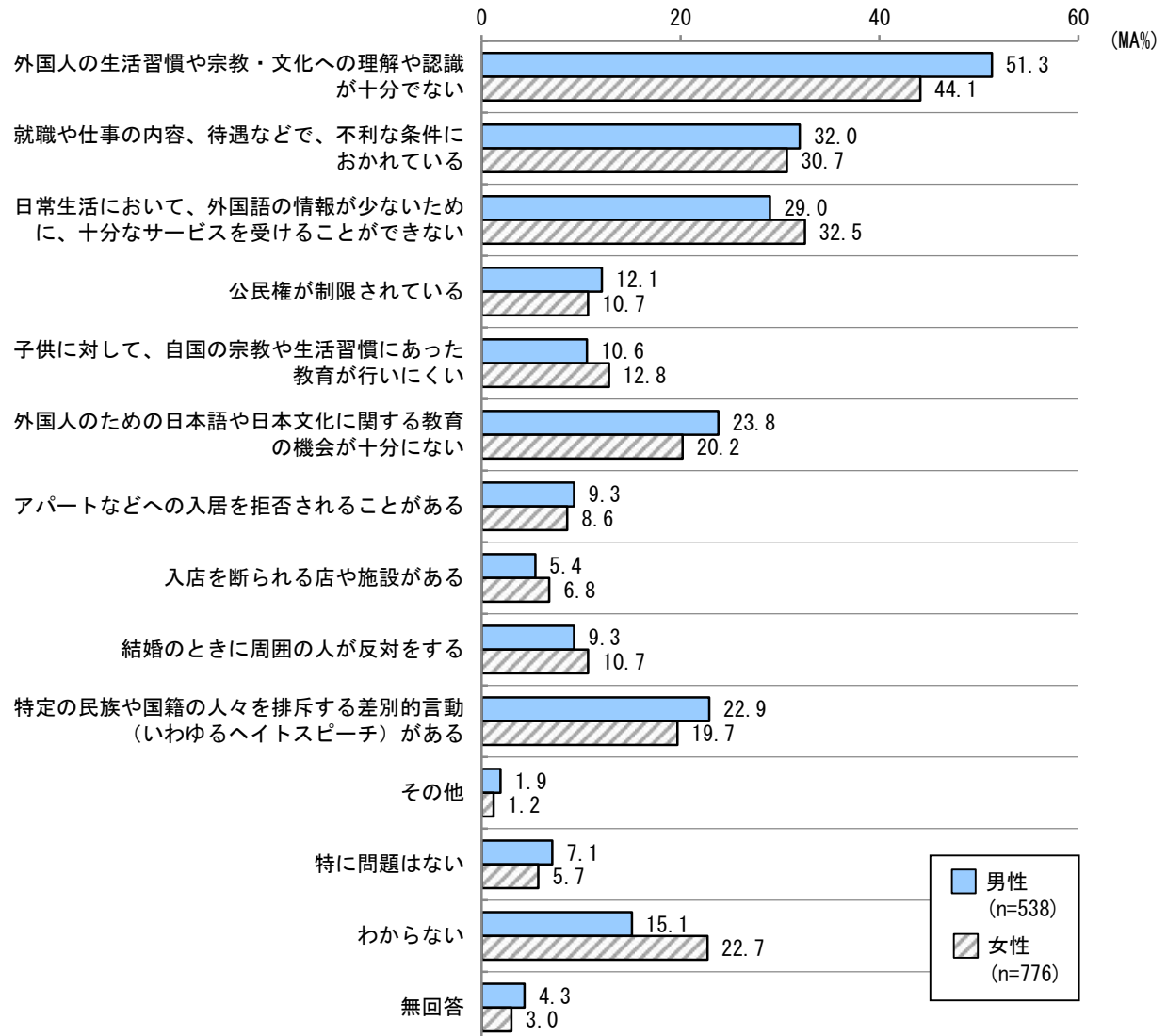


- ※1 H30年度調査までは「選挙権がないなど権利が制限されている」
- ※2 H30年度調査までは「偏見などがあり住宅を容易に借りることができない」
- ※3 H30年度調査までは「結婚問題で周囲から反対を受ける」
- ※4 H25年度調査で新たに設けた選択肢
- ※5 H30年度調査で新たに設けた選択肢
- ※6 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」
- ※7 R5年度調査で新たに設けた選択肢



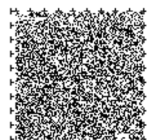
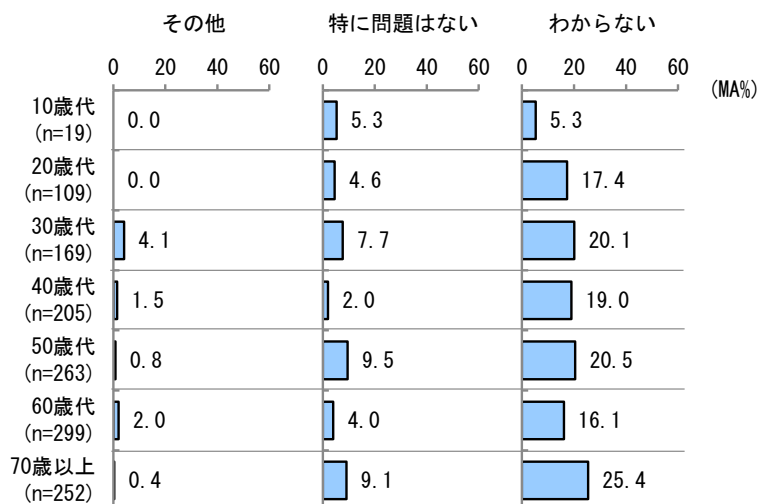
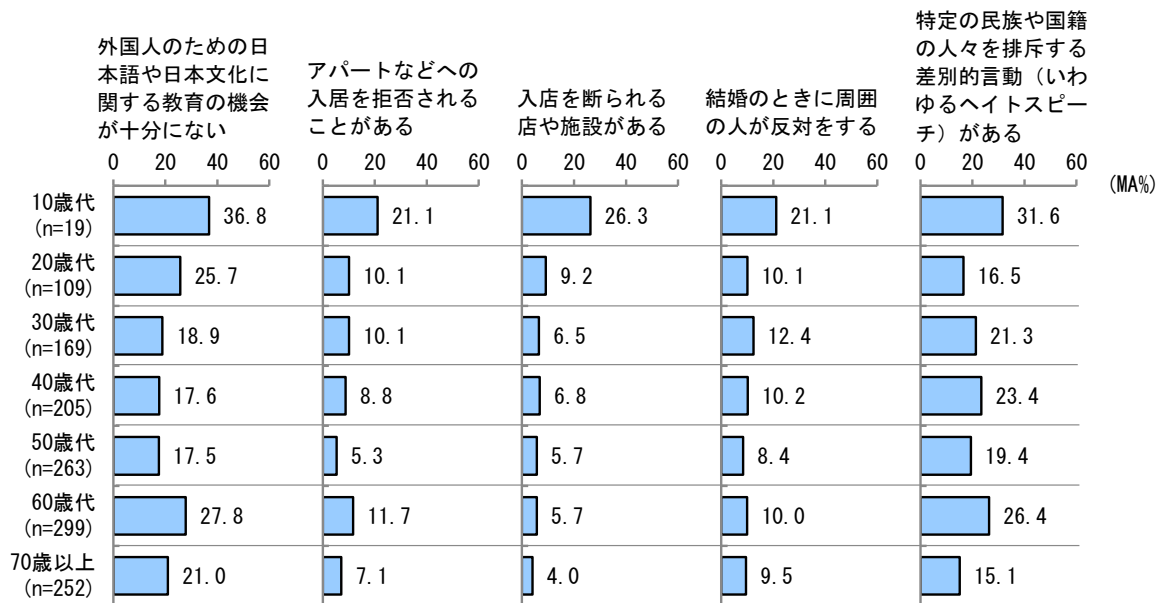
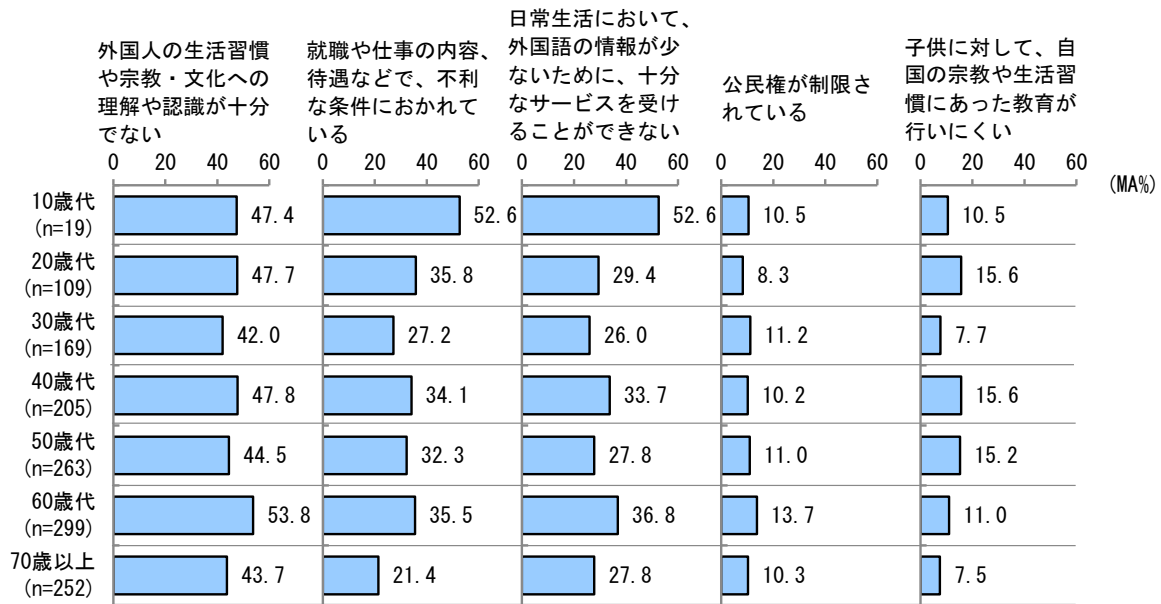
## 【性別】

性別で見ると、男性、女性とも「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」の割合が最も多く、女性（44.1%）より男性（51.3%）のほうが7.2ポイント高くなっています。



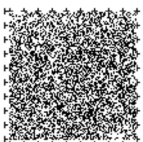
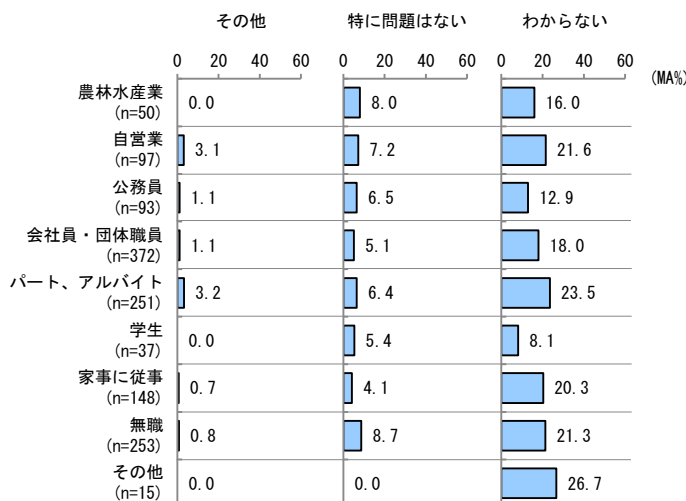
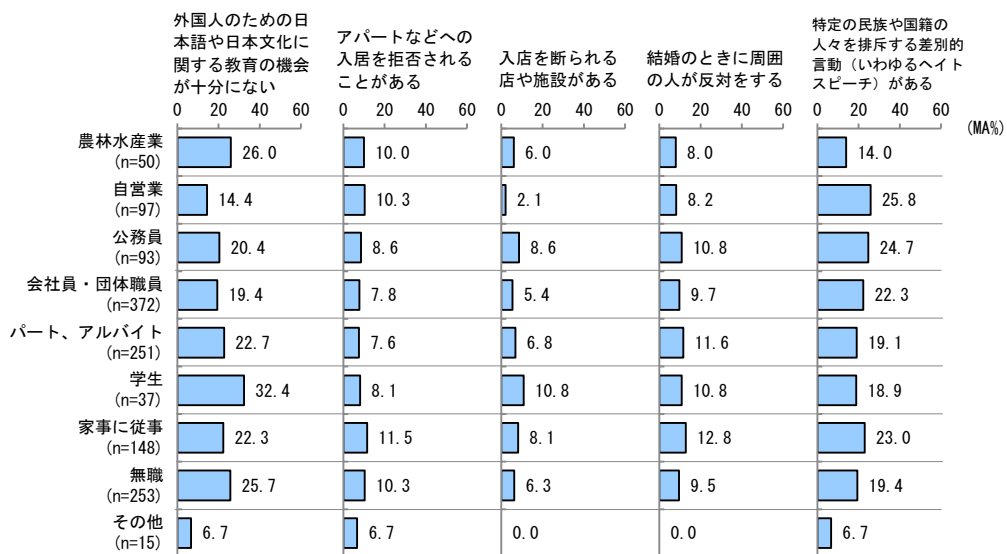
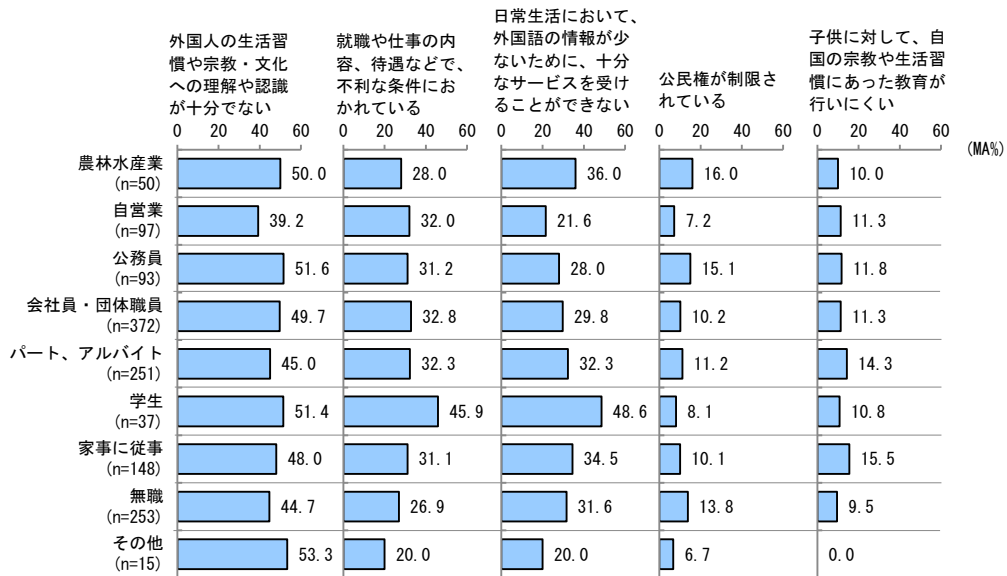
【年齢別】

年齢別でみると、いずれの年代も「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」の割合が最も多く、なかでも60歳代が53.8%で最も高くなっています。



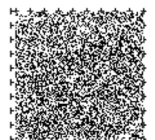
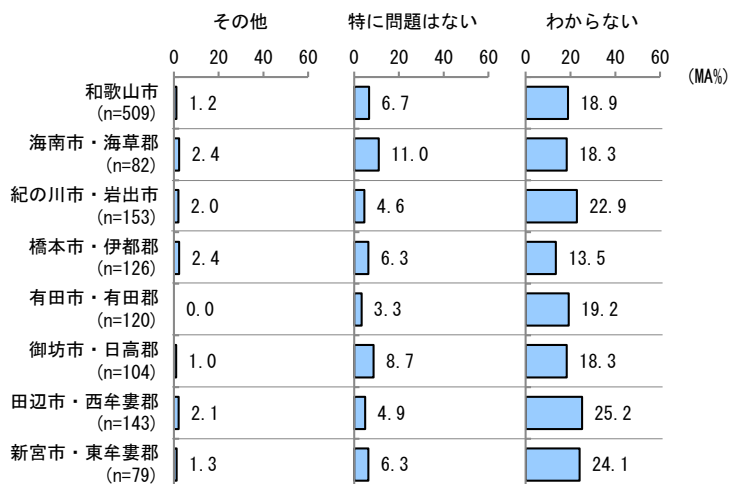
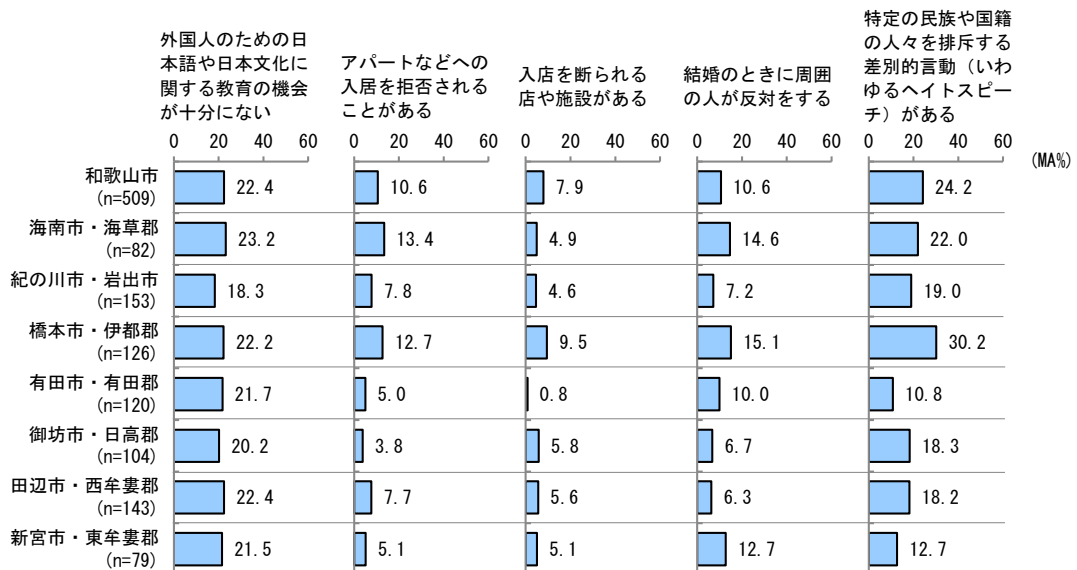
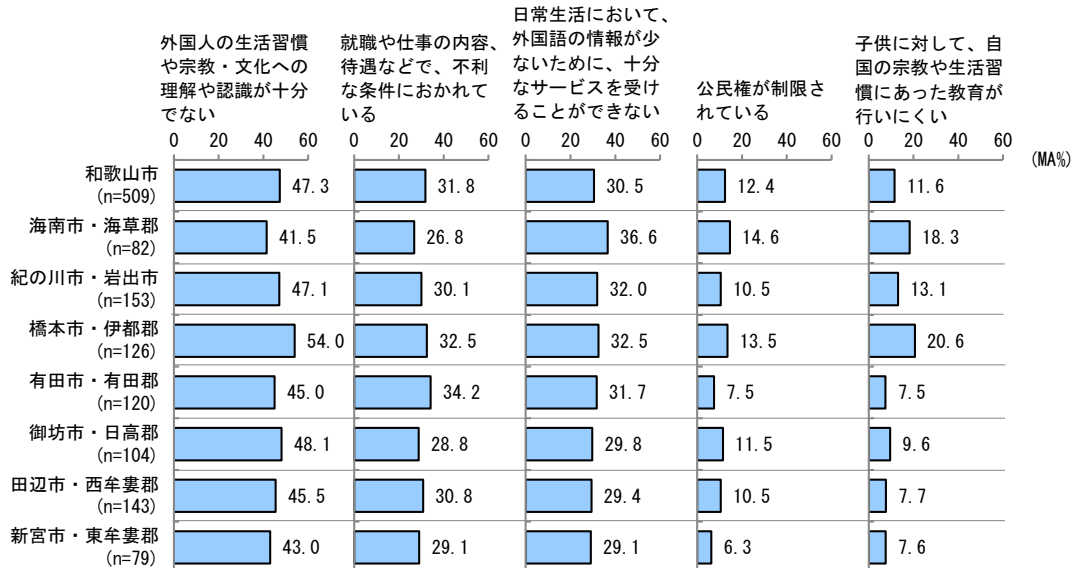
## 【職業別】

職業別でみると、「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」では、農林水産業、公務員、学生などが高い割合となっています。また、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれている」、「日常生活において、外国語の情報が少ないために、十分なサービスを受けることができない」、「外国人のための日本語や日本文化に関する教育の機会が十分でない」、「入店を断られる店や施設がある」では、学生が最も高い割合となっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない」、「子供に対して、自国の宗教や生活習慣にあった教育が行いにくい」、「入店を断られる店や施設がある」、「結婚のときに周囲の人が反対をする」、「特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（いわゆるヘイトスピーチ）がある」では、橋本市・伊都郡が最も高い割合となっています。

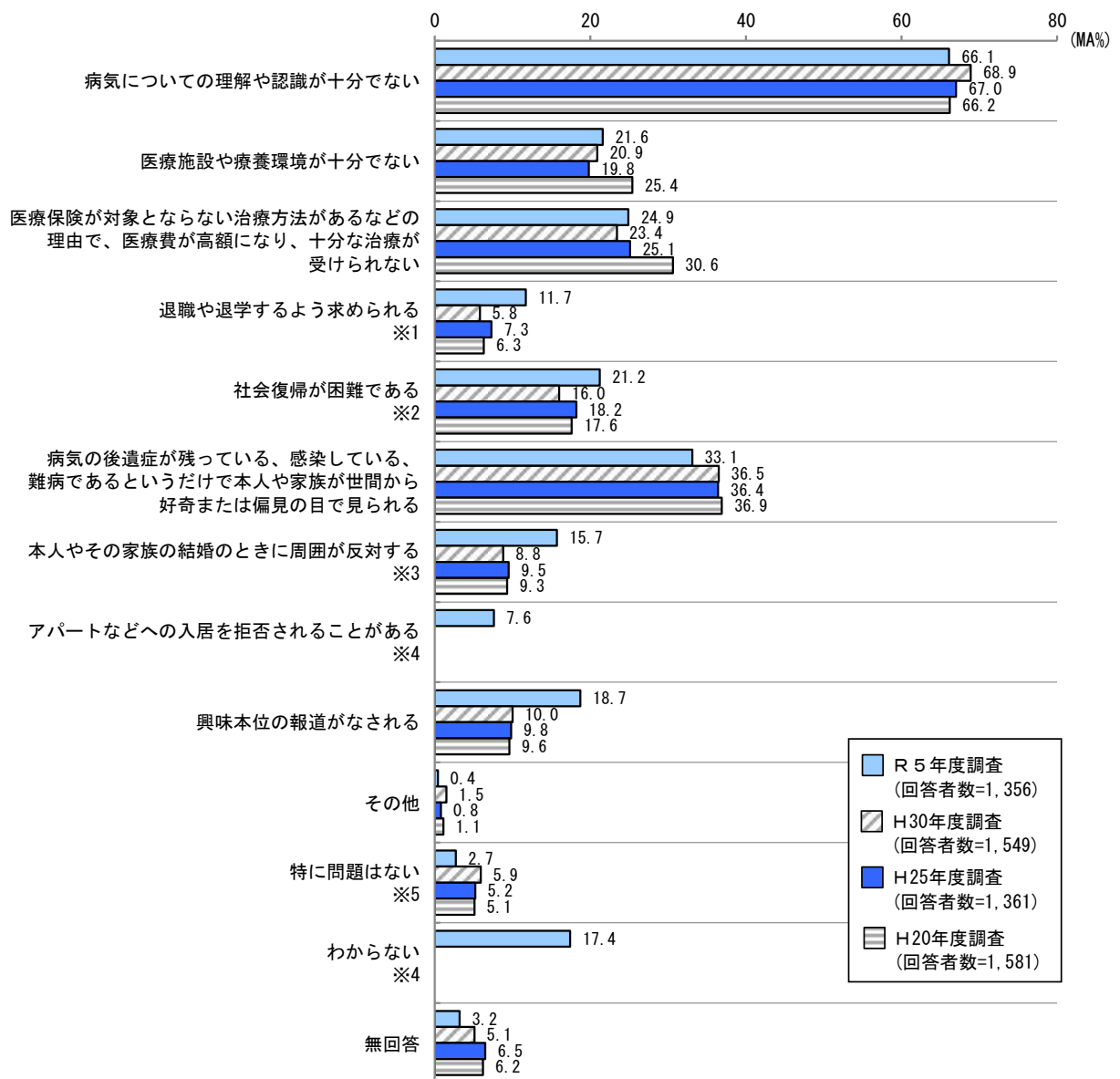


## 10. HIV感染者やかつてハンセン病を患った人、難病患者に関する事柄で、問題だと思ふこと

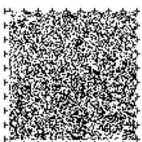
問12 HIV感染者やかつてハンセン病を患った人、難病患者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思ひますか（〇はいくつでも）

「病気についての理解や認識が十分でない」の割合が66.1%で最も多く、次いで「病気の後遺症が残っている、感染している、難病であるというだけで本人や家族が世間から好奇または偏見の目で見られる」が33.1%、「医療保険が対象とならない治療方法があるなどの理由で、医療費が高額になり、十分な治療が受けられない」が24.9%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「興味本位の報道がなされる」（18.7%）の割合が8.7ポイント、「本人やその家族の結婚のときに周囲が反対する」（15.7%）の割合が6.9ポイント、それぞれ増加しています。

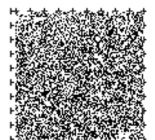
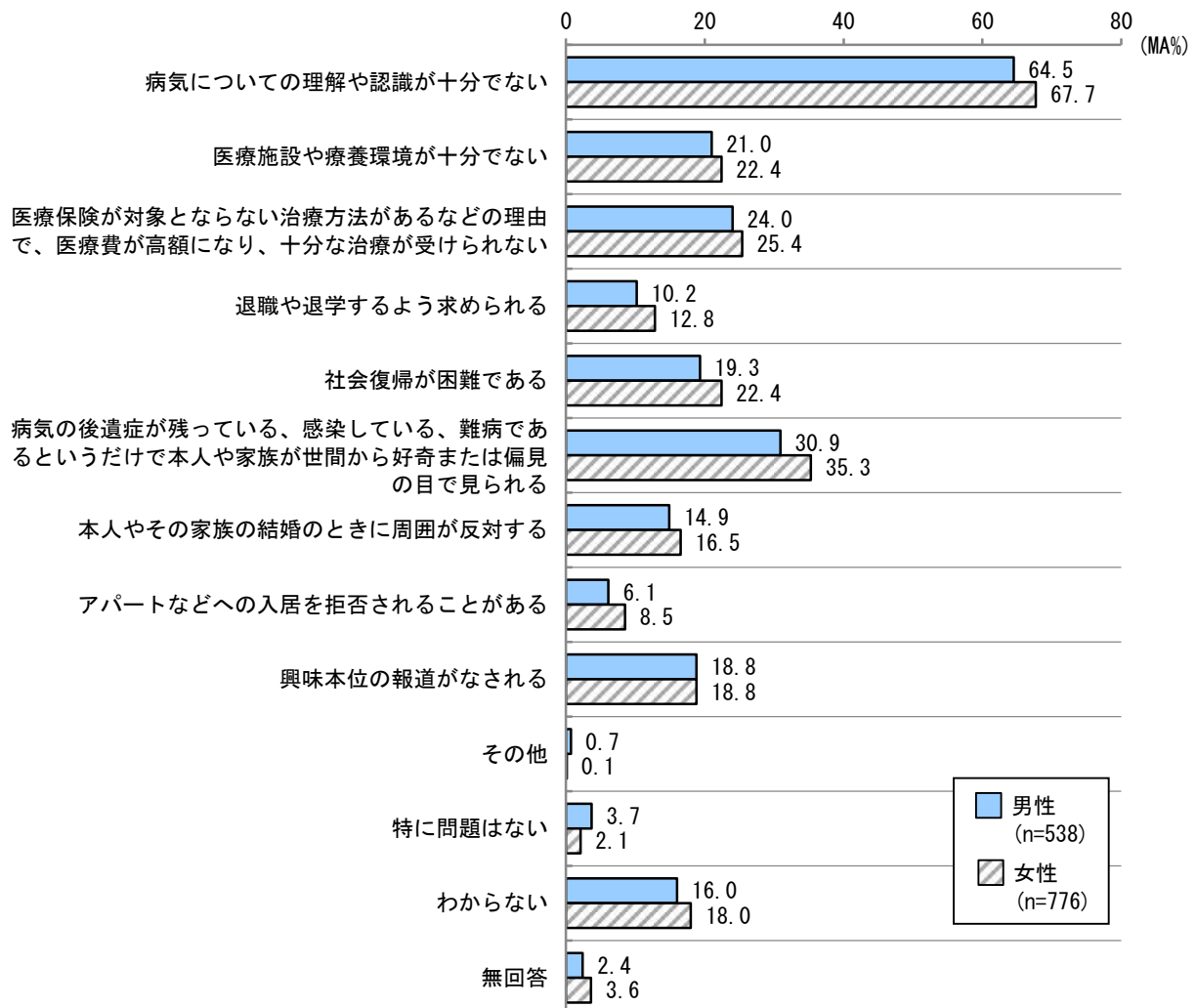


- ※1 H30年度調査までは「感染者や難病患者が、退職や退学に追い込まれる」
- ※2 H30年度調査までは「患者の社会復帰が困難である」
- ※3 H30年度調査までは「本人やその家族に対する結婚差別がある」
- ※4 R5年度調査で新たに設けた選択肢
- ※5 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」



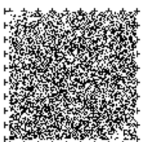
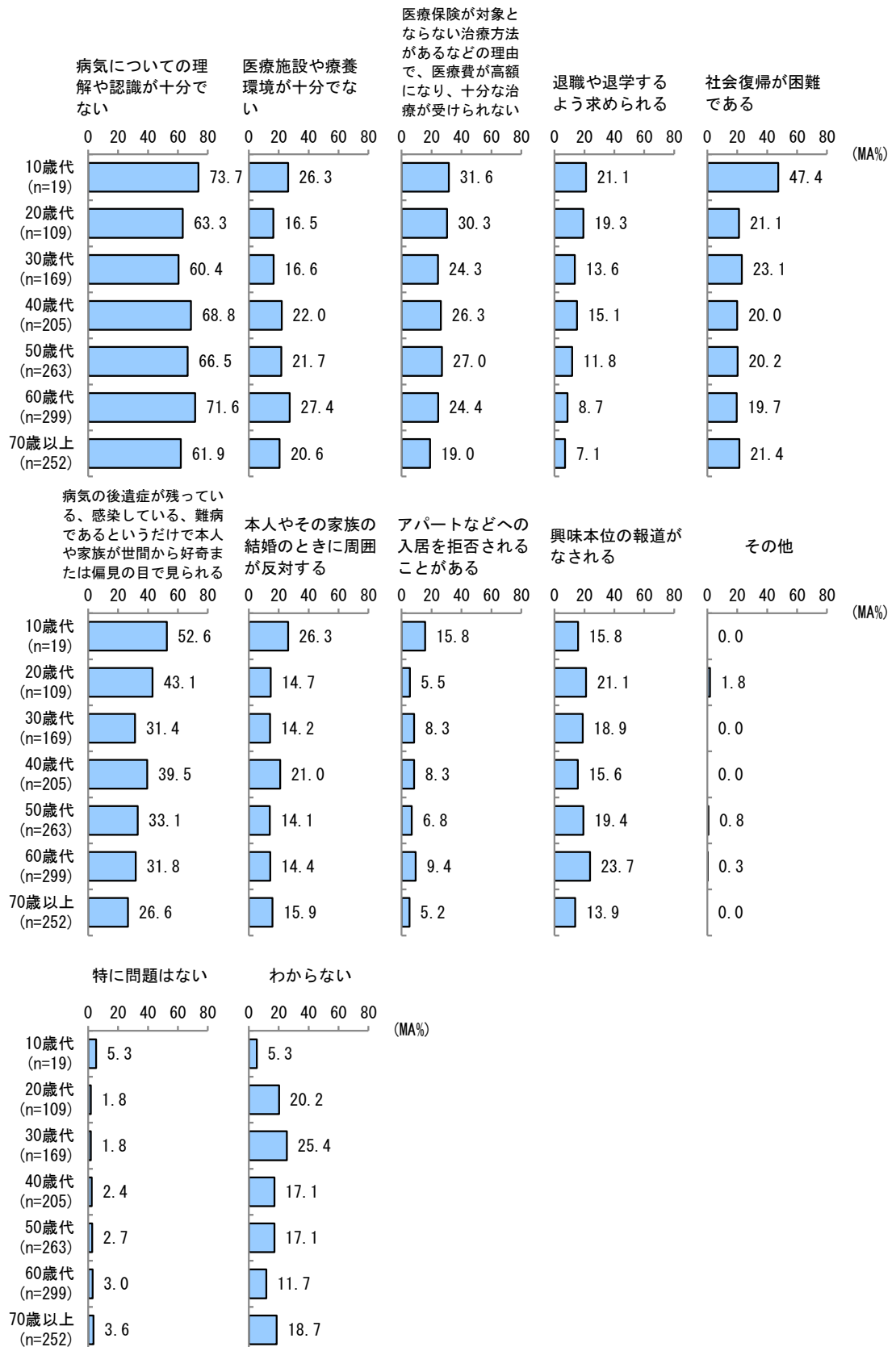
## 【性別】

性別で見ると、「病気の後遺症が残っている、感染している、難病であるというだけで本人や家族が世間から好奇または偏見の目で見られる」の割合は男性(30.9%)より女性(35.3%)のほうが4.4ポイント高くなっています。



## 【年齢別】

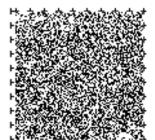
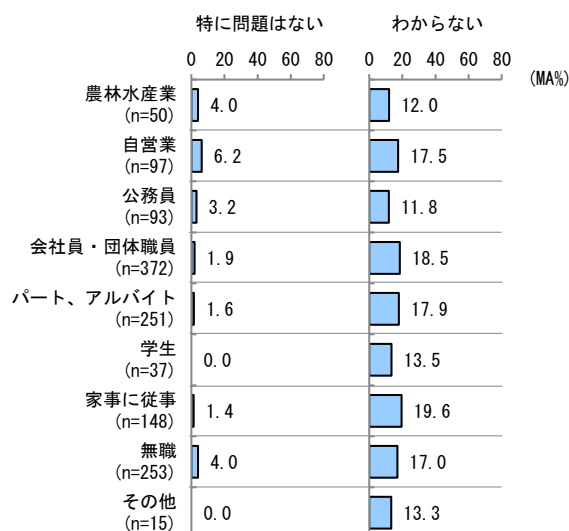
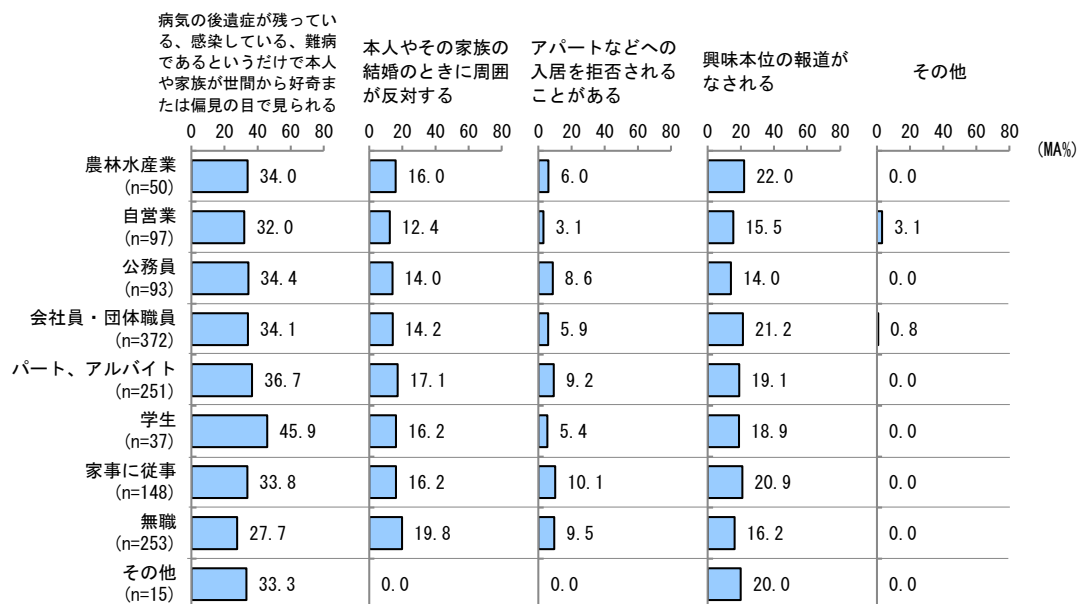
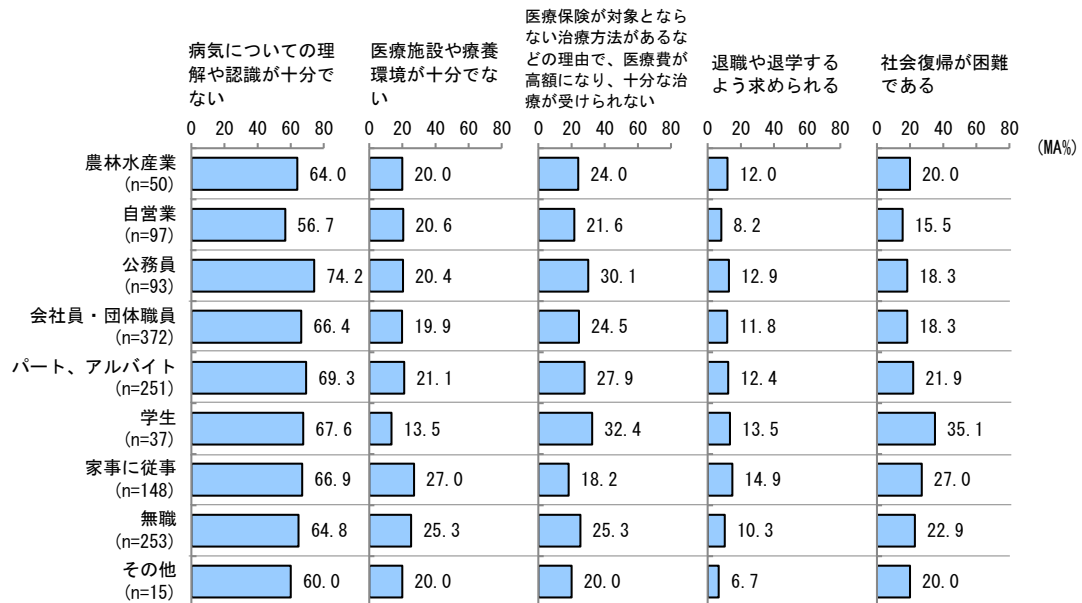
年齢別でみると、「医療保険が対象とならない治療方法があるなどの理由で、医療費が高額になり、十分な治療が受けられない」、「退職や退学するよう求められる」の割合は概ね若い年代ほど割合が高くなっています。





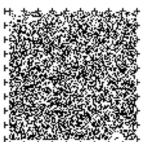
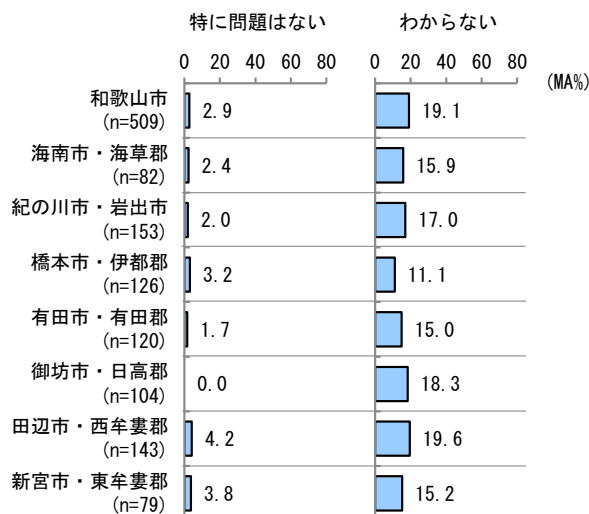
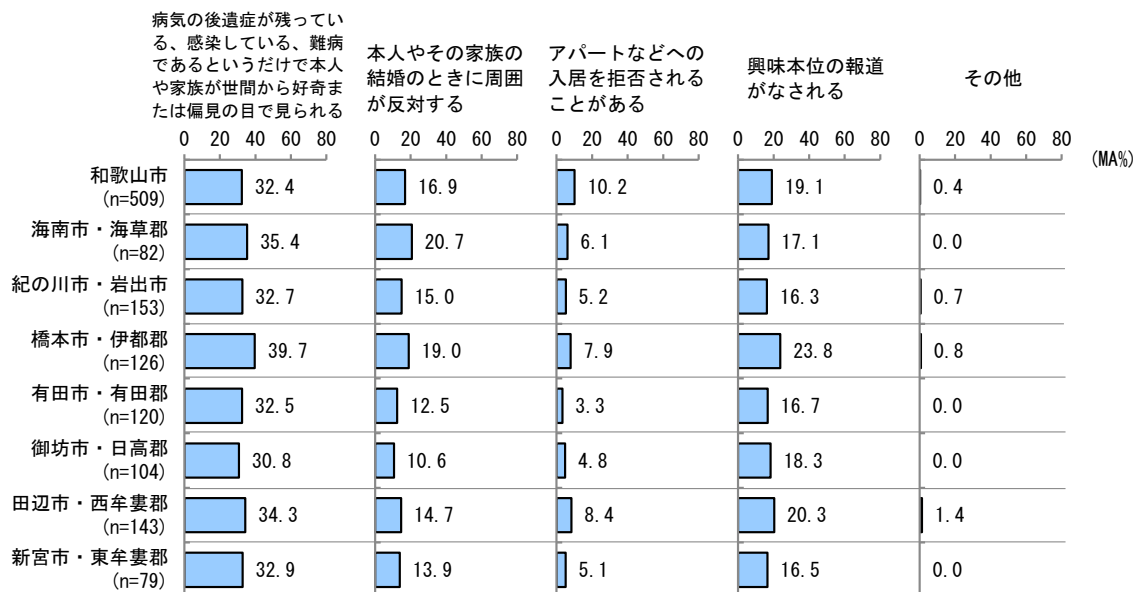
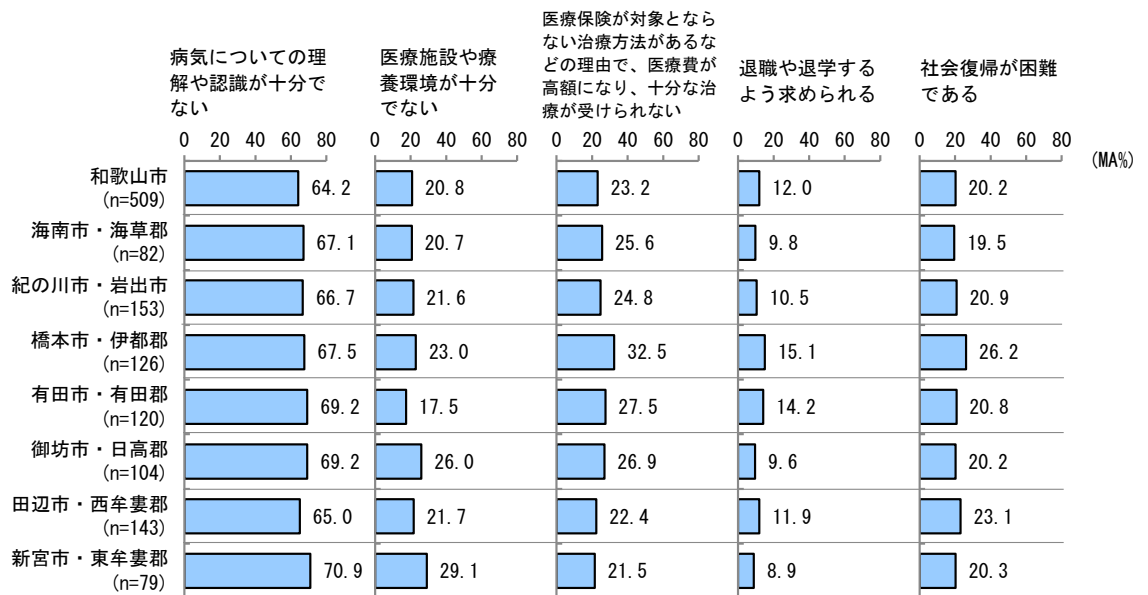
## 【職業別】

職業別でみると、いずれの職業も「病気についての理解や認識が十分でない」の割合が最も多く、なかでも公務員が74.2%で最も高い割合となっています。



【居住地域別】

居住地域別でみると、「病気についての理解や認識が十分でない」、「医療施設や療養環境が十分でない」では、新宮市・東牟婁郡が最も高い割合となっています。

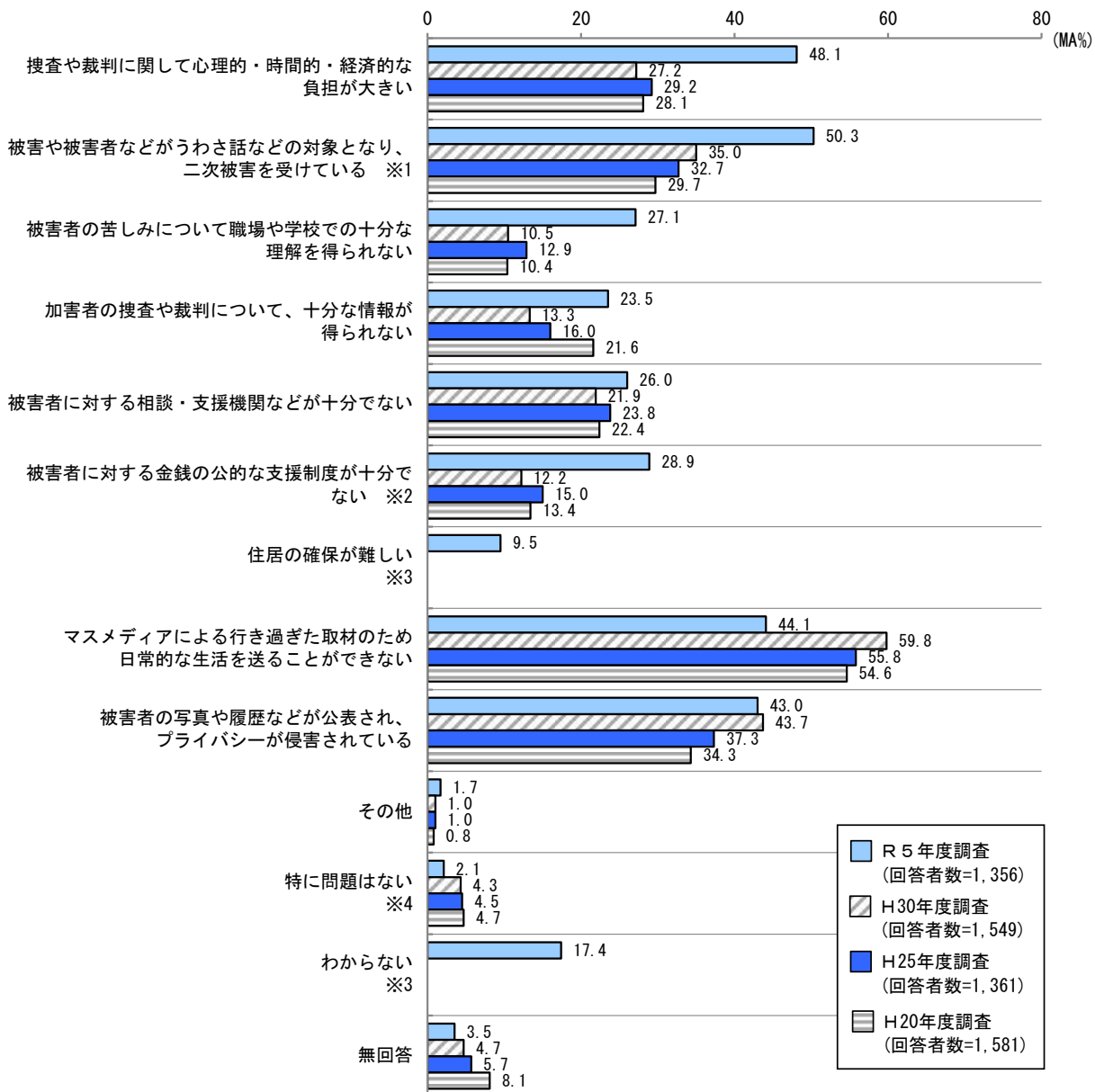


## 11. 犯罪被害者とその家族に関する事柄で、問題だと思うこと

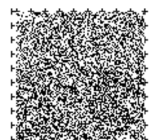
問13 犯罪被害者とその家族に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか（〇はいくつでも）

「被害や被害者などがうわさ話などの対象となり、二次被害を受けている」の割合が50.3%で最も多く、次いで「捜査や裁判に関して心理的・時間的・経済的な負担が大きい」が48.1%、「マスメディアによる行き過ぎた取材のため日常的な生活を送ることができない」が44.1%、「被害者の写真や履歴などが公表され、プライバシーが侵害されている」が43.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「捜査や裁判に関して心理的・時間的・経済的な負担が大きい」の割合が20.9ポイント、「被害者に対する金銭の公的な支援制度が十分でない」(28.9%)の割合が16.7ポイント、「被害者の苦しみについて職場や学校での十分な理解を得られない」(27.1%)が16.6ポイント、それぞれ増加しています。

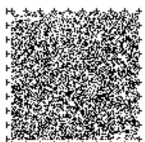
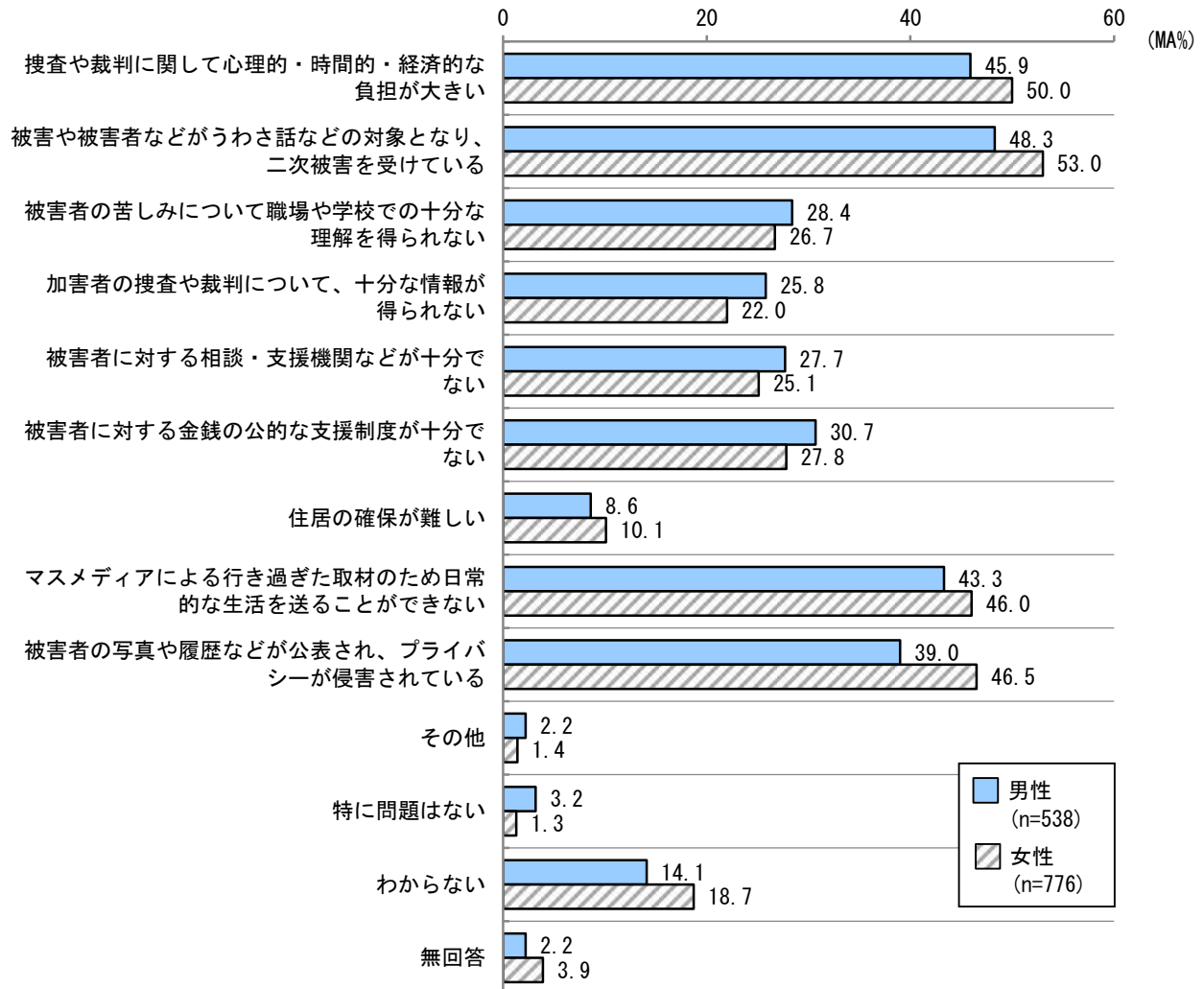


※1 H30年度調査までは「被害や被害者自身について周囲の人から無責任なうわさ話等の二次被害を受けている」  
 ※2 H30年度調査までは「被害者に対する金銭的な支援制度が十分でない」  
 ※3 R5年度調査で新たに設けた選択肢  
 ※4 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」



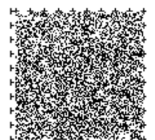
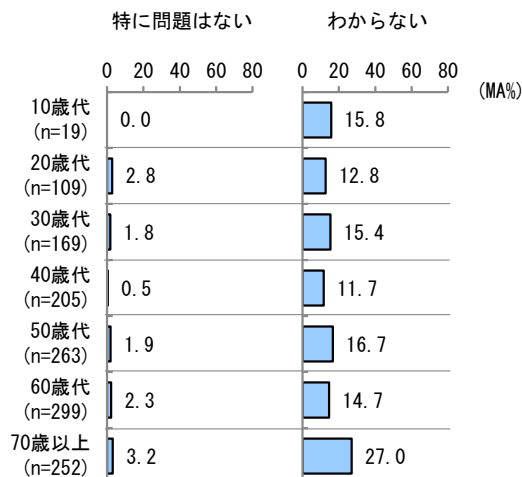
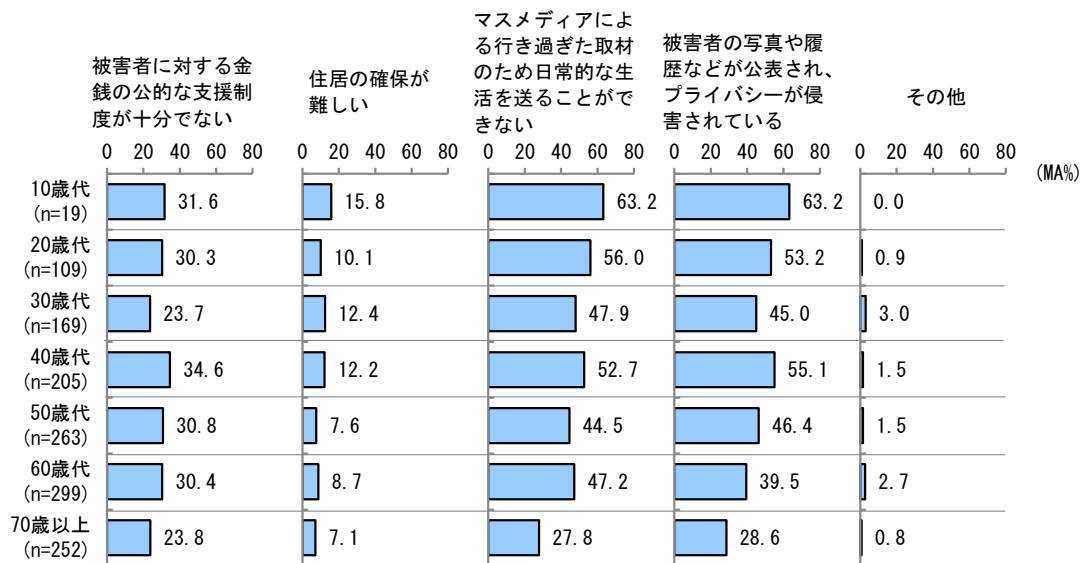
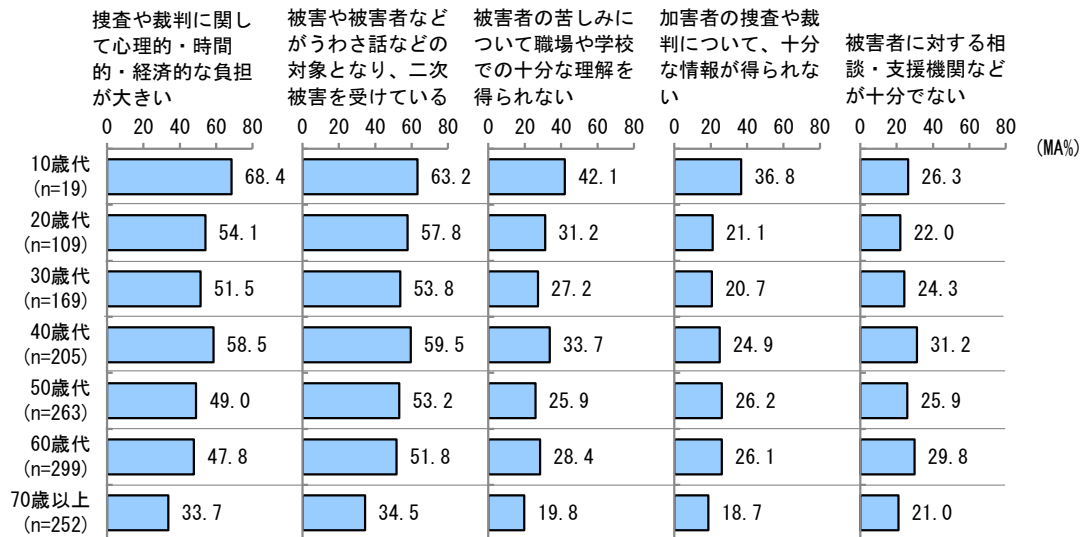
## 【性別】

性別で見ると、男性、女性とも「被害や被害者などがうわさ話などの対象となり、二次被害を受けている」の割合が最も多くなっています。「被害者の写真や履歴などが公表され、プライバシーが侵害されている」では、男性（39.0%）より女性（46.5%）のほうが7.5ポイント高くなっています。



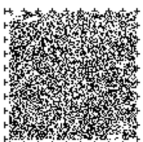
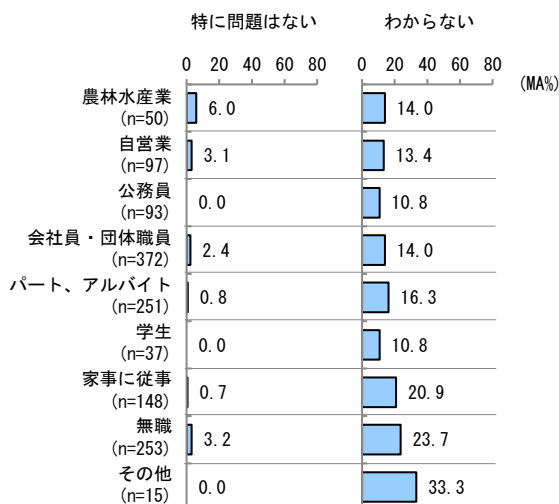
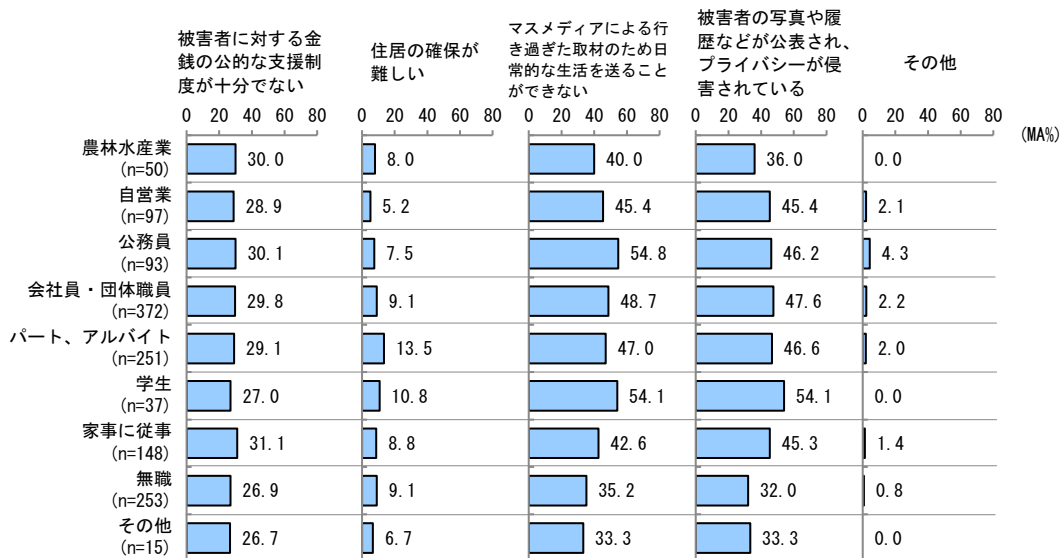
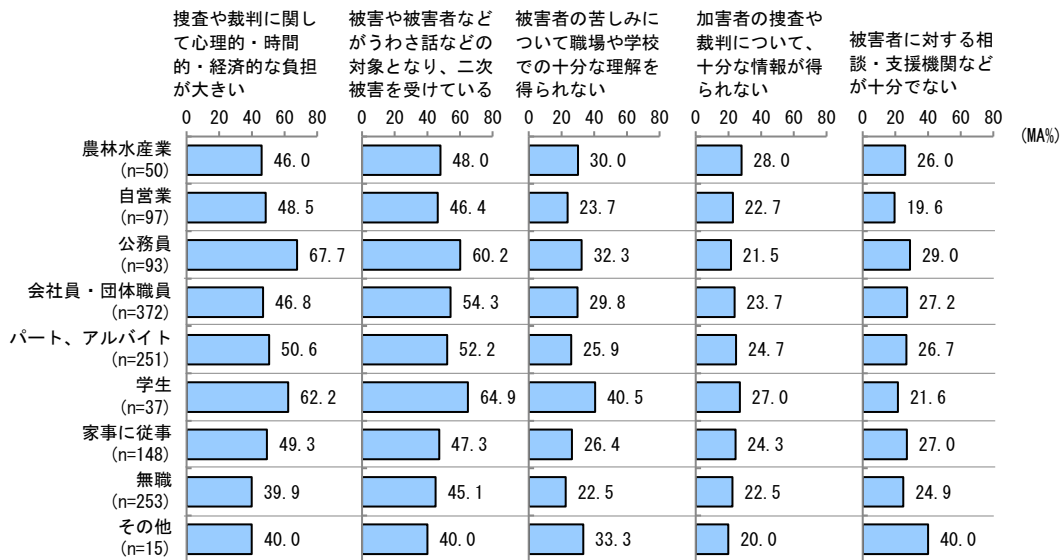
## 【年齢別】

年齢別でみると、「捜査や裁判に関して心理的・時間的・経済的な負担が大きい」、「被害や被害者などがうわさ話などの対象となり、二次被害を受けている」、「被害者の苦しみについて職場や学校での十分な理解を得られない」、「被害者に対する相談・支援機関などが十分でない」、「被害者に対する金銭の公的な支援制度が十分でない」、「被害者の写真や履歴などが公表され、プライバシーが侵害されている」では、40歳代で最も高い割合となっています。



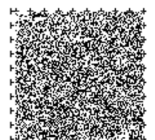
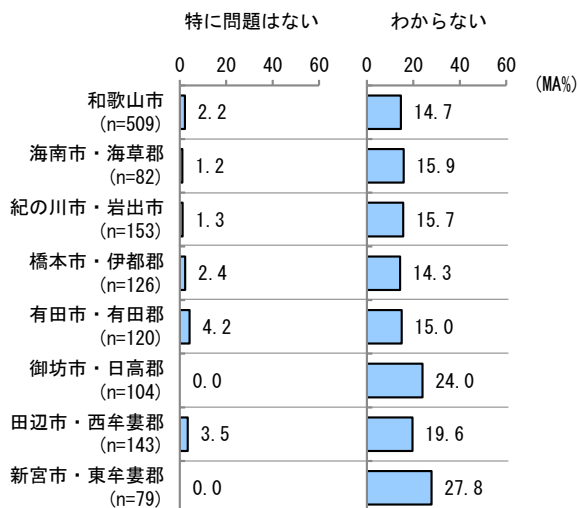
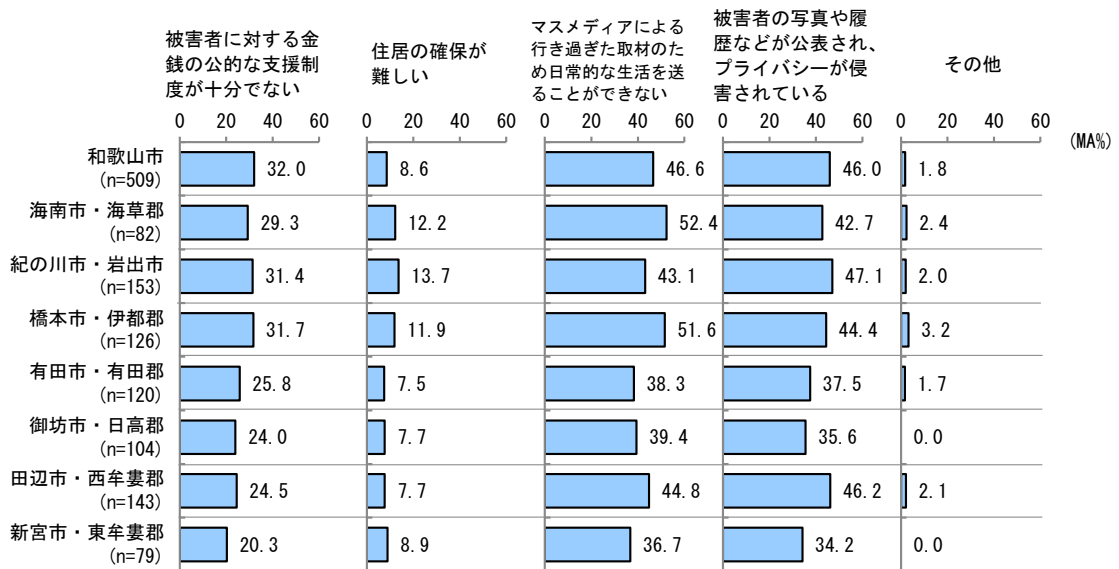
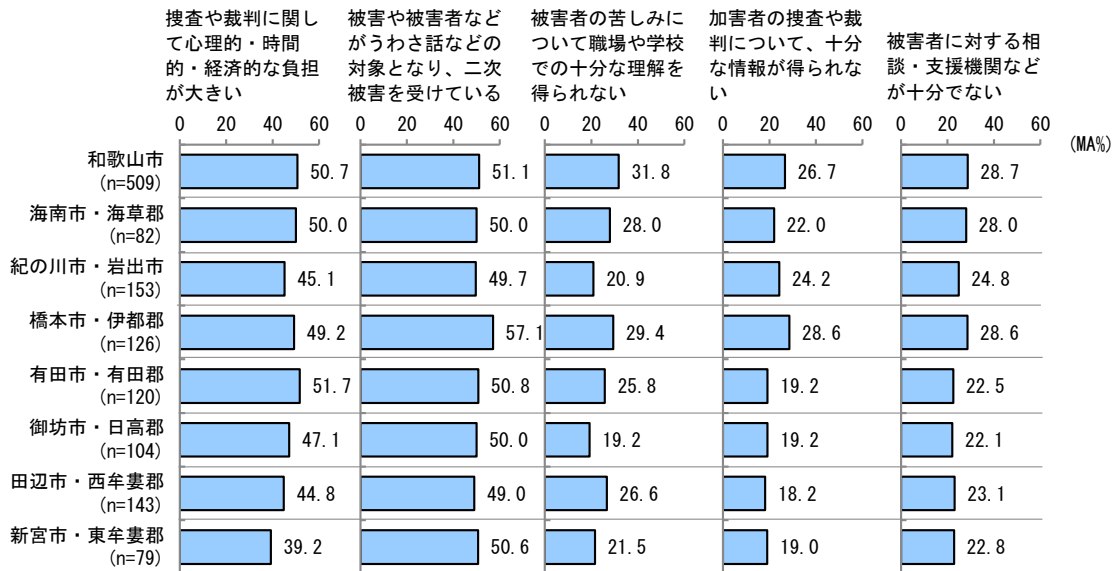
【職業別】

職業別でみると、「捜査や裁判に関して心理的・時間的・経済的な負担が大きい」、「被害や被害者などがうわさ話などの対象となり、二次被害を受けている」、「マスメディアによる行き過ぎた取材のため日常的な生活を送ることができない」では公務員と学生が上位となっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「被害者の苦しみについて職場や学校での十分な理解を得られない」、「被害者に対する相談・支援機関などが十分でない」、「被害者に対する金銭の公的な支援制度が十分でない」では和歌山市で最も高い割合となっています。

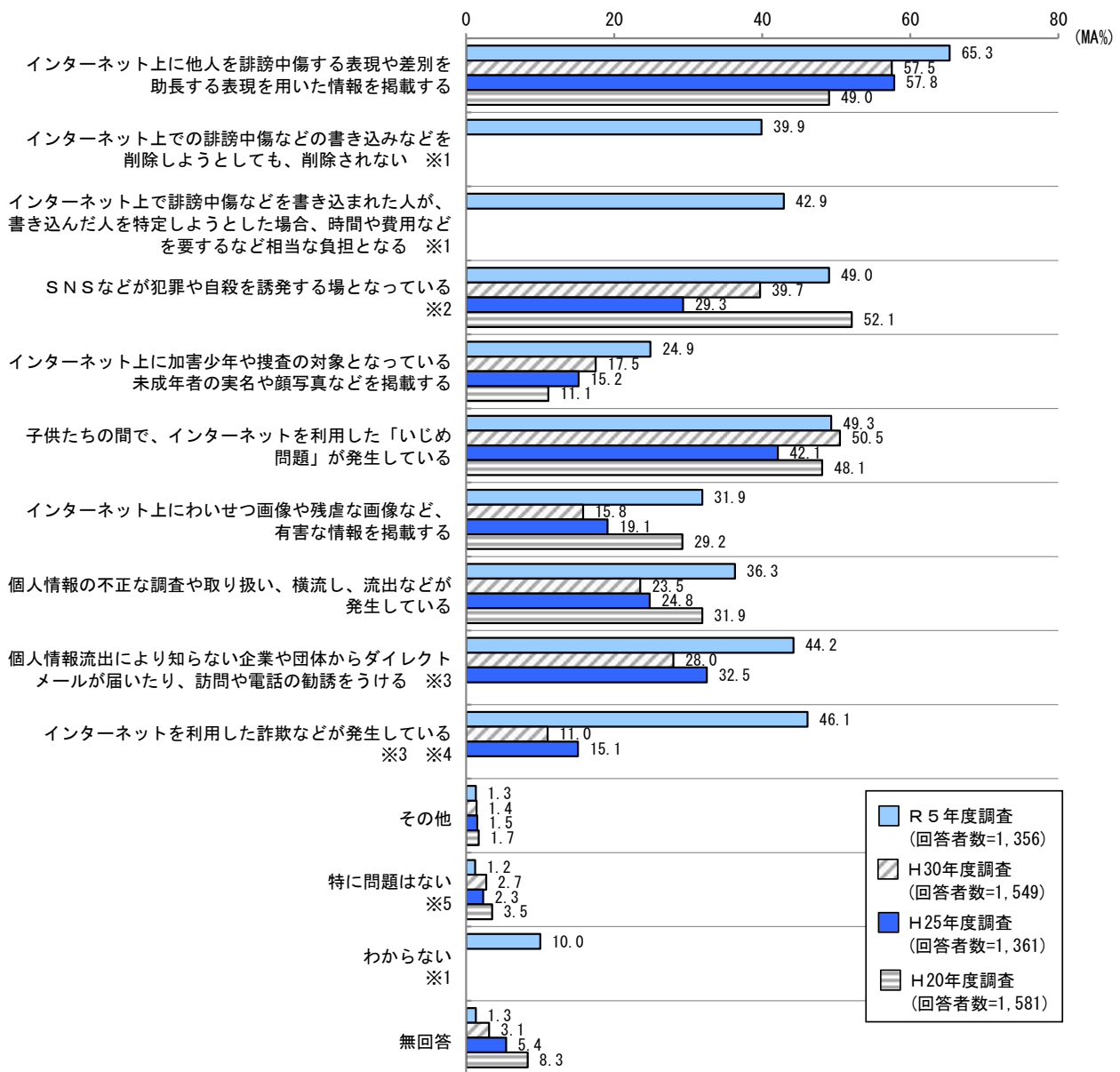


## 12. インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害で、問題だと思うこと

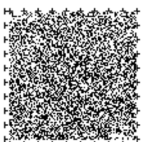
問14 インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害について、特にどのようなことが問題だと思いますか（〇はいくつでも）

「インターネット上に他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現を用いた情報を掲載する」の割合が65.3%で最も多く、次いで「子供たちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している」が49.3%、「SNSなどが犯罪や自殺を誘発する場となっている」が49.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「インターネットを利用した詐欺などが発生している」（46.1%）の割合が35.1ポイント増加しています。



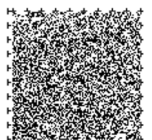
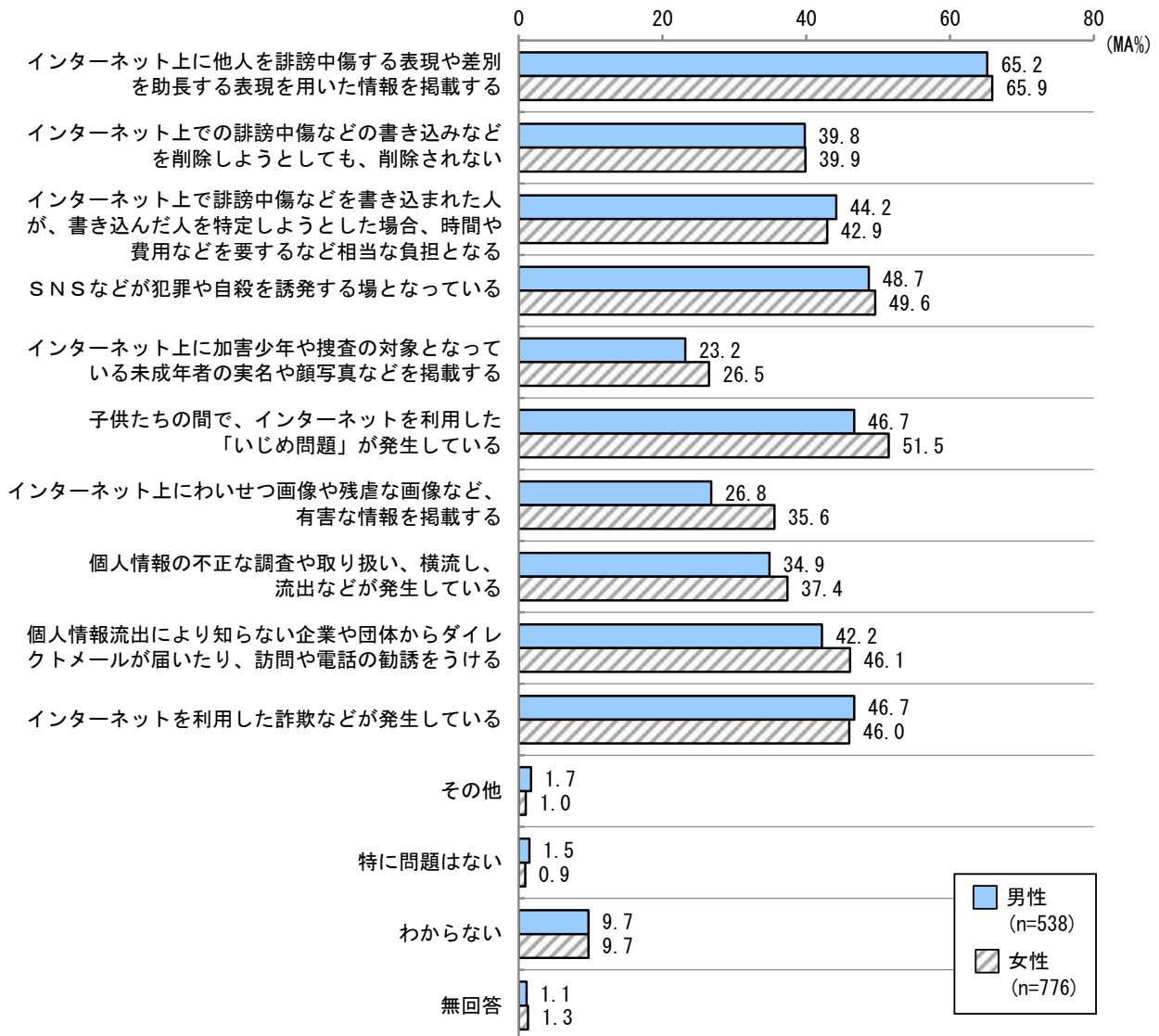
- ※1 R5年度調査で新たに設けた選択肢
- ※2 H30年度調査までは「出会い系サイトなどが犯罪や自殺を誘発する場となっていること」
- ※3 H25年度調査で新たに設けた選択肢
- ※4 H30年度調査までは「インターネットが悪質商法の取引の場となっていること」
- ※5 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」
- ※ H30年度調査までは選択肢が「～こと」という表現であった。





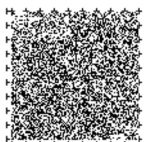
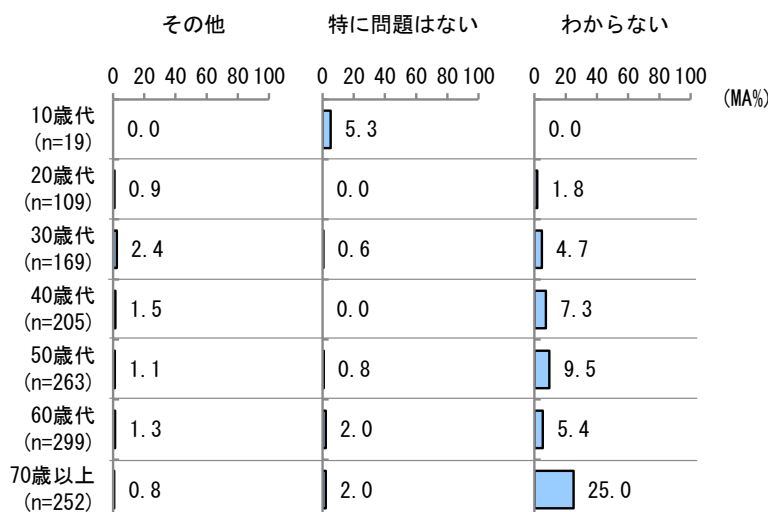
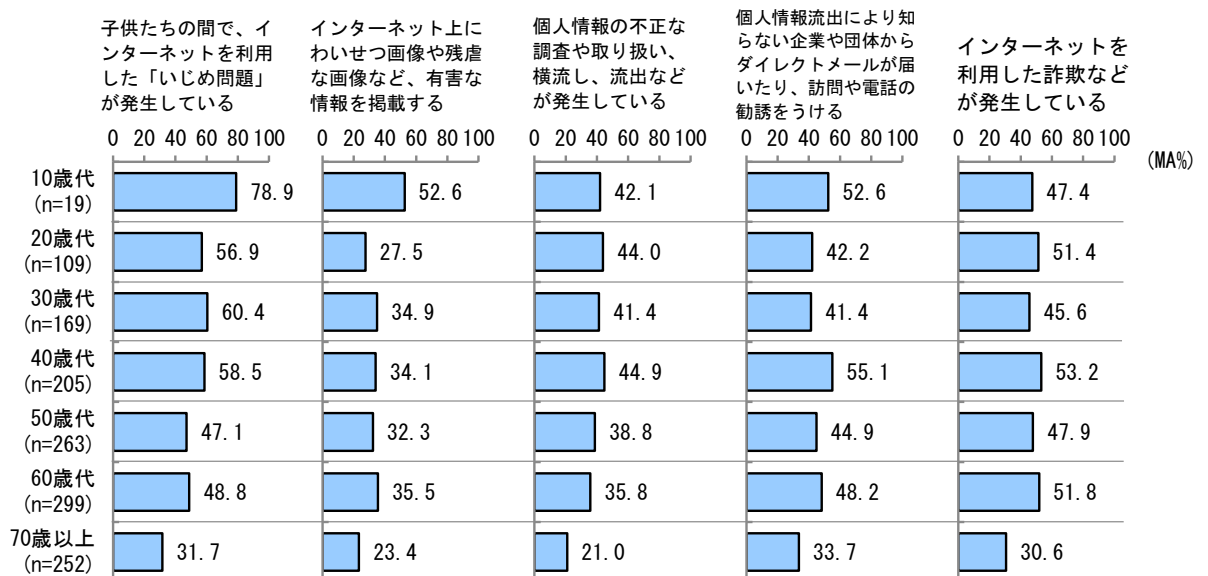
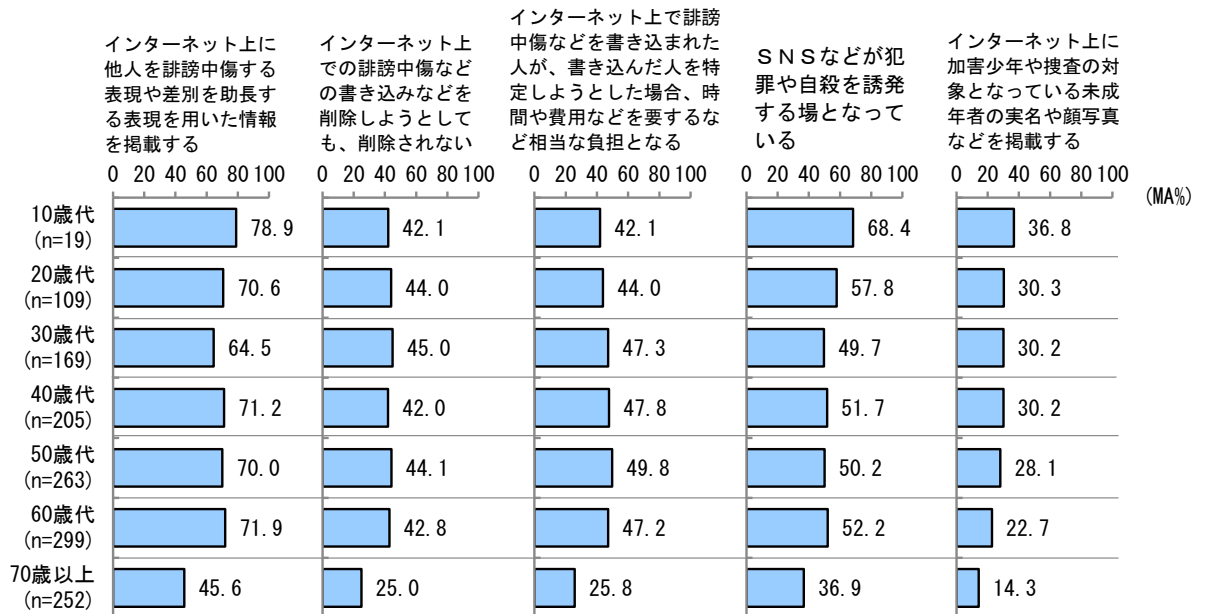
【性別】

性別でみると、「子供たちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している」の割合は男性（46.7%）より女性（51.5%）のほうが4.8ポイント高くなっています。



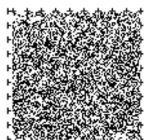
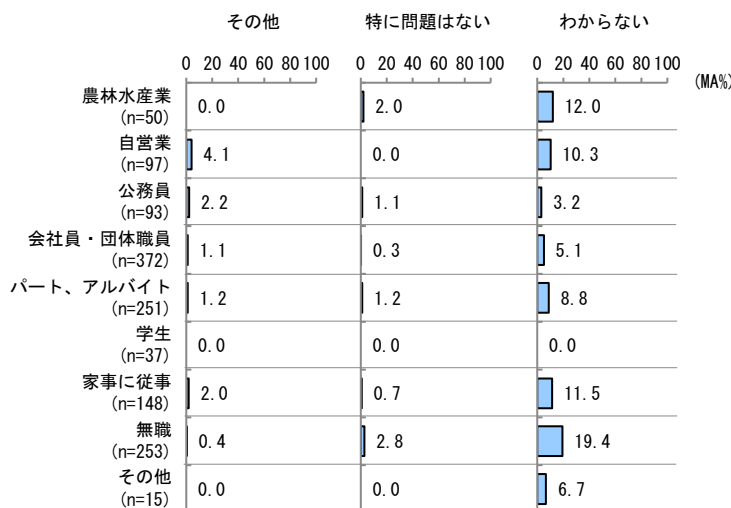
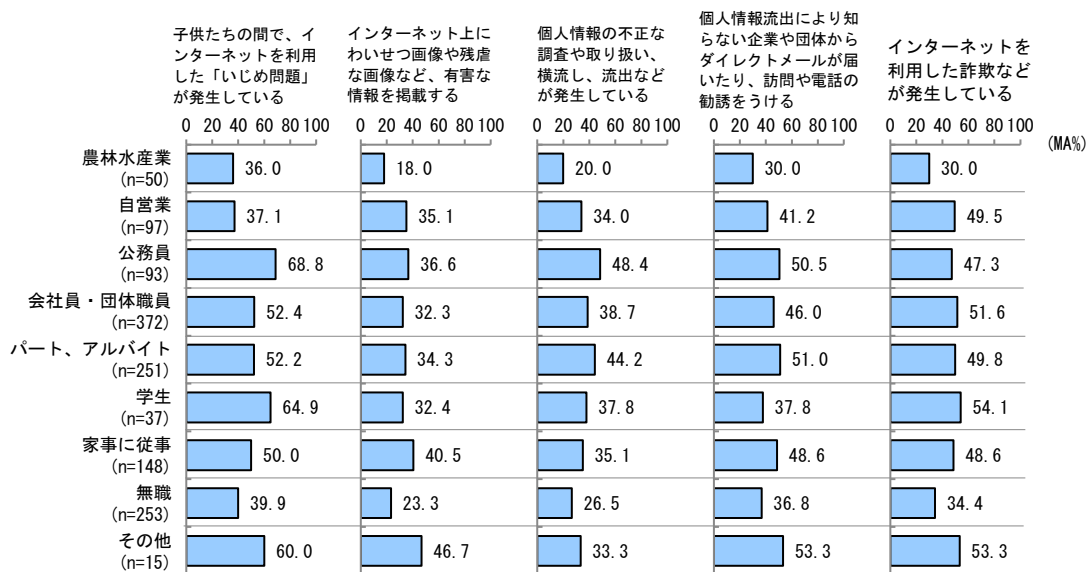
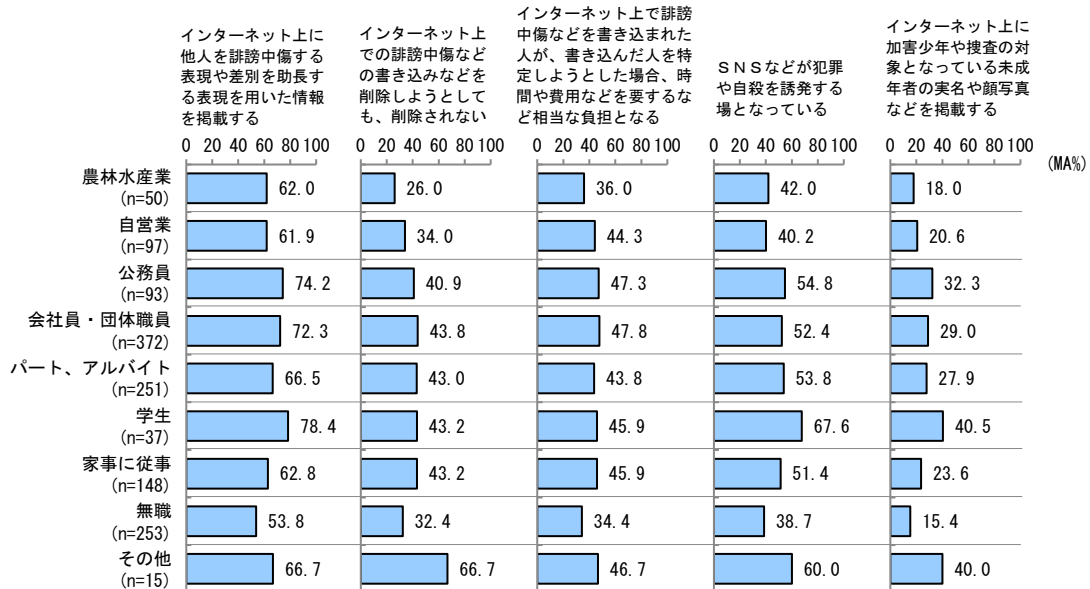
## 【年齢別】

年齢別でみると、いずれの項目も70歳以上が最も低い割合となっています。また、「子供たちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している」の割合は、概ね若い年代ほど割合が高くなっています。



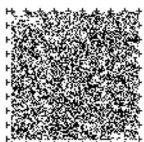
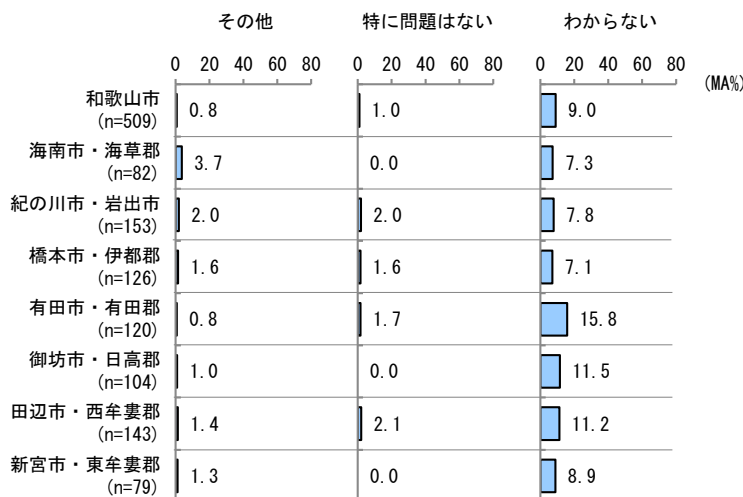
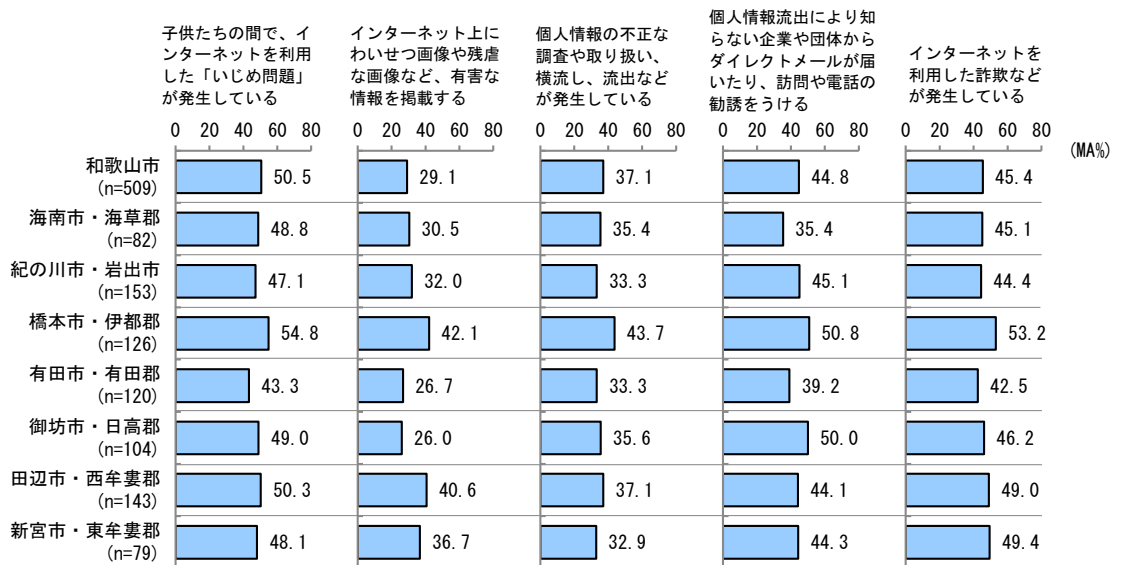
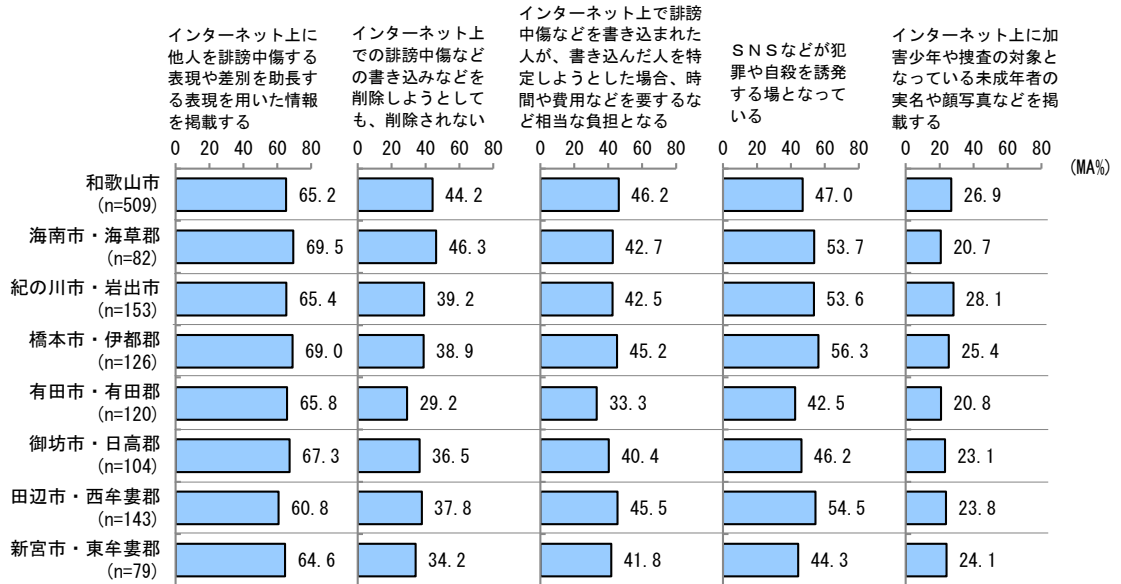
【職業別】

職業別でみると、「インターネット上に他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現を用いた情報を掲載する」、「SNSなどが犯罪や自殺を誘発する場となっている」、「インターネット上に加害少年や捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などを掲載する」、「インターネットを利用した詐欺などが発生している」では学生が最も高い割合となっています。



【居住地域別】

居住地域別でみると、「インターネット上に他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現を用いた情報を掲載する」、「インターネット上での誹謗中傷などの書き込みなどを削除しようとしても、削除されない」では海南市・海草郡で最も高い割合となっています。

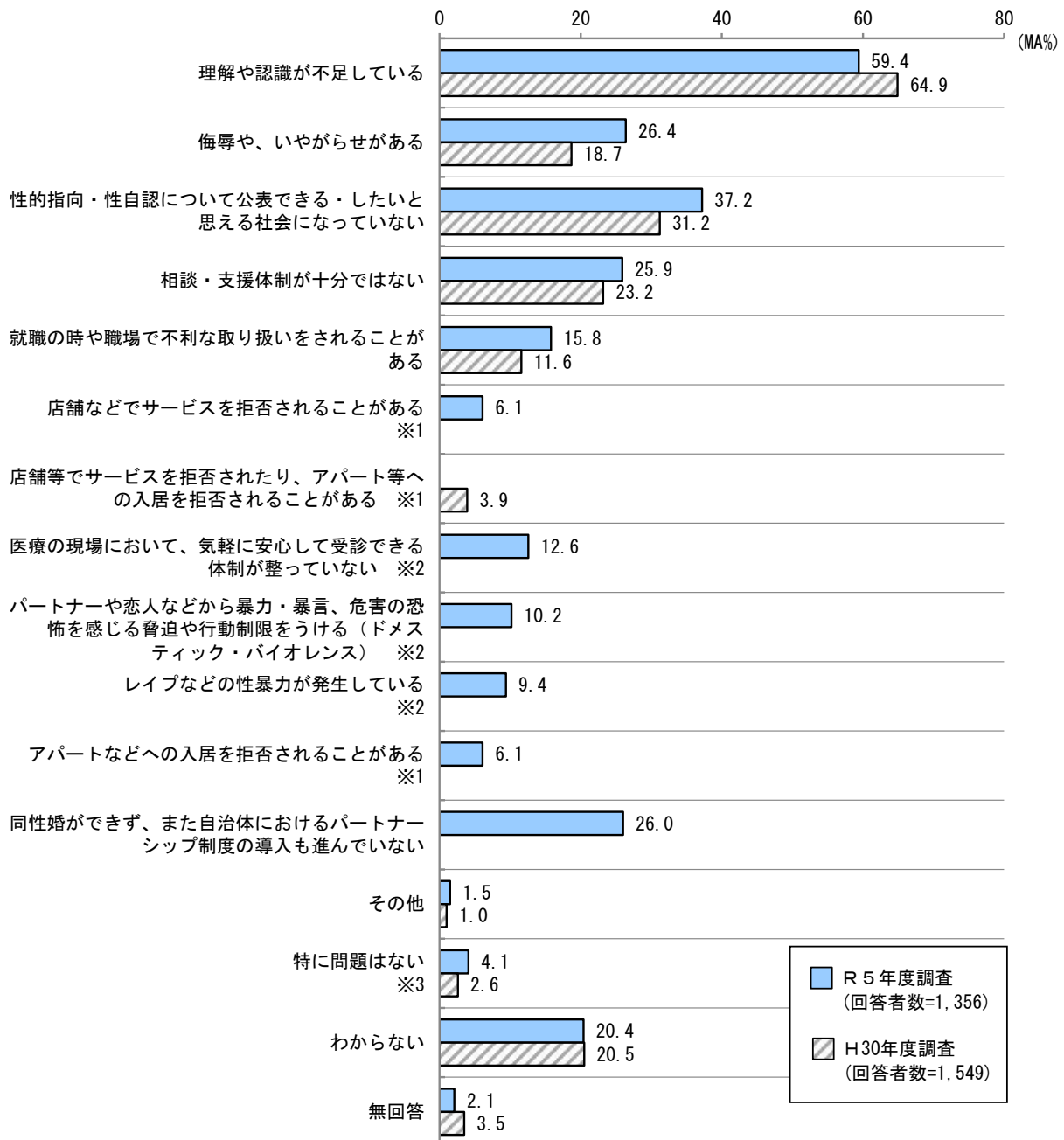


### 13. 性的少数者に関する事柄で、問題だと思ふこと

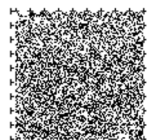
問15 性的少数者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思ひますか（〇はいくつでも）

「理解や認識が不足している」の割合が59.4%で最も多く、次いで「性的指向・性自認について公表できる・したいと思える社会になっていない」が37.2%、「侮辱や、いやがらせがある」が26.4%、「同性婚ができず、また自治体におけるパートナーシップ制度の導入も進んでいない」が26.0%となっています。

今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「侮辱や、いやがらせがある」の割合が7.7ポイント増加しています。

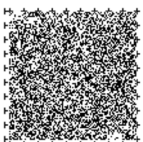
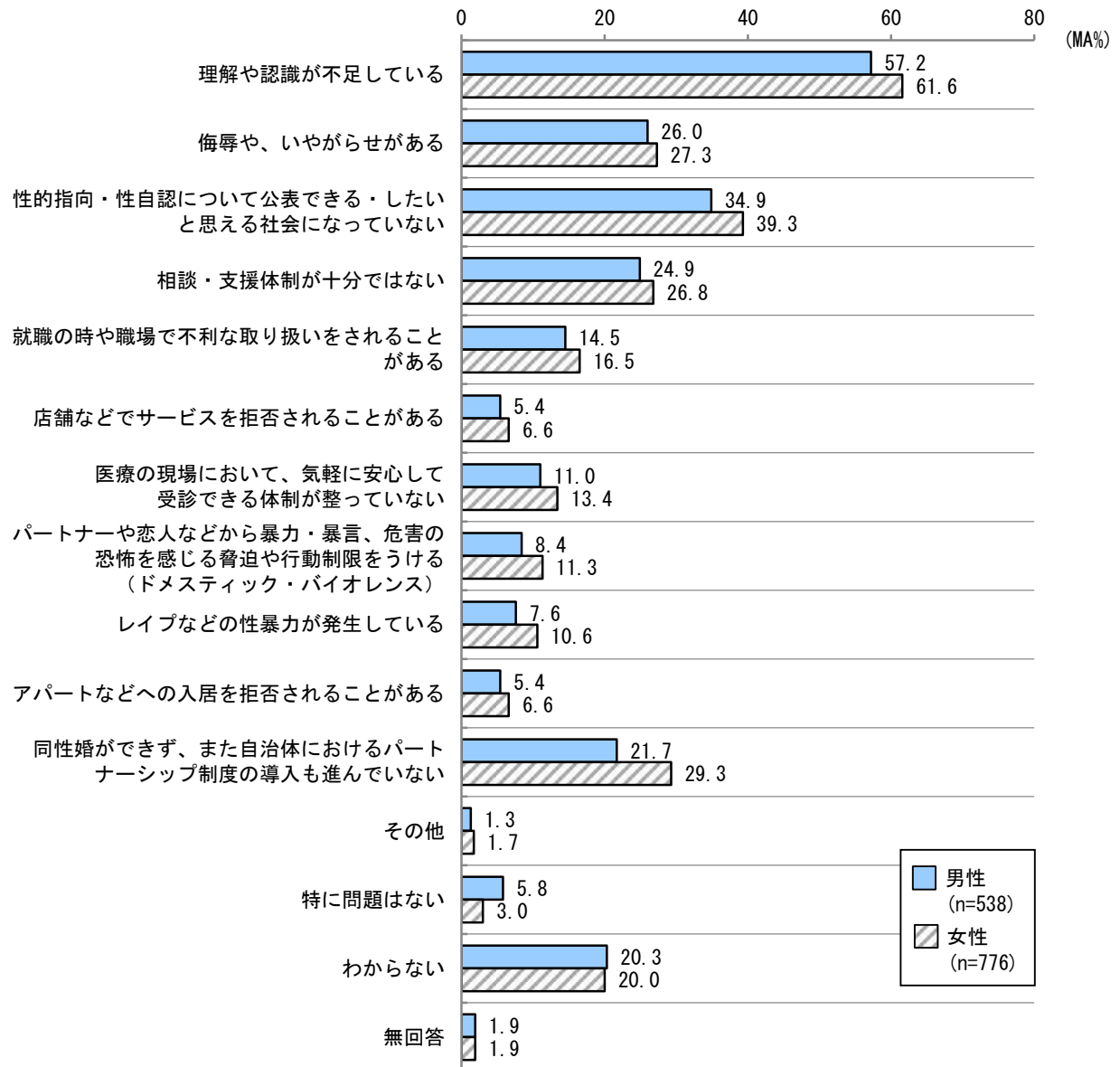


※1 H30年度の「店舗などでサービスを拒否されたり、アパート等への入居を拒否されることがある」は、R5年度調査では「店舗などでサービスを拒否されることがある」とアパートなどへの入居を拒否されることがある」に分けて調査を実施。  
 ※2 R5年度調査で新たに設けた選択肢  
 ※3 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」



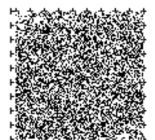
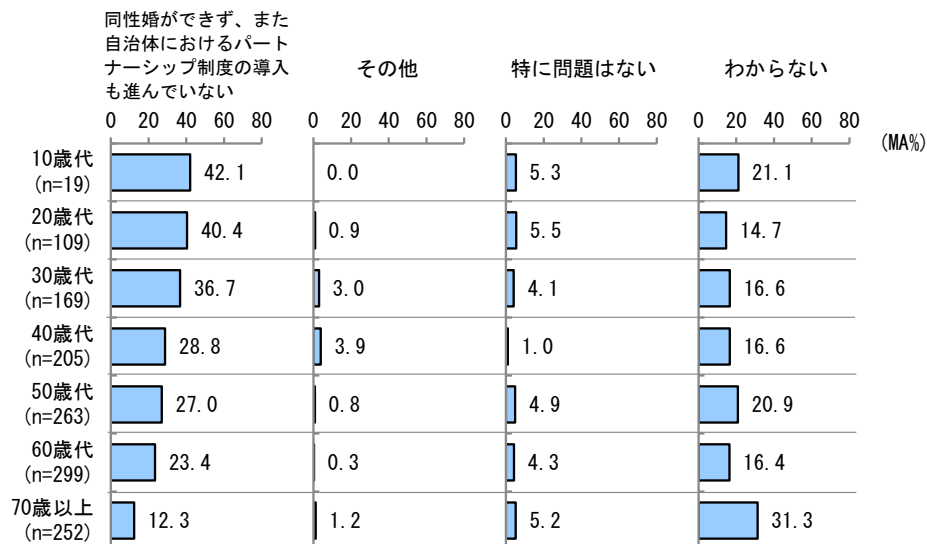
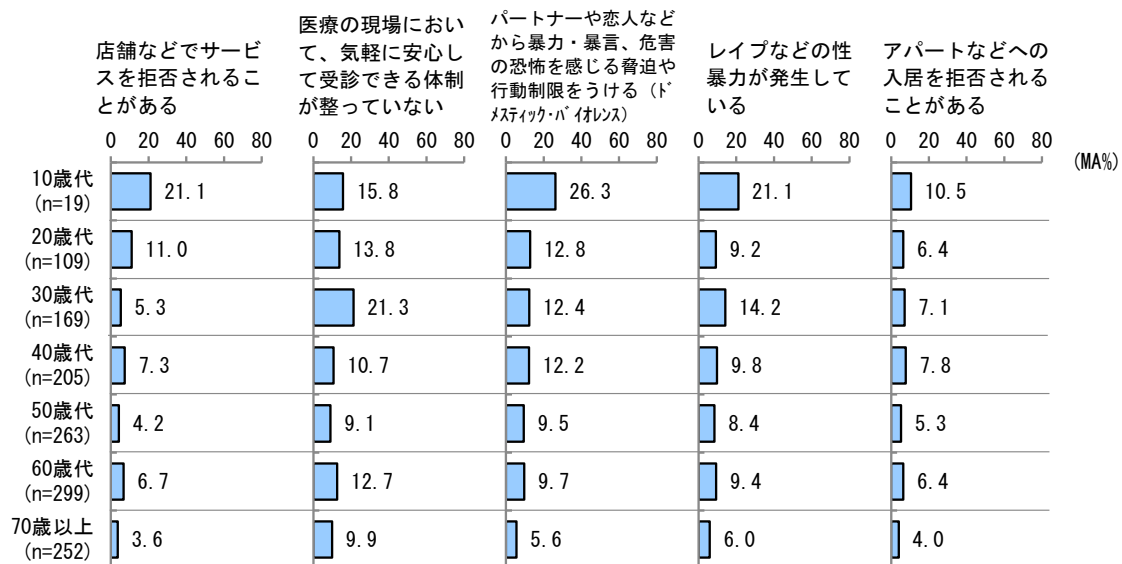
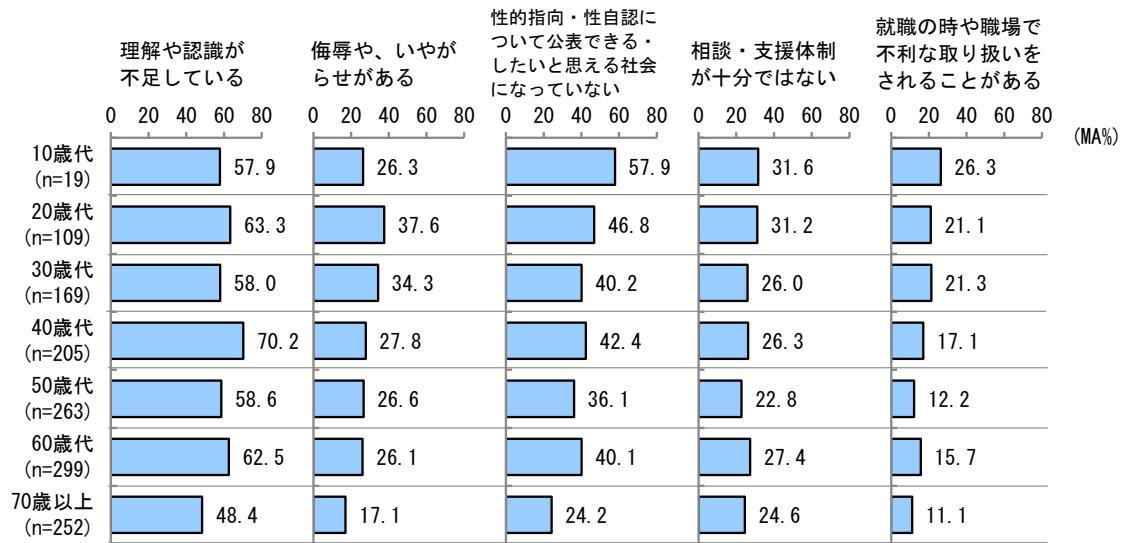
## 【性別】

性別でみると、「特に問題はない」、「わからない」を除き、全ての選択肢において、割合は男性より女性の方が高くなっています。



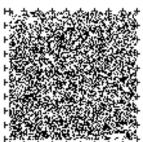
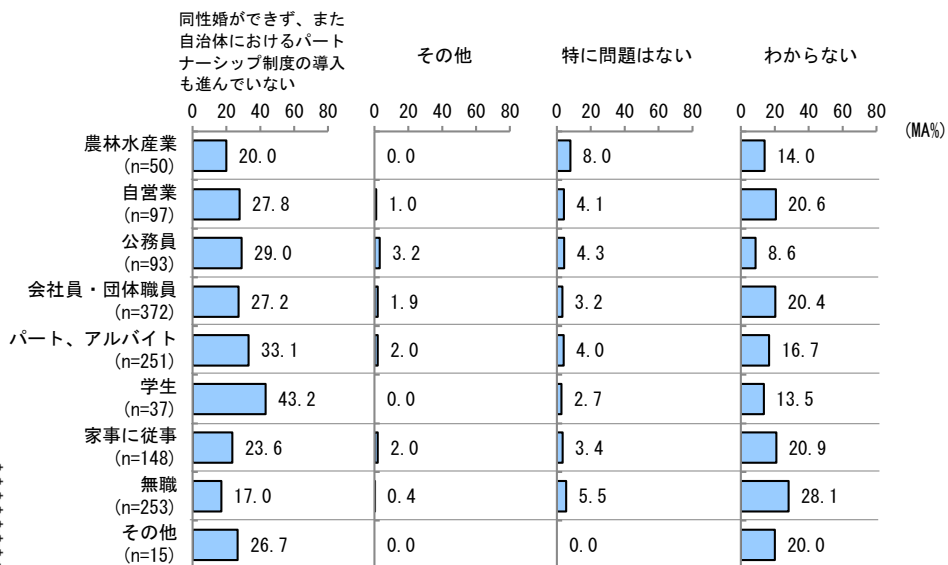
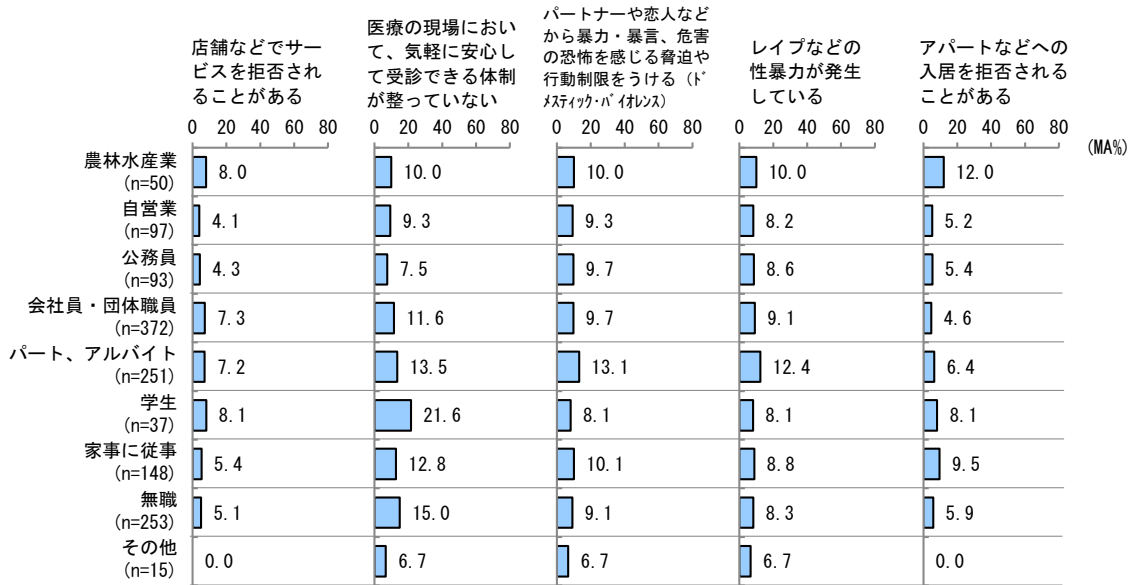
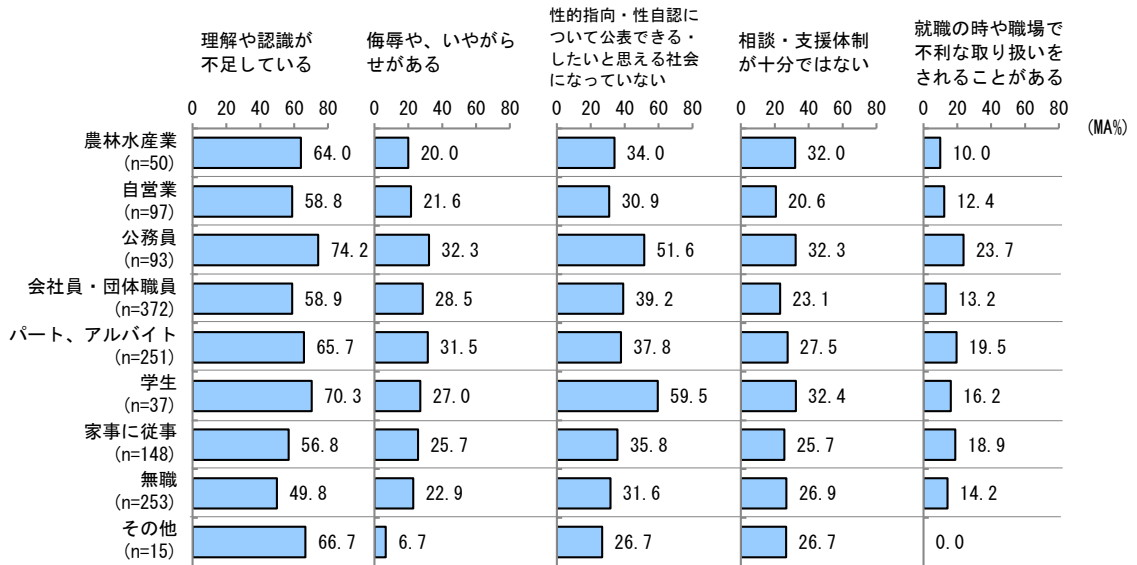
## 【年齢別】

年齢別でみると、「同性婚ができず、また自治体におけるパートナーシップ制度の導入も進んでいない」の割合は若い年代ほど割合が高くなっています。



【職業別】

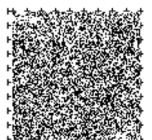
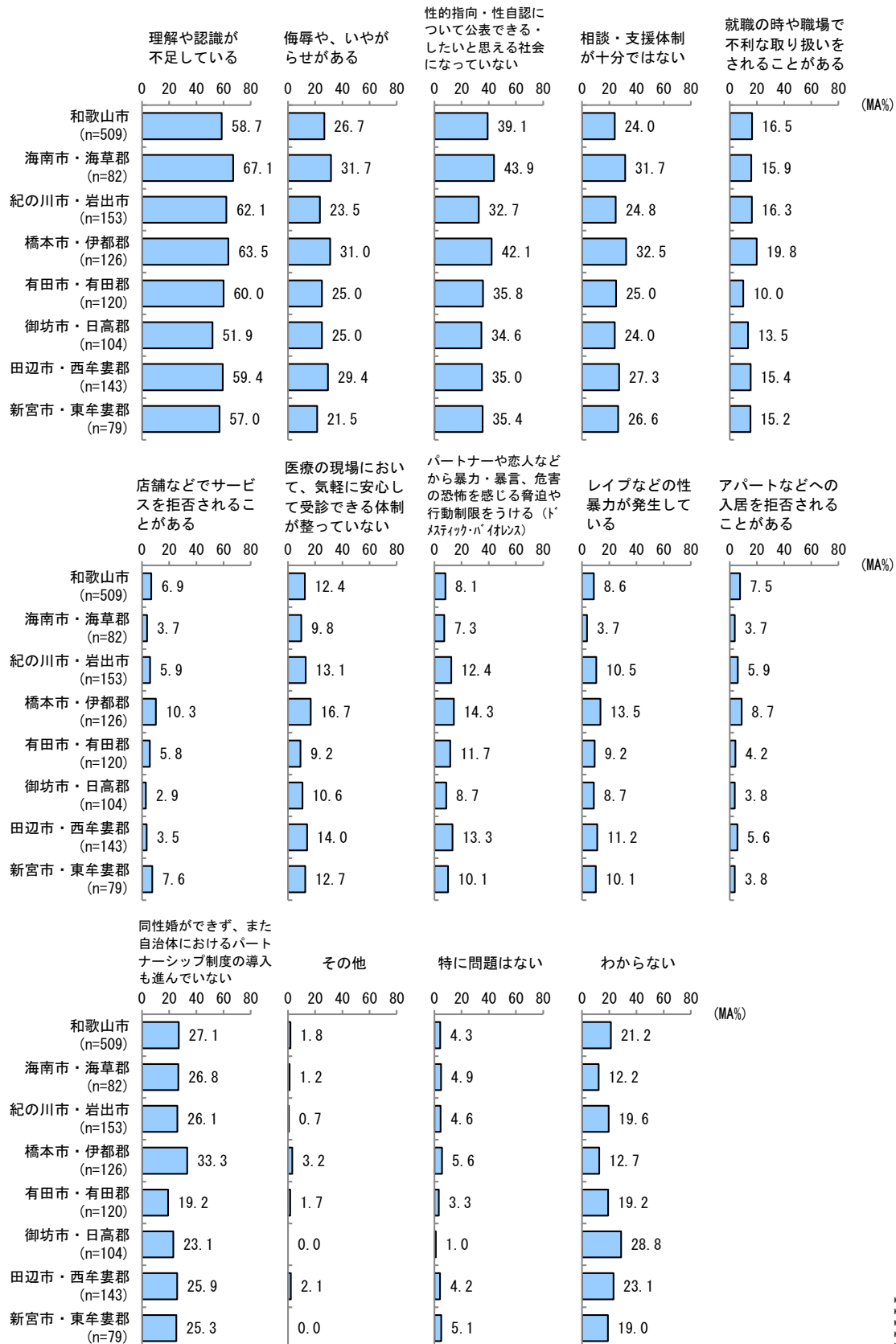
職業別でみると、「理解や認識が不足している」、「侮辱や、いやがらせがある」、「就職の時や職場で不利な取り扱いをされることがある」では、公務員が最も高い割合となっています。





## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「理解や認識が不足している」、「侮辱や、いやがらせがある」、「性的指向・性自認について公表できる・したいと思える社会になっていない」では海南市・海草郡が最も割合が高いですが、それ以外の項目では橋本市・伊都郡で最も高くなっています。

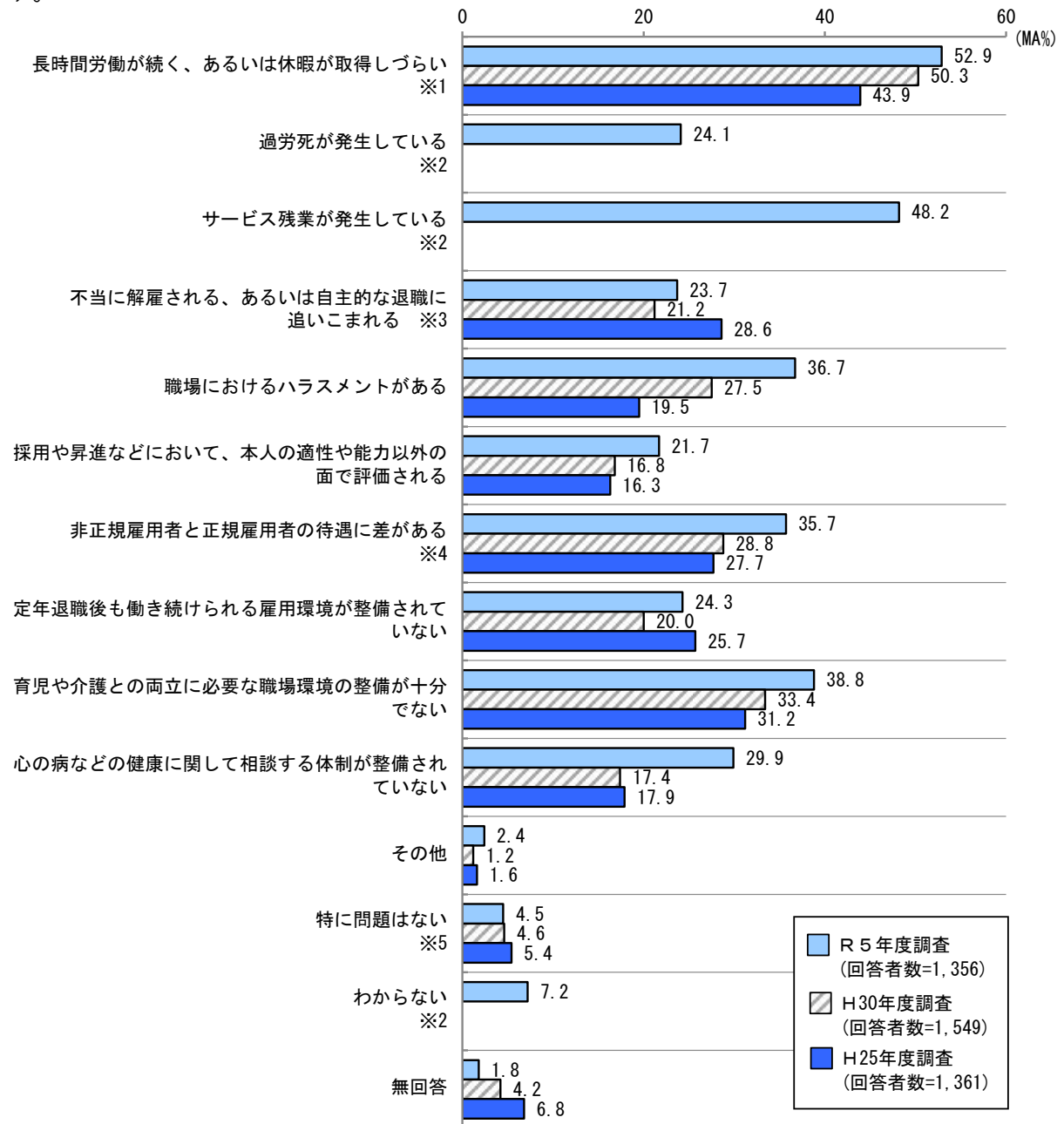


## 14. 働く人に関する事柄で、問題だと思うこと

問16 働く人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか（〇はいくつでも）

「長時間労働が続く、あるいは休暇が取得しづらい」の割合が52.9%で最も多く、次いで「サービス残業が発生している」が48.2%、「育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でない」が38.8%となっています。

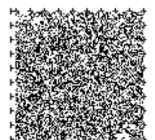
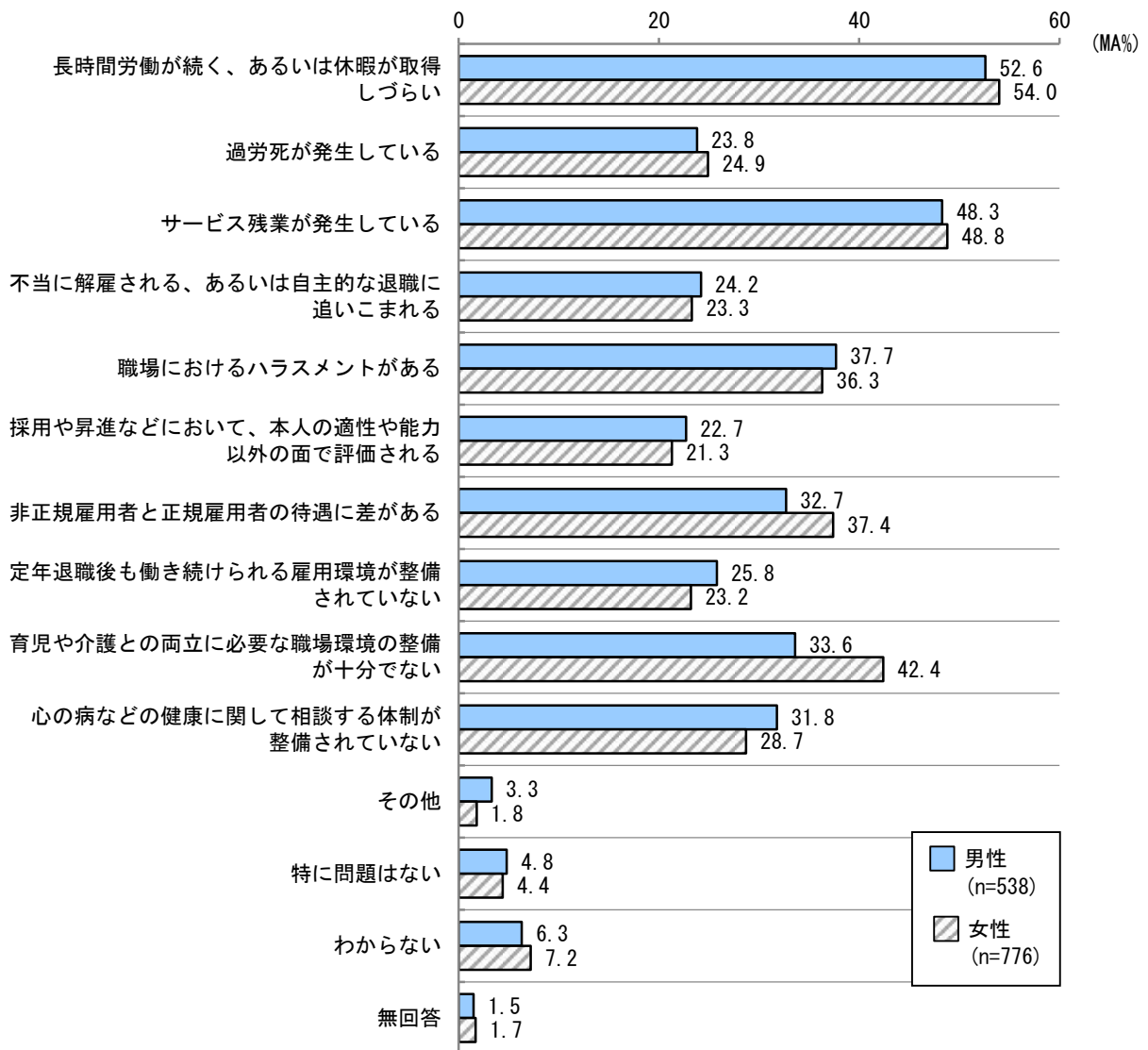
今回の調査からいくつでも選択可としたため、平成30年度調査に比べ、「心の病などの健康に関して相談する体制が整備されていない」（29.9%）の割合が12.5ポイント増加しています。



- ※1 H30年度調査までは「長時間労働や休暇の取りにくさなどから健康で文化的な生活がおくれない」
- ※2 R5年度調査で新たに設けた選択肢
- ※3 H30年度調査までは「不当に解雇されることや自主的な退職に追いこまれる」
- ※4 H30年度調査までは「非正規雇用者と正規雇用者の待遇の差が大きくなっている」
- ※5 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」

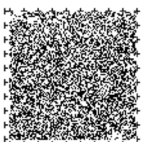
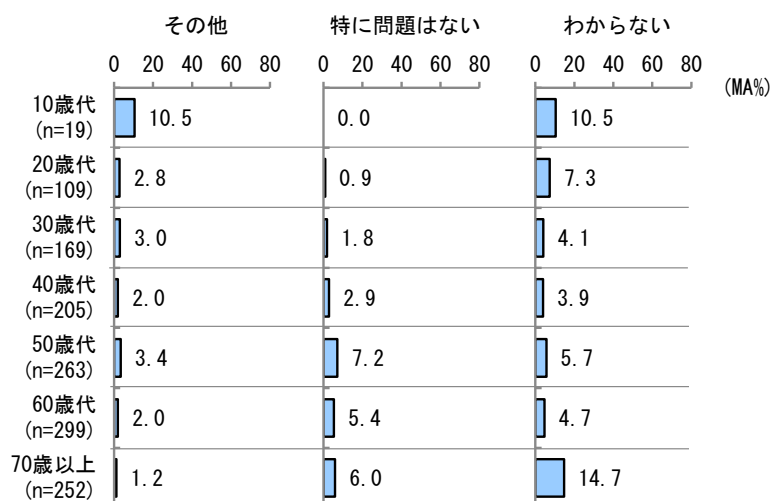
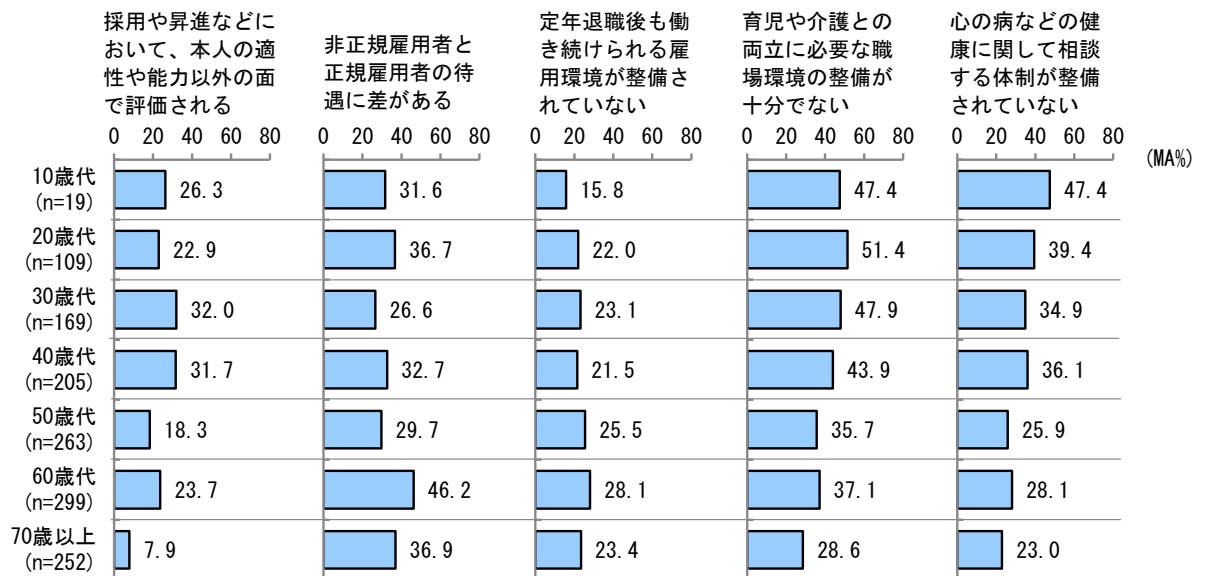
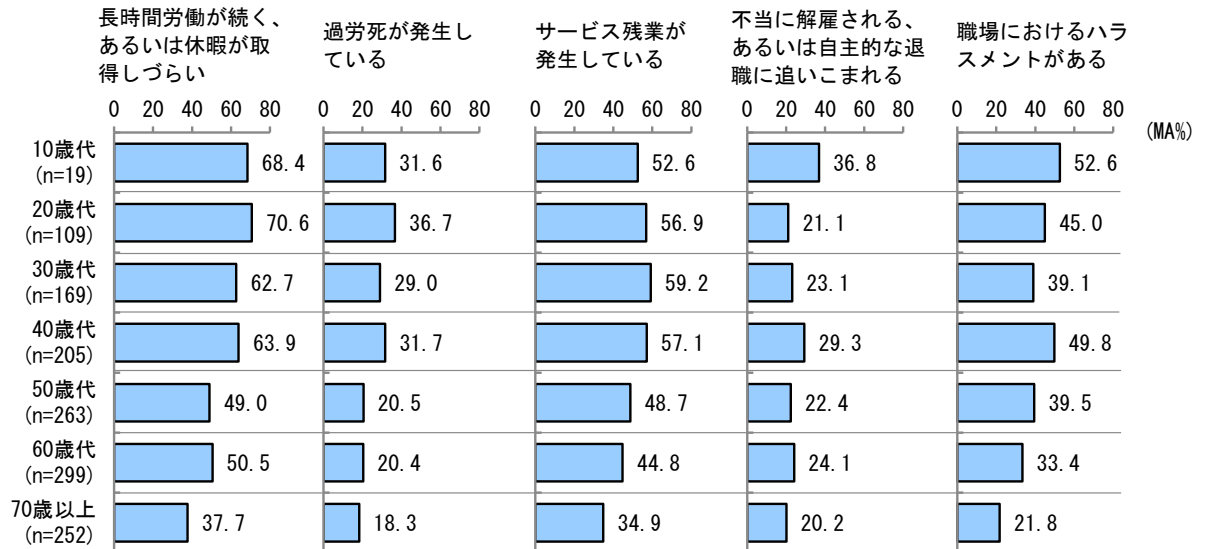
【性別】

性別で見ると、「育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でない」は男性（33.6%）より女性（42.4%）のほうが8.8ポイント高くなっています。



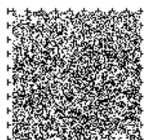
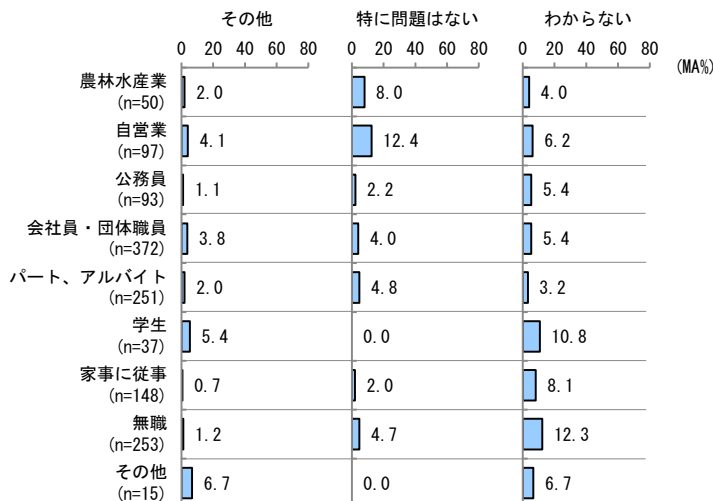
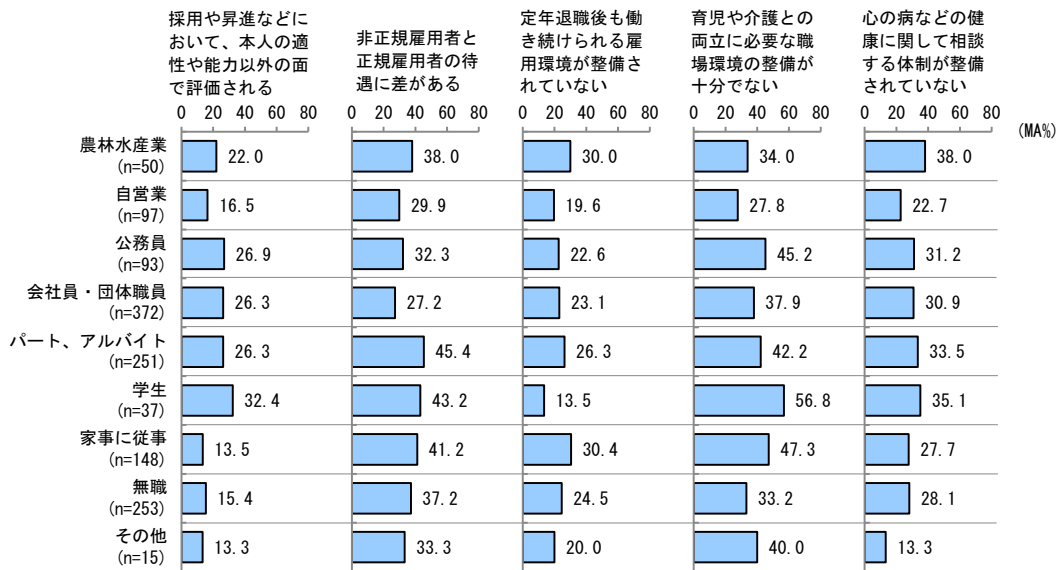
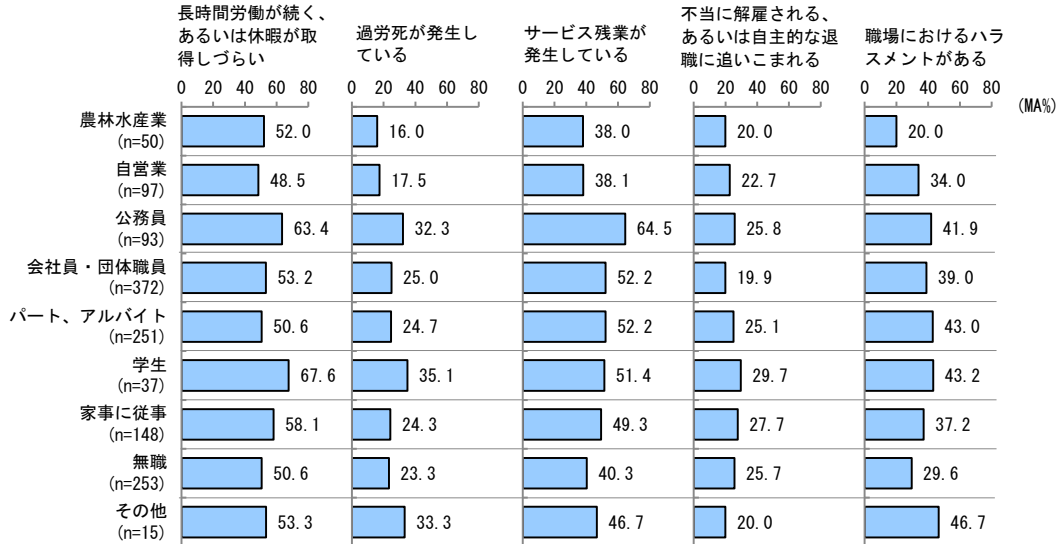
## 【年齢別】

年齢別でみると、「長時間労働が続く、あるいは休暇が取得しづらい」、「過労死が発生している」、「育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でない」、「心の病などの健康に関して相談する体制が整備されていない」では、20歳代が最も高い割合となっています。



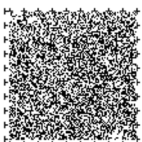
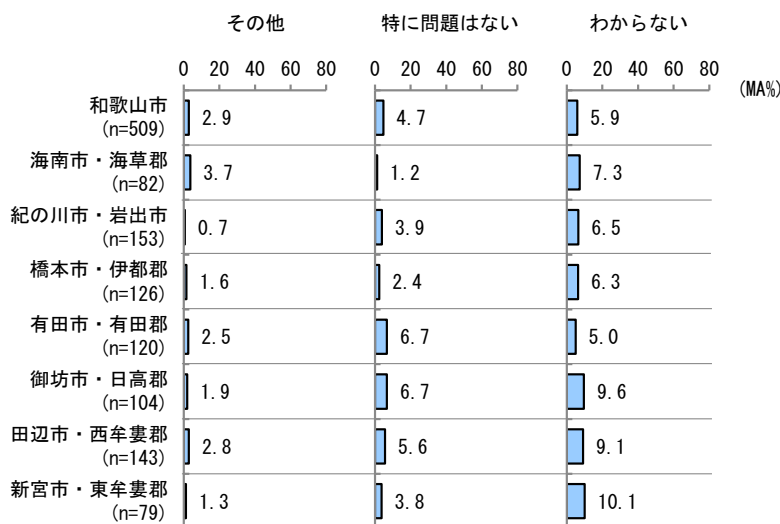
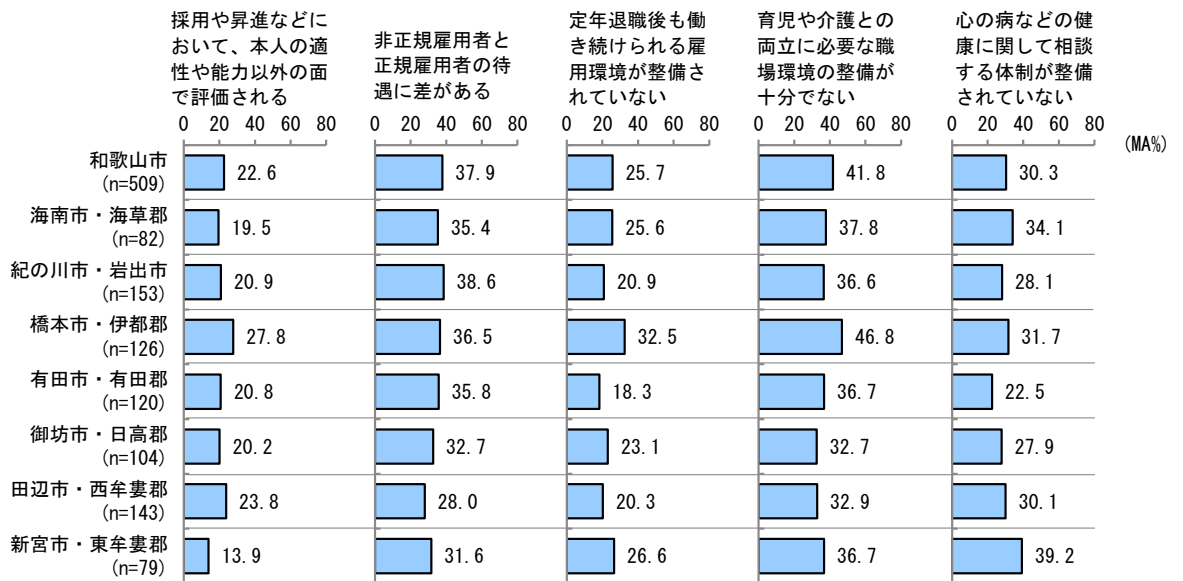
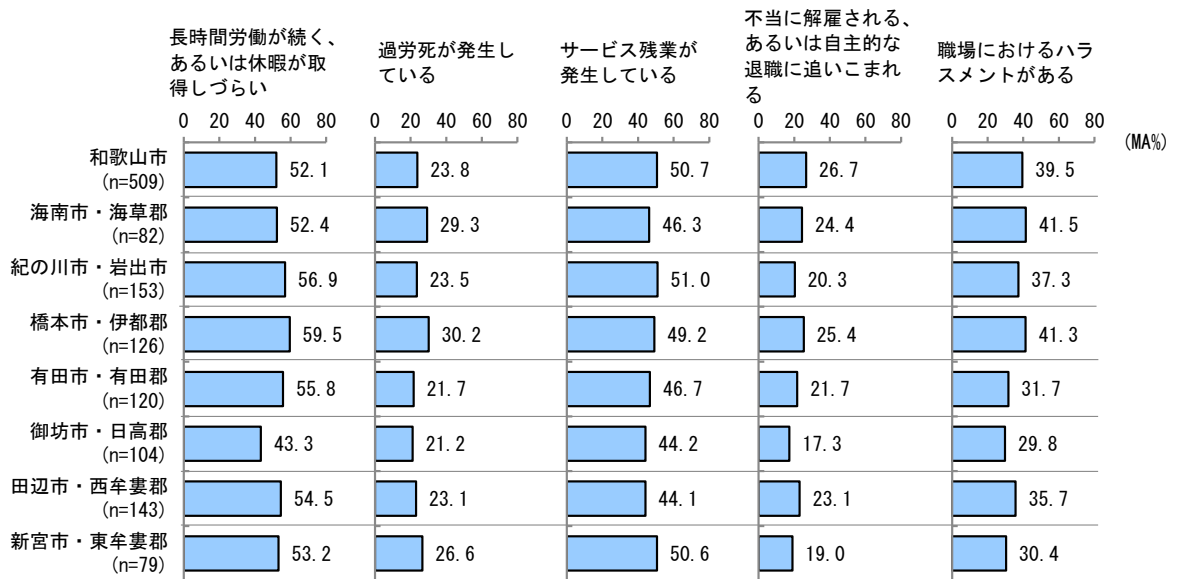
【職業別】

職業別でみると、「長時間労働が続く、あるいは休暇が取得しづらい」の割合は公務員（63.4%）、学生（67.6%）などが高くなっています。また、「非正規雇用者と正規雇用者の待遇に差がある」の割合はパート・アルバイト（45.4%）が最も高く、「定年退職後も働き続けられる雇用環境が整備されていない」の割合は家事に従事（30.4%）が、「心の病などの健康に関して相談する体制が整備されていない」の割合は農林水産業（38.0%）が最も高い割合となっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「長時間労働が続く、あるいは休暇が取得しづらい」では橋本市・伊都郡が59.5%で最も高い割合となっており、「心の病などの健康に関して相談する体制が整備されていない」では新宮市・東牟婁郡が39.2%で最も高い割合となっています。

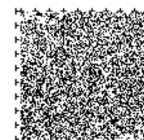
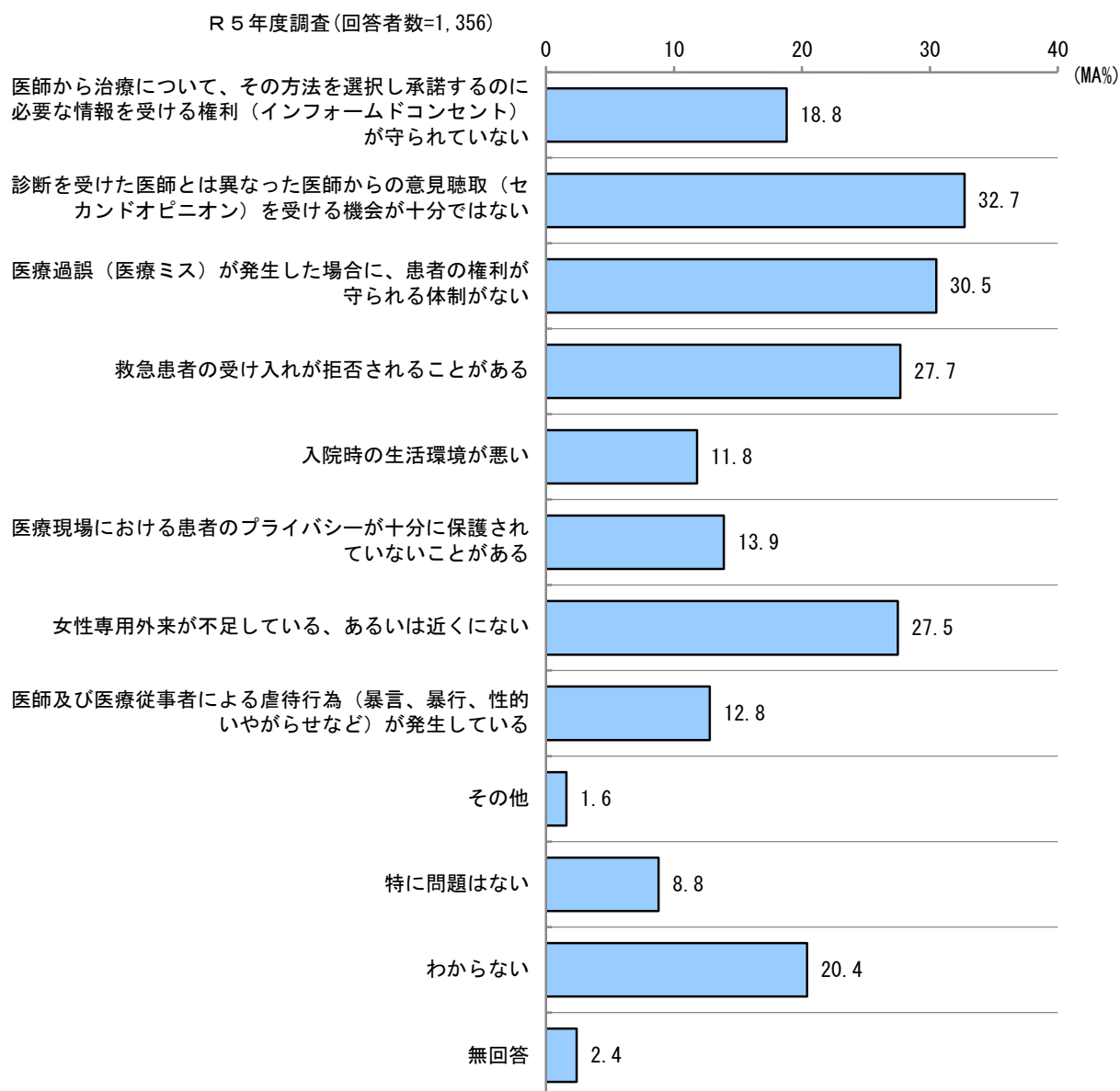


## 15. 医療の現場における患者に関する事柄で、問題だと思うこと

問17 医療の現場における患者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか（〇はいくつでも）

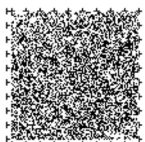
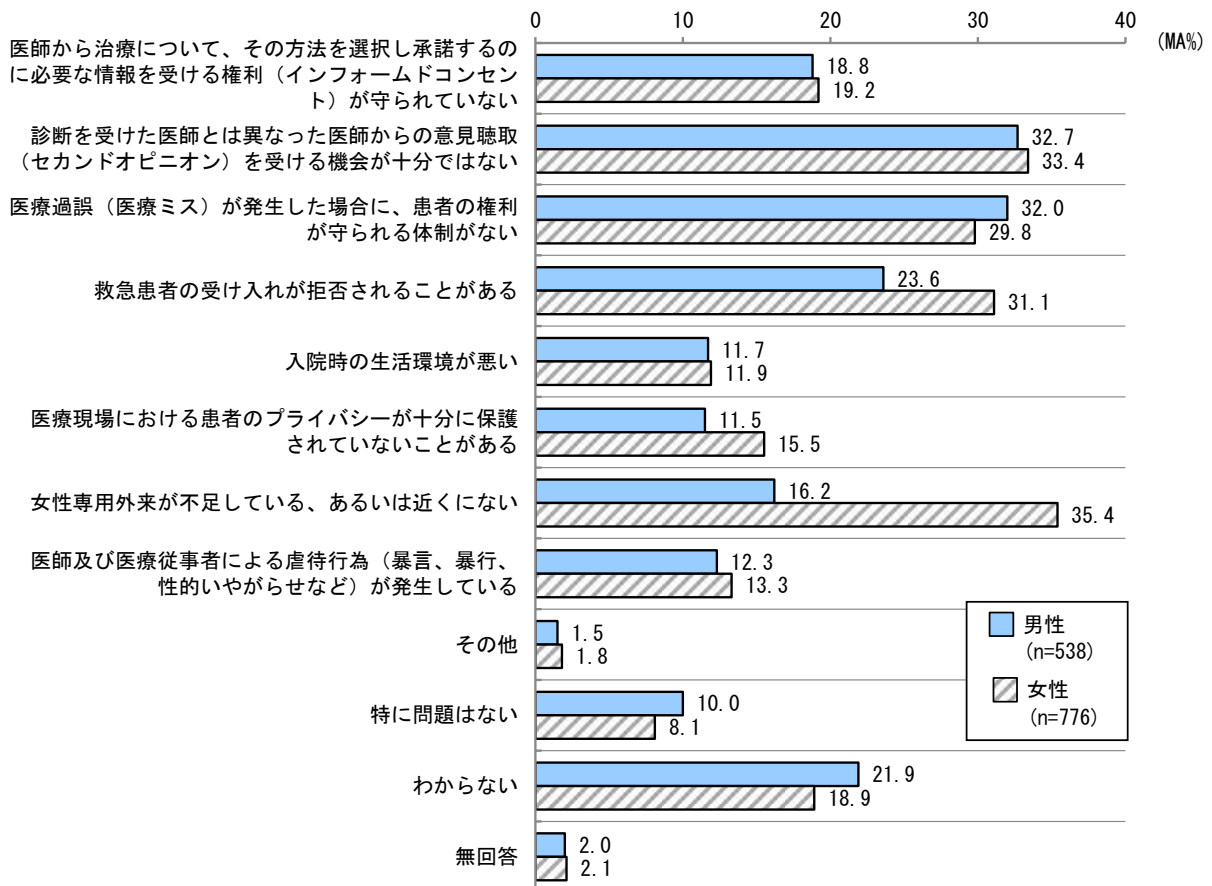
「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）を受ける機会が十分ではない」の割合が32.7%で最も多く、次いで「医療過誤（医療ミス）が発生した場合に、患者の権利が守られる体制がない」が30.5%、「救急患者の受け入れが拒否されることがある」が27.7%、「女性専用外来が不足している、あるいは近くにない」が27.5%となっています。

なお、平成30年度調査では、「医療の現場における患者に関する事柄で、人権上、特に関心があること」を問う設問とし、質問の趣旨が異なるため、今回の調査結果との比較は行っていません。



## 【性別】

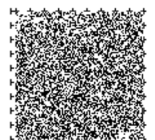
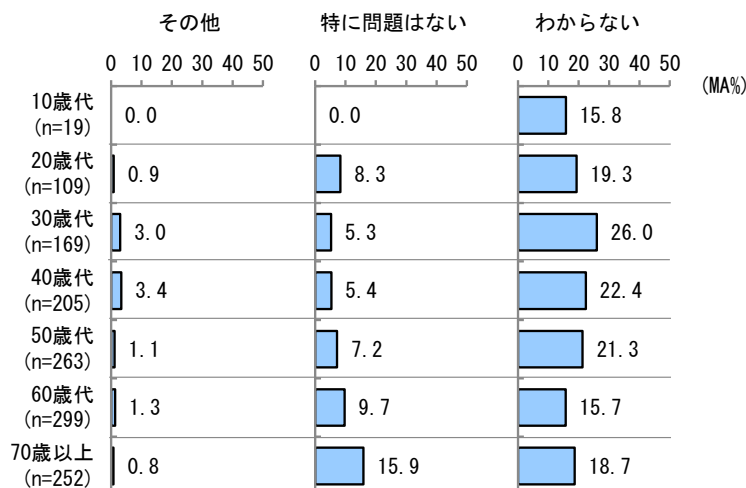
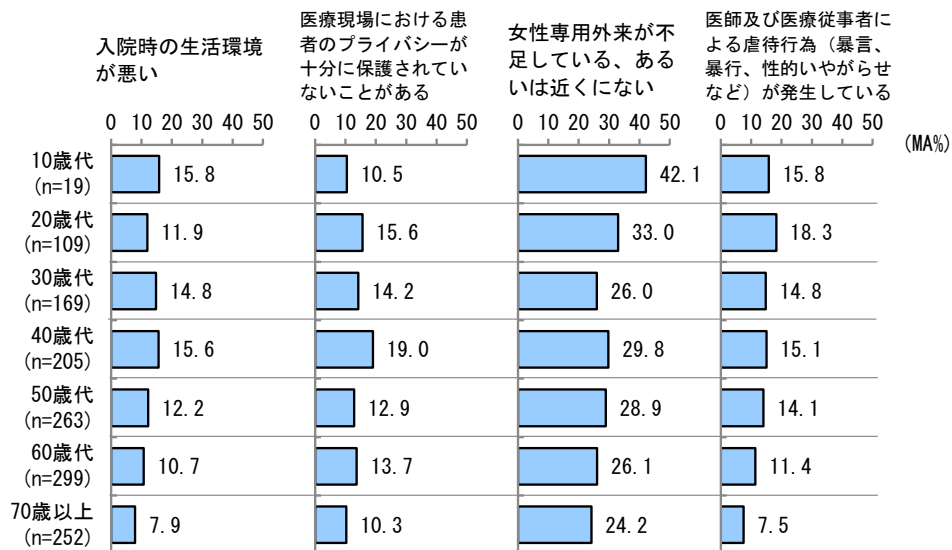
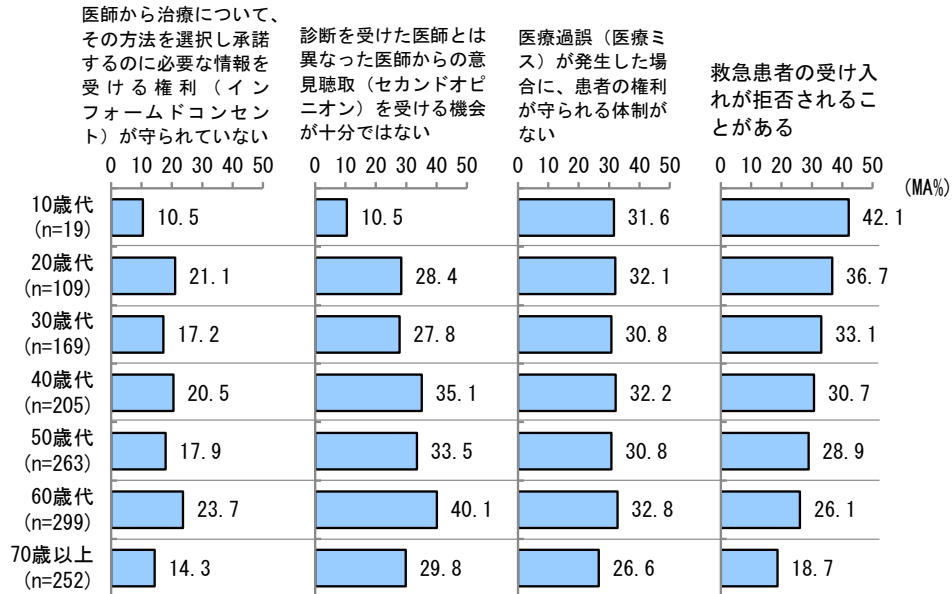
性別でみると、男性は「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）を受ける機会が十分ではない」の割合が32.7%で最も多く、女性では「女性専用外来が不足している、あるいは近くにない」の割合が35.4%で最も多くなっています。また、「救急患者の受け入れが拒否されることがある」の割合は男性（23.6%）より女性（31.1%）のほうが7.5ポイント、「女性専用外来が不足している、あるいは近くにない」の割合は男性（16.2%）より女性のほうが19.2ポイント、それぞれ高くなっています。





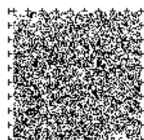
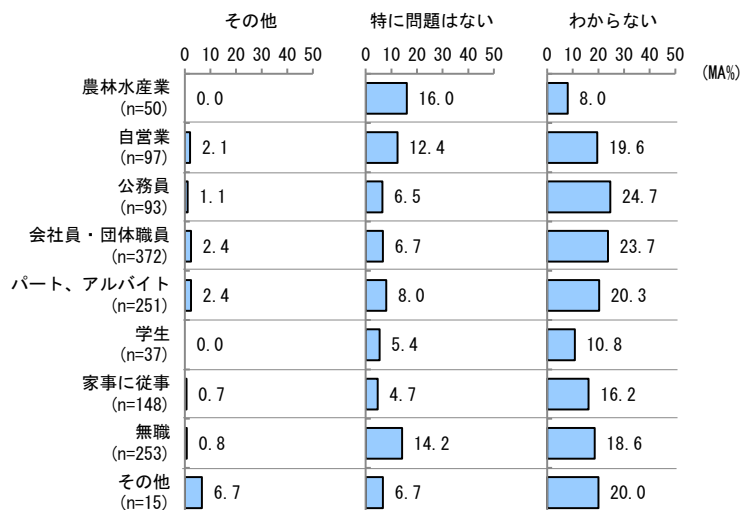
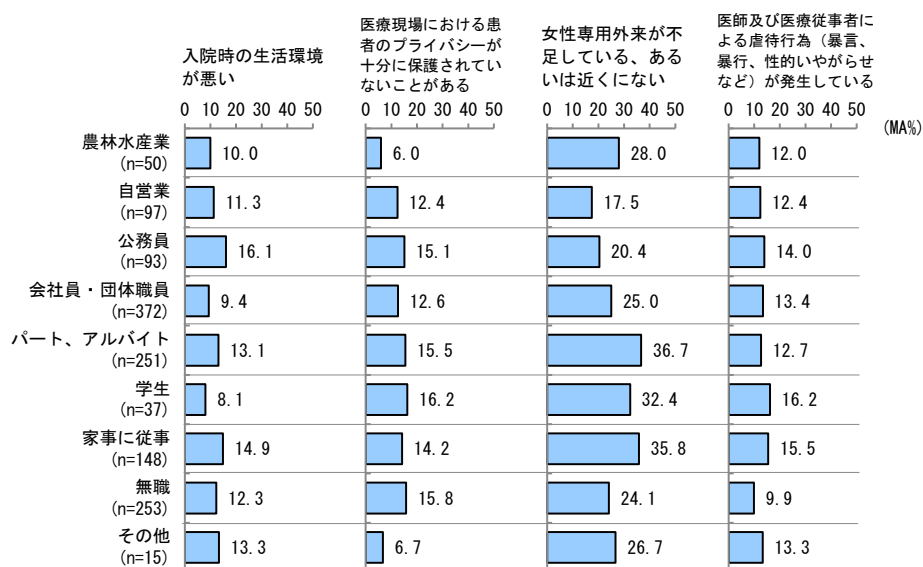
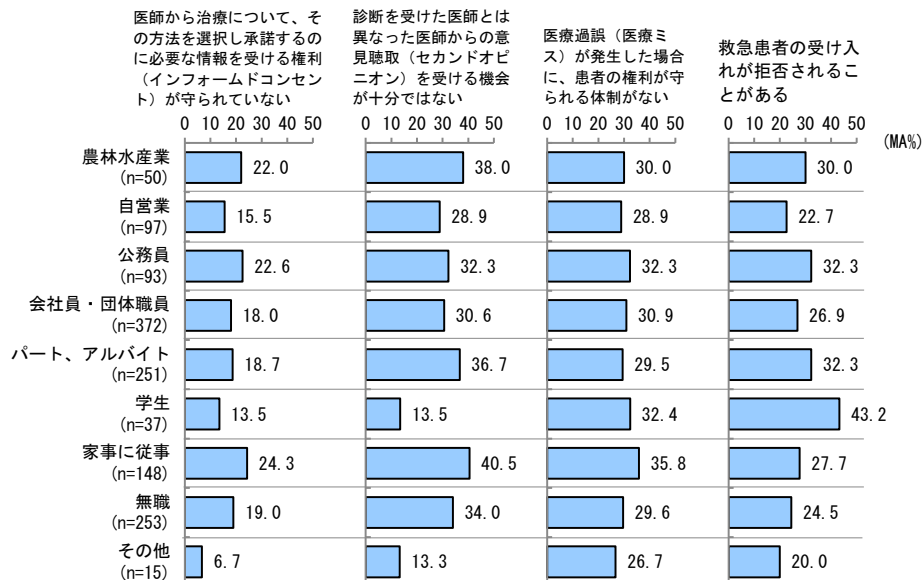
## 【年齢別】

年齢別でみると、「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取(セカンドオピニオン)を受ける機会が十分でない」の割合は60歳代が最も高く、「救急患者の受け入れが拒否されることがある」の割合は若い年代ほど高くなっています。



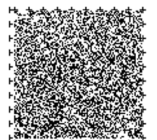
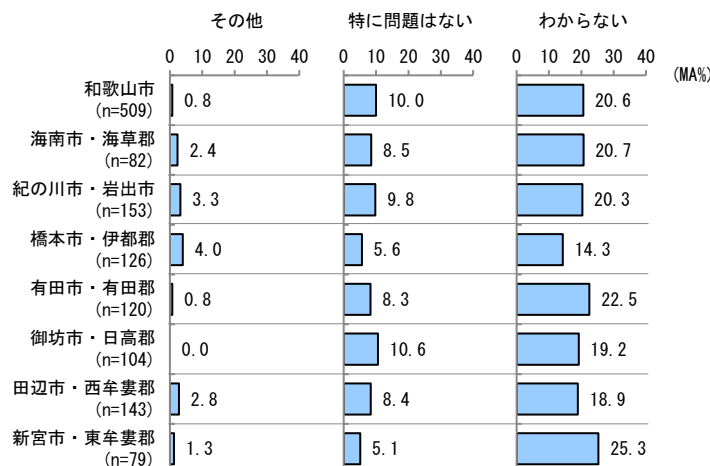
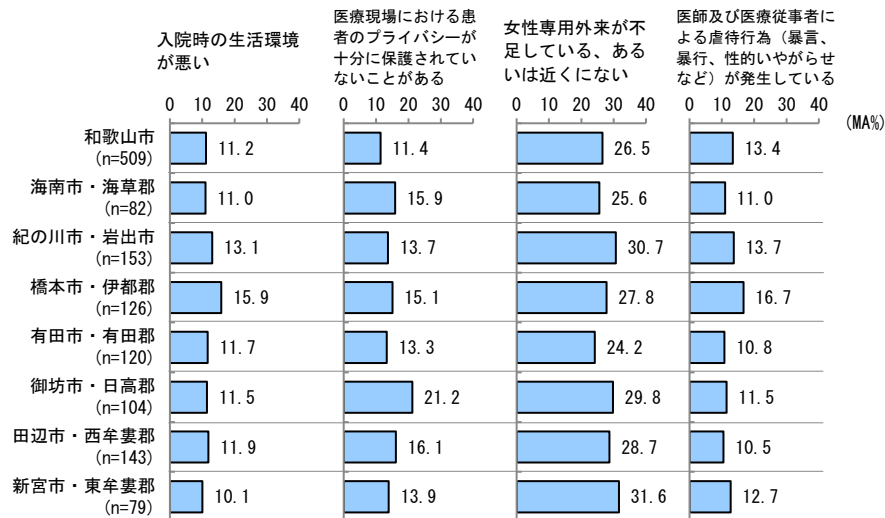
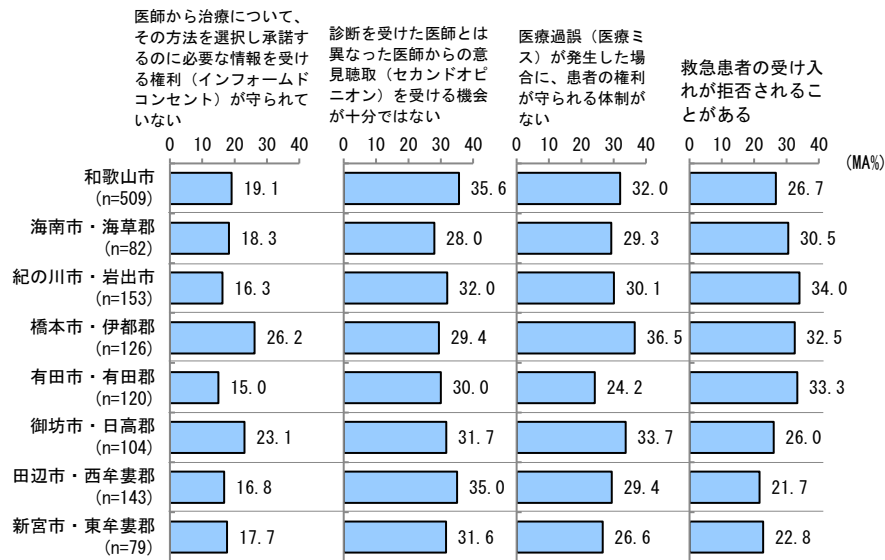
## 【職業別】

職業別でみると、「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取(セカンドオピニオン)を受ける機会が十分でない」の割合は家事に従事が40.5%で最も高くなっています。「救急患者の受け入れが拒否されることがある」の割合は学生が43.2%で最も高く、「女性専用外来が不足している、あるいは近くにない」の割合はパート・アルバイトが36.7%で最も高くなっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取(セカンドオピニオン)を受ける機会が十分でない」の割合は和歌山市が35.6%で最も高くなっています。また、「医師から治療について、その方法を選択し承諾するのに必要な情報を受ける権利(インフォームドコンセント)が守られていない」、「医療過誤(医療ミス)が発生した場合に、患者の権利が守られる体制がない」、「救急患者の受け入れが拒否されることがある」では、橋本市・伊都郡で最も高い割合となっています。



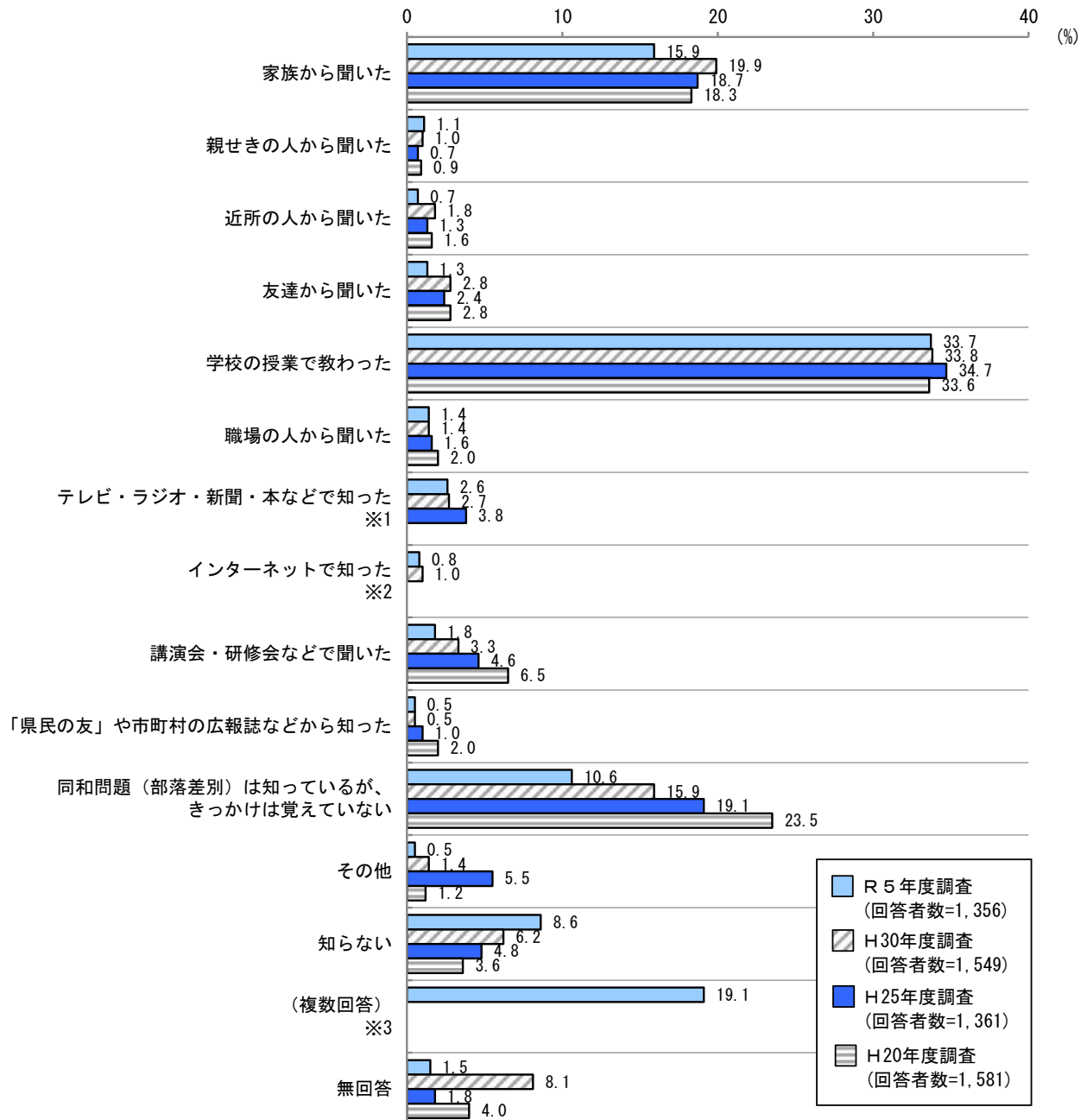
## 16. 同和問題（部落差別）についての考え

### （１）同和問題（部落差別）を知ったきっかけ

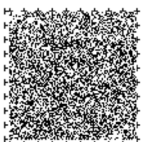
問18 同和問題（部落差別）について、どういうきっかけで知りましたか（○は1つだけ）

「学校の授業で教わった」の割合が33.7%で最も多く、次いで「家族から聞いた」が15.9%、「同和問題（部落差別）は知っているが、きっかけは覚えていない」が10.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「同和問題（部落差別）は知っているが、きっかけは覚えていない」（10.6%）の割合が5.3ポイント減少しています。

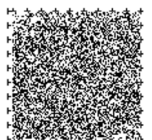
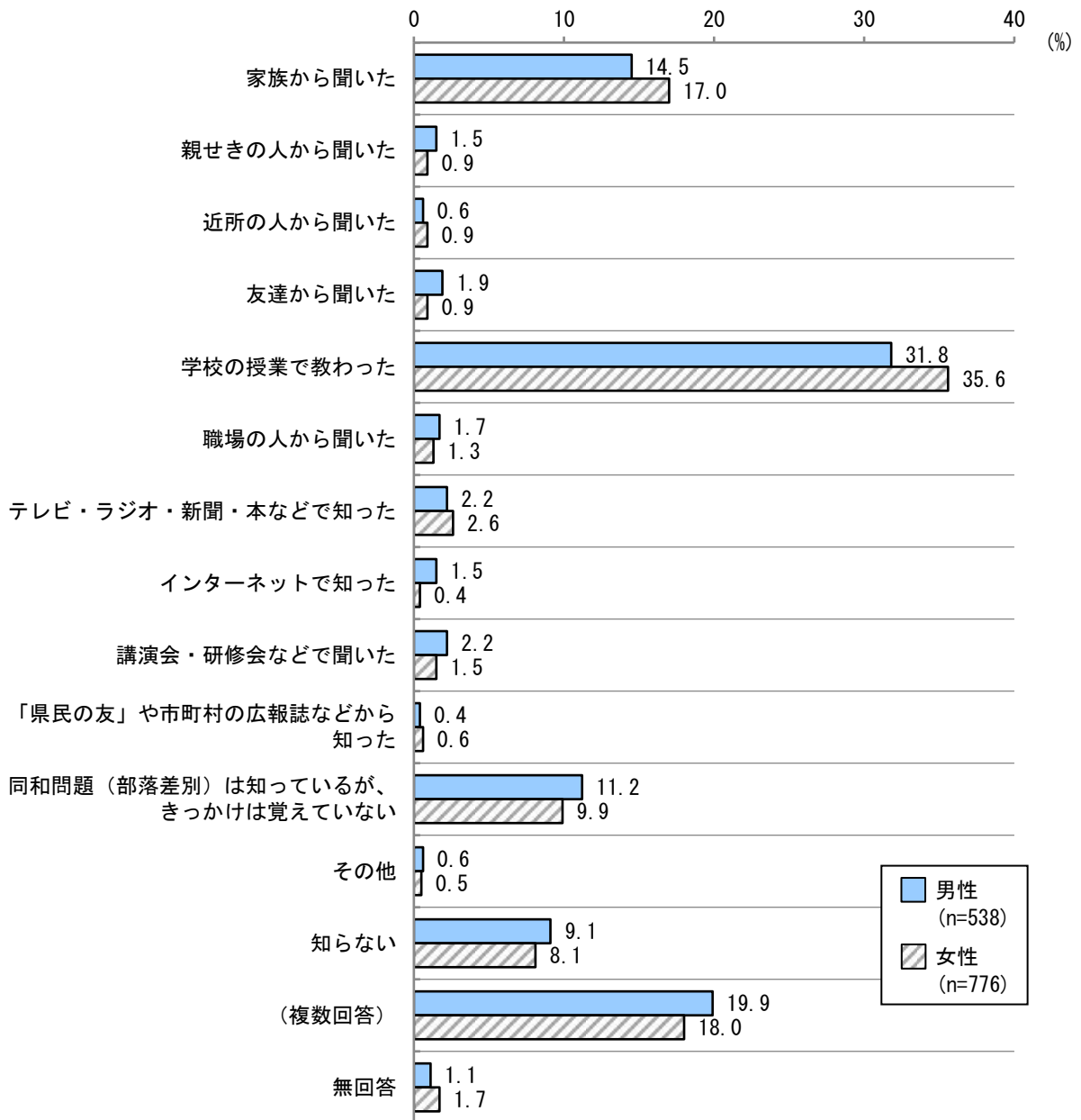


※1 H25年度調査で新たに設けた選択肢  
 ※2 H30年度調査で新たに設けた選択肢  
 ※3 R5年度調査では複数回答した回答者は無効とした



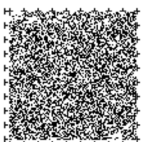
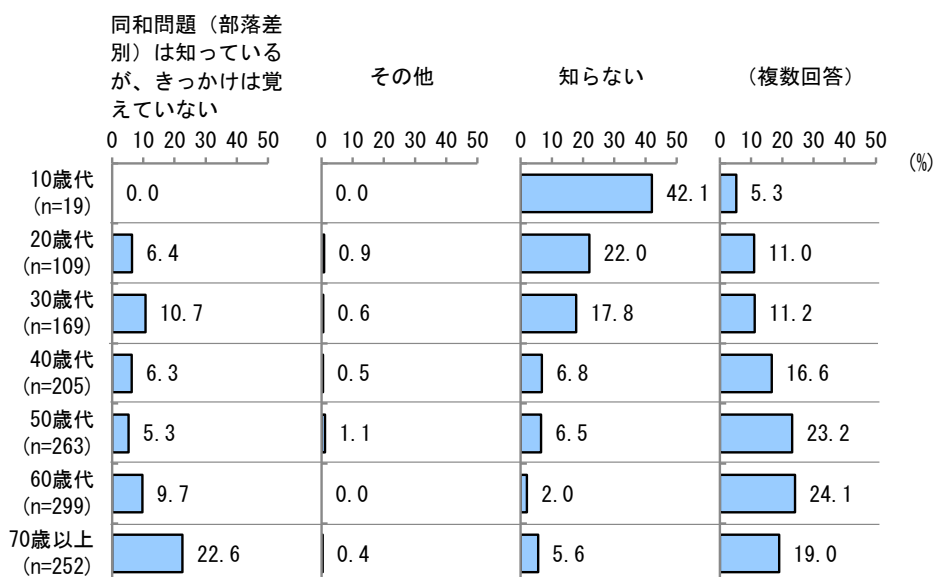
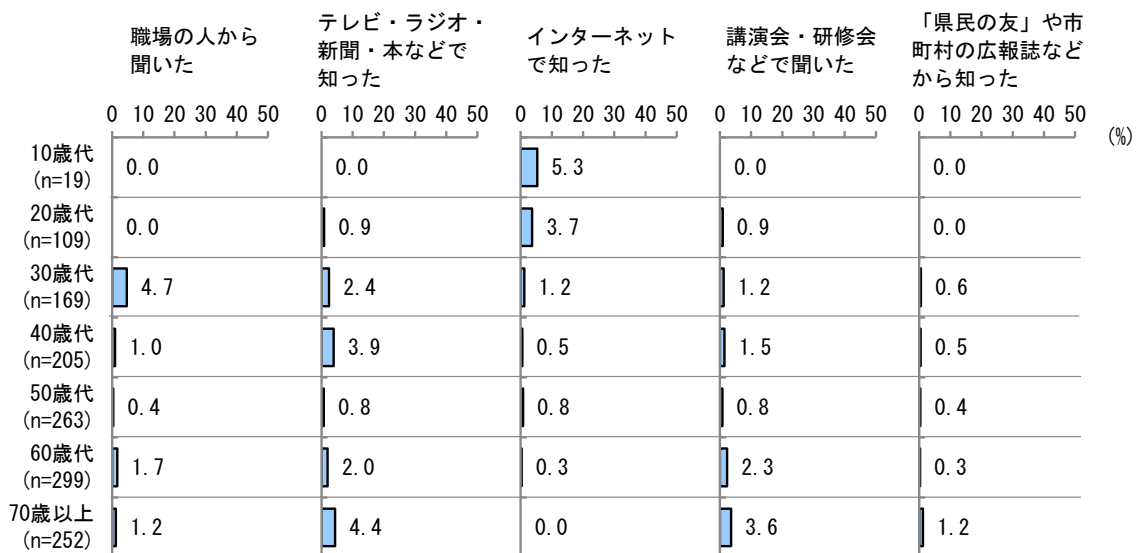
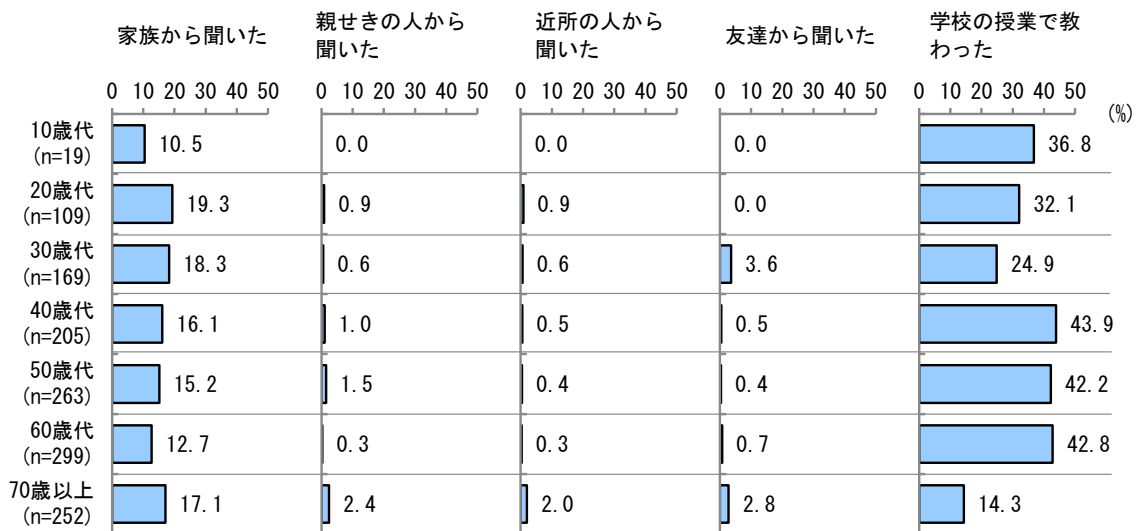
【性別】

性別で見ると、男性、女性とも「学校の授業で教わった」の割合が最も多く、男性（31.8%）より女性（35.6%）のほうが3.8ポイント高くなっています。



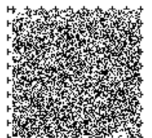
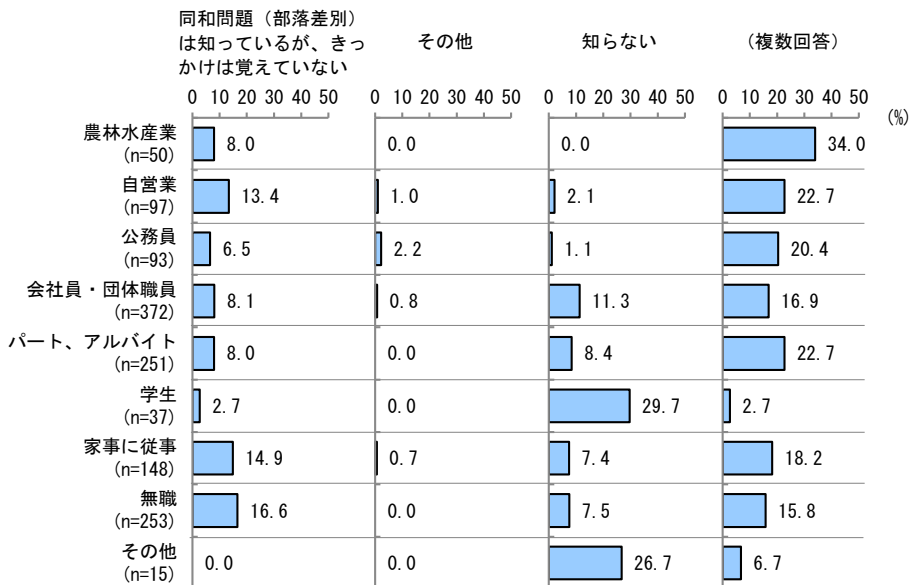
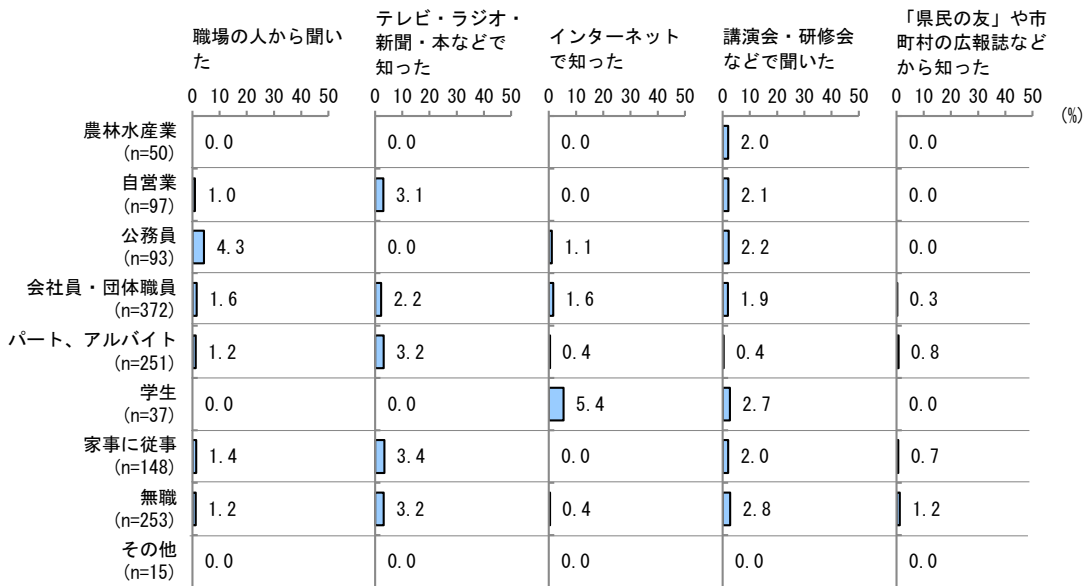
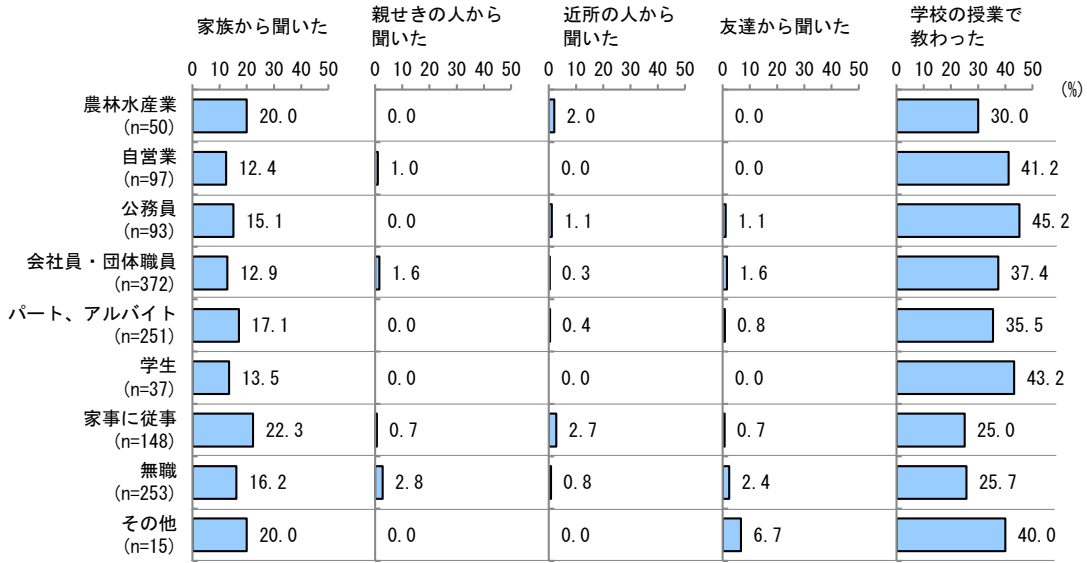
【年齢別】

年齢別でみると、「学校の授業で教わった」の割合は40歳代から60歳代で4割強と高くなっています。



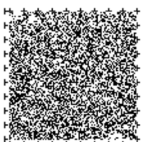
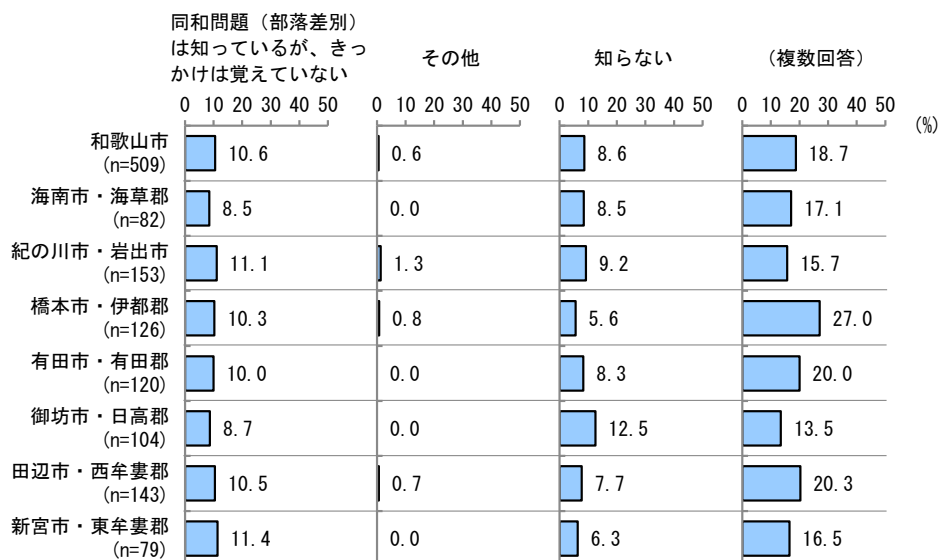
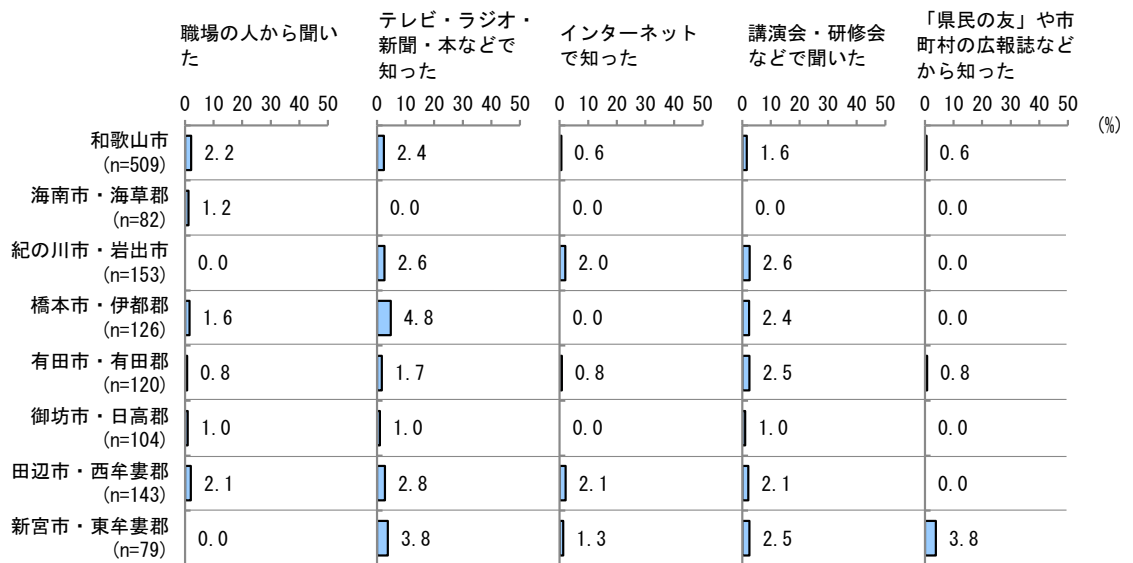
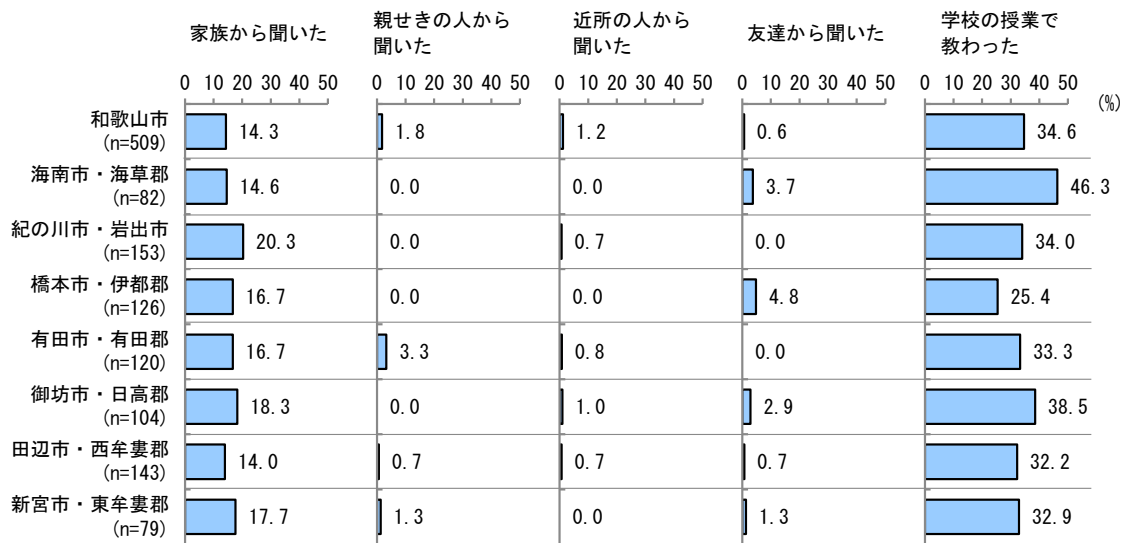
【職業別】

職業別でみると、「学校の授業で教わった」の割合は公務員が45.2%で最も高く、「知らない」の割合は学生が29.7%で最も高くなっています。



【居住地域別】

居住地域別でみると、「学校の授業で教わった」の割合は海南市・海草郡が46.3%で最も高く、次いで御坊市・日高郡が38.5%となっています。



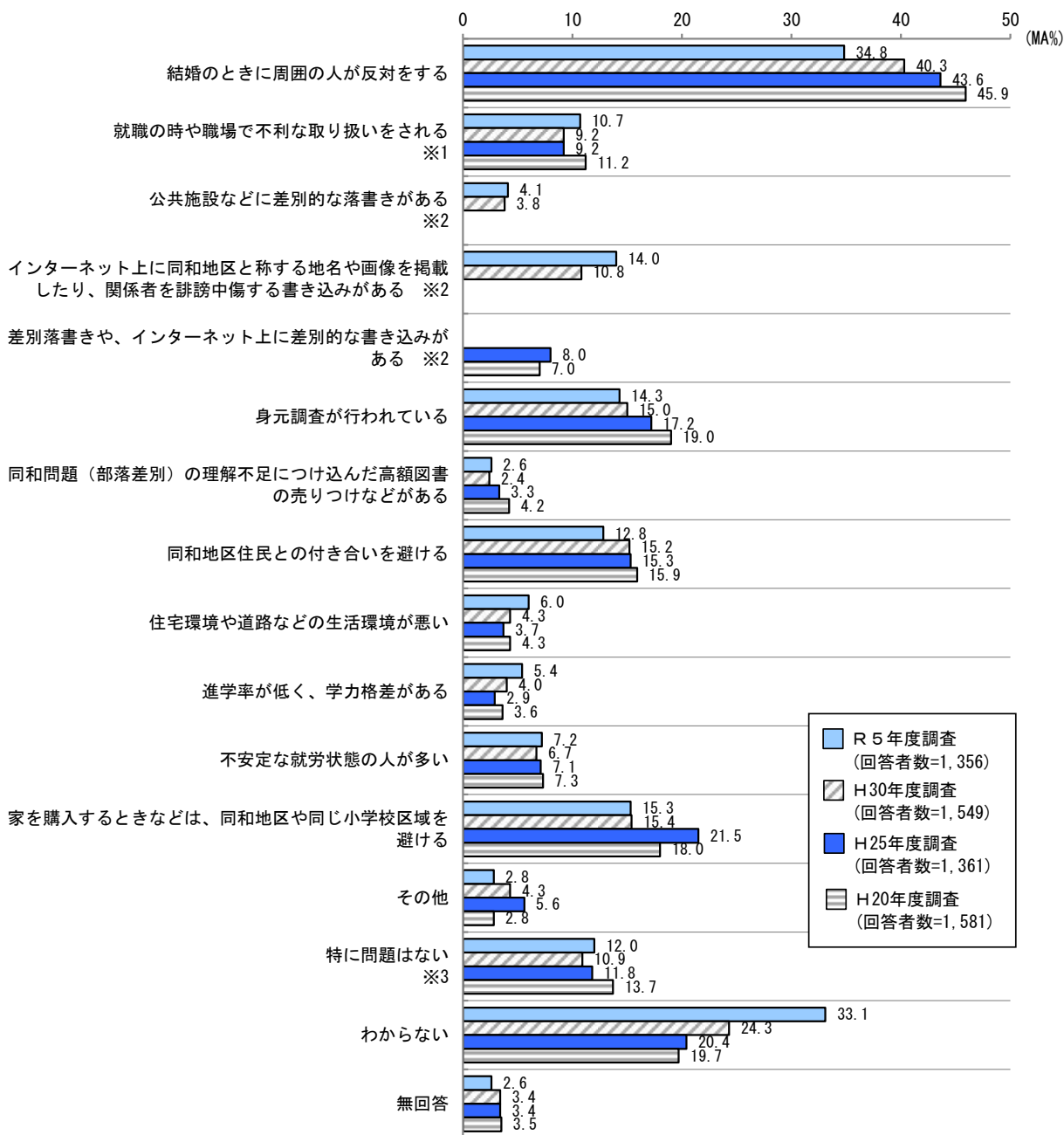


## (2) 同和問題（部落差別）に関して問題だと思うこと

問19 同和問題（部落差別）に関して、現在、どのような問題があると思いますか（〇はいくつでも）

「結婚のときに周囲の人が反対をする」の割合が34.8%で最も多く、次いで「家を購入するときなどは、同和地区や同じ小学校区域を避ける」が15.3%、「身元調査が行われている」が14.3%となっています。

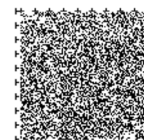
平成30年度調査と比較すると、「結婚のときに周囲の人が反対をする」の割合が5.5ポイント減少しています。



※1 H30年度調査までは「就職の時や職場で不利な取り扱いをする」

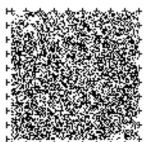
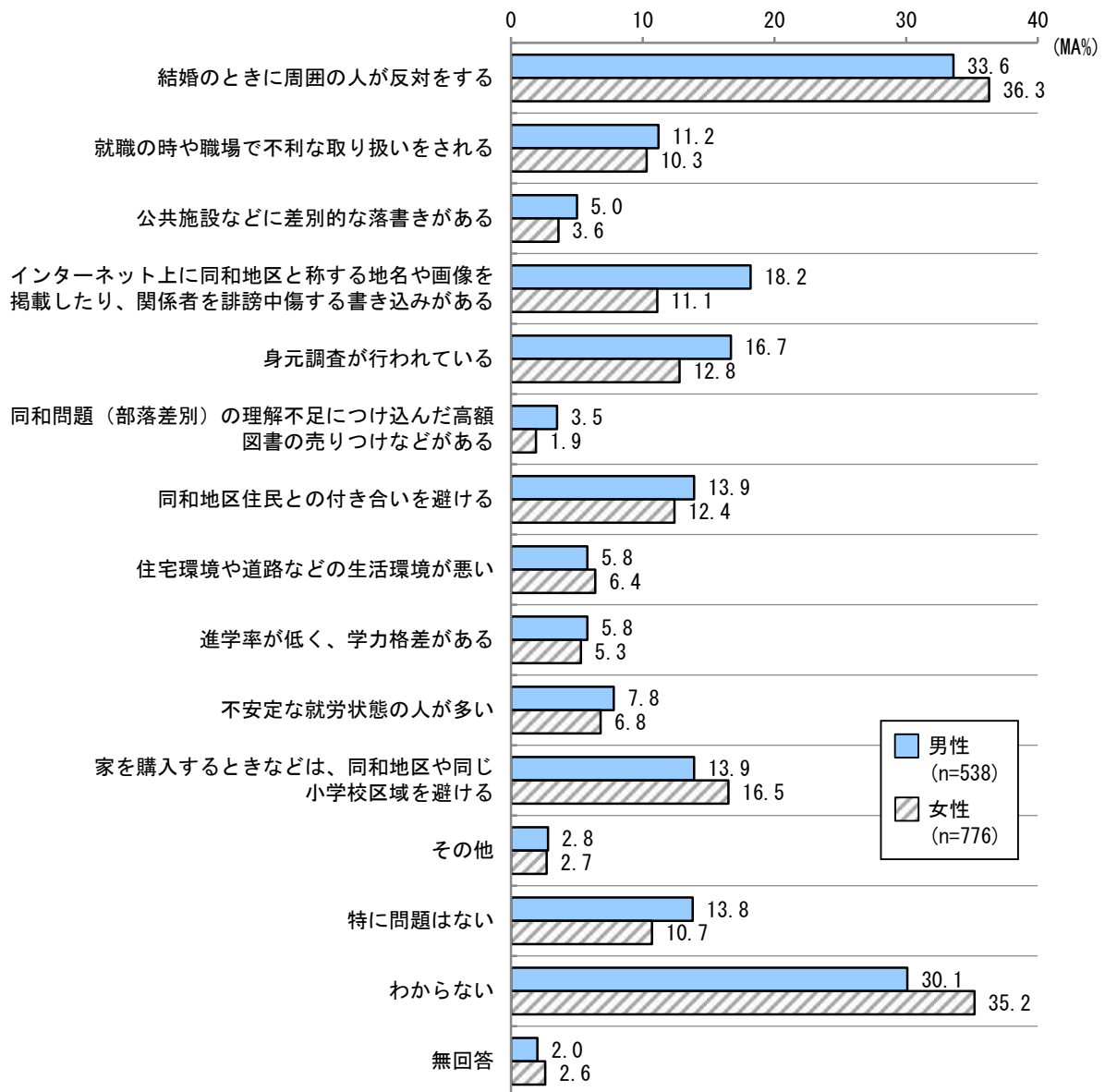
※2 H25年度調査の「差別落書きや、インターネット上に差別的な書き込みがある」は、H30年度調査では「公共施設などに差別的な落書きがある」と「インターネット上に同和地区と称する地名や画像を掲載したり、関係者を誹謗中傷する書き込みがある」に分けて調査した。

※3 H30年度調査までは「特に問題のあるものはない」



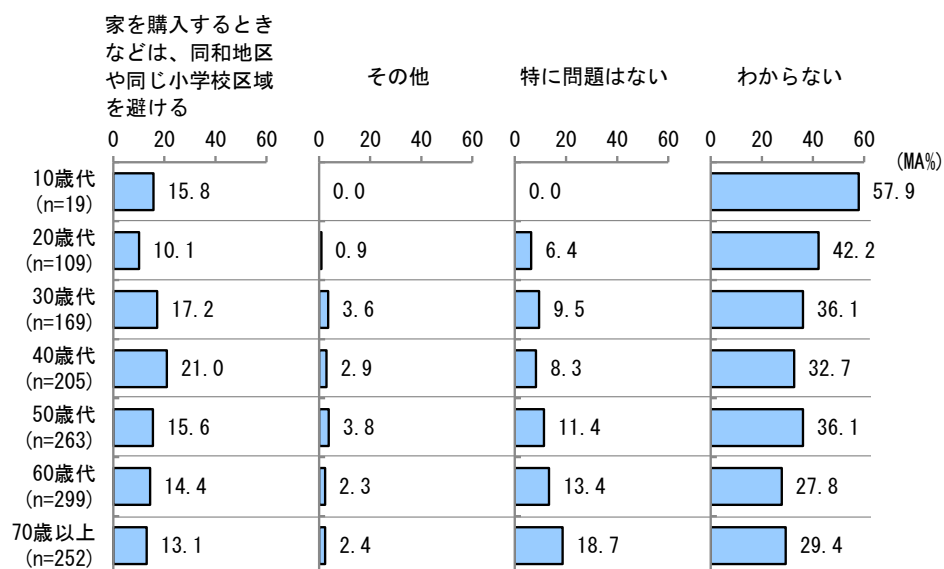
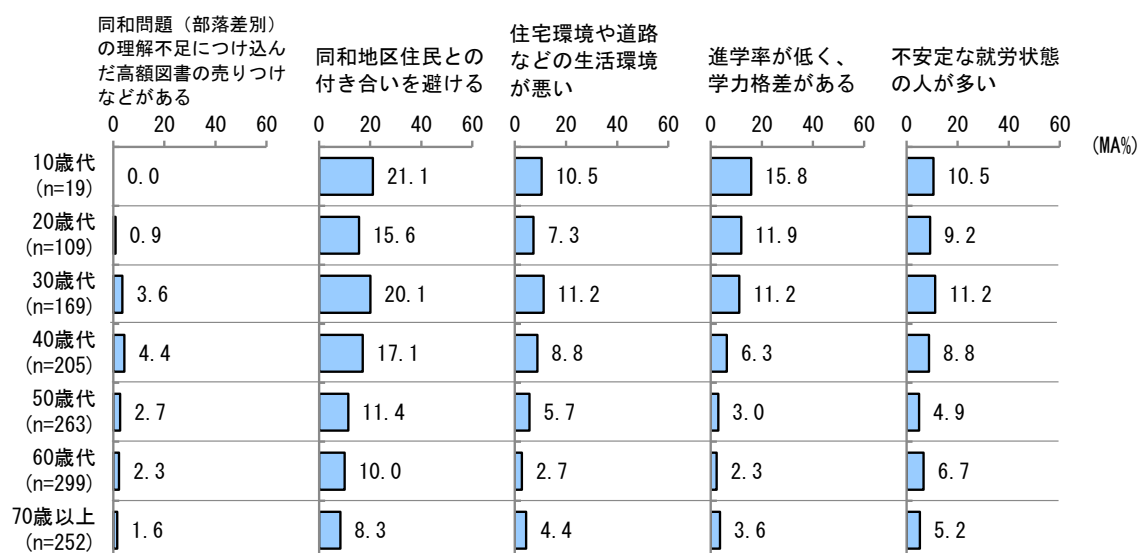
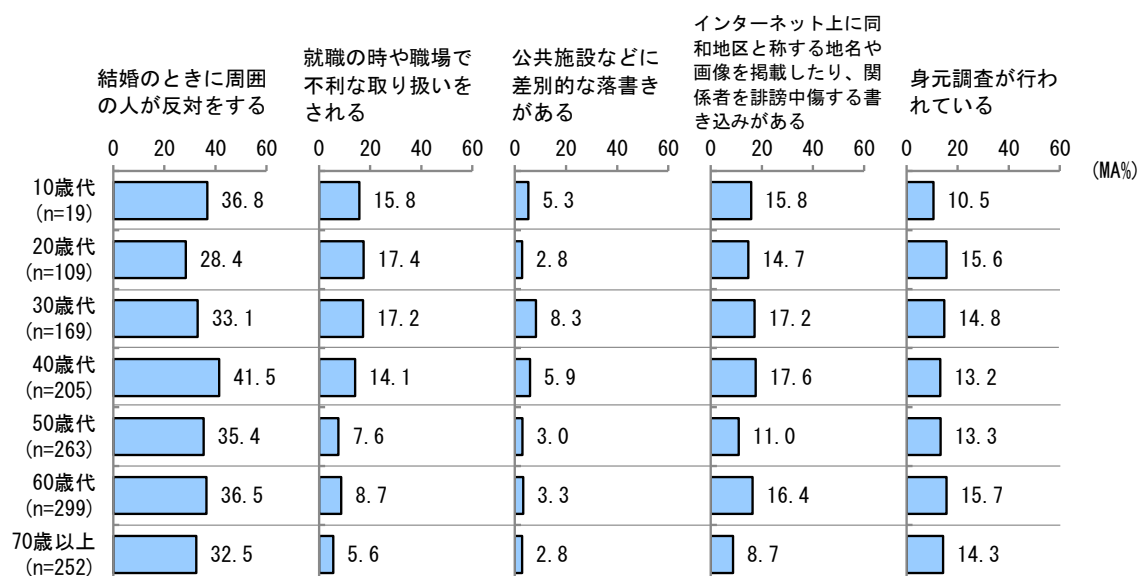
## 【性別】

性別で見ると、「インターネット上に同和地区と称する地名や画像を掲載したり、関係者を誹謗中傷する書き込みがある」の割合は女性（11.1%）より男性（18.2%）のほうが7.1ポイント、「身元調査が行われている」の割合も女性（12.8%）より男性（16.7%）のほうが3.9ポイント、それぞれ高くなっています。



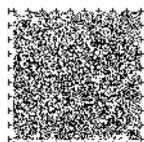
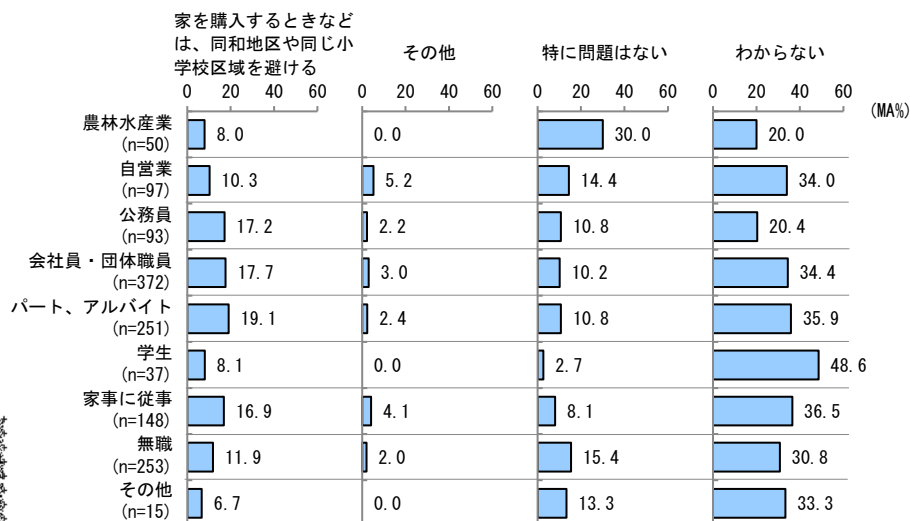
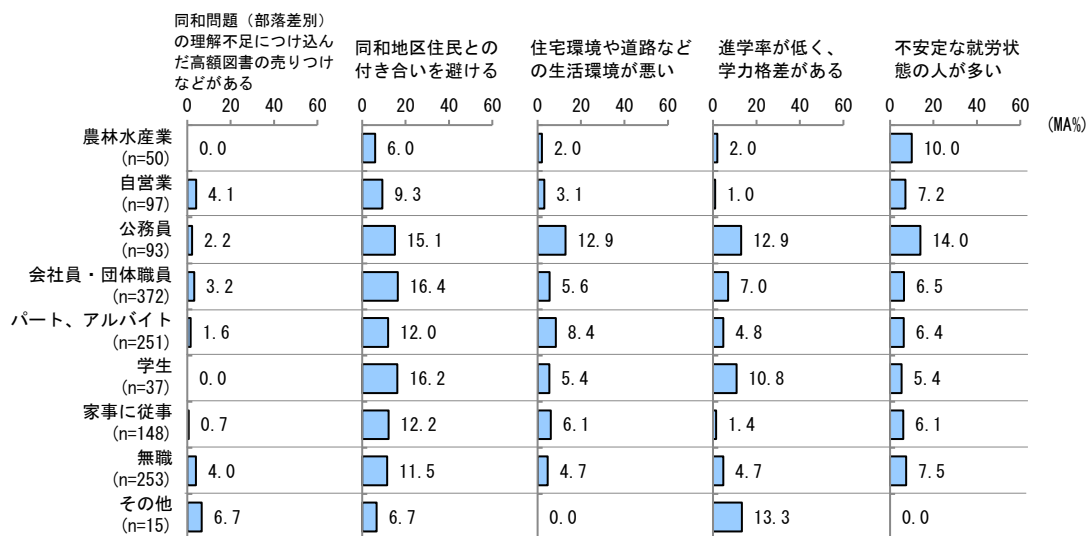
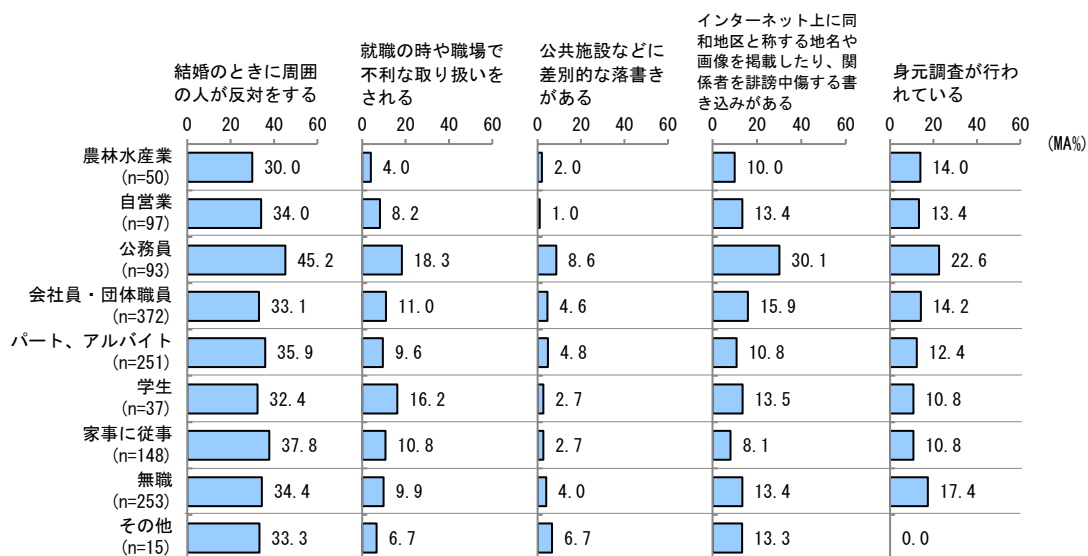
## 【年齢別】

年齢別でみると、「結婚のときに周囲の人が反対をする」、「家を購入するときなどは、同和地区や同じ小学校区域を避ける」の割合は40歳代で最も高くなっています。



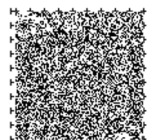
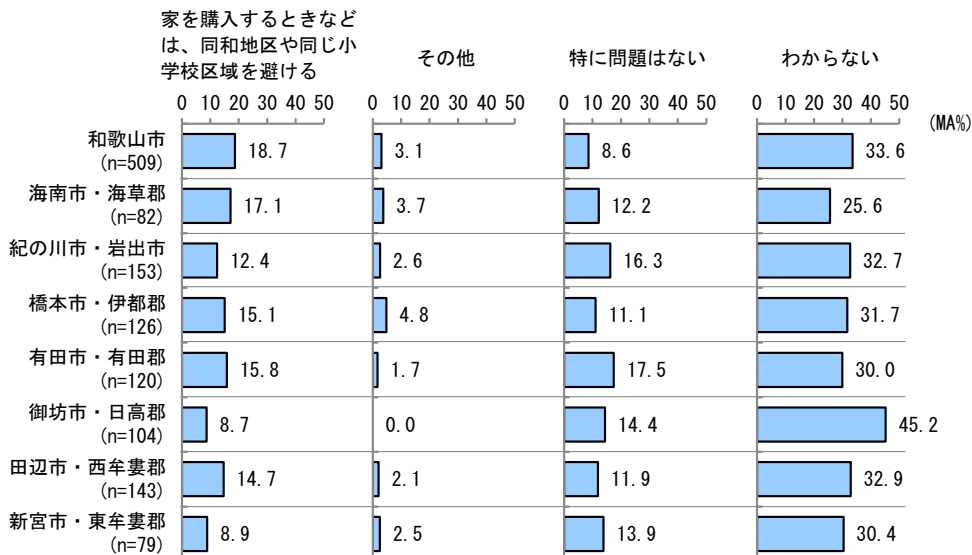
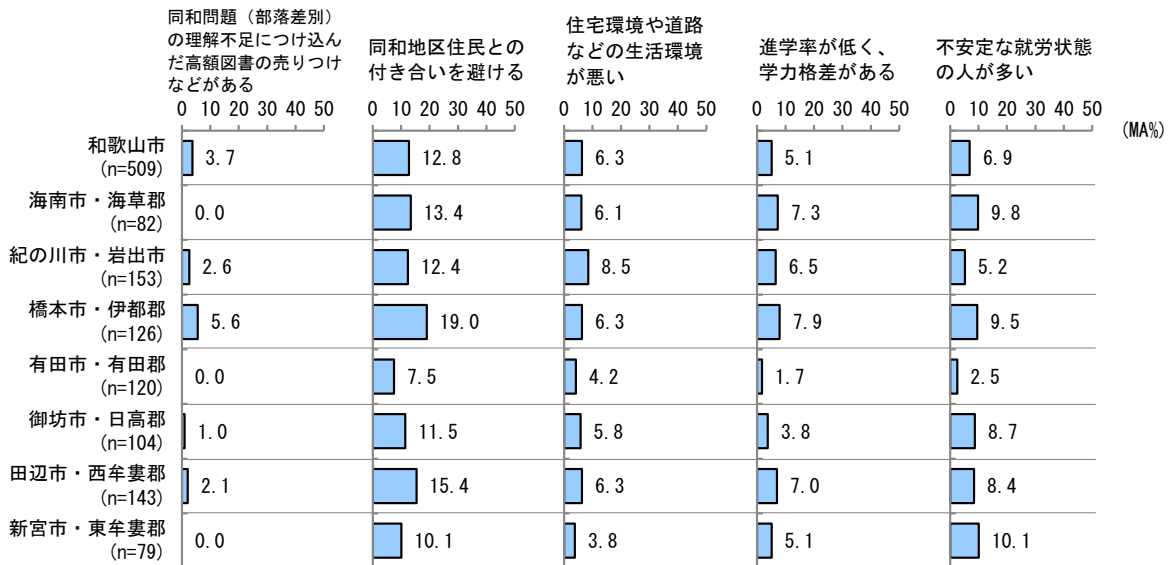
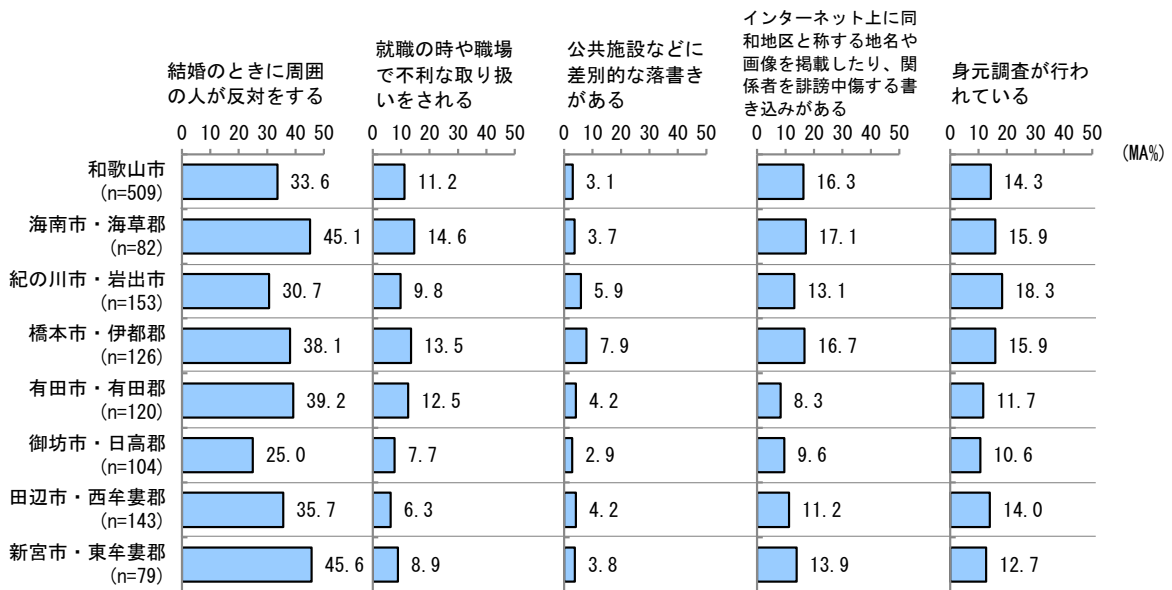
## 【職業別】

職業別でみると、「結婚のときに周囲の人が反対をする」、「就職の時や職場で不利な取り扱いをされる」、「公共施設などに差別的な落書きがある」、「インターネット上に同和地区と称する地名や画像を掲載したり、関係者を誹謗中傷する書き込みがある」、「身元調査が行われている」、「住宅環境や道路などの生活環境が悪い」、「不安定な就労状態の人が多く」では公務員が最も高い割合となっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「結婚のときに周囲の人が反対をする」の割合は新宮市・東牟婁郡が45.6%で最も高く、次いで海南市・海草郡が45.1%となっています。

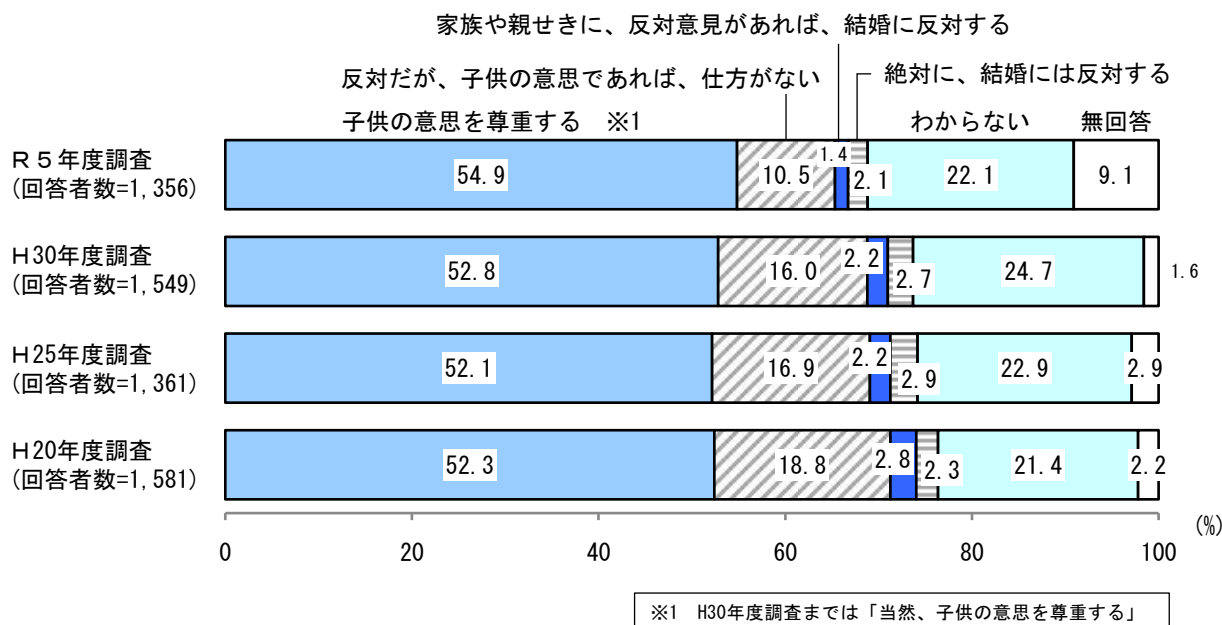


### (3) 子供の結婚相手が同和地区の人だとわかったときの対応

問20 仮に、あなたに子供がおり、あなたの子供が結婚しようとする相手の方が、同和地区の人であるとわかったとき、あなたはどうしますか (○は1つだけ)

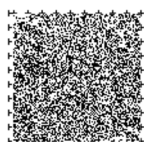
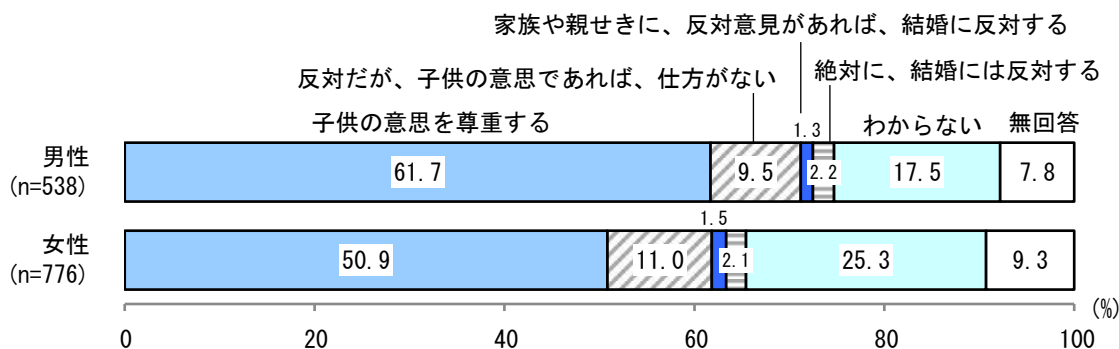
「子供の意思を尊重する」の割合が54.9%で最も多く、次いで「反対だが、子供の意思であれば、仕方がない」が10.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「反対だが、子供の意思であれば、仕方がない」の割合が5.5ポイント減少しています。



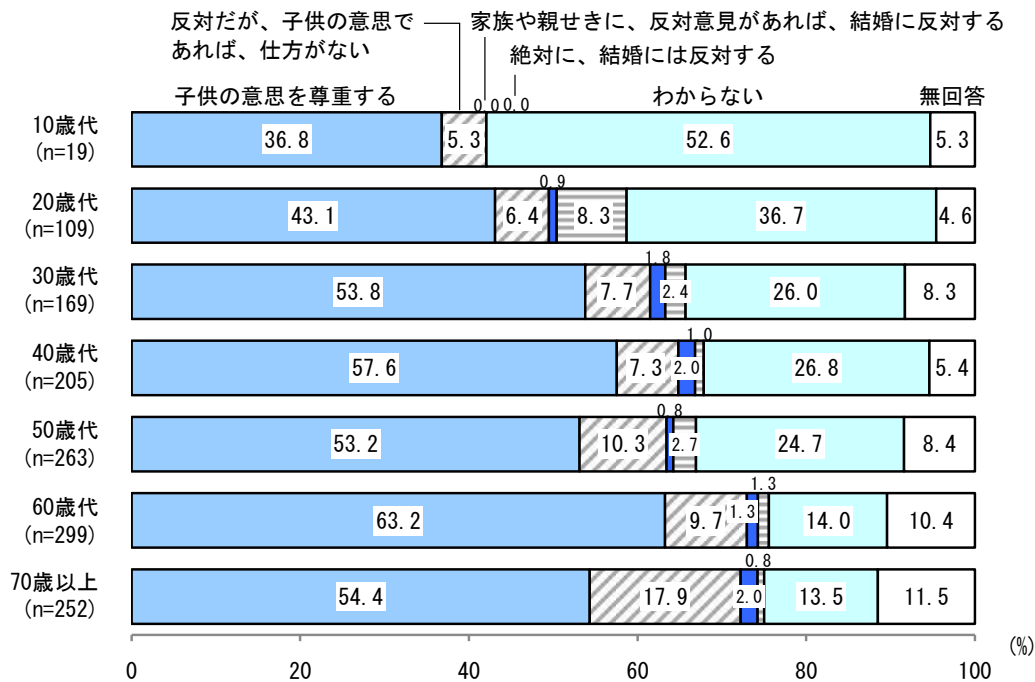
#### 【性別】

性別で見ると、「子供の意思を尊重する」の割合は女性 (50.9%) より男性 (61.7%) のほうが10.8ポイント高くなっています。



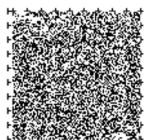
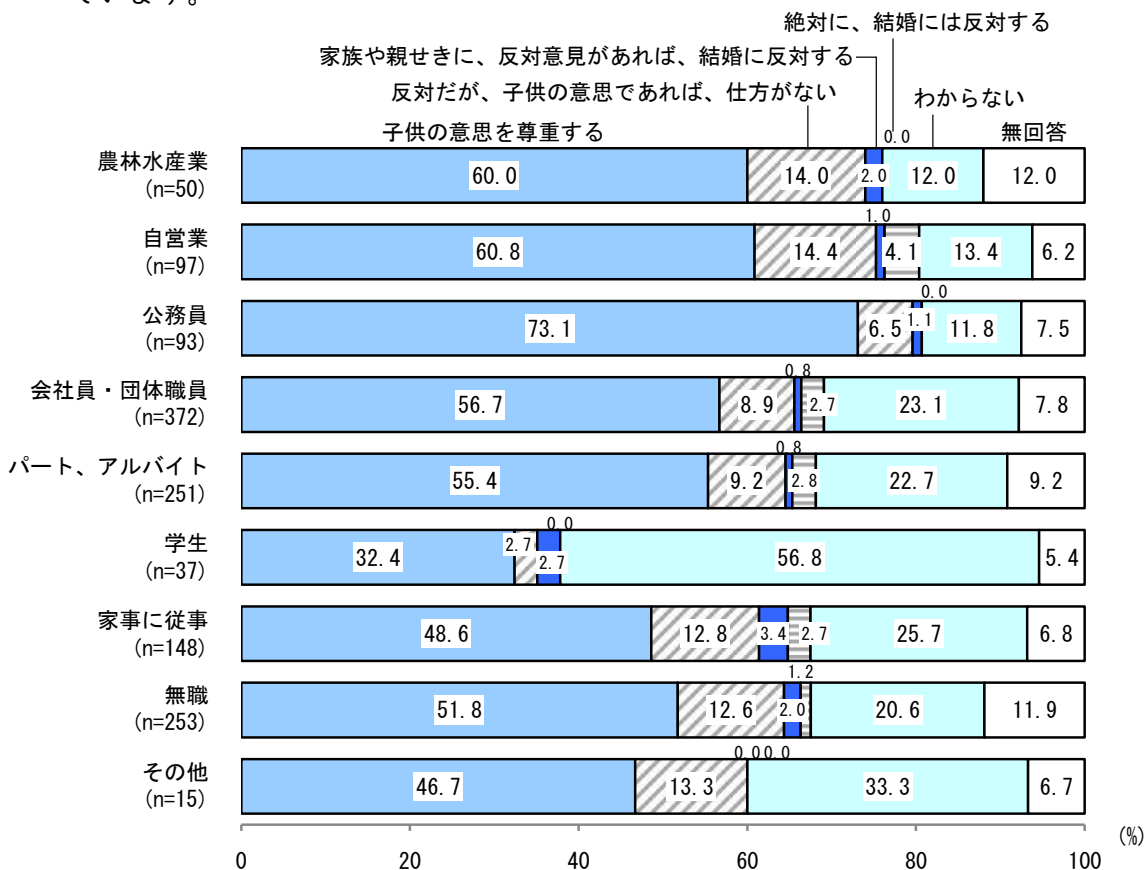
## 【年齢別】

年齢別でみると、「子供の意思を尊重する」の割合は60歳代が63.2%で最も高い割合となっています。



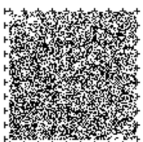
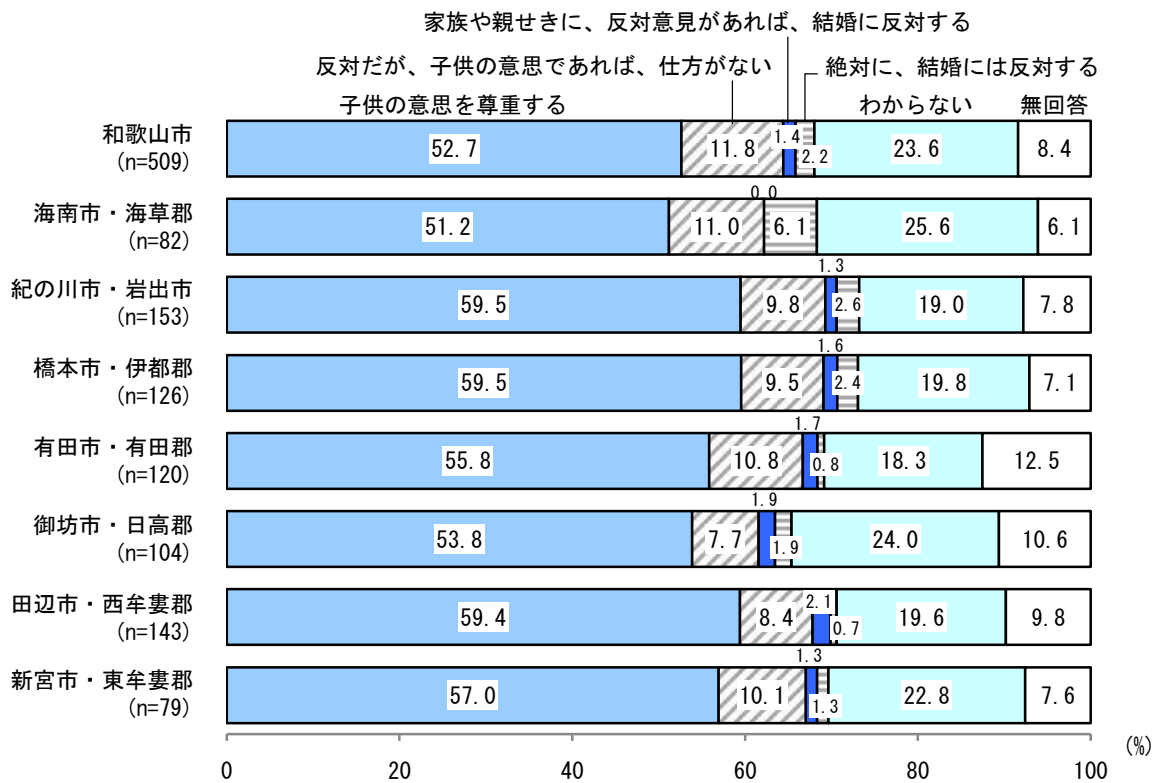
## 【職業別】

職業別でみると、「子供の意思を尊重する」の割合は公務員が73.1%で最も高い割合となっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「子供の意思を尊重する」の割合は紀の川市・岩出市と橋本市・伊都郡がともに59.5%で最も高く、次いで田辺市・西牟婁郡が59.4%となっています。

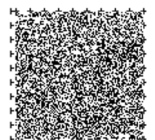
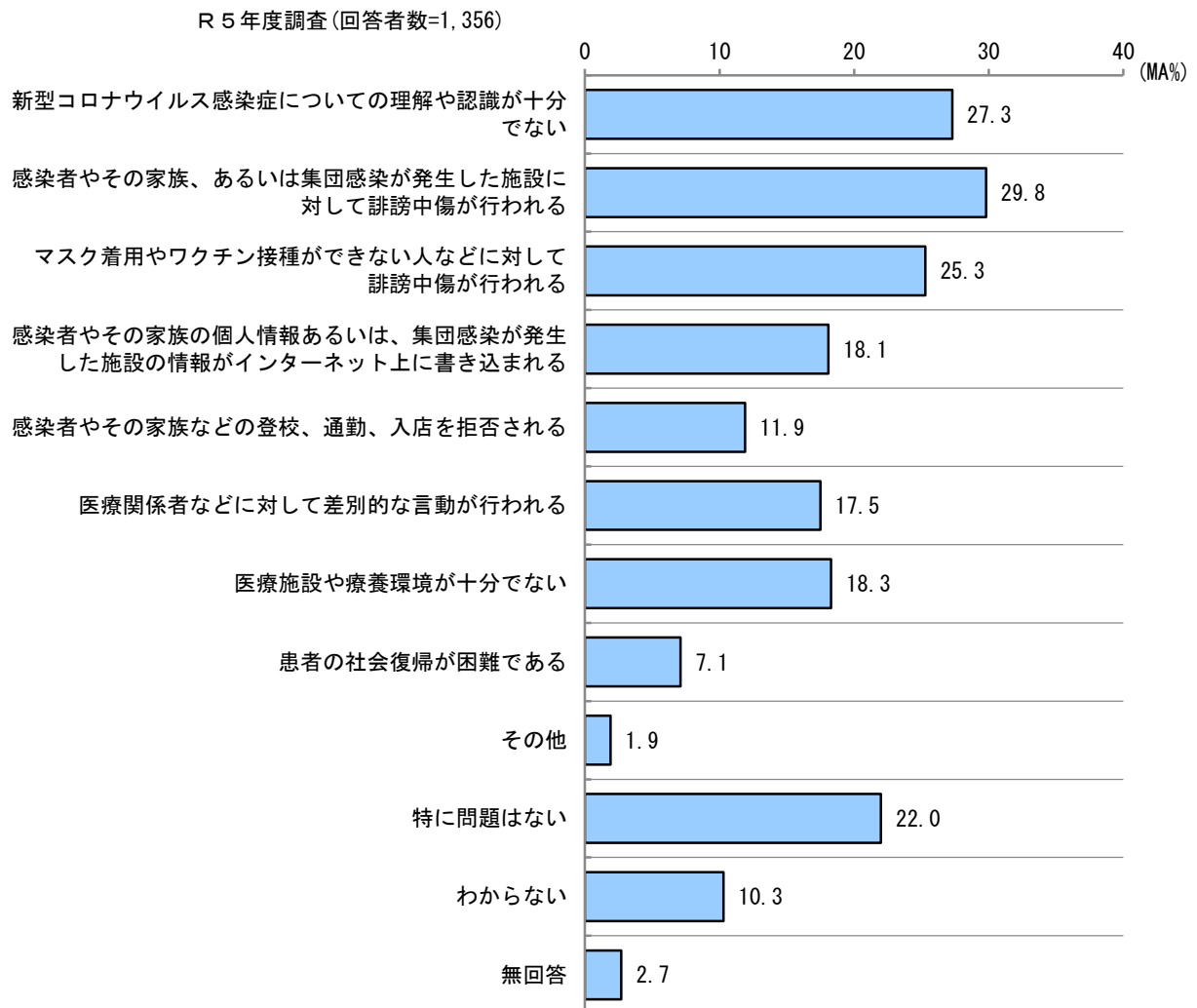




## 17. 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害についての考え

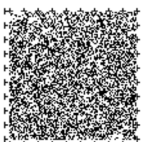
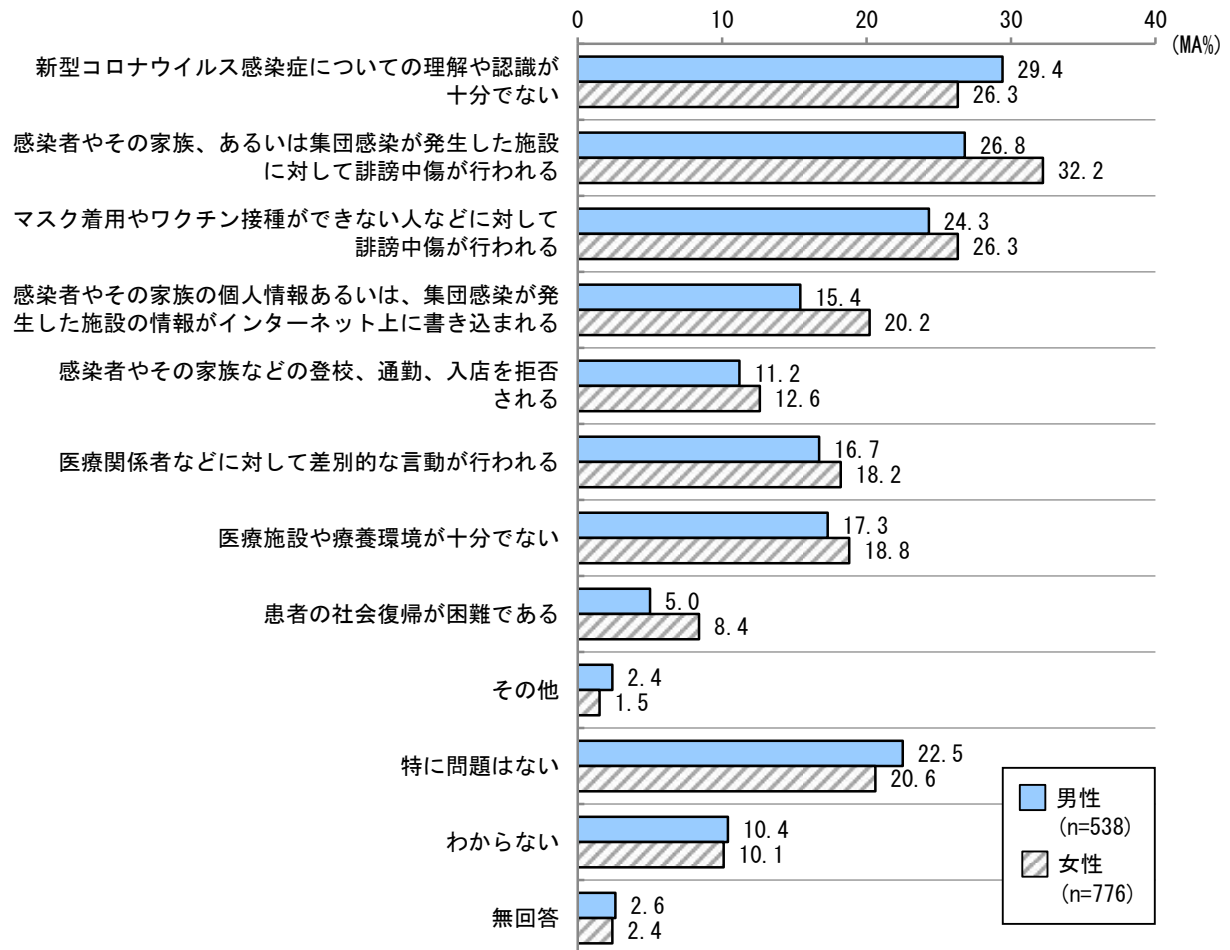
問21 新型コロナウイルス感染症に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか（〇はいくつでも）

「感染者やその家族、あるいは集団感染が発生した施設に対して誹謗中傷が行われる」の割合が29.8%で最も多く、次いで「新型コロナウイルス感染症についての理解や認識が十分でない」が27.3%、「マスク着用やワクチン接種ができない人などに対して誹謗中傷が行われる」が25.3%となっています。



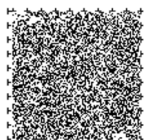
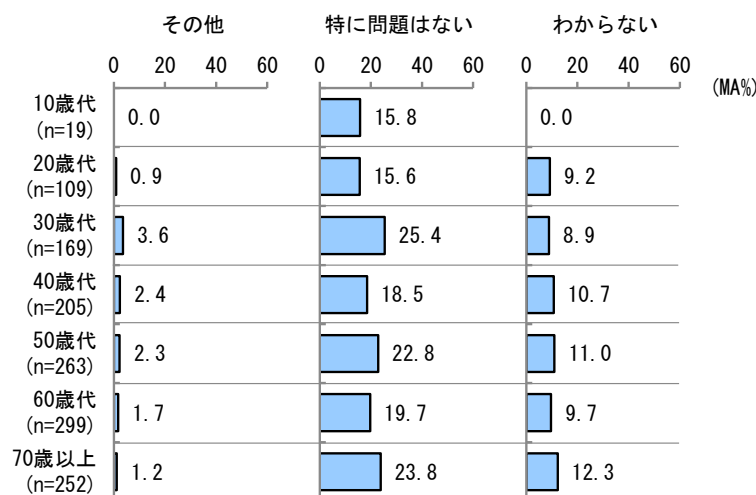
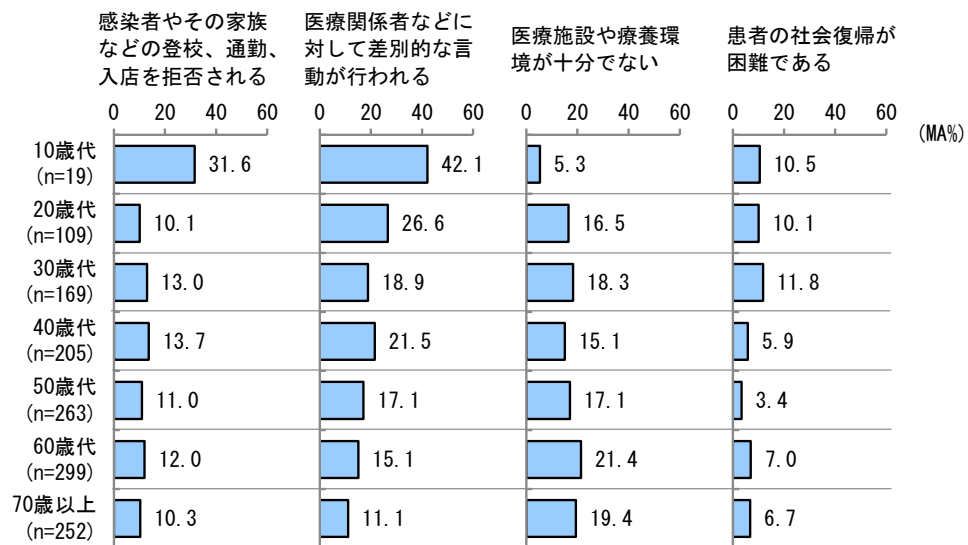
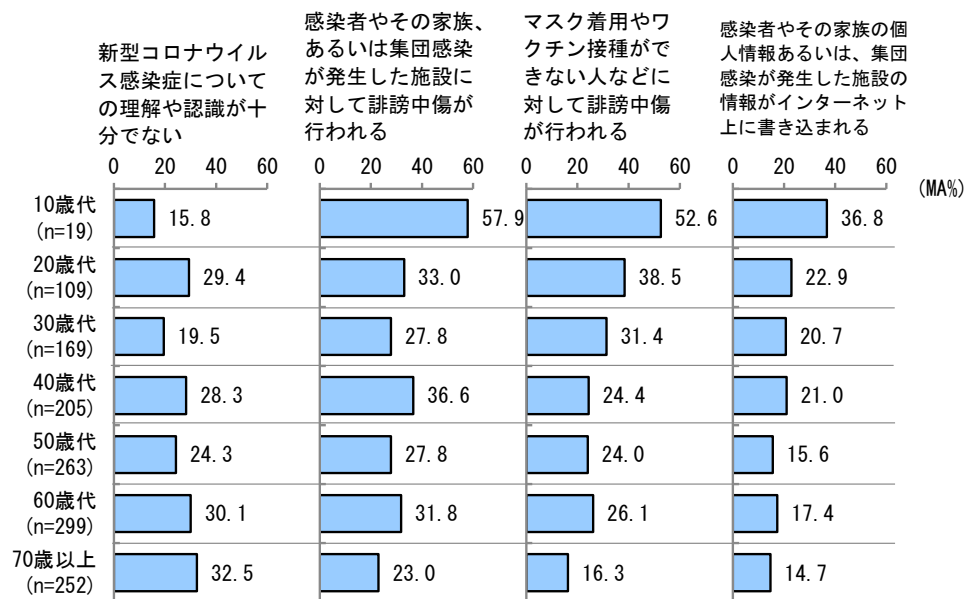
## 【性別】

性別で見ると、「感染者やその家族、あるいは集団感染が発生した施設に対して誹謗中傷が行われる」の割合は男性（26.8%）より女性（32.2%）のほうが5.4ポイント、「感染者やその家族の個人情報あるいは、集団感染が発生した施設の情報インターネット上に書き込まれる」も男性（15.4%）より女性（20.2%）のほうが4.8ポイント、それぞれ高くなっています。



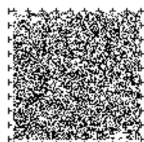
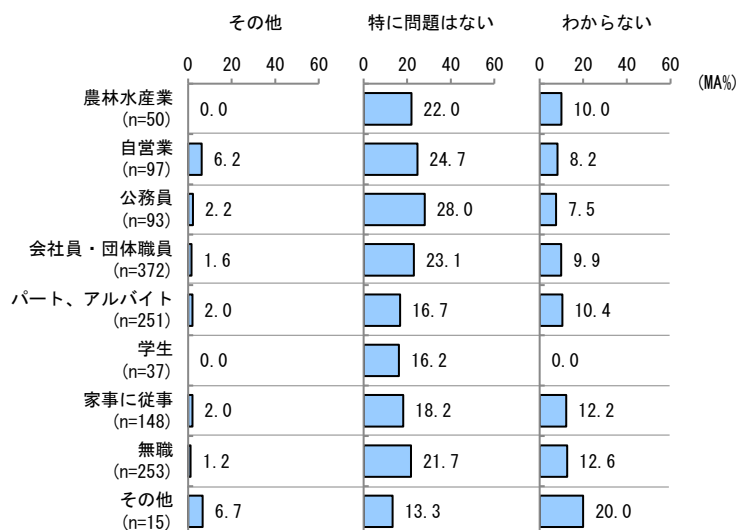
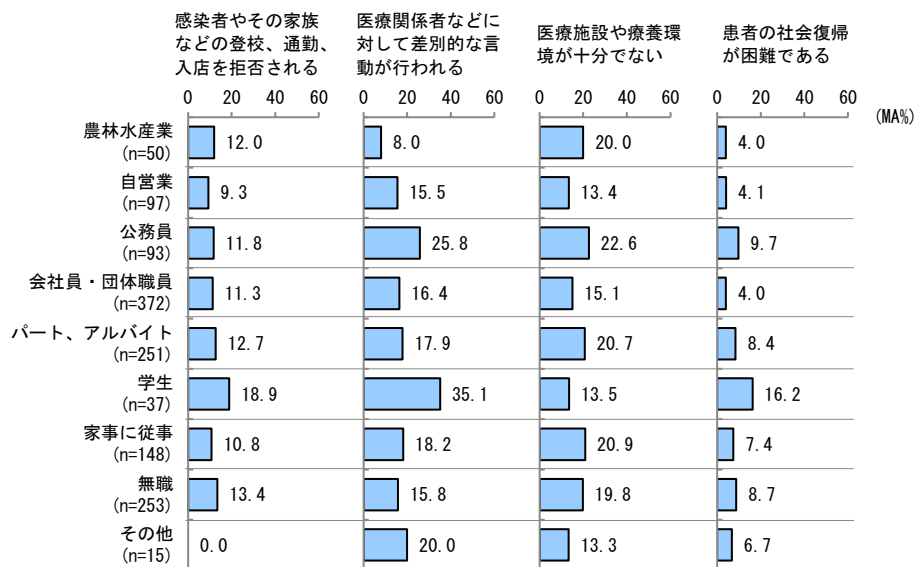
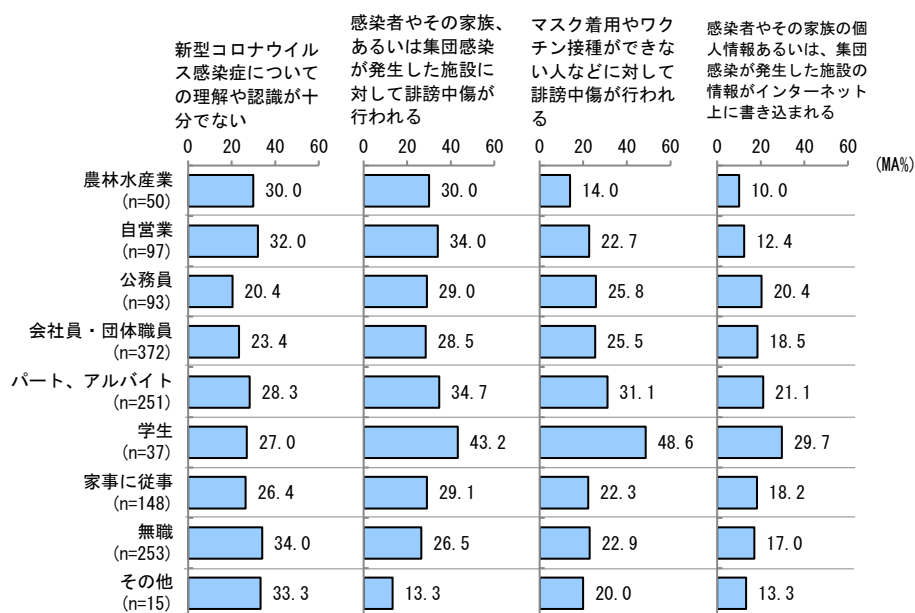
【年齢別】

年齢別でみると、「新型コロナウイルス感染症についての理解や認識が十分でない」の割合は70歳以上が32.5%で最も高くなっています。



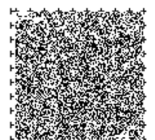
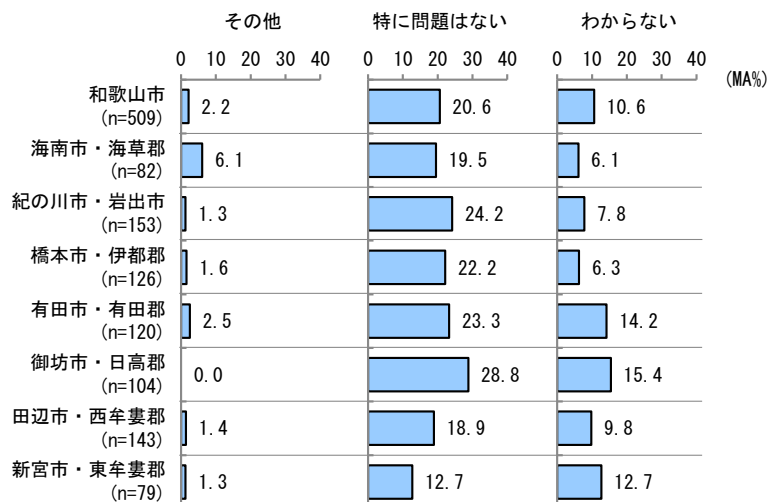
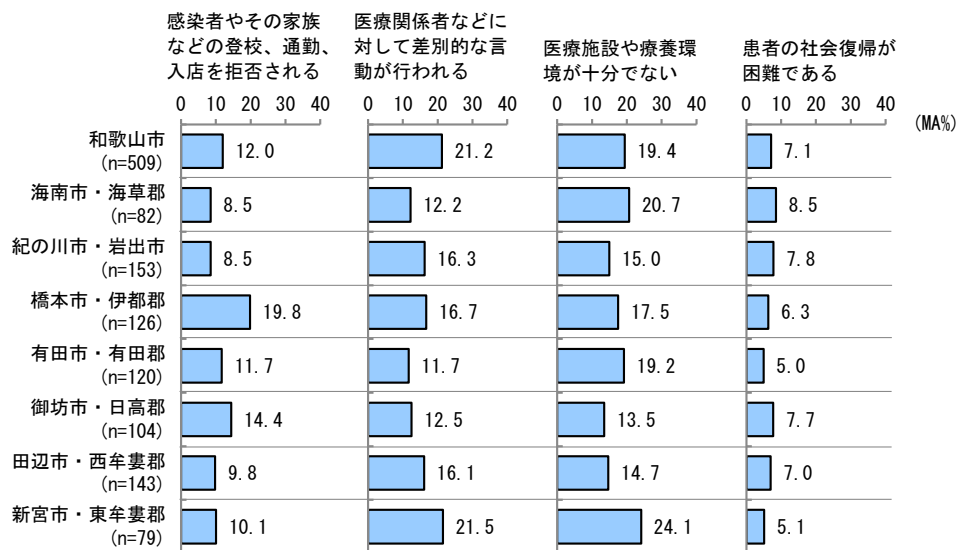
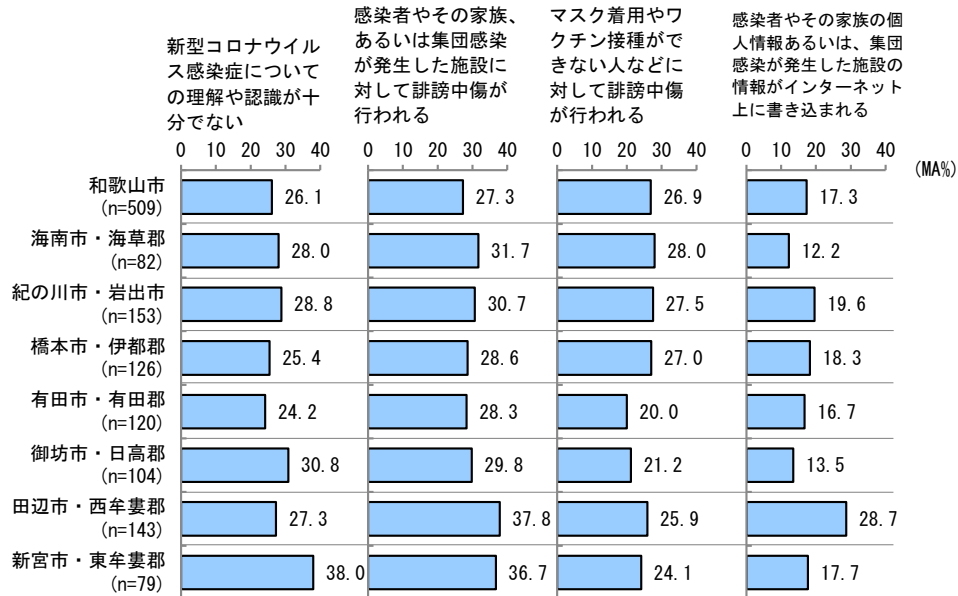
## 【職業別】

職業別でみると、「新型コロナウイルス感染症についての理解や認識が十分でない」と「医療施設や療養環境が十分でない」以外の項目では学生が最も高い割合となっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「新型コロナウイルス感染症についての理解や認識が十分でない」、「医療関係者などに対して差別的な言動が行われる」、「医療施設や療養環境が十分でない」では新宮市・東牟婁郡が最も高い割合となっています。



## 18. 人権全般について

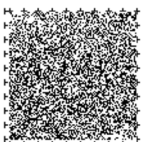
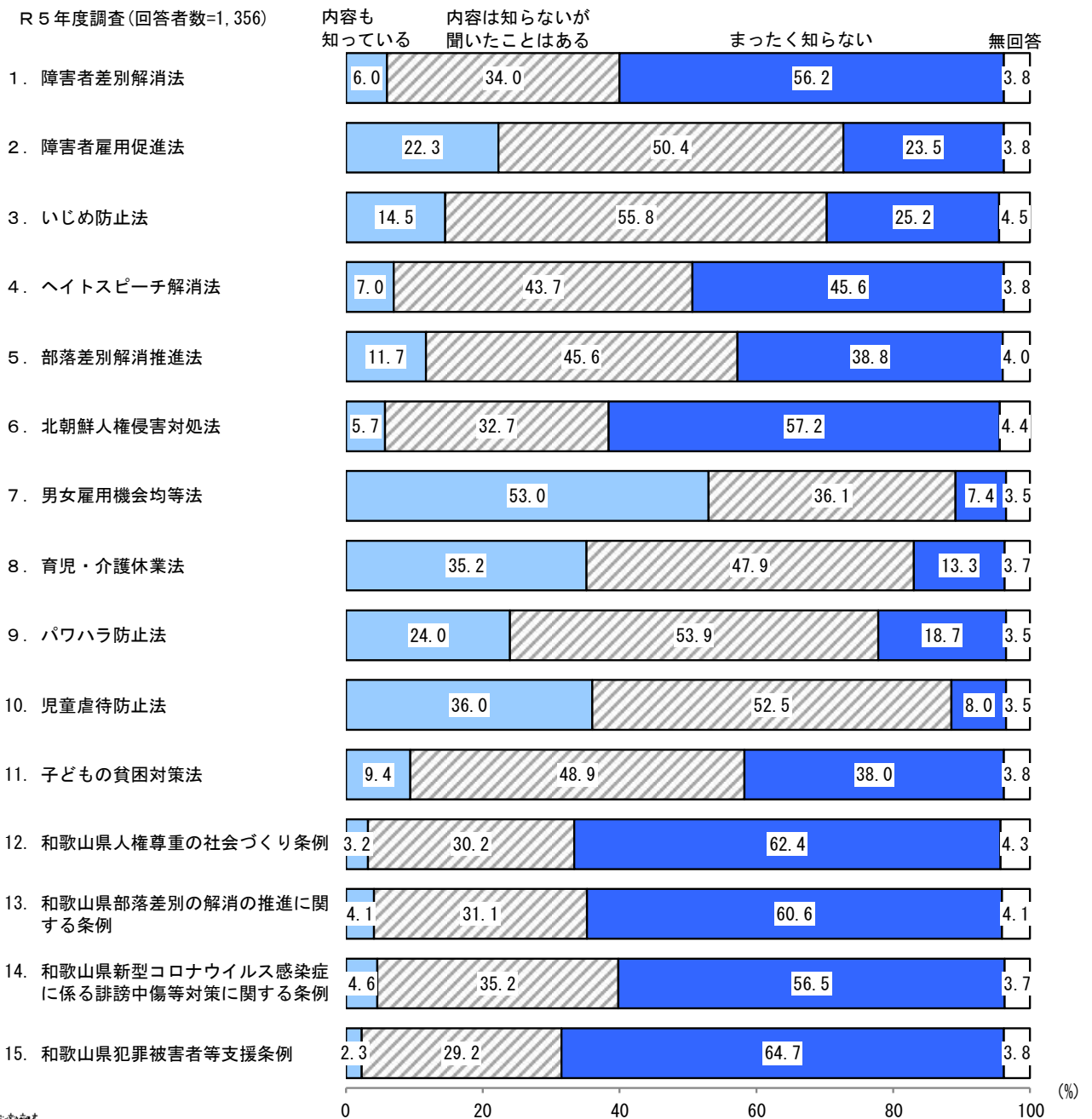
### (1) 人権に関する法律や県の条例についての認知度

問22 人権に関する様々な法律や県の条例について知っていますか（○はそれぞれ1つ）

「内容も知っている」の割合は、“7. 男女雇用機会均等法”が53.0%で最も高く、次いで“10. 児童虐待防止法”が36.0%、“8. 育児・介護休業法”が35.2%となっています。

「内容も知っている」と「内容は知らないが聞いたことはある」をあわせた認知度は、“7. 男女雇用機会均等法”が89.1%で最も高く、次いで“10. 児童虐待防止法”が88.5%、“8. 育児・介護休業法”が83.1%となっています。

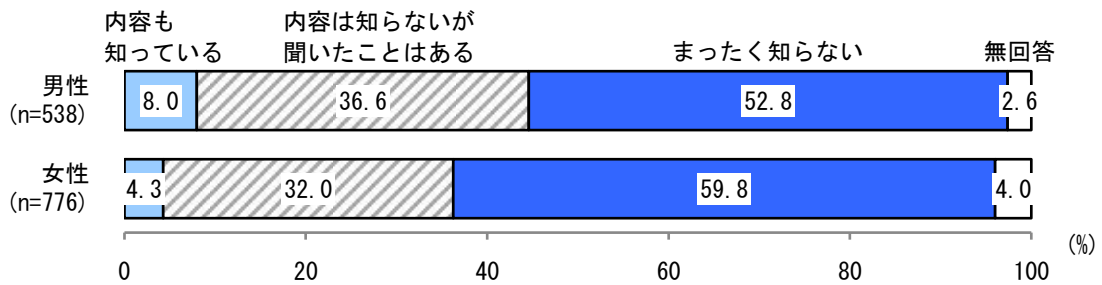
一方、「まったく知らない」の割合は“15. 和歌山県犯罪被害者等支援条例”が64.7%で最も高くなっています。



## 1. 障害者差別解消法

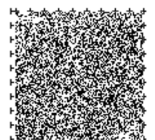
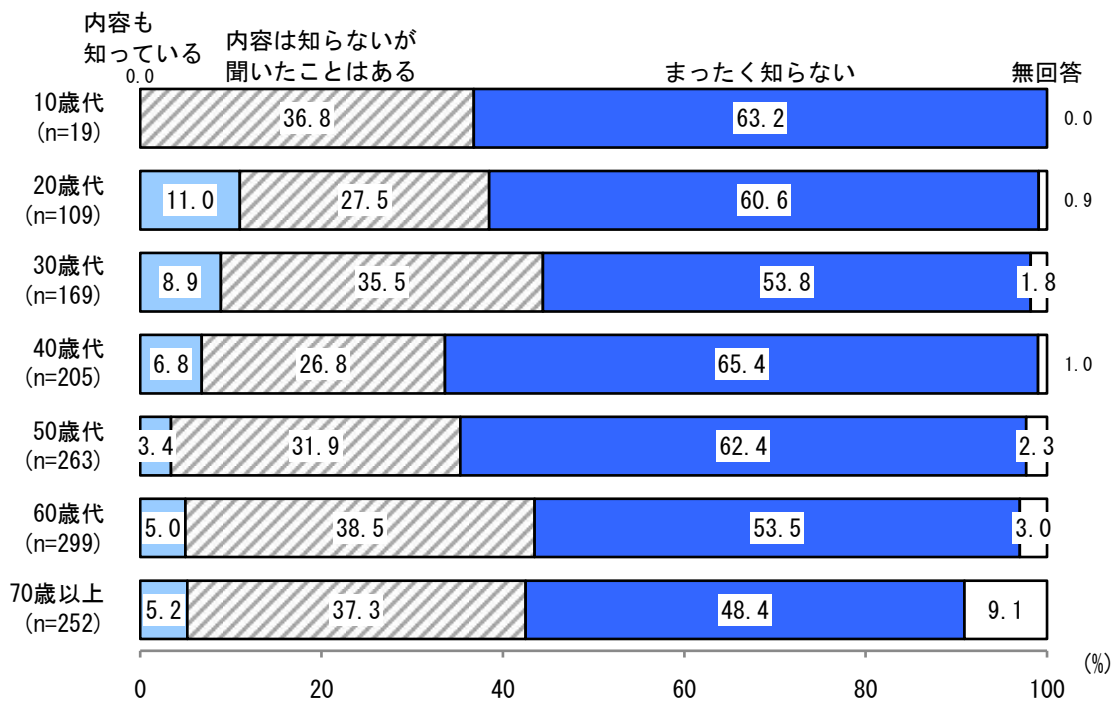
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（4.3%）より男性（8.0%）のほうが3.7ポイント高く、認知度も女性（36.3%）より男性（44.6%）のほうが8.3ポイント高くなっています。



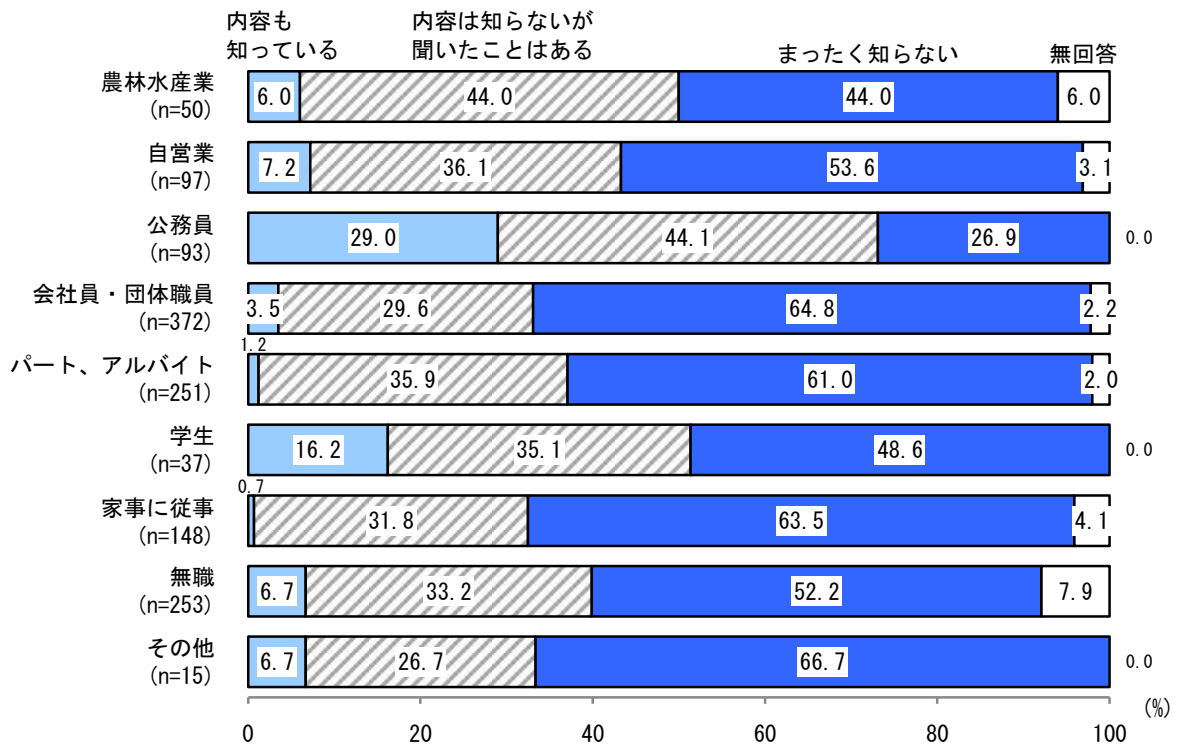
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は20歳代が11.0%で最も高く、認知度は30歳代が44.4%で最も高くなっています。



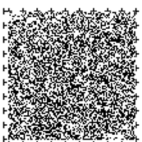
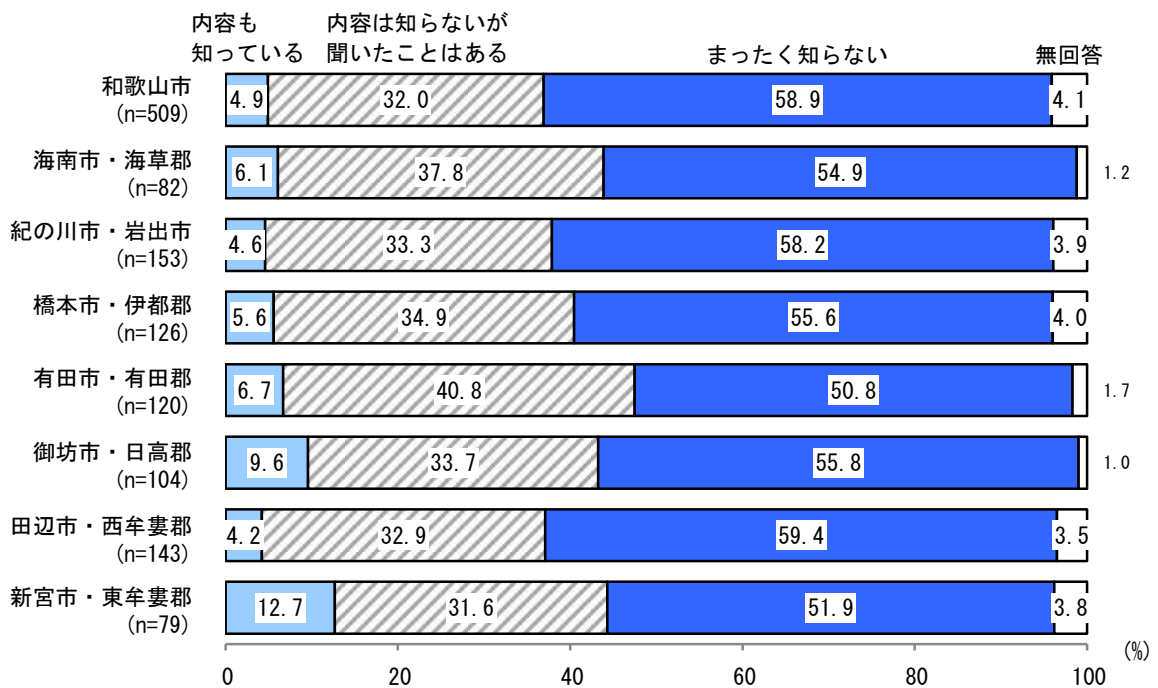
## 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が29.0%で最も高く、認知度も公務員が73.1%で最も高くなっています。



## 【居住地域別】

居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は新宮市・東牟婁郡が12.7%で最も高く、認知度は有田市・有田郡が47.5%で最も高くなっています。

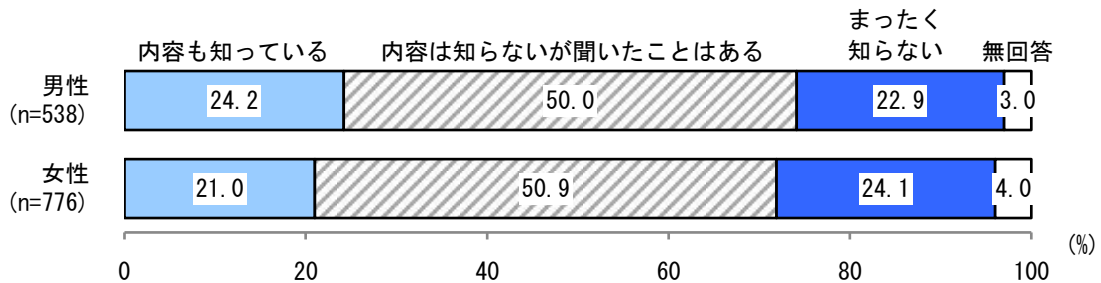




## 2. 障害者雇用促進法

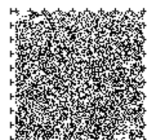
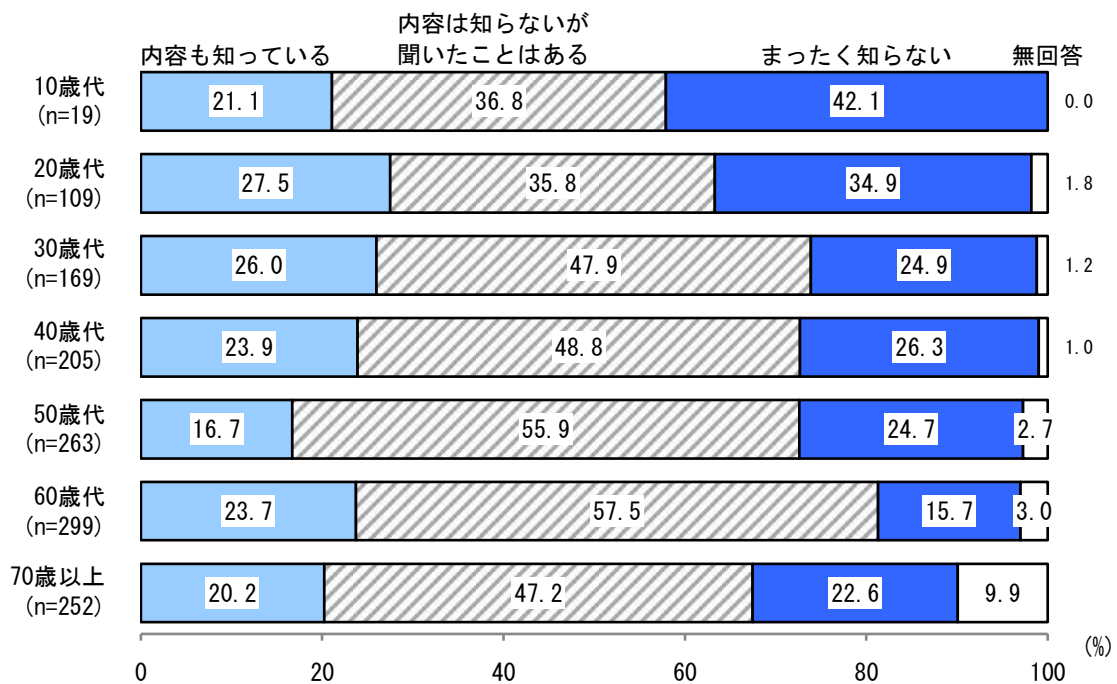
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（21.0%）より男性（24.2%）のほうが3.2ポイント高く、認知度も女性（71.9%）より男性（74.2%）のほうが2.3ポイント高くなっています。



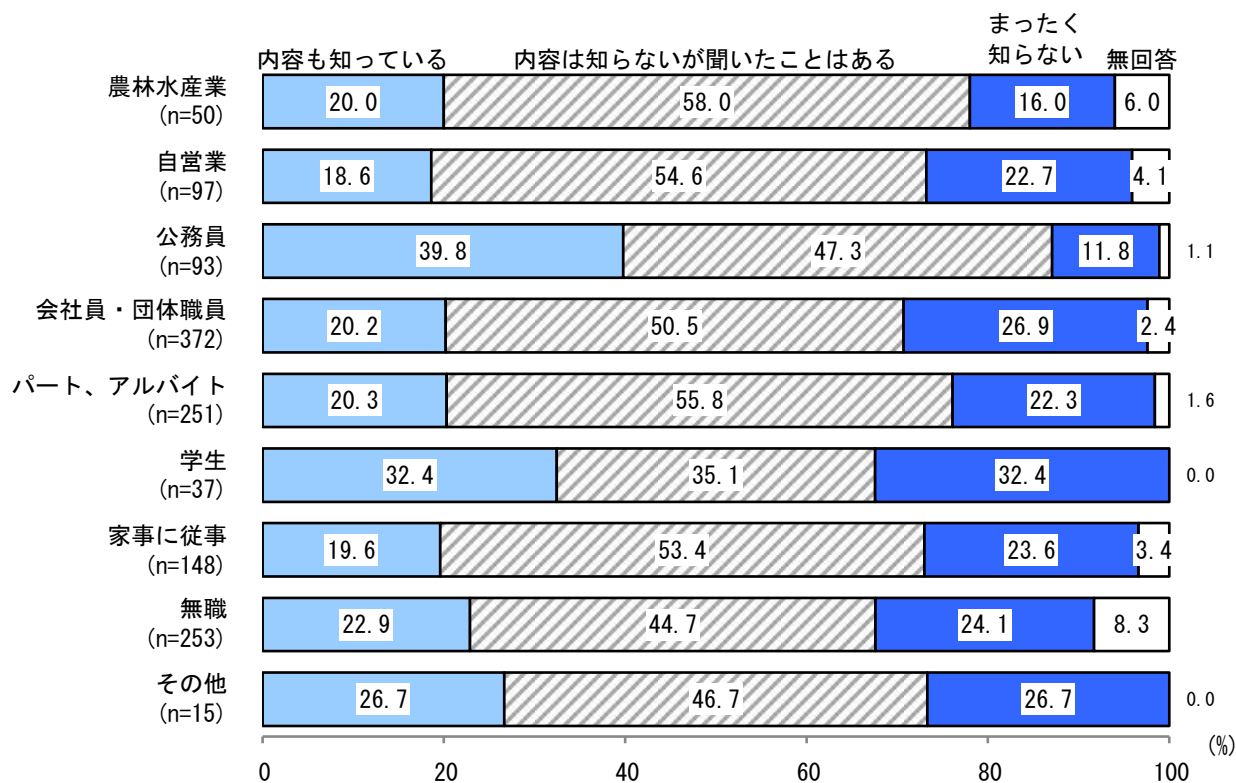
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は20歳代が27.5%で最も高く、認知度は60歳代が81.2%で最も高くなっています。



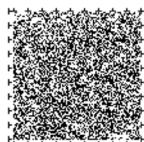
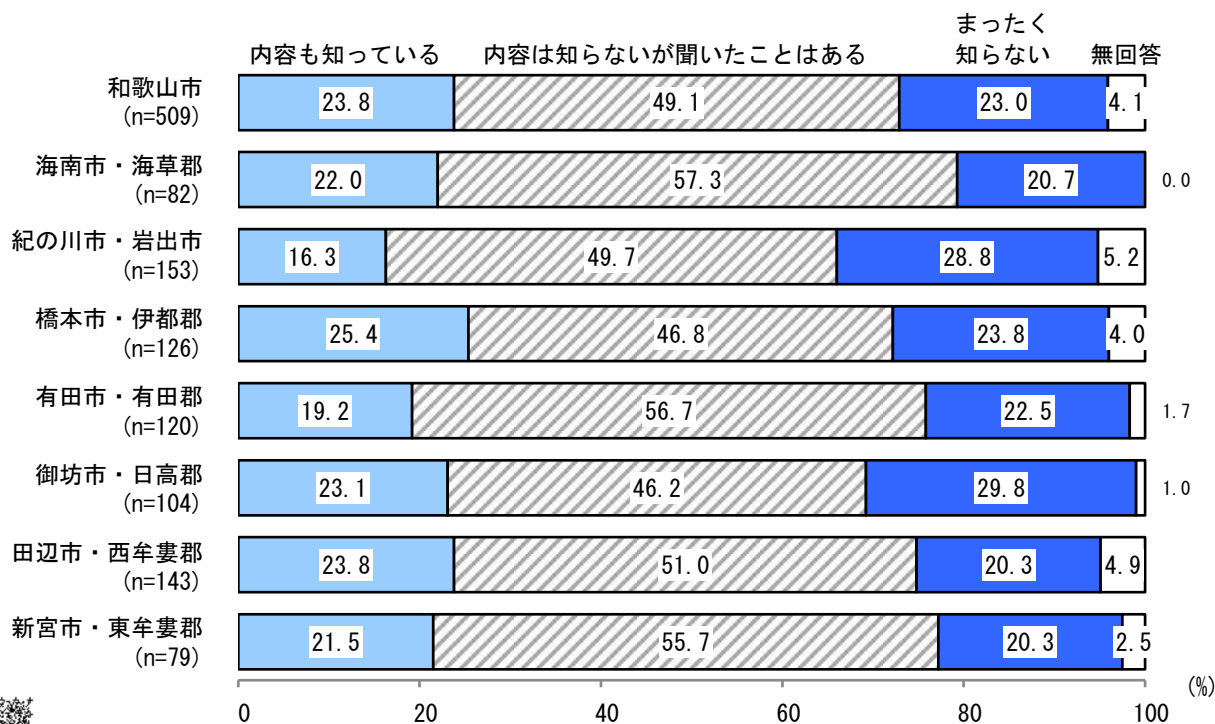
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が39.8%で最も高く、認知度も公務員が87.1%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

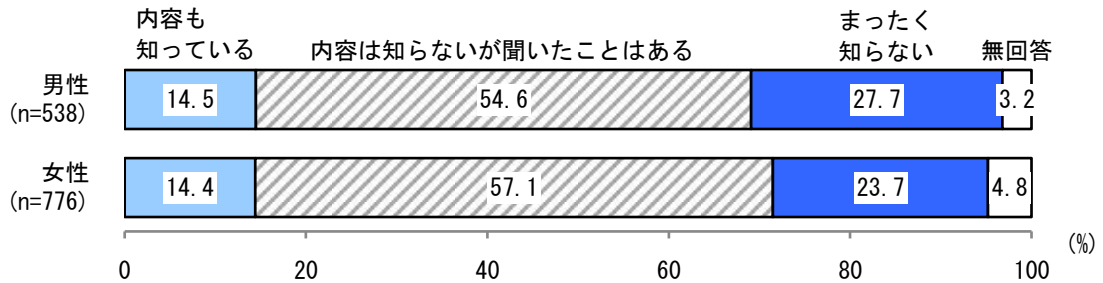
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は橋本市・伊都郡が25.4%で最も高く、認知度は海南市・海草郡が79.3%で最も高くなっています。



### 3. いじめ防止法

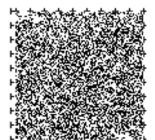
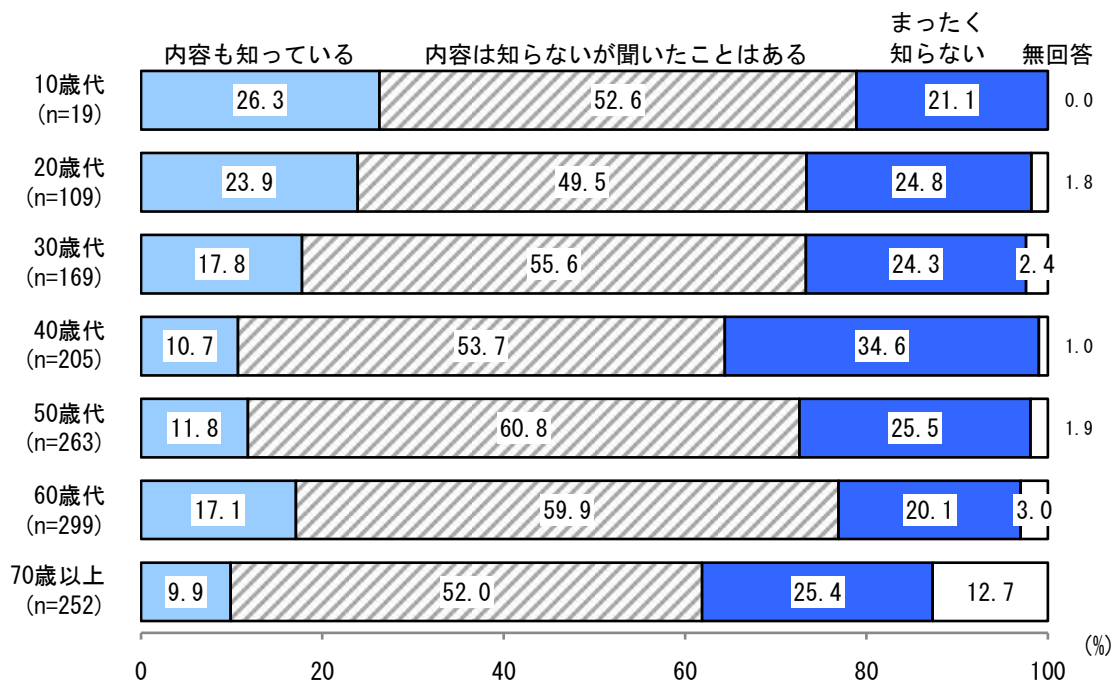
#### 【性別】

性別でみると、認知度は男性（69.1%）より女性（71.5%）のほうが2.4ポイント高くなっています。



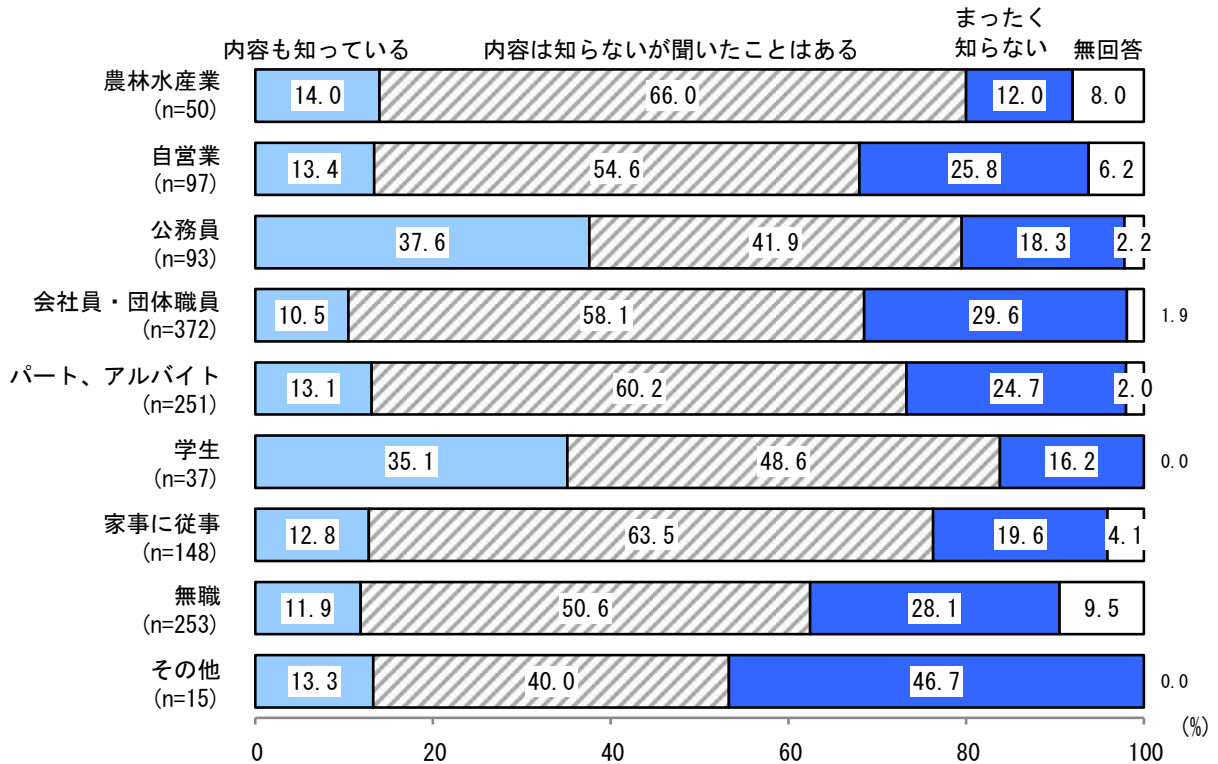
#### 【年齢別】

年齢別でみると、「内容も知っている」の割合は20歳代が23.9%で最も高く、認知度は60歳代が77.0%で最も高くなっています。



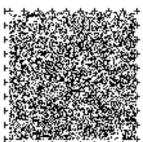
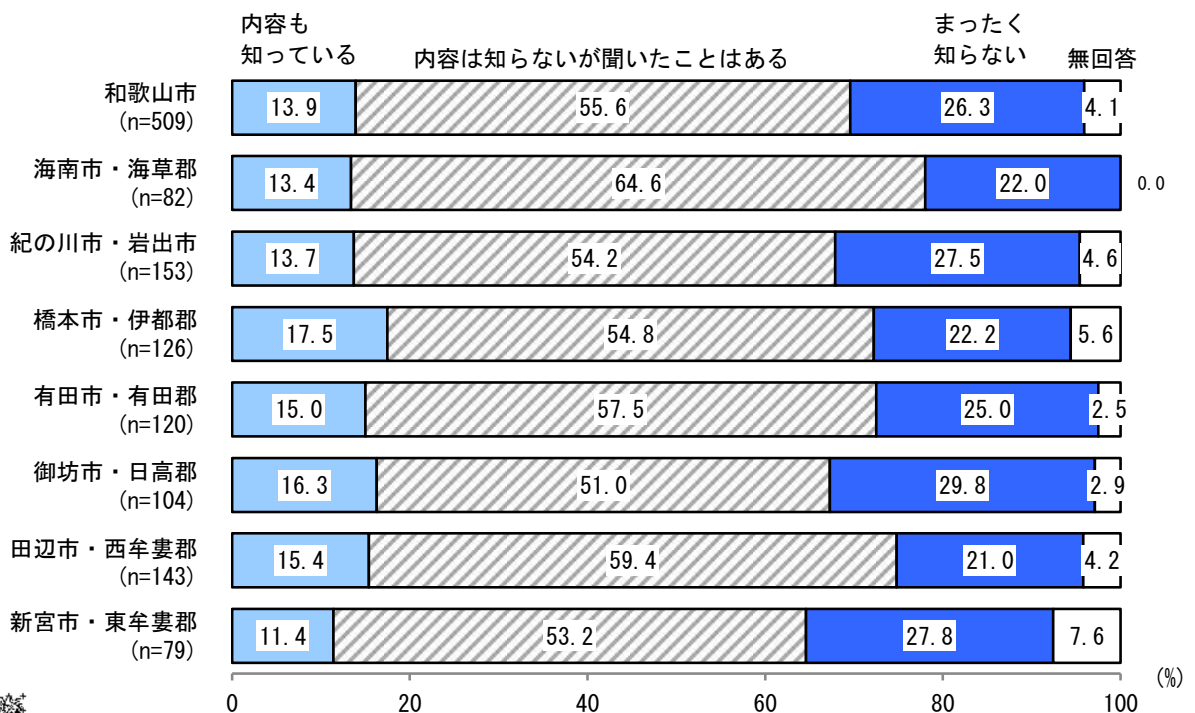
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が37.6%で最も高く、認知度は学生が83.7%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

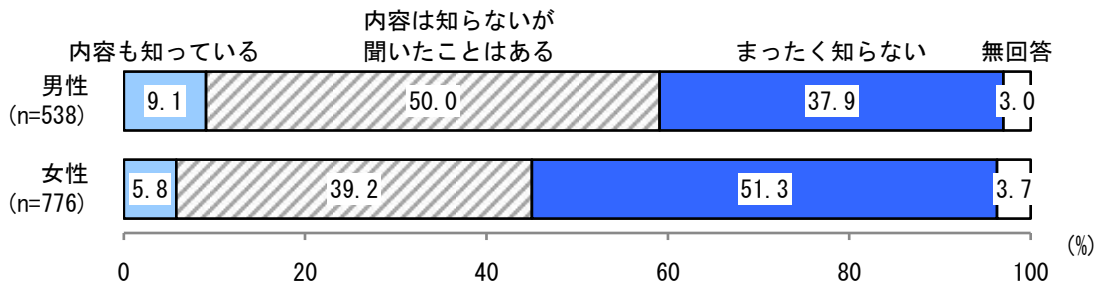
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は橋本市・伊都郡が17.5%で最も高く、認知度は海南市・海草郡が78.0%で最も高くなっています。



## 4. ハイトスピーチ解消法

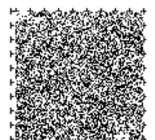
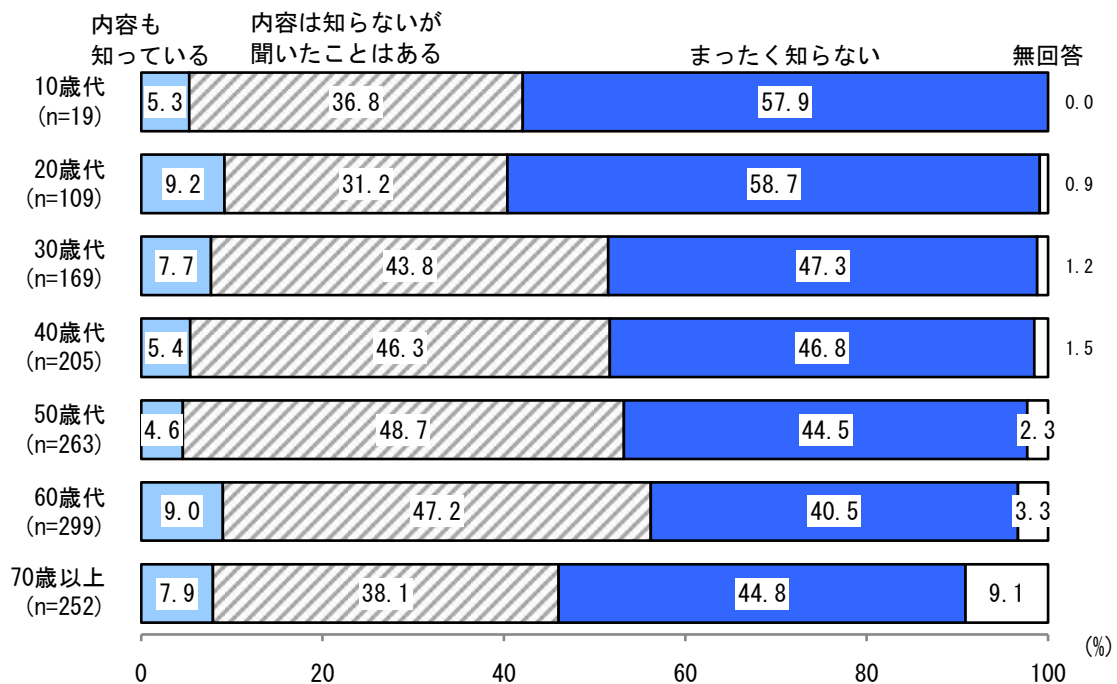
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（5.8%）より男性（9.1%）のほうが3.3ポイント高く、認知度も女性（45.0%）より男性（59.1%）のほうが14.1ポイント高くなっています。



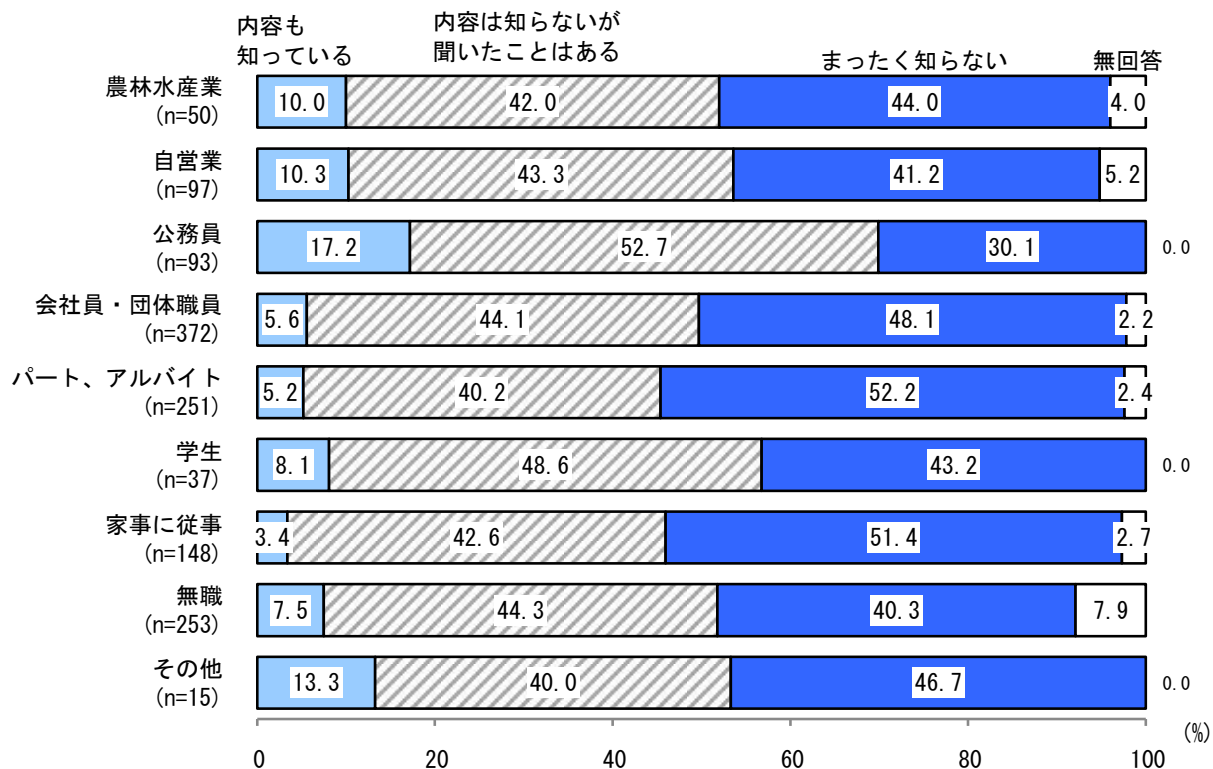
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は20歳代が9.2%で最も高く、認知度は60歳代が56.2%で最も高くなっています。



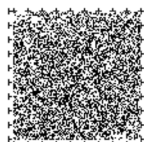
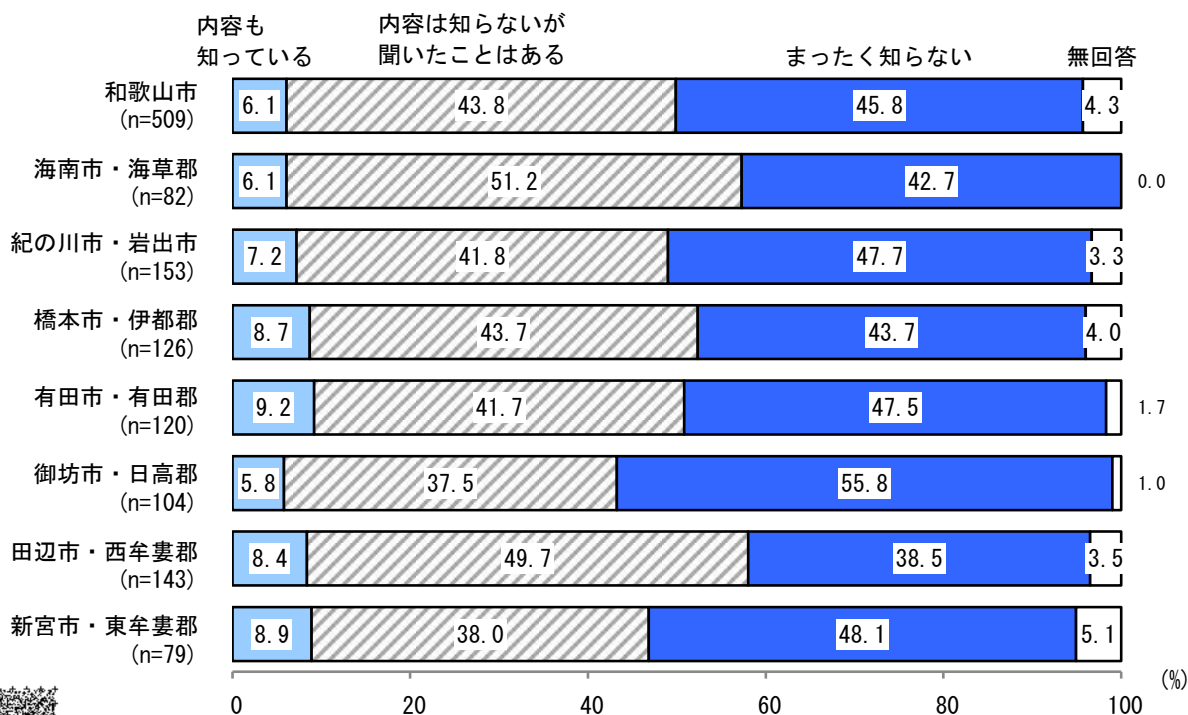
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が17.2%で最も高く、認知度も公務員が69.9%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

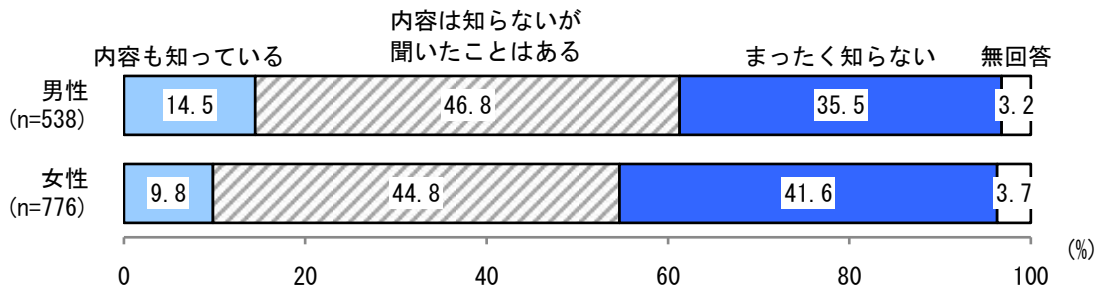
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は有田市・有田郡が9.2%で最も高く、認知度は田辺市・西牟婁郡が58.1%で最も高くなっています。



## 5. 部落差別解消推進法

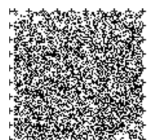
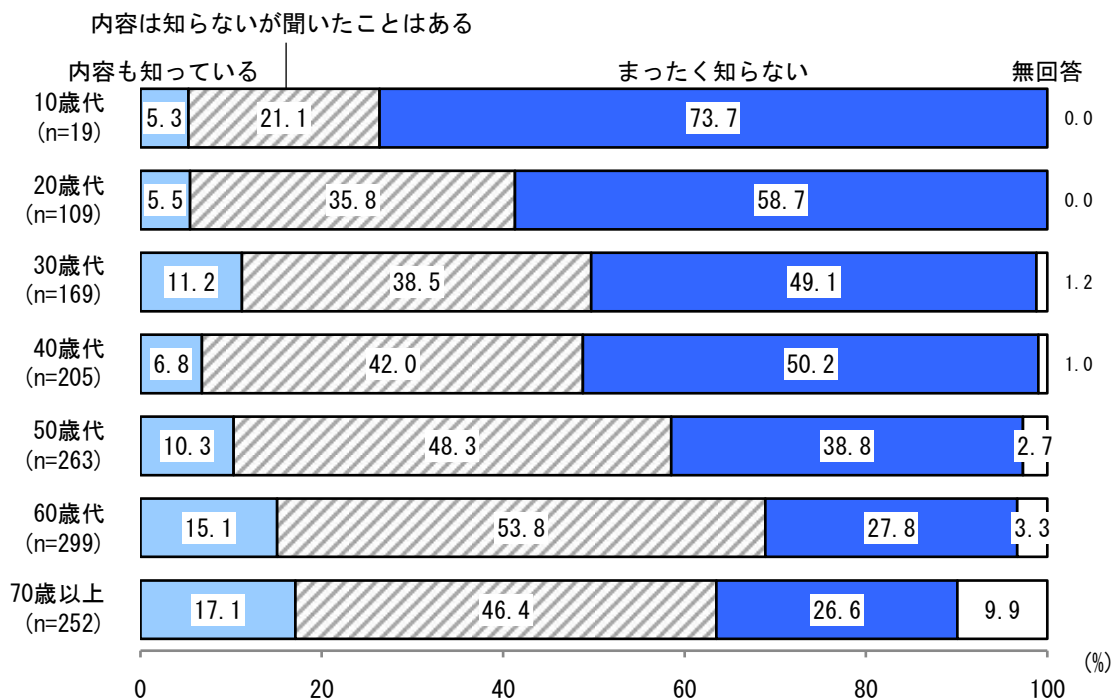
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（9.8%）より男性（14.5%）のほうが4.7ポイント高く、認知度も女性（54.6%）より男性（61.3%）のほうが6.7ポイント高くなっています。



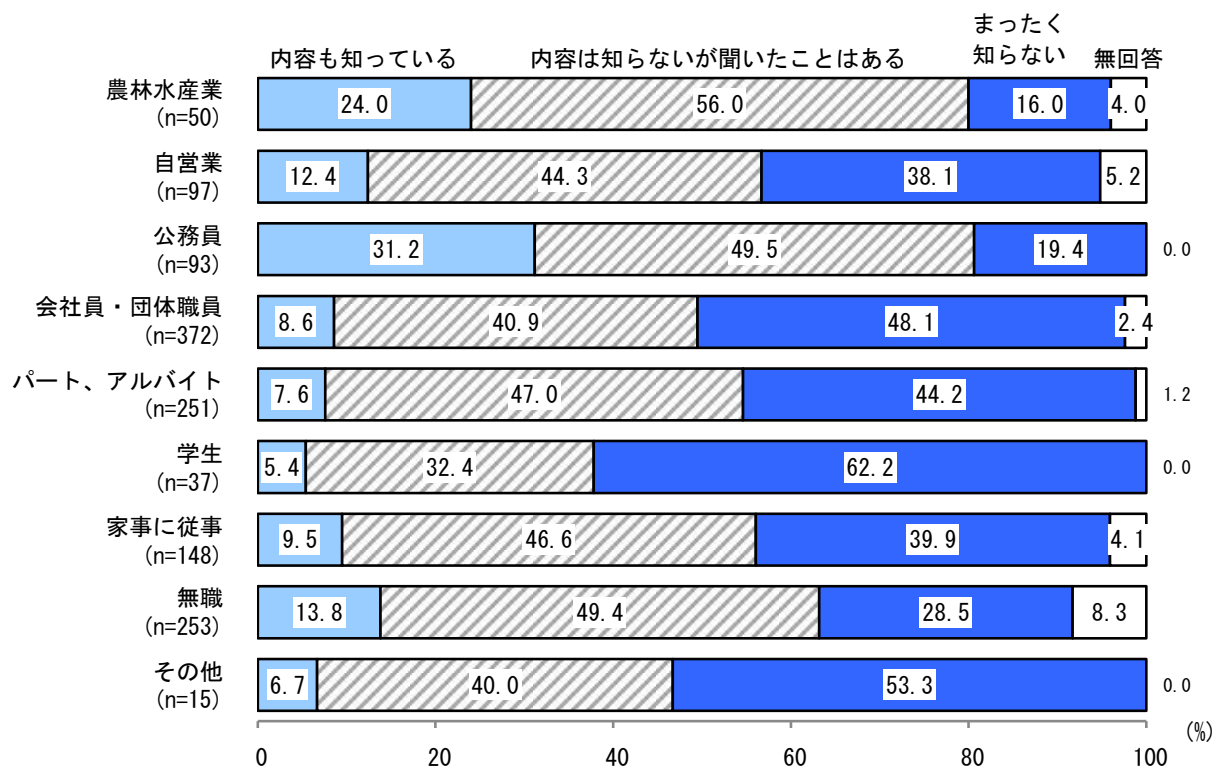
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は70歳以上が17.1%で最も高く、認知度は60歳代が68.9%で最も高くなっています。



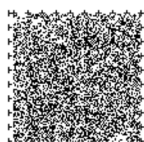
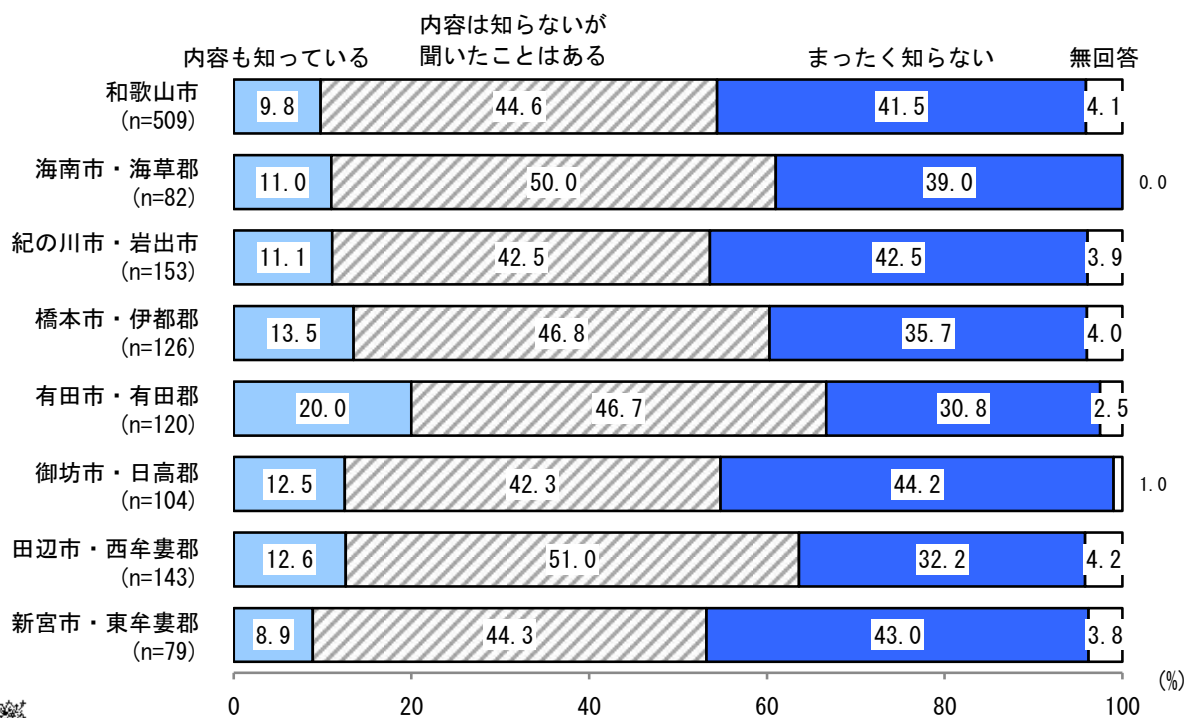
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が31.2%で最も高く、認知度も公務員が80.7%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は有田市・有田郡が20.0%で最も高く、認知度も有田市・有田郡が66.7%で最も高くなっています。

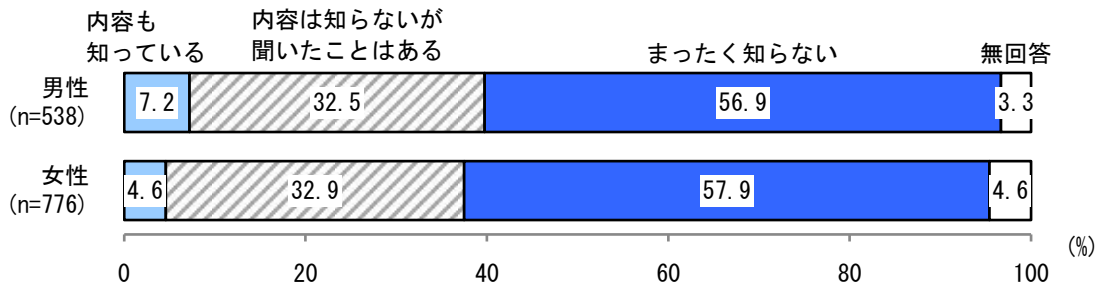




## 6. 北朝鮮人権侵害対処法

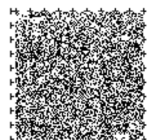
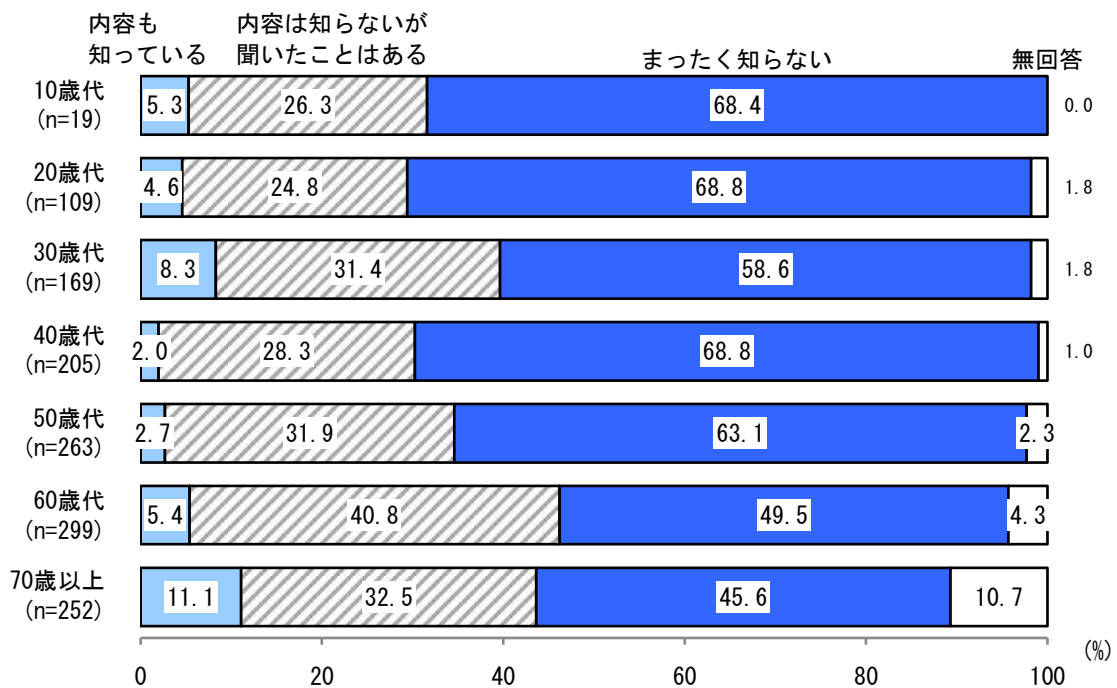
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（4.6%）より男性（7.2%）のほうが2.6ポイント高く、認知度も女性（37.5%）より男性（39.7%）のほうが2.2ポイント高くなっています。



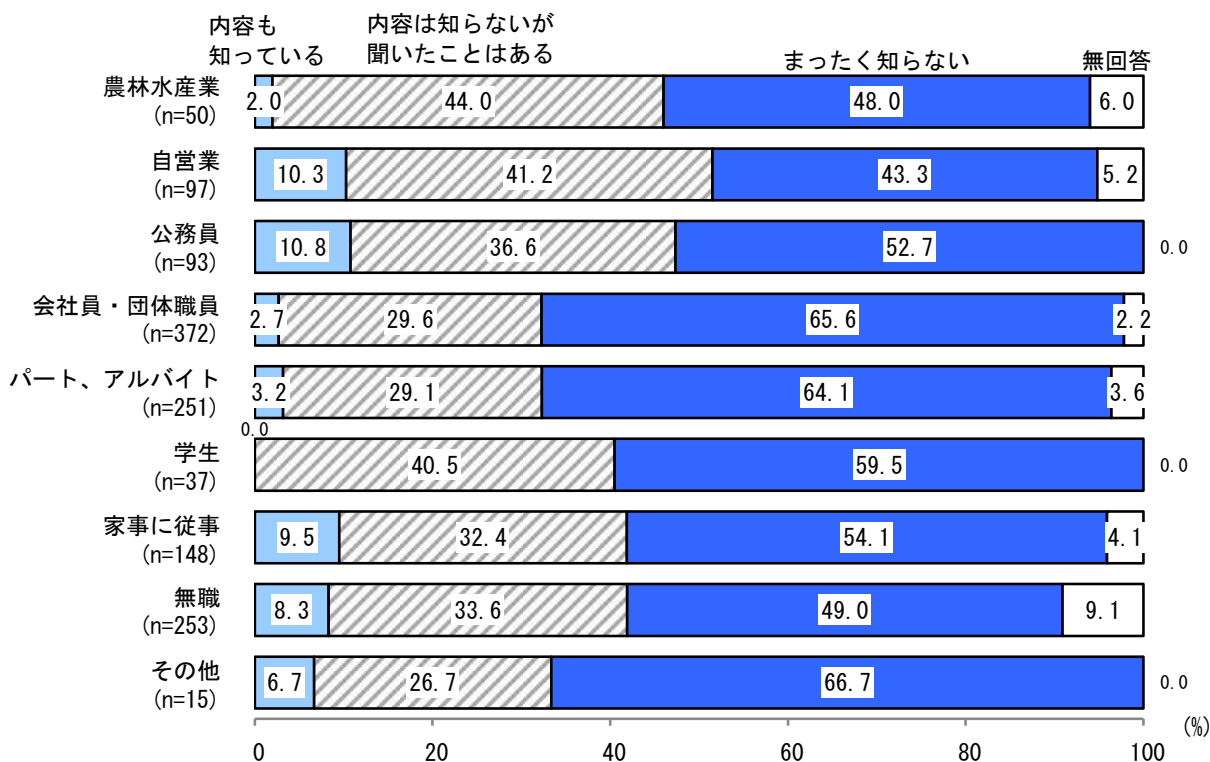
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は70歳以上が11.1%で最も高く、認知度は60歳代が46.2%で最も高くなっています。



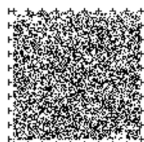
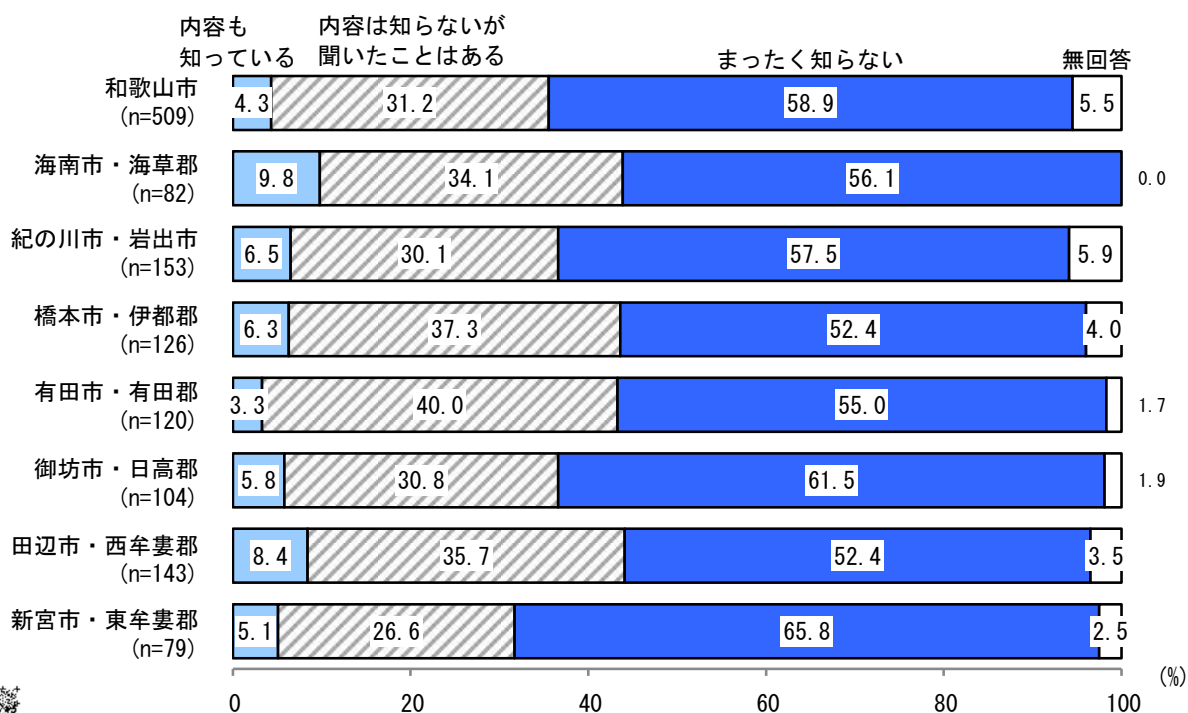
## 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が10.8%で最も高く、認知度は自営業が51.5%で最も高くなっています。



## 【居住地域別】

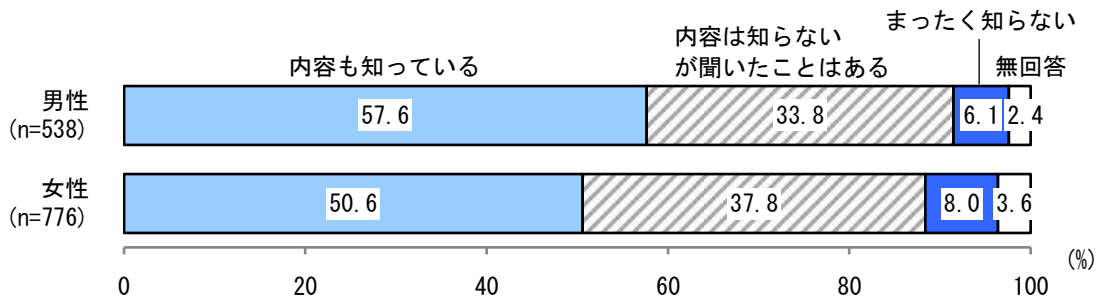
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は海南市・海草郡が9.8%で最も高く、認知度は田辺市・西牟婁郡が44.1%で最も高くなっています。



## 7. 男女雇用機会均等法

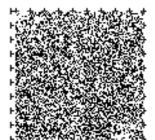
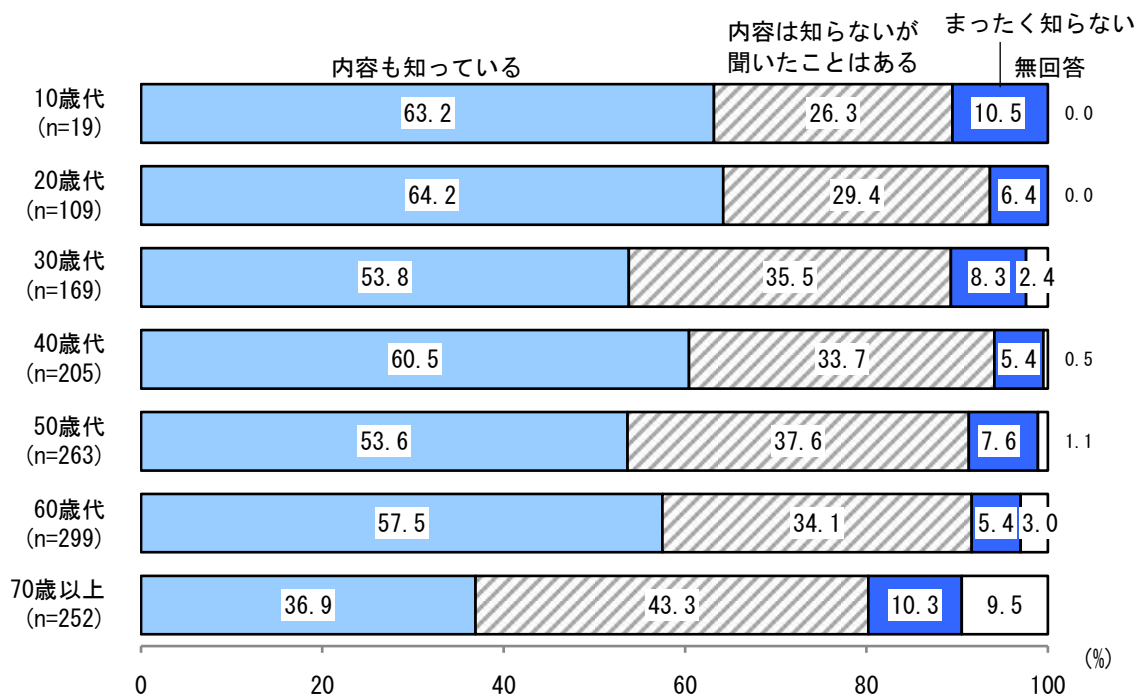
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（50.6%）より男性（57.6%）のほうが7.0ポイント高く、認知度も女性（88.4%）より男性（91.4%）のほうが3.0ポイント高くなっています。



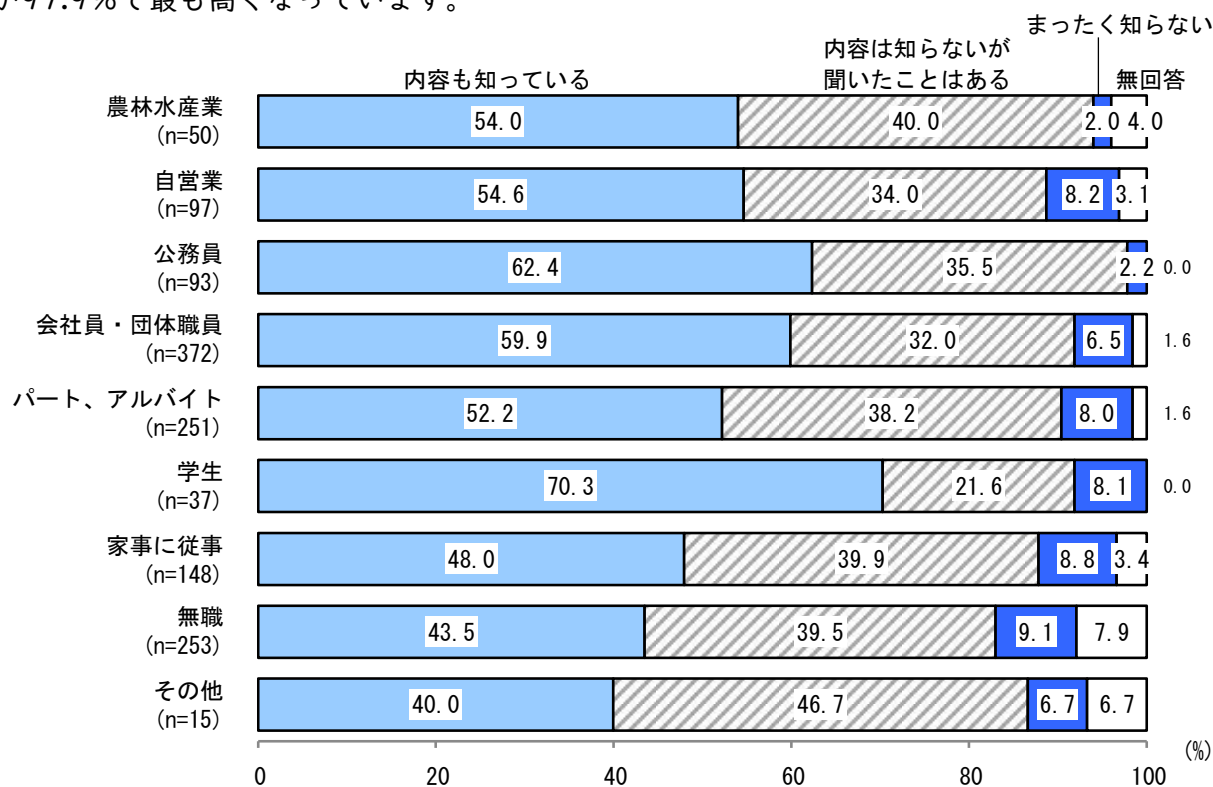
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は20歳代が64.2%で最も高く、認知度は40歳代が94.2%で最も高くなっています。



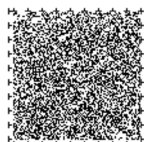
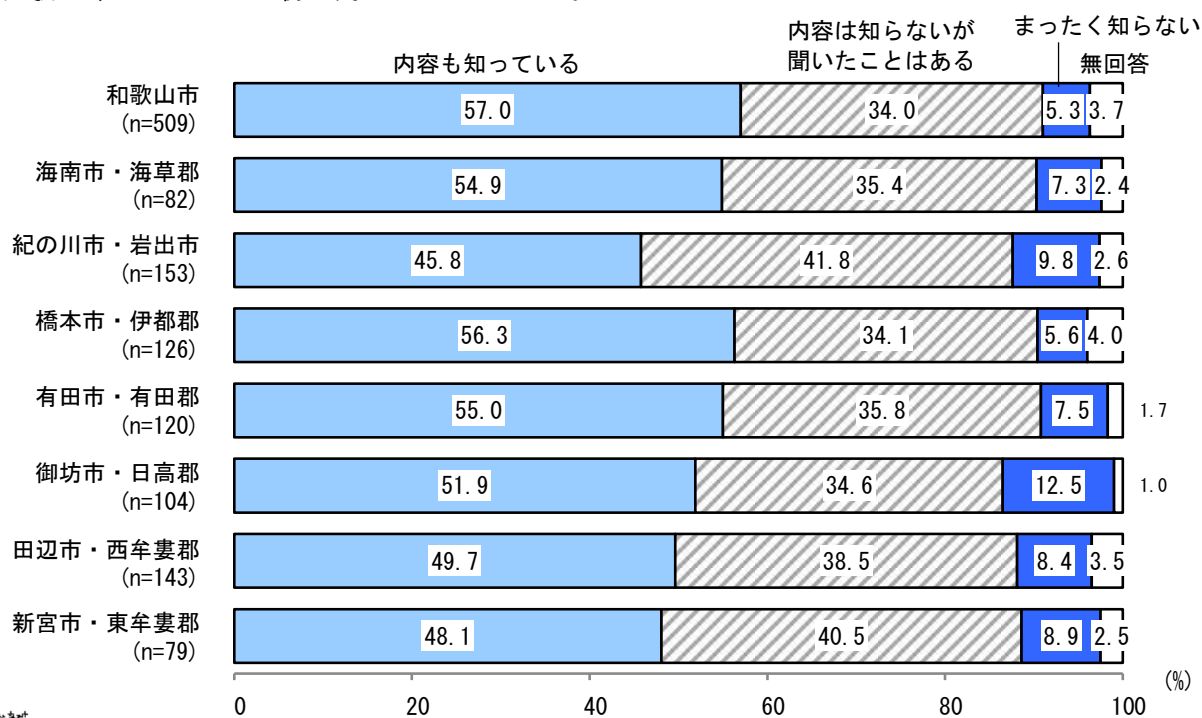
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は学生が70.3%で最も高く、認知度は公務員が97.9%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

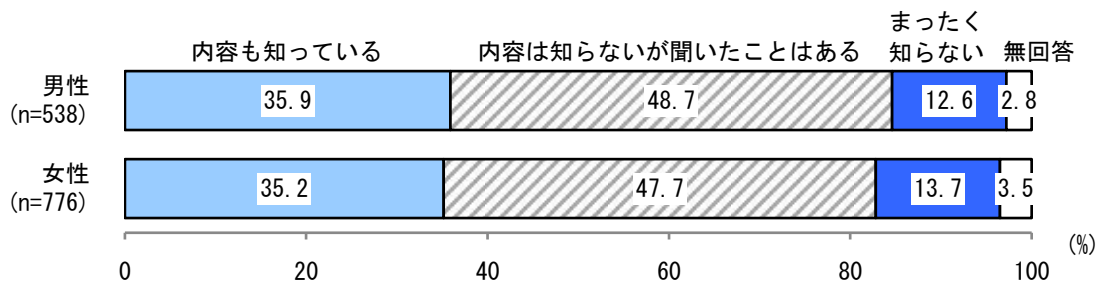
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は和歌山市が57.0%で最も高く、認知度も和歌山市が91.0%で最も高くなっています。



## 8. 育児・介護休業法

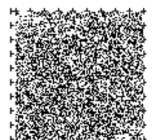
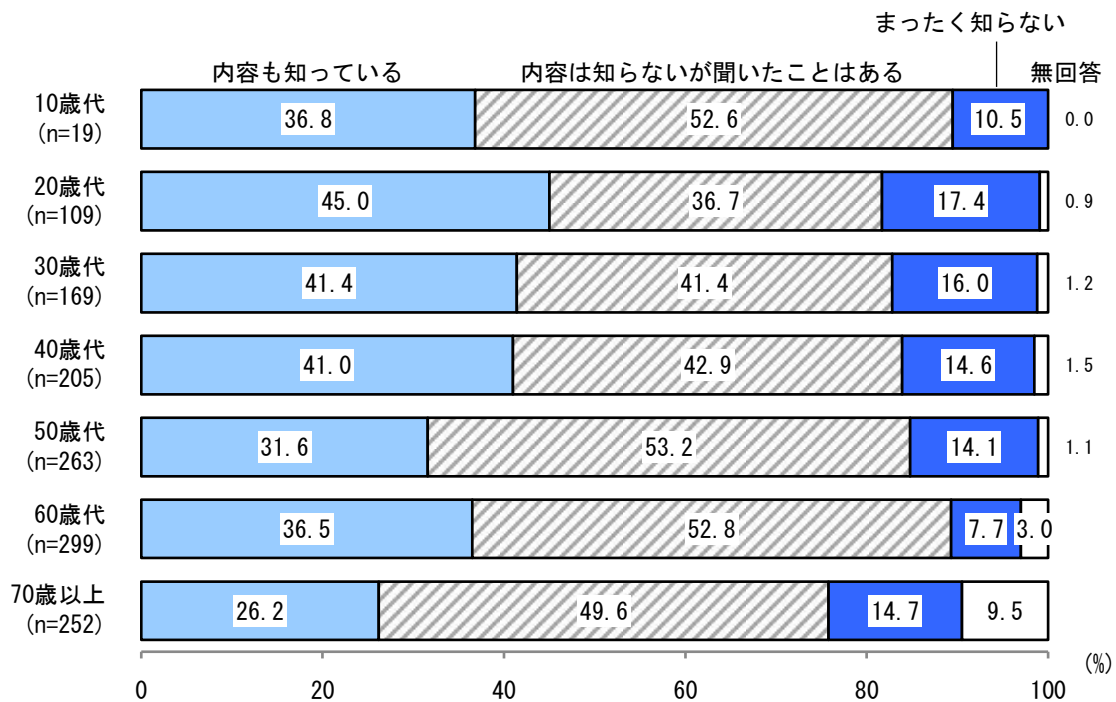
### 【性別】

性別でも、大きな差はみられません。



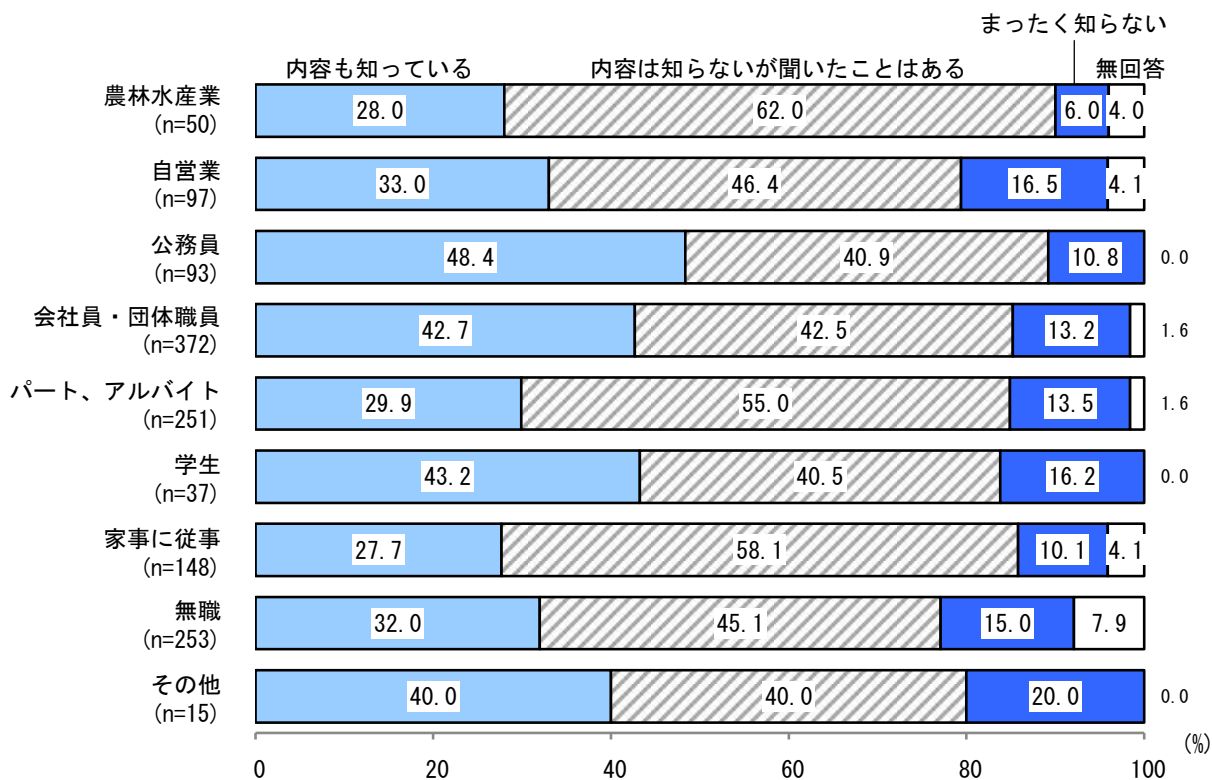
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は20歳代が45.0%で最も高く、認知度は60歳代が89.3%で最も高くなっています。



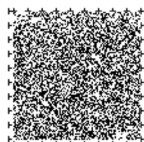
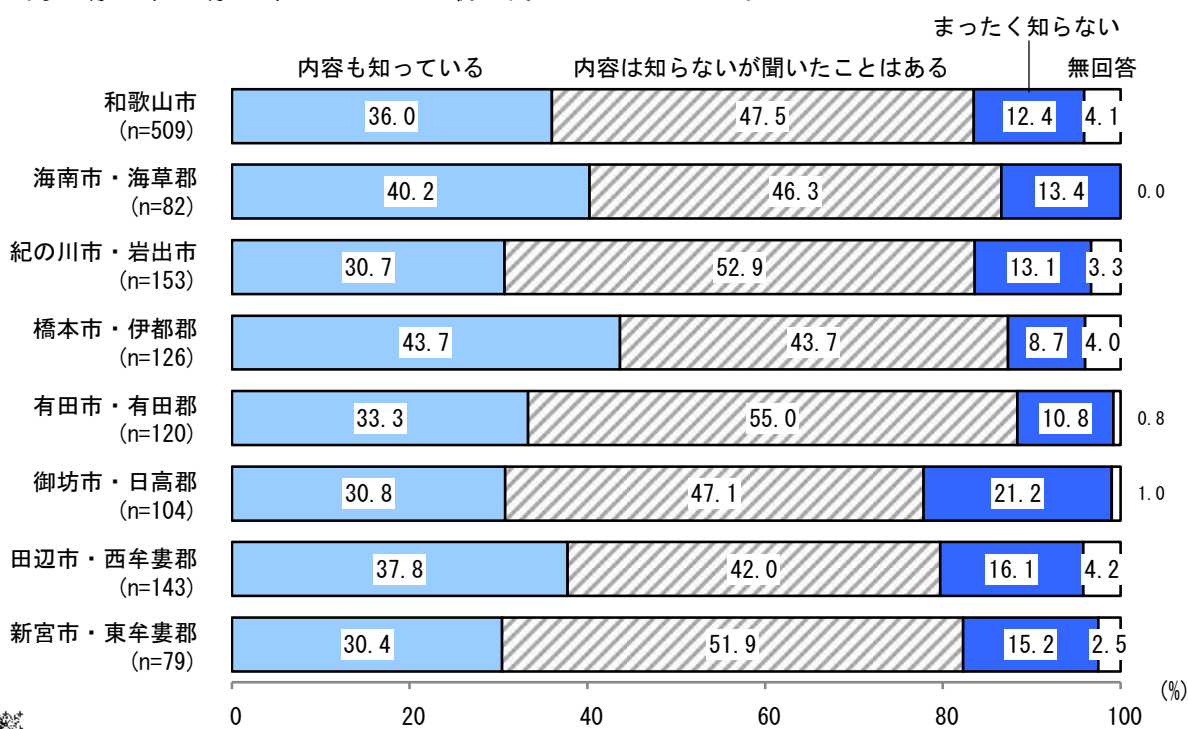
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が48.4%で最も高く、認知度は農林水産業が90.0%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

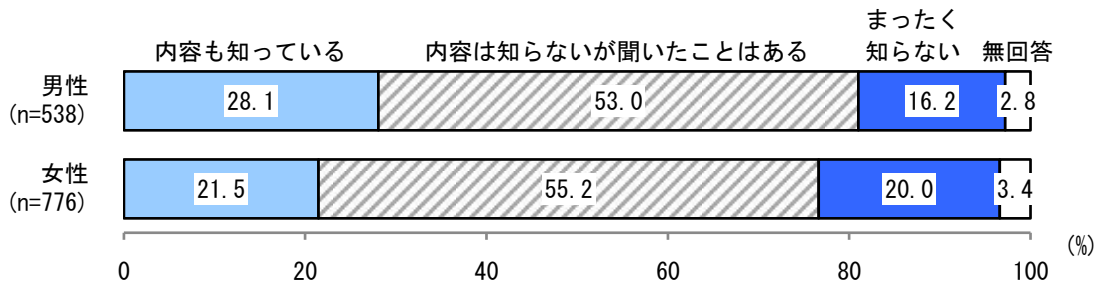
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は橋本市・伊都郡が43.7%で最も高く、認知度は有田市・有田郡が88.3%で最も高くなっています。



## 9. パワハラ防止法

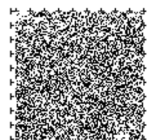
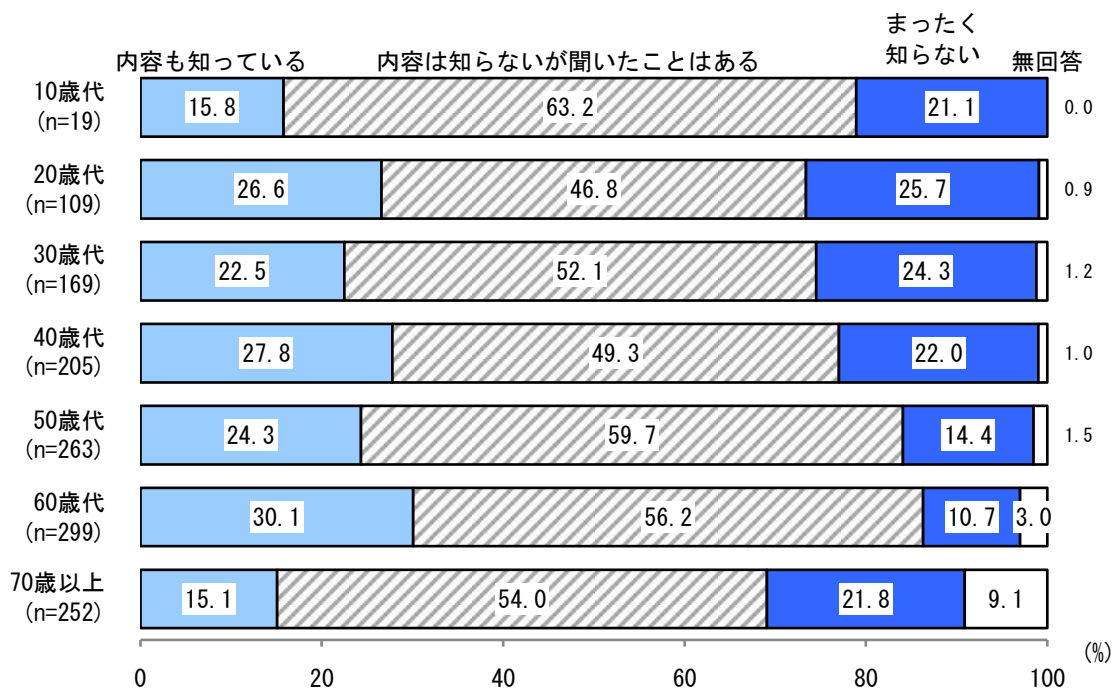
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（21.5%）より男性（28.1%）のほうが6.6ポイント高く、認知度も女性（76.7%）より男性（81.1%）のほうが4.4ポイント高くなっています。



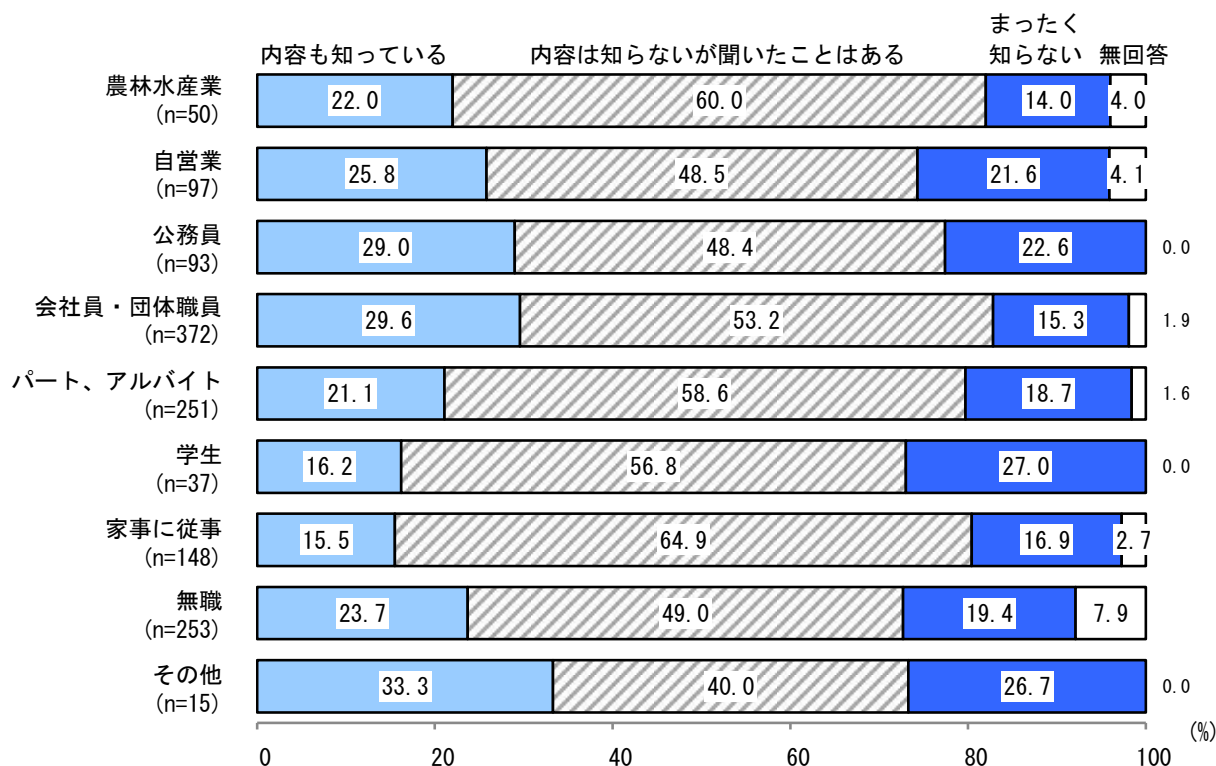
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は60歳代が30.1%で最も高く、認知度も60歳代が86.3%で最も高くなっています。



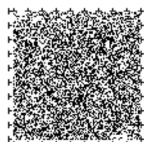
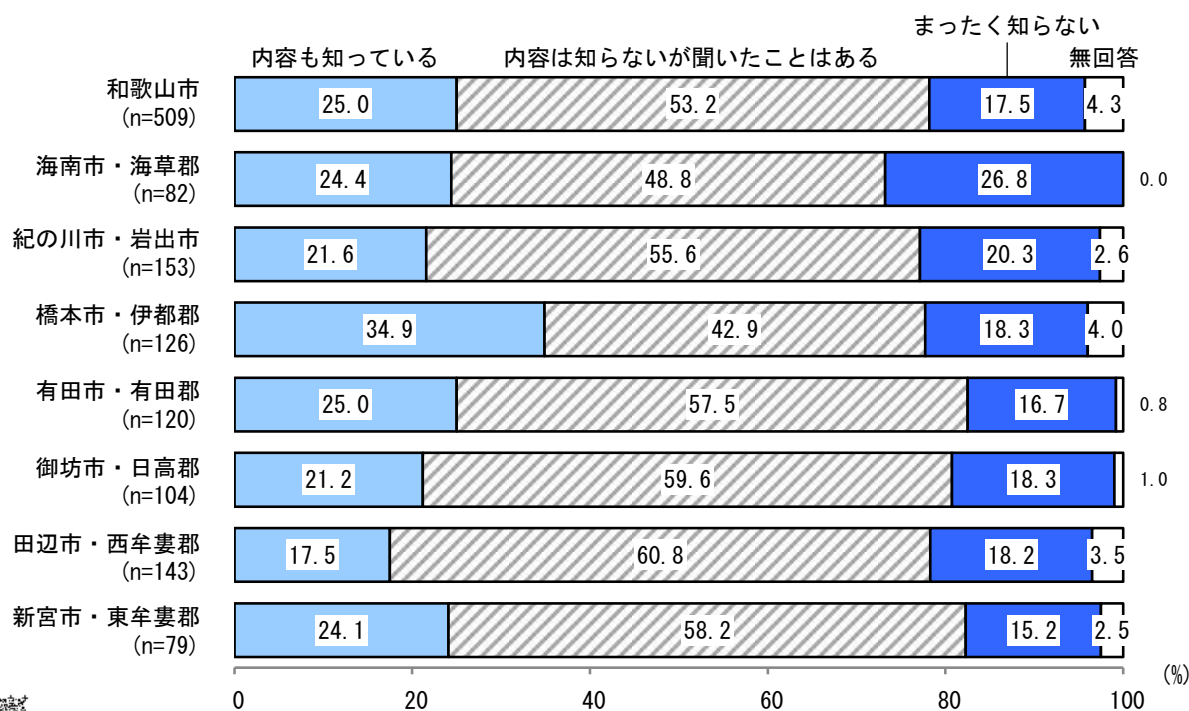
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は会社員・団体職員が29.6%で最も高く、認知度も会社員・団体職員が82.8%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は橋本市・伊都郡が34.9%で最も高く、認知度は有田市・有田郡が82.5%で最も高くなっています。

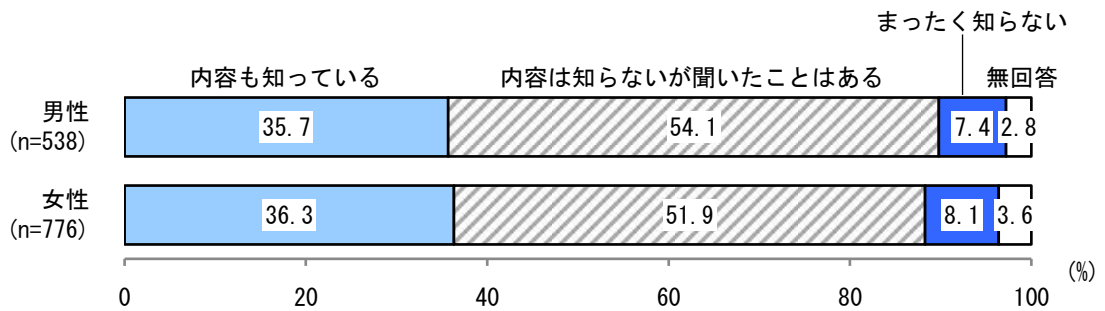




## 10. 児童虐待防止法

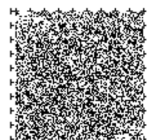
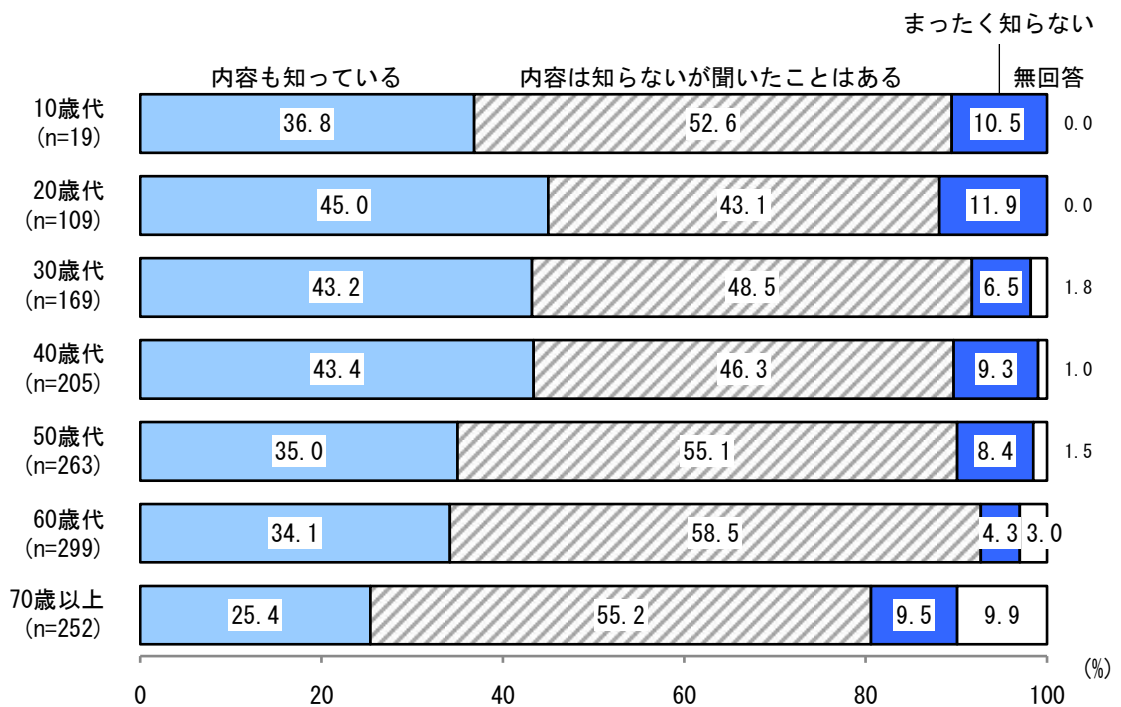
### 【性別】

性別でも、大きな差はみられません。



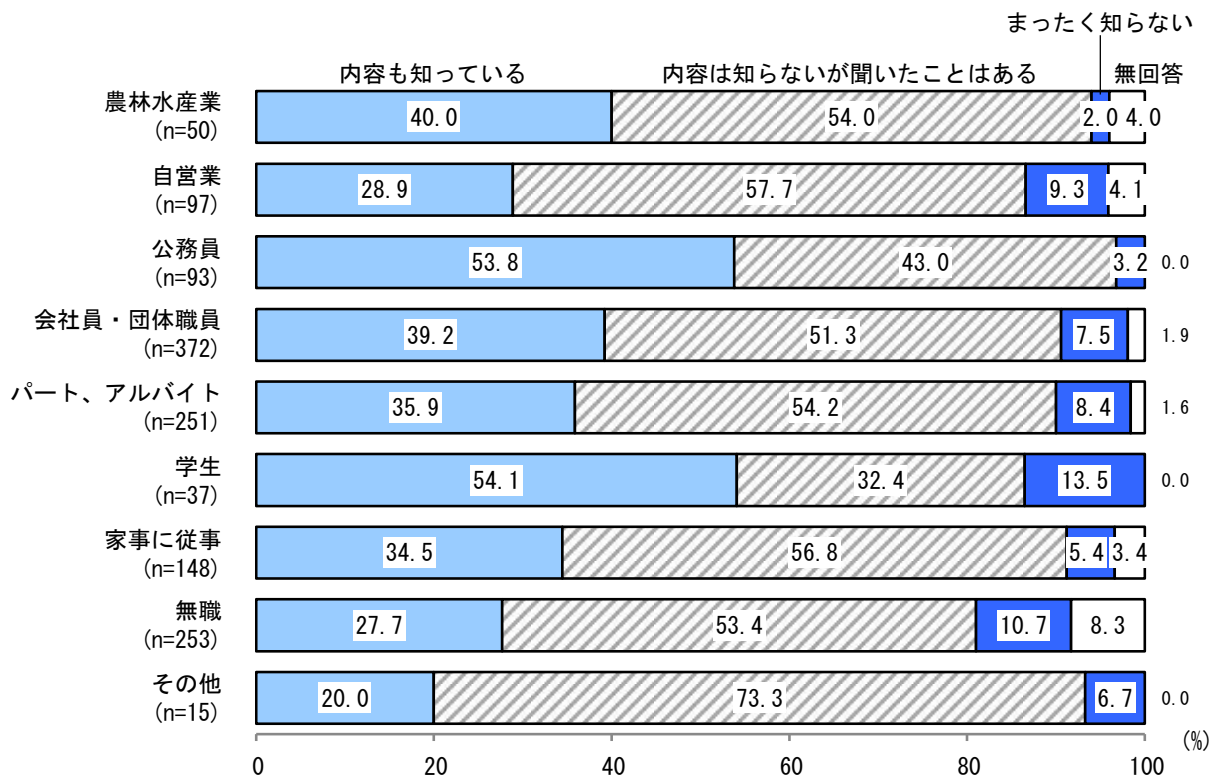
### 【年齢別】

年齢別でみると、「内容も知っている」の割合は20歳代が45.0%で最も高く、認知度は60歳代が92.6%で最も高くなっています。



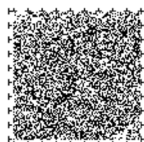
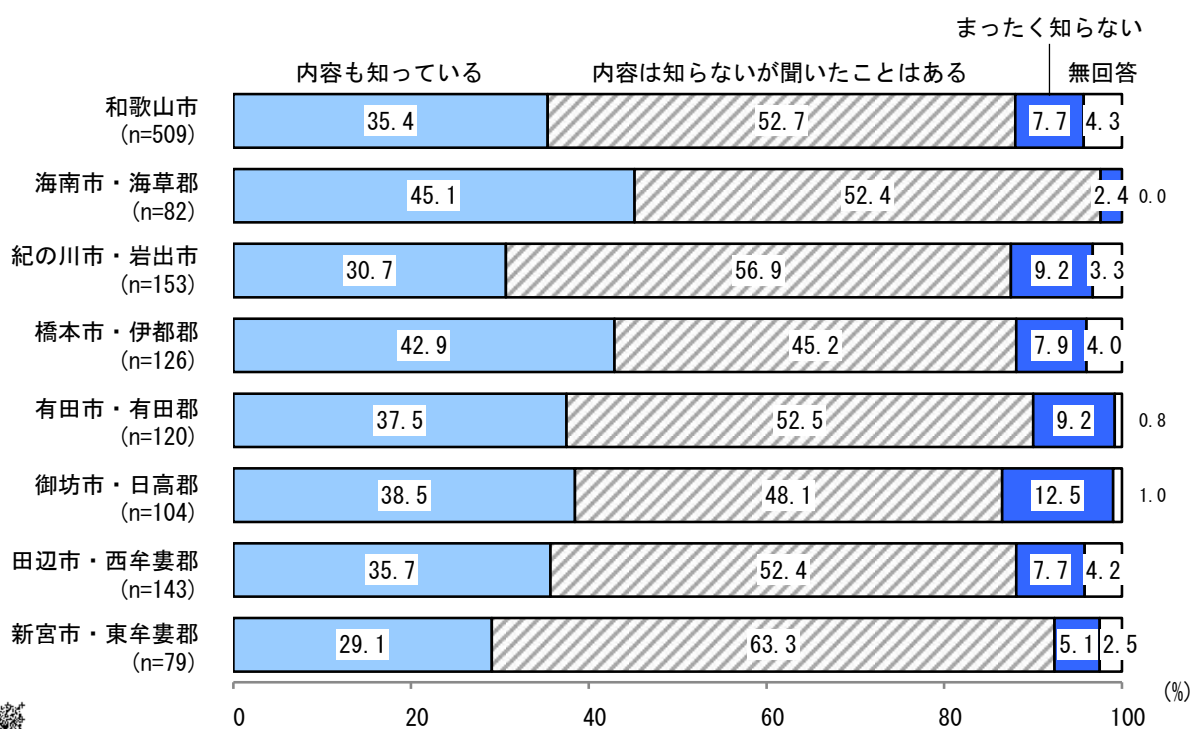
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は学生が54.1%で最も高く、認知度は公務員が96.8%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

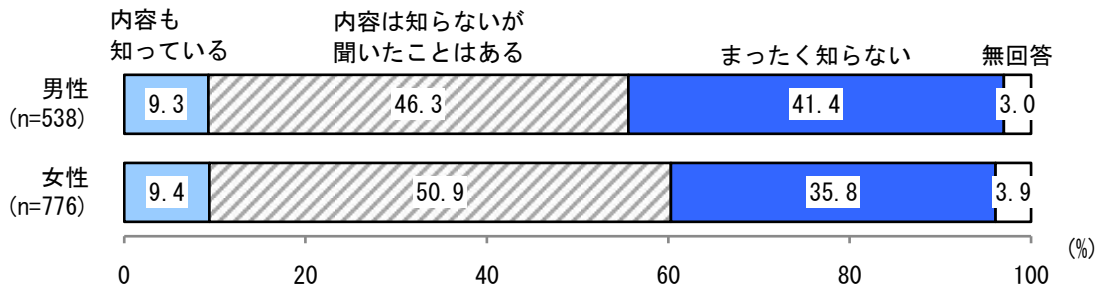
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は海南市・海草郡が45.1%で最も高く、認知度も海南市・海草郡が97.5%で最も高くなっています。



## 11. 子どもの貧困対策法

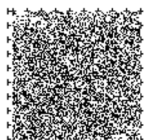
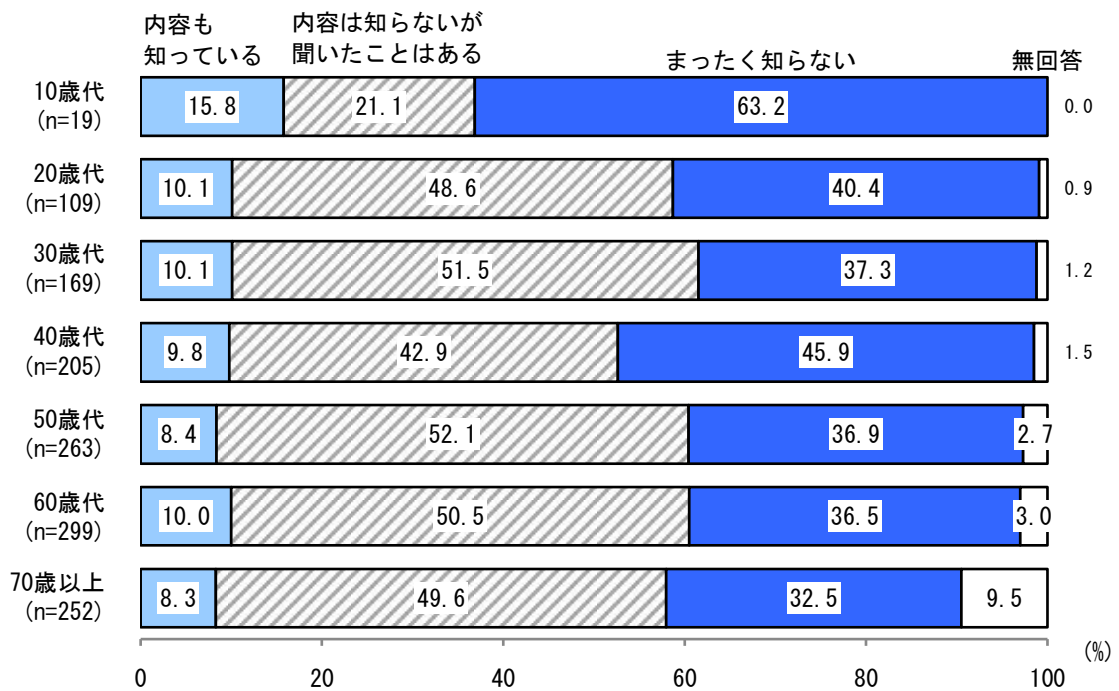
### 【性別】

性別で見ると、認知度は男性（55.6%）より女性（60.3%）のほうが4.7ポイント高くなっています。



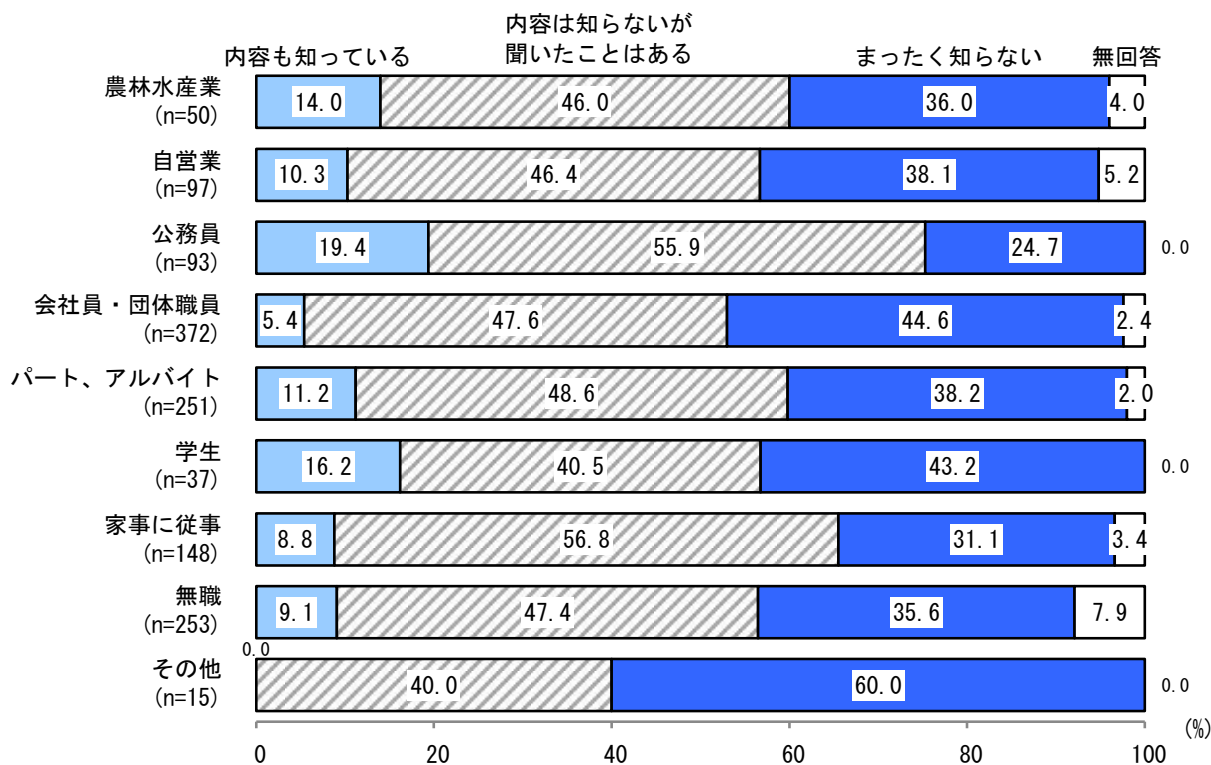
### 【年齢別】

年齢別で見ると、認知度は30歳代が61.6%で最も高くなっています。



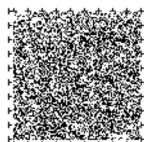
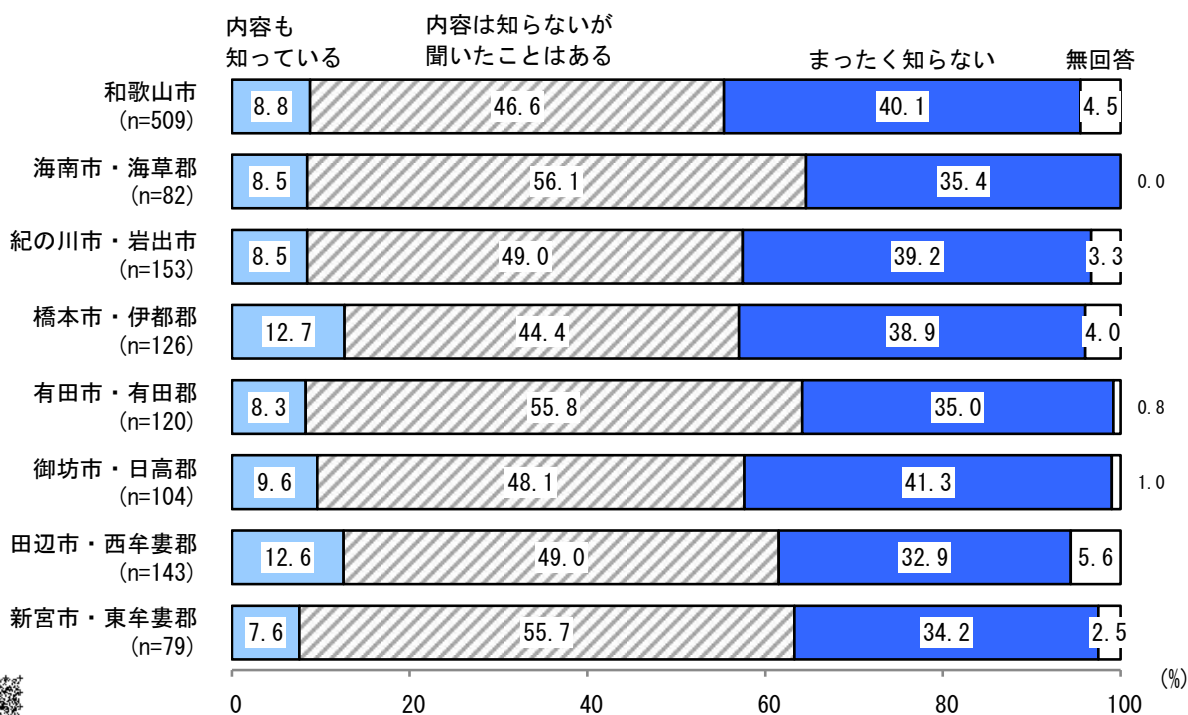
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が19.4%で最も高く、認知度も公務員が75.3%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

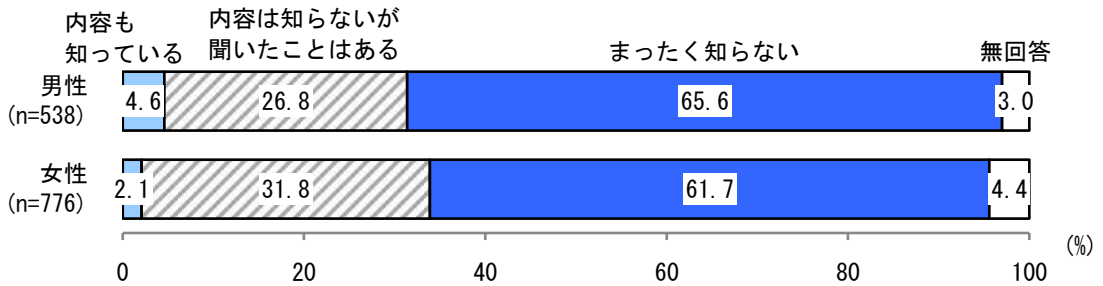
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は橋本市・伊都郡が12.7%で最も高く、認知度は海南市・海草郡が64.6%で最も高くなっています。



## 12. 和歌山県人権尊重の社会づくり条例

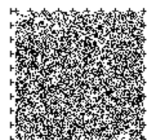
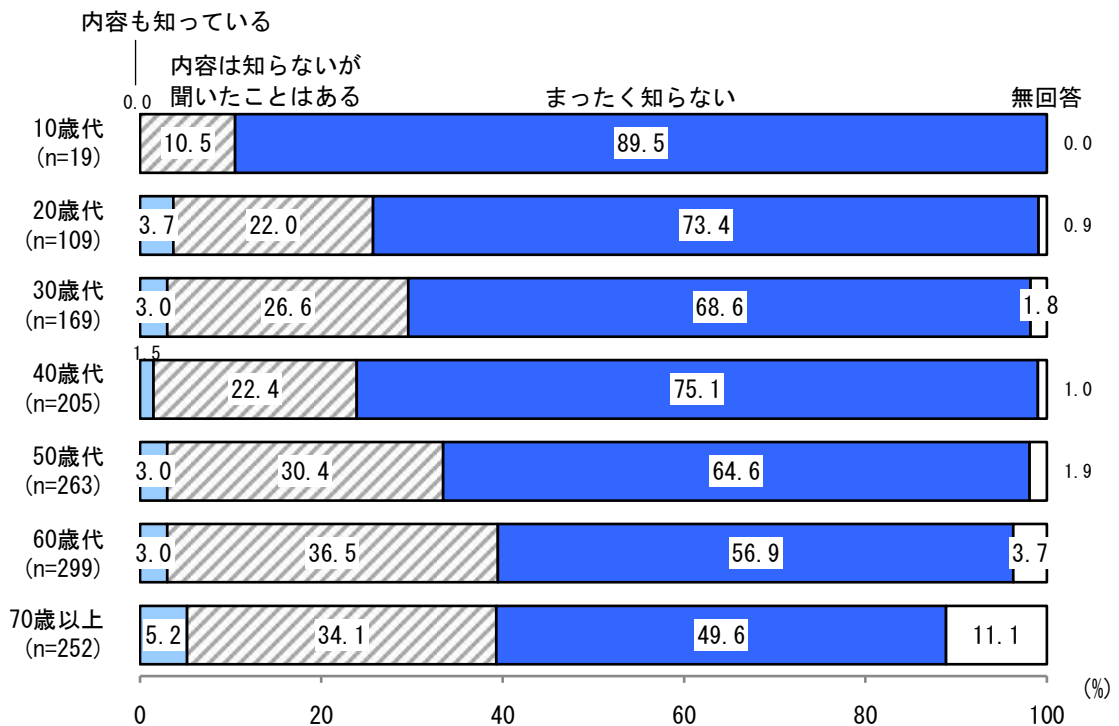
### 【性別】

性別で見ると、「内容も知っている」の割合は女性（2.1%）より男性（4.6%）のほうが2.5ポイント高く、認知度は男性（31.4%）より女性（33.9%）のほうが2.5ポイント高くなっています。



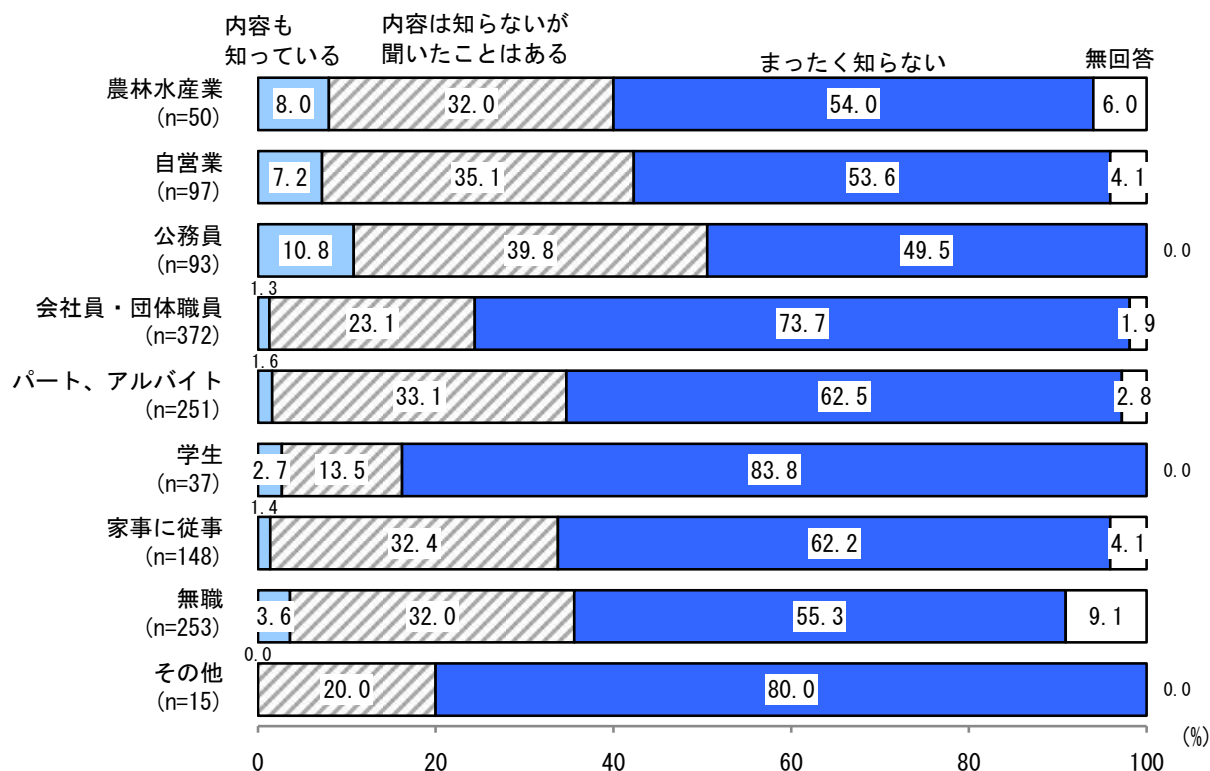
### 【年齢別】

年齢別で見ると、「内容も知っている」の割合は70歳以上が5.2%で最も高く、認知度は60歳代が39.5%で最も高くなっています。



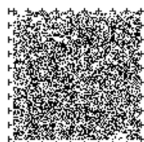
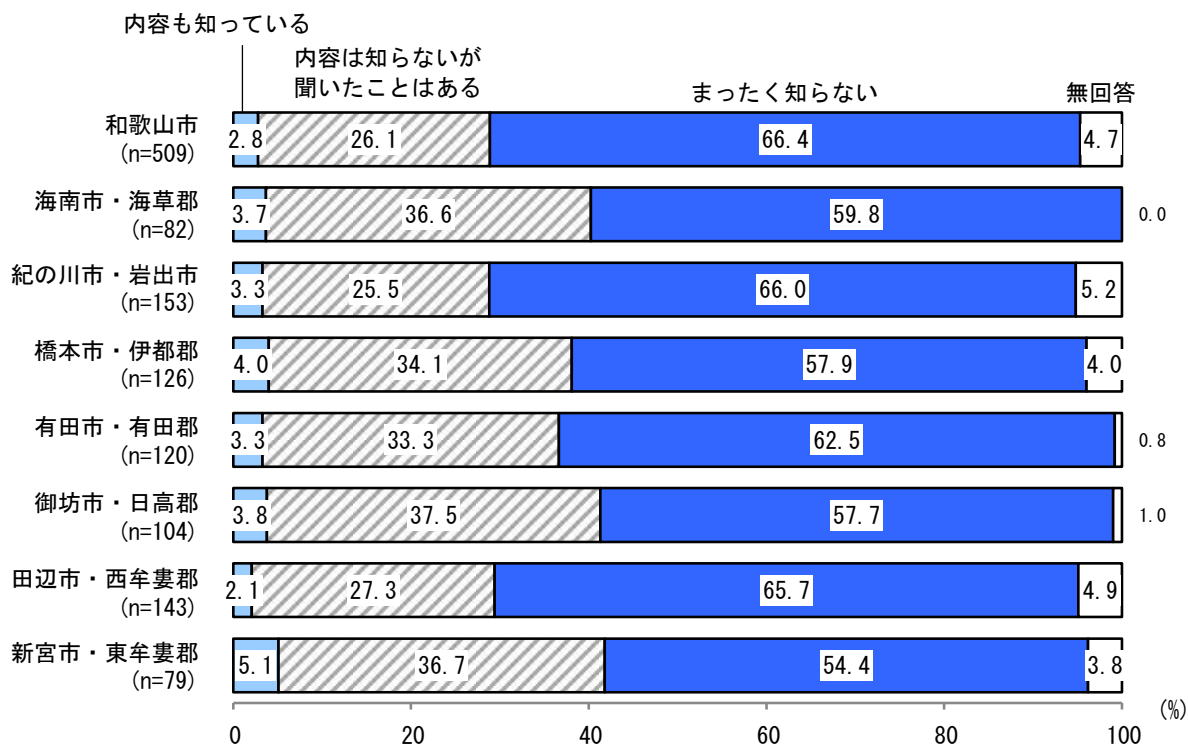
## 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が10.8%で最も高く、認知度も公務員が50.6%で最も高くなっています。



## 【居住地域別】

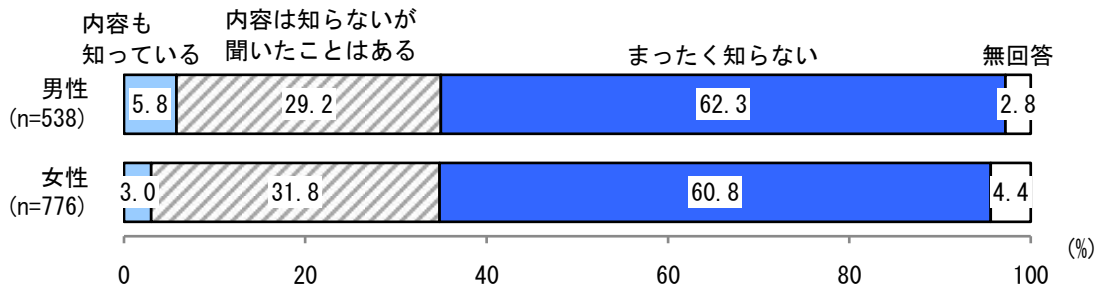
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は新宮市・東牟婁郡が5.1%で最も高く、認知度も新宮市・東牟婁郡が41.8%で最も高くなっています。



### 13. 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例

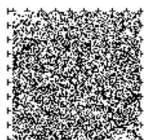
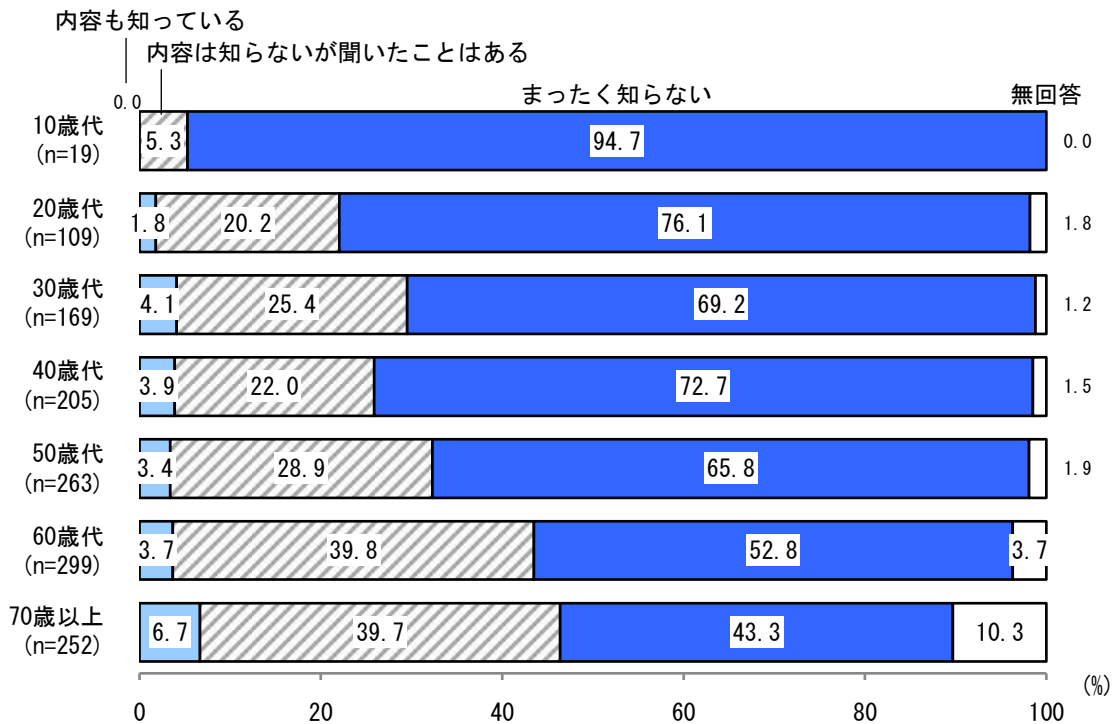
#### 【性別】

性別でみると、「内容も知っている」の割合は女性（3.0%）より男性（5.8%）のほうが2.8ポイント高く、認知度は大きな差はみられません。



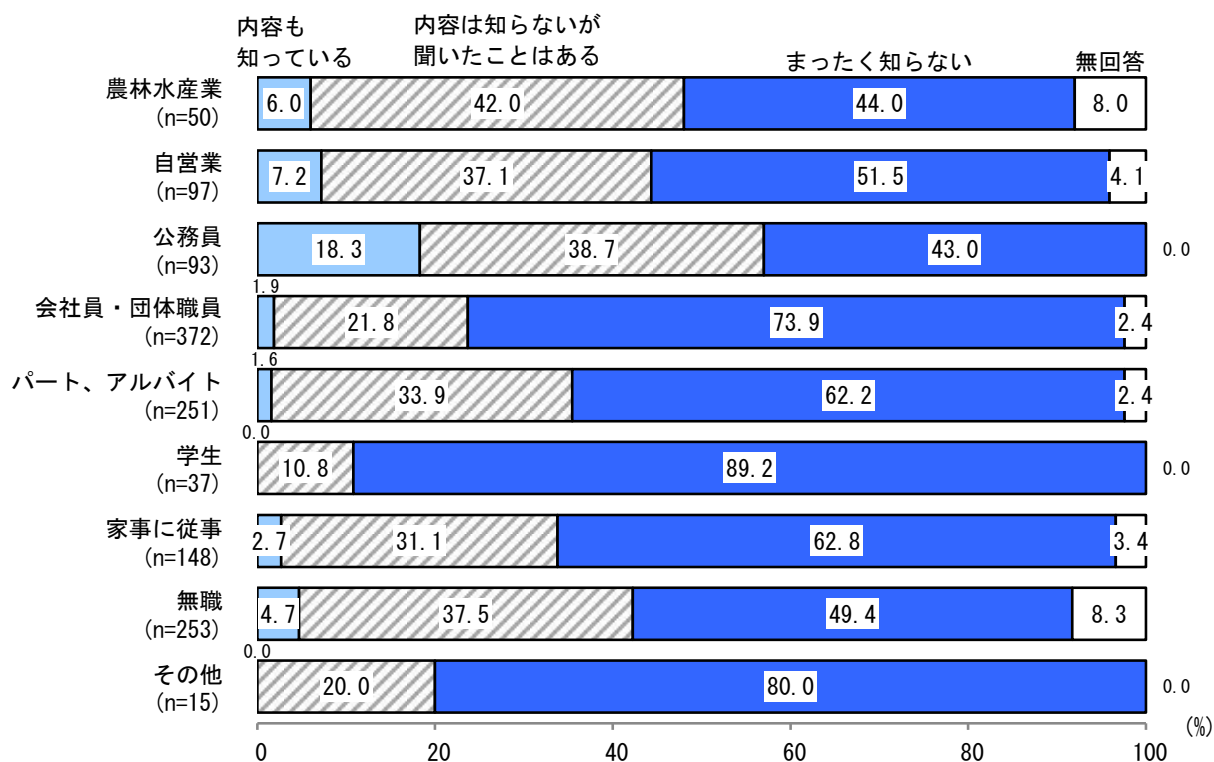
#### 【年齢別】

年齢別でみると、「内容も知っている」の割合は70歳以上が6.7%で最も高く、認知度も70歳以上が46.4%で最も高くなっています。



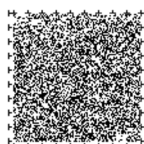
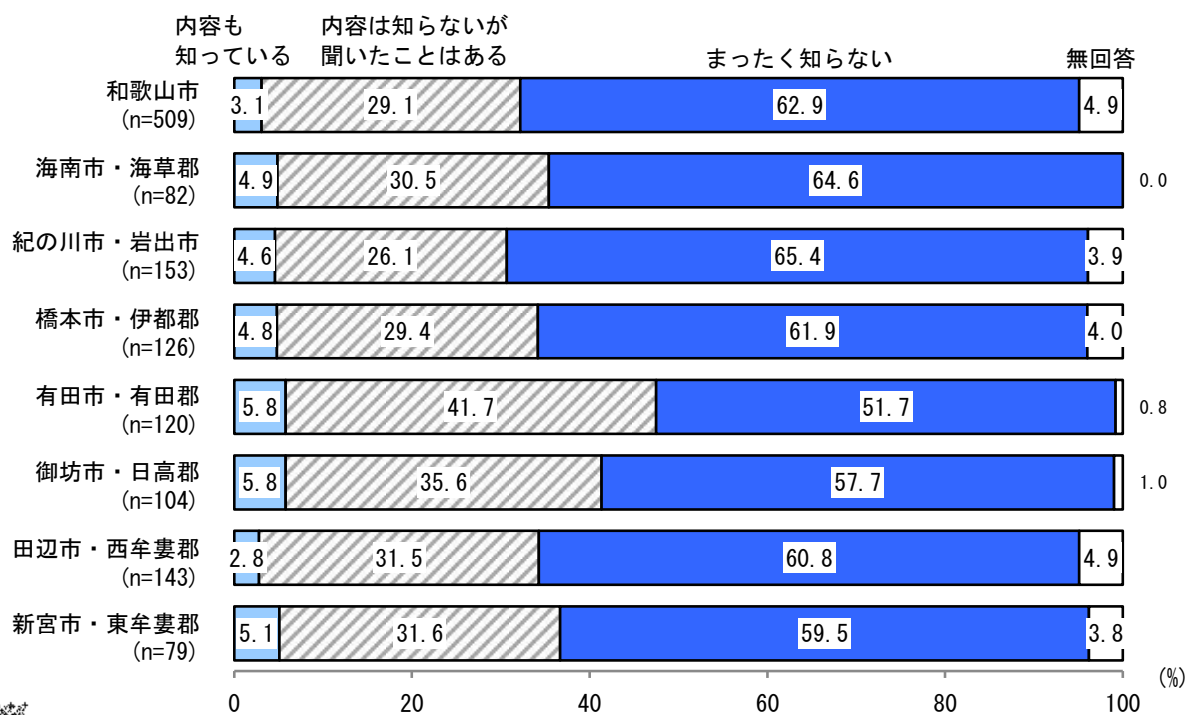
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が18.3%で最も高く、認知度も公務員が57.0%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は有田市・有田郡と御坊市・日高郡がともに5.8%で最も高く、認知度は有田市・有田郡が47.5%で最も高くなっています。

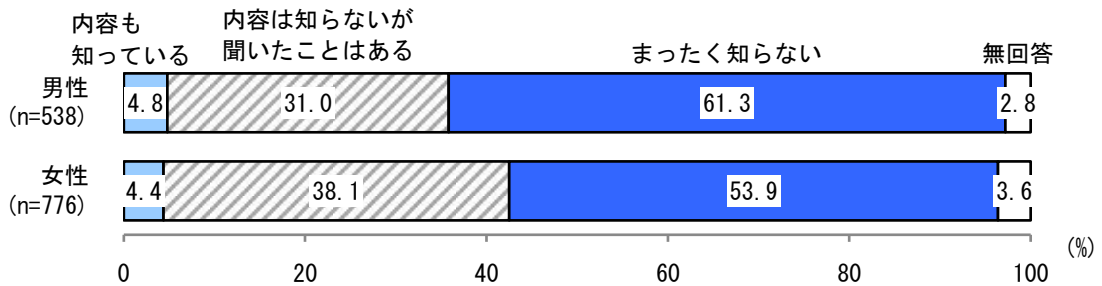




## 14. 和歌山県新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷等対策に関する条例

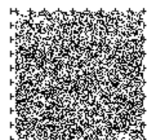
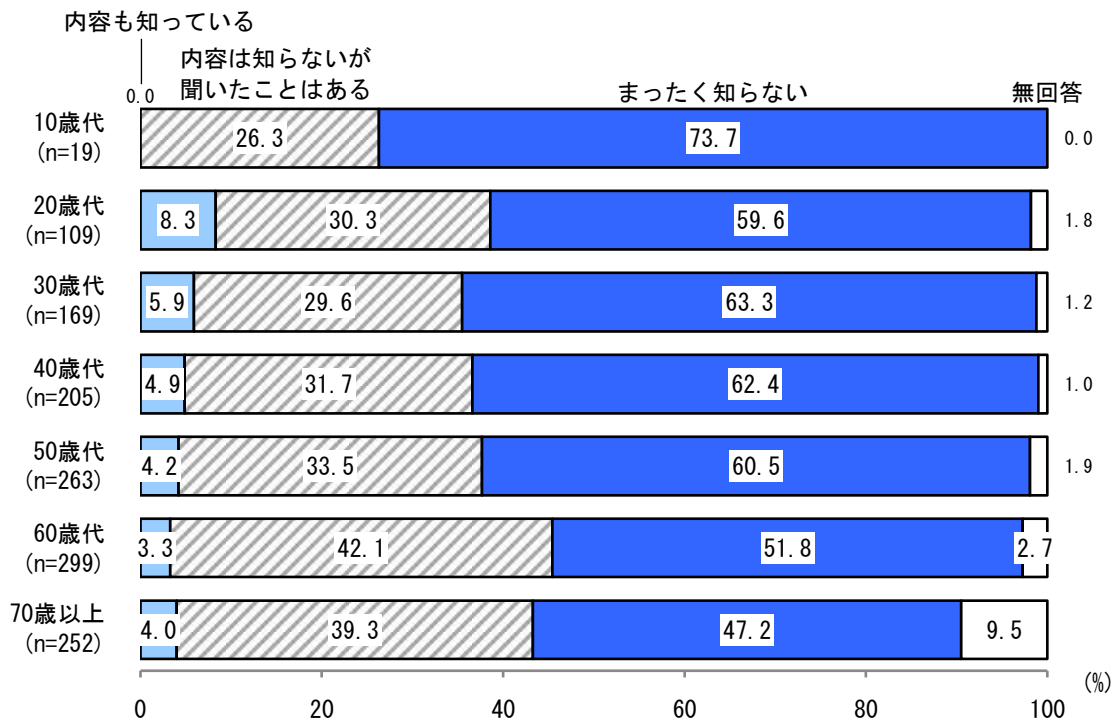
### 【性別】

性別でみると、認知度は男性（35.8%）より女性（42.5%）のほうが6.7ポイント高くなっています。



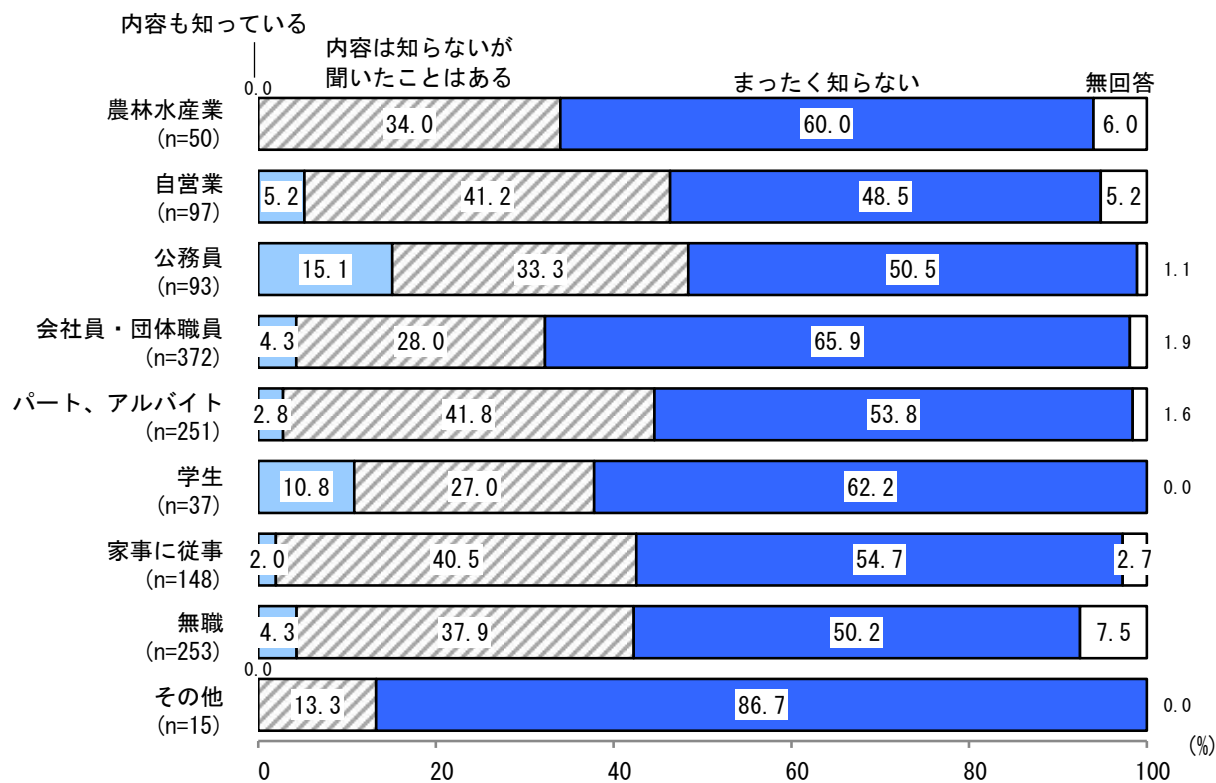
### 【年齢別】

年齢別でみると、「内容も知っている」の割合は20歳代が8.3%で最も高く、認知度は60歳代が45.4%で最も高くなっています。



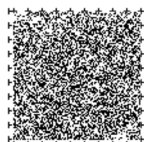
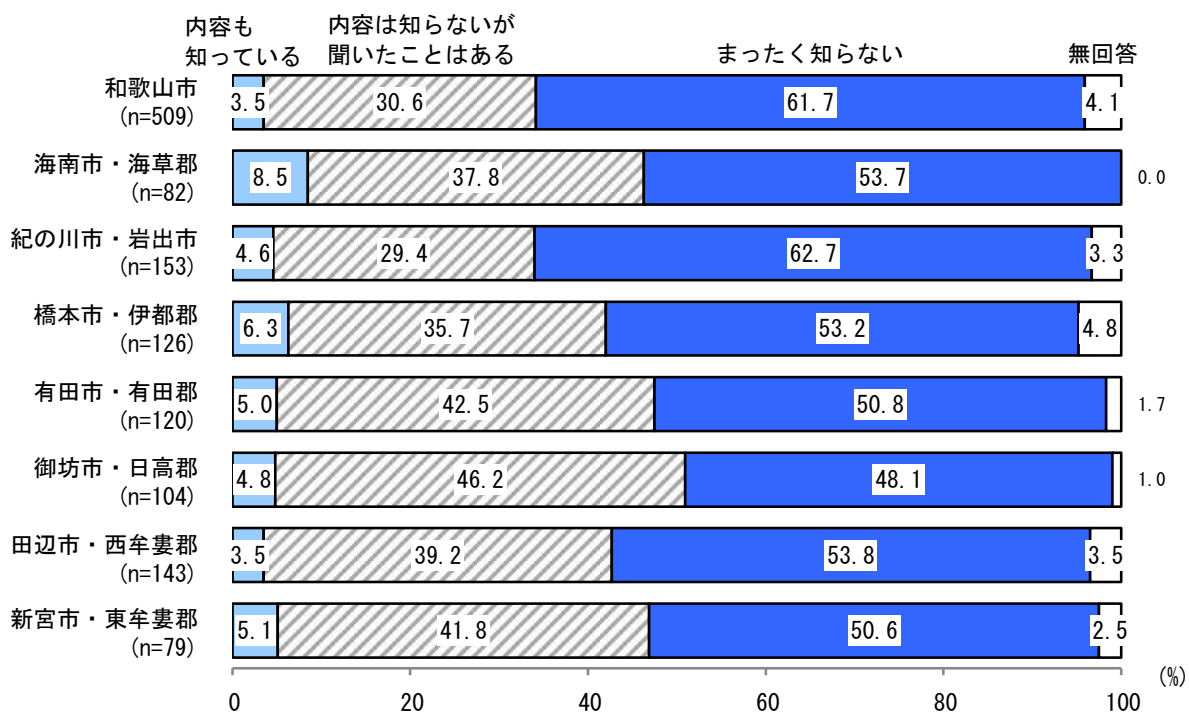
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が15.1%で最も高く、認知度も公務員が48.4%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

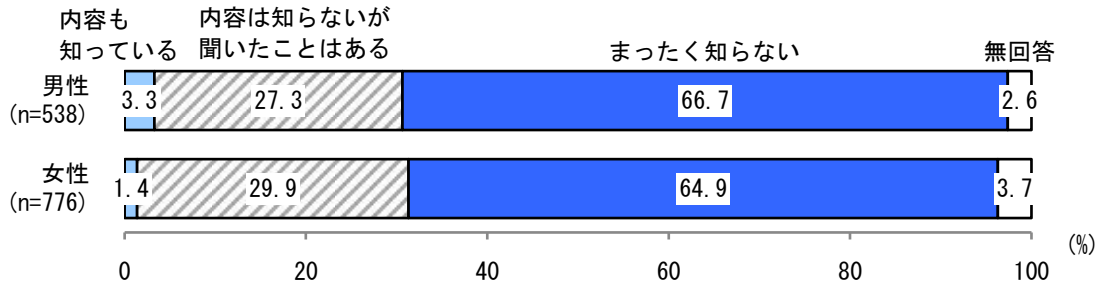
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は海南市・海草郡が8.5%で最も高く、認知度は御坊市・日高郡が51.0%で最も高くなっています。



## 15. 和歌山県犯罪被害者等支援条例

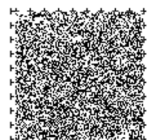
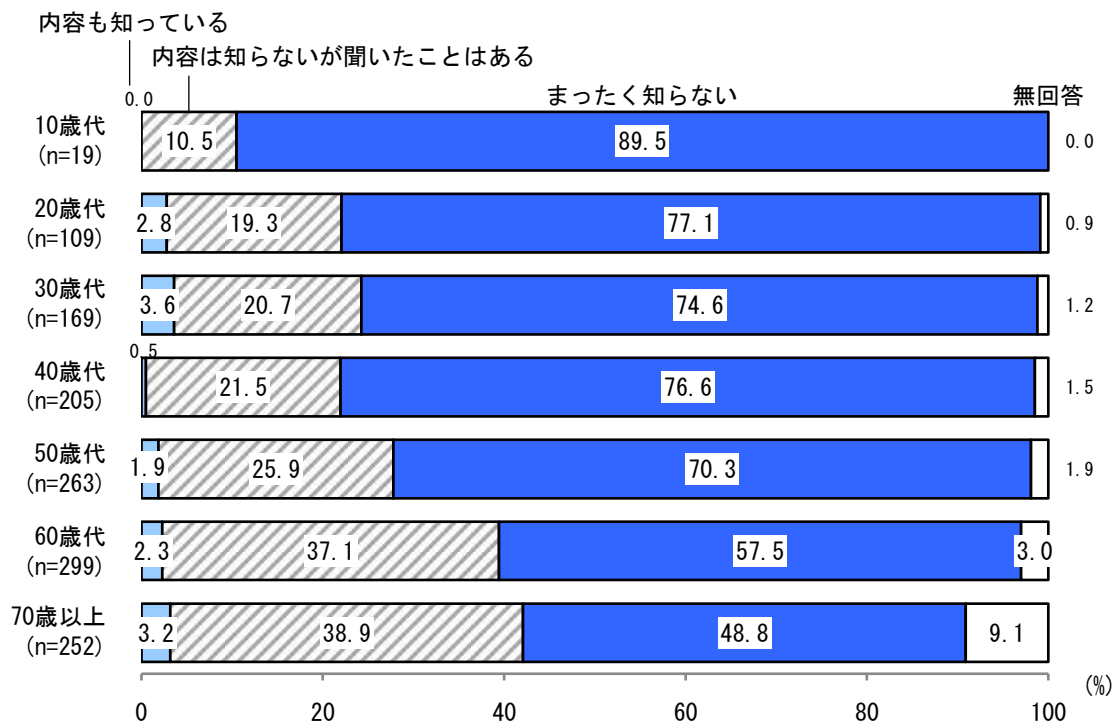
### 【性別】

性別でみると、大きな差はみられません。



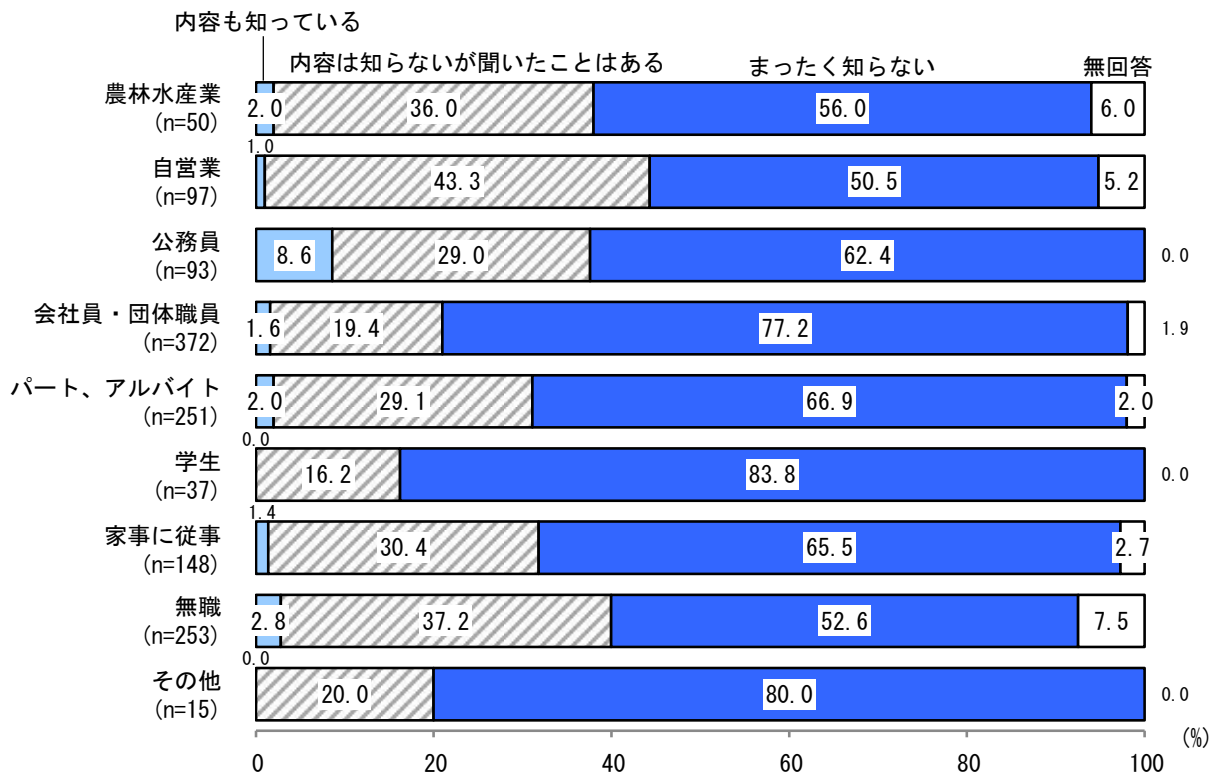
### 【年齢別】

年齢別でみると、「内容も知っている」の割合は30歳代が3.6%で最も高く、認知度は70歳以上が42.1%で最も高くなっています。



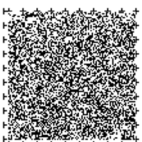
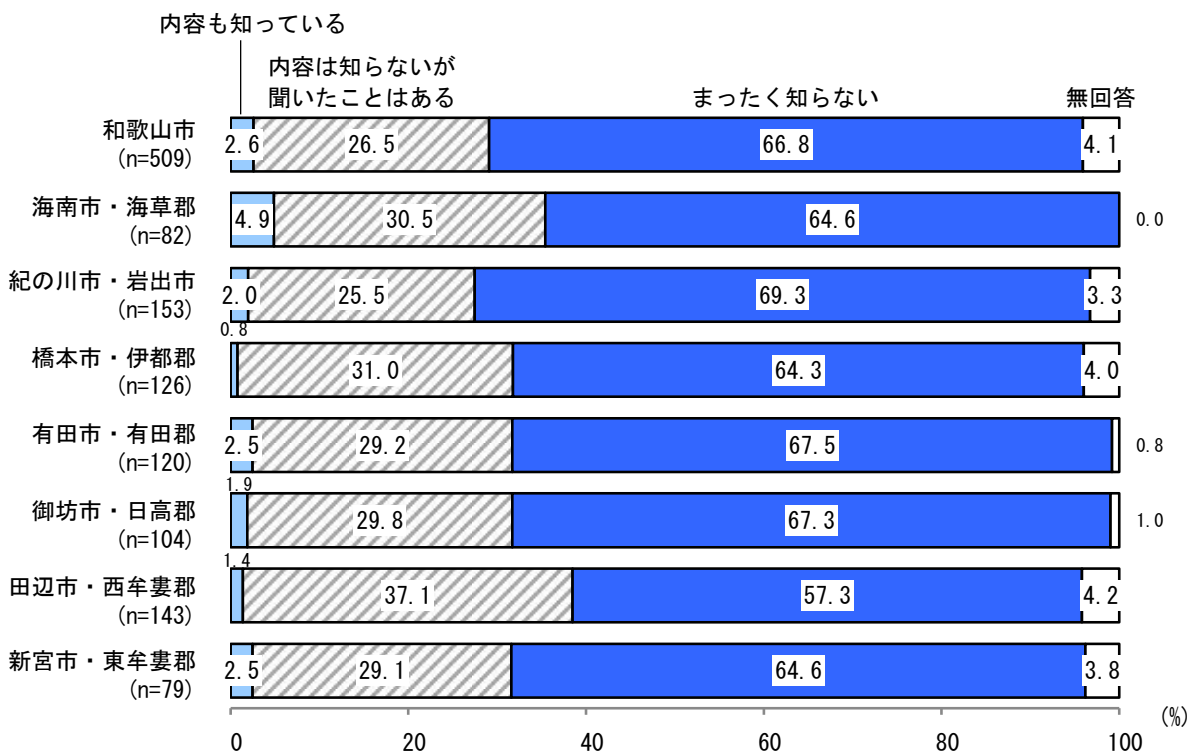
### 【職業別】

職業別でみると、「内容も知っている」の割合は公務員が8.6%で最も高く、認知度は自営業が44.3%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

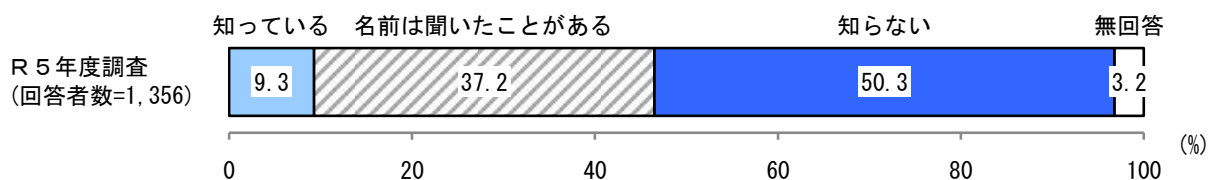
居住地域別でみると、「内容も知っている」の割合は海南市・海草郡が4.9%で最も高く、認知度は田辺市・西牟婁郡が38.5%で最も高くなっています。



## (2)「(公財)和歌山県人権啓発センター」の認知度

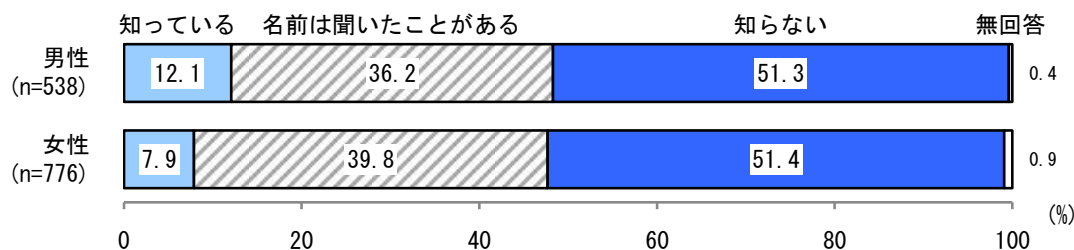
問23 あらゆる人権問題に関する啓発活動の推進と情報発信の拠点である「(公財)和歌山県人権啓発センター」のことを知っていますか(○は1つだけ)

「知らない」の割合が50.3%で最も多く、次いで「名前は聞いたことがある」が37.2%、「知っている」が9.3%となっています。「知っている」と「名前は聞いたことがある」をあわせた認知度は46.5%となっています。



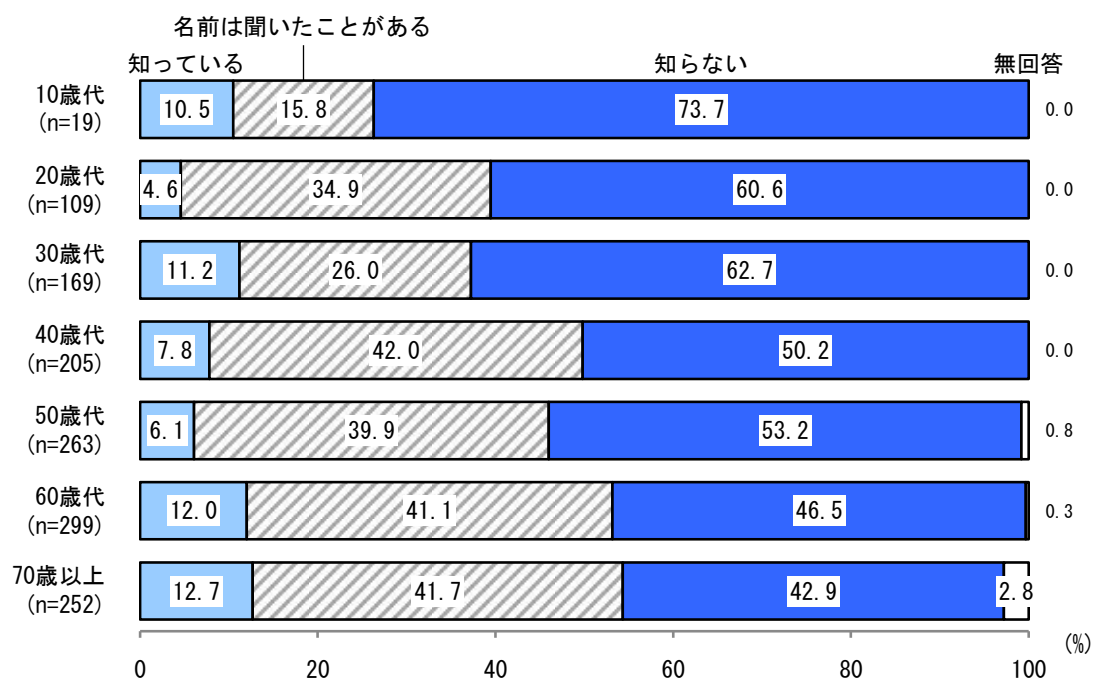
### 【性別】

性別でみると、「知っている」は女性(7.9%)より男性(12.1%)のほうが4.2ポイント高くなっています。



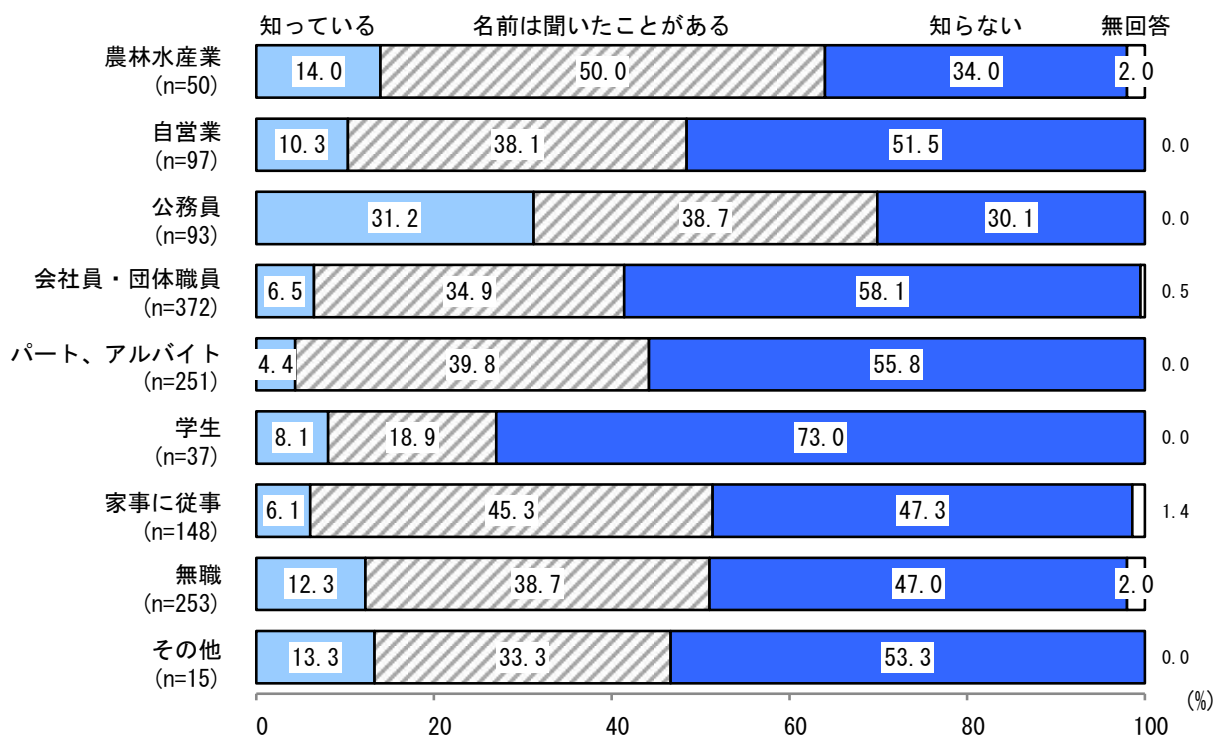
### 【年齢別】

年齢別でみると、「知っている」は70歳以上が12.7%で最も高く、認知度も70歳以上が54.4%で最も高くなっています。



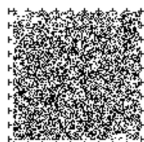
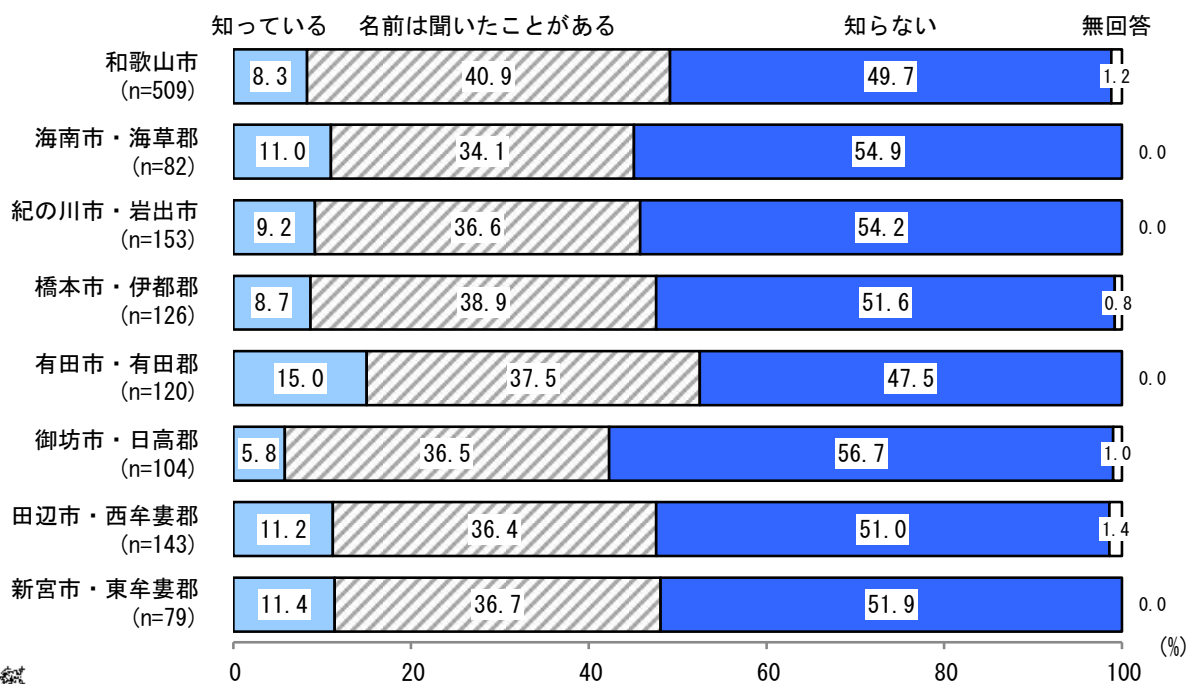
### 【職業別】

職業別でみると、「知っている」の割合は公務員が31.2%で最も高く、認知度も公務員が69.9%で最も高くなっています。



### 【居住地域別】

居住地域別でみると、「知っている」の割合は有田市・有田郡が15.0%で最も高く、認知度も有田市・有田郡が52.5%で最も高くなっています。

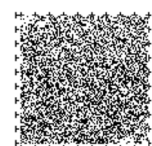
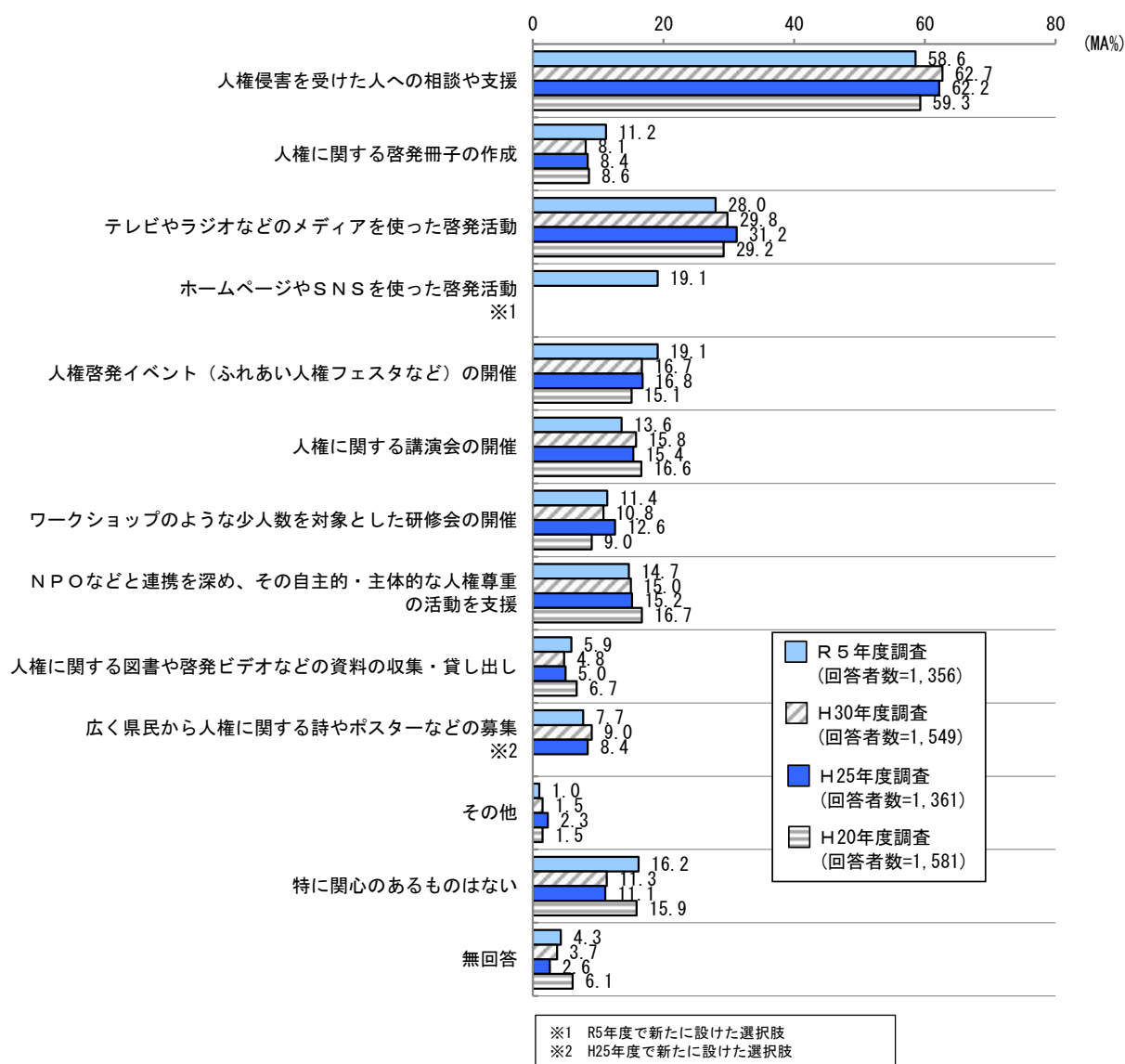


### (3) 関心がある和歌山県や(公財)和歌山県人権啓発センターの取組

問24 すべての人の人権が尊重される社会の実現のため、和歌山県や(公財)和歌山県人権啓発センターでは次のような取組を行っていますが、その中で関心があるのはどの取組ですか(〇はいくつでも)

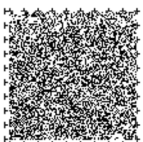
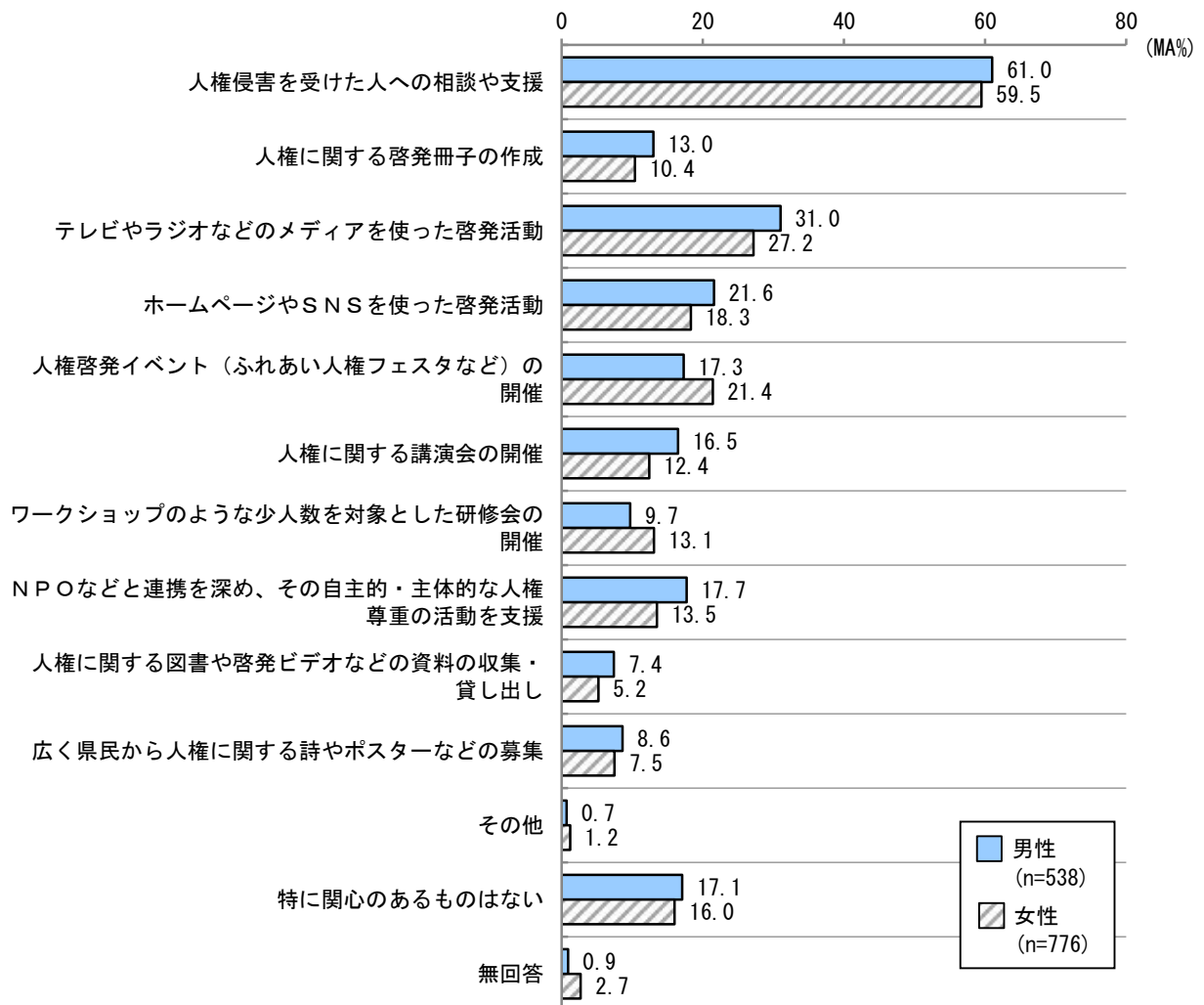
「人権侵害を受けた人への相談や支援」の割合が58.6%で最も多く、次いで「テレビやラジオなどのメディアを使った啓発活動」が28.0%、「ホームページやSNSを使った啓発活動」と「人権啓発イベント(ふれあい人権フェスタなど)の開催」がともに19.1%となっています。

平成30年度調査と比較すると、いずれの項目も大きな変化はありませんが、「人権啓発イベント(ふれあい人権フェスタなど)の開催」の割合は増加傾向にあります。



【性別】

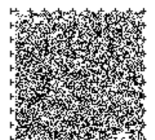
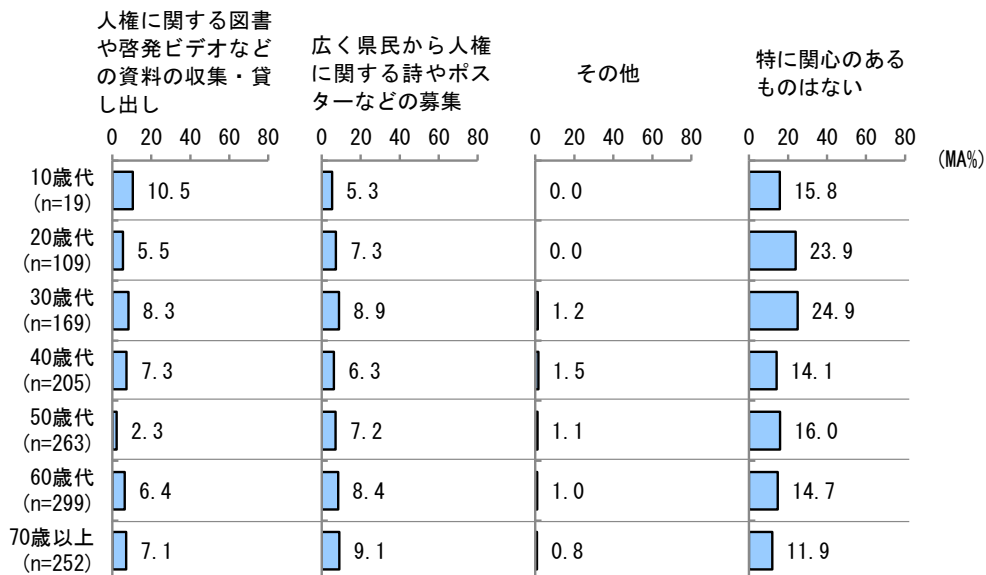
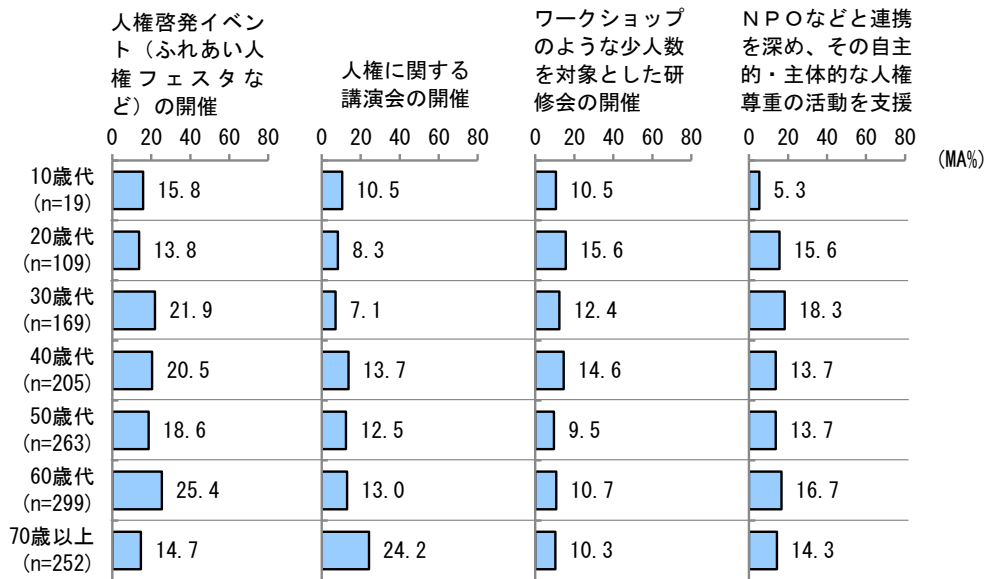
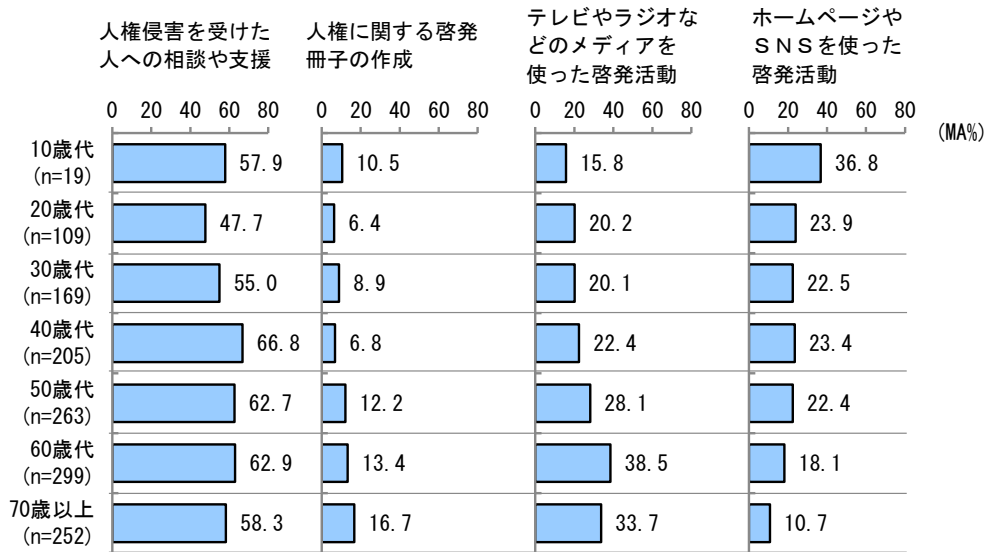
性別で見ると、「NPOなどと連携を深め、その自主的・主体的な人権尊重の活動を支援」の割合は女性（13.5%）より男性（17.7%）のほうが4.2ポイント高くなっています。





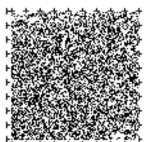
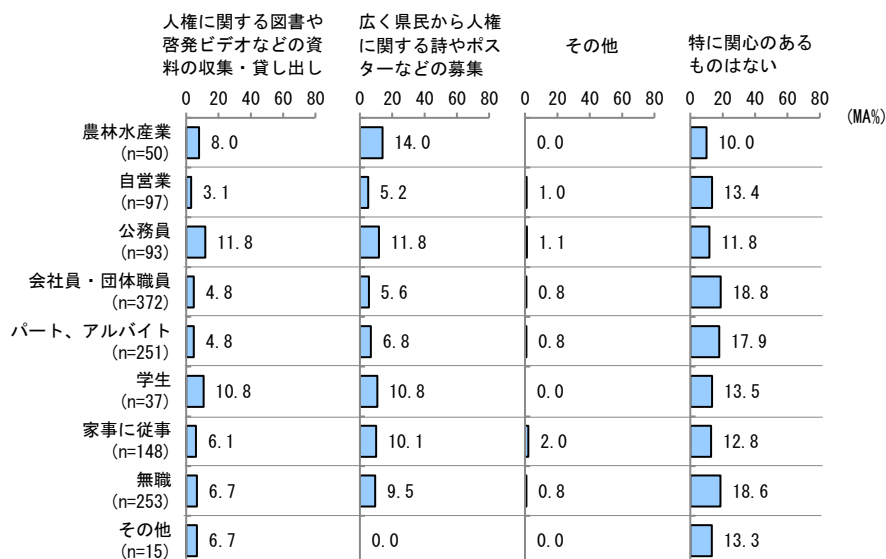
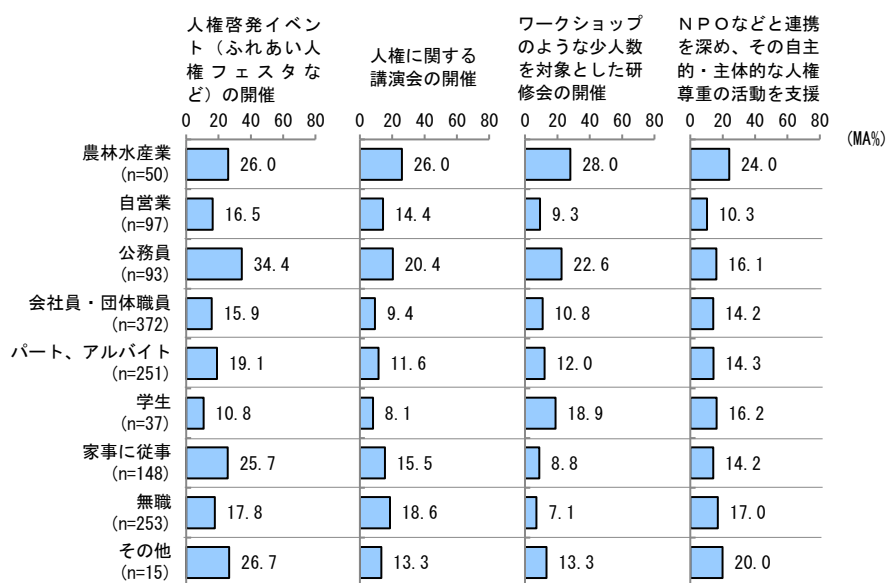
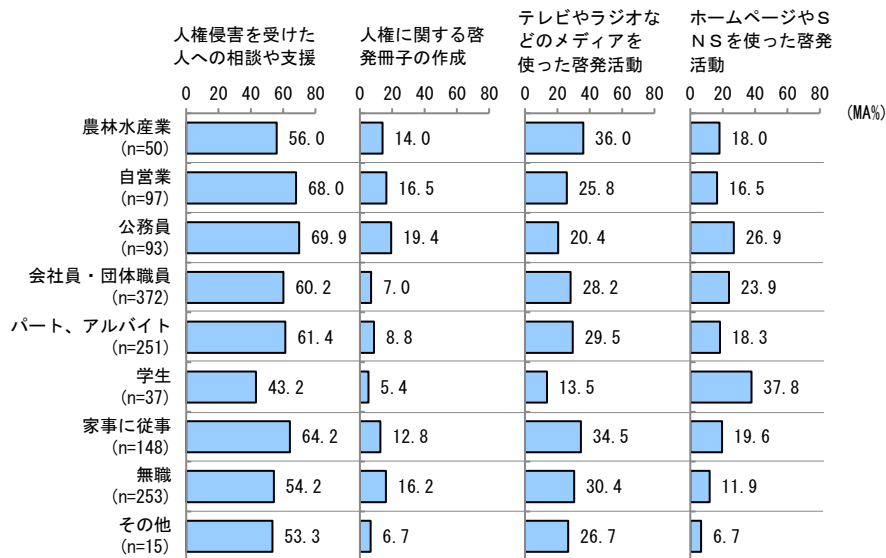
## 【年齢別】

年齢別でみると、「人権に関する啓発冊子の作成」、「人権に関する講演会の開催」、「広く県民から人権に関する詩やポスターなどの募集」では70歳以上が最も高い割合となっています。



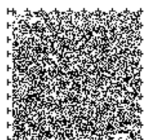
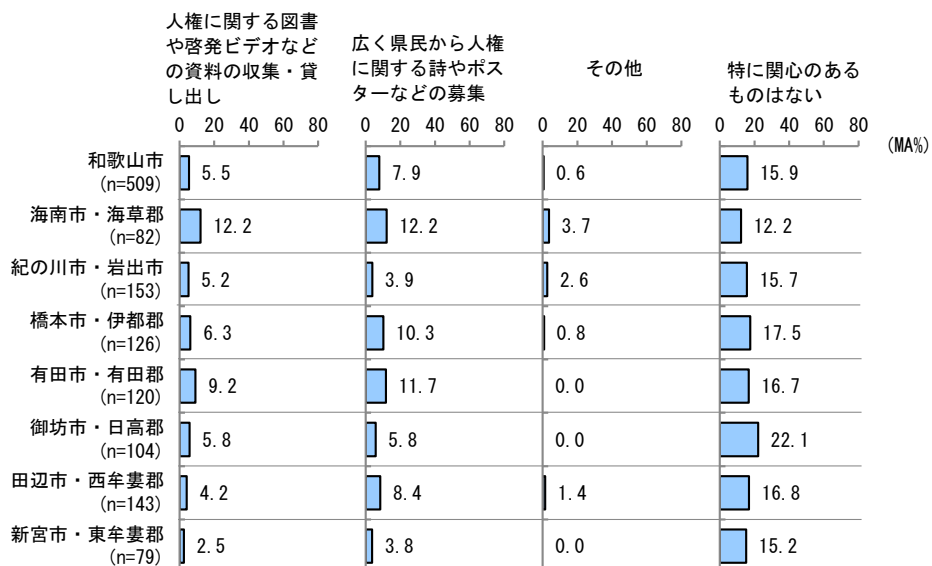
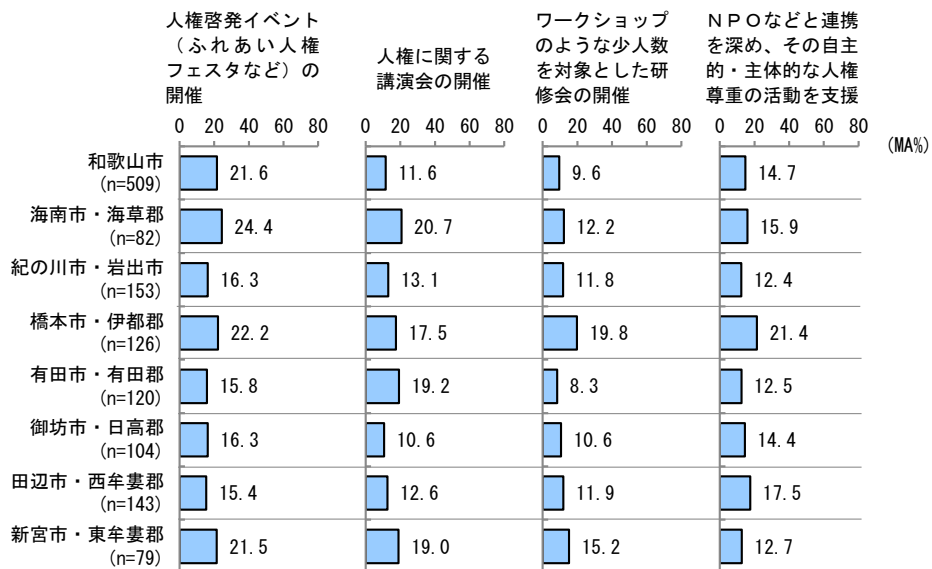
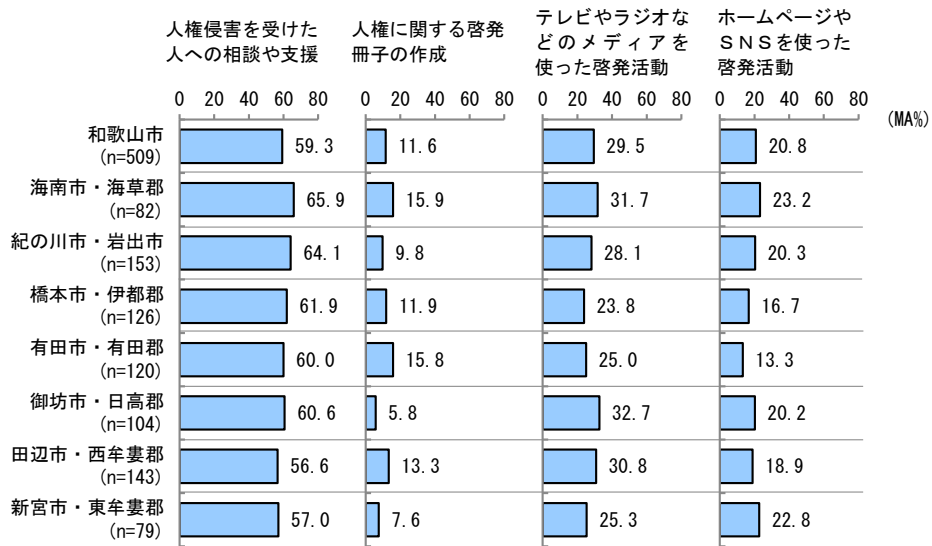
【職業別】

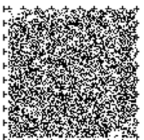
職業別でみると、「人権侵害を受けた人への相談や支援」の割合は公務員が69.9%で最も高く、「ホームページやSNSを使った啓発活動」の割合は学生が37.8%で最も高くなっています。



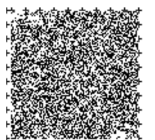
【居住地域別】

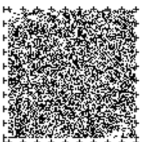
居住地域別でみると、「人権侵害を受けた人への相談や支援」の割合は海南市・海草郡が65.9%で最も高く、次いで紀の川市・岩出市が64.1%となっています。





# V 自由意見





## V 自由意見

◎ 人権問題や和歌山県の人権施策などにご意見・ご要望などがございましたら、以下にご自由にお書きください

人権問題に関する意見を自由に記入してもらったところ、123名から延べ144件の意見が寄せられました。

### ○人権全般について

記入内容	件数
人権問題は難しい	7
行政による人権施策の推進が重要である	6
人権意識の啓発が必要である	4
暴言等、差別を受けたことがある	4
教育の場などで子供の頃から人権教育を学ぶことが大事である	3
相談窓口の設置・充実	2
他人に対する思いやりが大切である	2
自分で人権を守る努力をすべき	2
身近なところで人権教育を受ける機会があるといい	2
人権問題は府県ではなく国の問題である	2
人権問題が少しずつでも解決してほしい	2
権利を盾に横暴している人がたくさんいる	1
若者世代に向けた人権施策を推進すべき	1
人権問題は平等ではない	1
当たり前の権利が守られるようになってほしい	1
人権侵害した人への再発防止について厳しく対応してほしい	1
声の大きい人の意見ばかりではなく、本当の平等を実現させてほしい	1
結婚について、未だ人権差別がある	1
人権に関しては大人に課題がある	1
人権侵害しないように気をつけたい	1
国の軍事費予算をなくして、国民の命を守ることに予算を費やしてほしい	1
人権侵害は、「富」や「財力」によるところが大きいのではないか	1
社会的強者と、あたかも人権問題などないように論ずることこそが人権問題である	1
根本的な問題を正さない限りなくなるらない	1
人権を尊重するべき点は多くの人で話し合うべきだ	1
計	50

### ○女性の人権について

記入内容	件数
災害時の避難所でのあり方を考えるべき	1
女性の人権の質問はあったが男性に関する質問がなかった	1
不妊治療への支援を手厚くしてほしい	1
計	3



○子供の人権について

記入内容	件数
虐待から子どもを守るための支援の強化	1
育児手当をもっと充実させてほしい	1
子供を狙う犯罪を防止してほしい	1
行政が学校調査をすればいろいろ減る	1
計	4

○高齢者の人権について

記入内容	件数
高齢者の人権を尊重してほしい	2
計	2

○障害のある人の人権について

記入内容	件数
障害のある人の就労環境の整備をしてほしい	3
障害のある人に対する偏見をなくしてほしい	1
精神の病気を公表できる環境ではないと考える	1
優先座席に健常者が座っており、障がい者に譲らない	1
計	6

○外国人の人権について

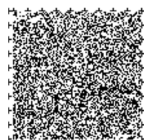
記入内容	件数
外国人には技術を盗まれるだけなので日本で働かせるべきではない	1
朝鮮学校への補助金を復活すべきである	1
計	2

○犯罪被害者とその家族の人権について

記入内容	件数
加害者の人権より、被害者の人権の方が重要である	1
犯罪被害者のための基金等金銭の保証ができればいい	1
犯罪者には人権は必要ない	1
計	3

○情報化社会による人権侵害について

記入内容	件数
事件を起こした人の個人情報ネットに上がらないための規制が必要	1
ネット上で誹謗中傷を受けた場合の相手の特定、裁判を行うまでの手続きが長すぎる	1
計	2





○性的少数者の人権について

記入内容	件数
LGBTQの人たちが住みやすい役所の対応をしてほしい（同性婚を認める等）	2
「ジェンダーレス」を目指している中で、世間が一番ジェンダーを意識している	1
計	3

○働く人の人権について

記入内容	件数
労働環境の改善が重要である	3
ハラスメントの解決は難しい	2
働く人に対するハラスメントが問題である	1
労働問題についての相談場所の職員の資質向上	1
教員への保護者からの理不尽なクレーム等から守ってくれる機関がない	1
パワハラを行っている会社に行政ほどのような指導をしているのか疑問である	1
就職の際、身元調査を行う企業がある	1
職場でも人権差別がある	1
貧富の差が学力に差が出て就職にもつながるので、中小企業の収入についても考えてほしい	1
計	12

○同和問題（部落差別）について

記入内容	件数
同和問題について学校等で教えないほうがよい	1
同和地区を知らない	1
同和地区の人の意識の改革を行う	1
若い人が同和について知らないことは良い傾向である	1
同和や部落の話をするべきではない	1
計	5

○北朝鮮当局による拉致問題について

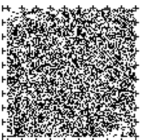
記入内容	件数
遠い感じがして理解できていない	1
日本が戦後、朝鮮人に対する日本の国家犯罪に誠実に対応していたら、日本人拉致など起きなかった	1
計	2

○その他

記入内容	件数
本県民意識調査に対する御意見	14
アンケートにより、改めて関心をもった	10
安心して住みやすくなってほしい	7
職員に対する意見	4
その他の意見	15
計	50

総合計	144
-----	-----





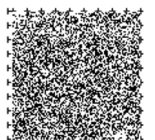
# 資料 人権に関する県民意識調査票

※このページ以降も音声コードが入っていることを示す切り込みは入っていますが、音声コードはここまでとなります。調査票に関するお問い合わせは、次に示す連絡先まで直接お問い合わせください。

和歌山県企画部人権局 人権施策推進課

TEL：073-441-2566（直通）

FAX：073-433-4540





# 人権に関する県民意識調査

～ 人権が尊重される社会づくりのために ～

令和5年6月  
和歌山県

## ご記入にあたってのお願い

- ① 調査の結果は、すべて統計的に処理し、あなた自身のことやご回答の内容が、外部に公表されることや、調査目的以外に使用されることは絶対にありません。日頃お考えになっていることや感じていることを、ありのままご回答ください。
  - ② 回答は、封筒あて名のご本人がお答えください（記入後、名前を書く必要はありません）。ご本人での回答が困難な方は、ご家族などのご協力により回答してください。
  - ③ 回答は各質問の指示にしたがい、番号を○で囲んでください。また、「その他」にあてはまる場合は、( ) 内にその内容を具体的に記入してください。
  - ④ 質問は番号順にご回答ください。質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、質問文の指示にしたがってご回答ください。
- ※ ご記入後は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手は必要ありません）に入れ、6月30日（金）までにご返送ください。

### 【調査に関するお問い合わせ先】

和歌山県企画部人権局人権施策推進課

電話：073-441-2566（直通）

FAX：073-433-4540

メール：e0215001@pref.wakayama.lg.jp



～人権とは～

すべての人が生まれながらに持っている、人として幸せに生きていくために必要な、誰からも侵されることのない権利です。

和歌山県

## 「人権」についてのお考えをおたずねします

問1 あなたは、人権についてどのようにお考えですか (○は1つだけ)

- 一人ひとりの人権は何よりも尊重されなければならない
- 一人ひとりの人権は尊重されるべきだが、ある程度の制約もやむを得ない
- 人権という名のもとに、権利の乱用がみられることがあるので、むしろ制限されるべきである
- わからない

問2 「人権」に関する次のAからCの各設問について、あなたはどのようにお考えですか (○はそれぞれ1つずつ)

	①	2	3	4	5
(例) 和歌山県の自然についてどう思いますか	豊かだと思う	どちらかといえば豊かだと思う	どちらともいえない	どちらかといえば豊かだと思わない	豊かだと思わない
A 今の和歌山県では、人権は十分守られていると思いますか	1 守られていると思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 守られていると思わない
B 今の和歌山県では、人権を守る教育・啓発活動が十分行われていると思いますか	1 行われていると思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 行われていると思わない
C 5年前に比べて県民の人権意識は高くなっていると思いますか	1 高くなっていると思う	2 どちらかといえばそう思う	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう思わない	5 高くなっていると思わない

問3 次あげる人権課題の中で、あなたが関心をもっているものは何ですか (〇はいくつでも)

1. 女性の人権
2. 子供の人権
3. 高齢者の人権
4. 障害 (身体障害・知的障害・精神障害・発達障害 \* 1・高次脳機能障害 \* 2 など) のある人の人権
5. 同和問題 (部落差別)
6. 外国人の人権
7. HIV (エイズウイルス) 感染者、かつてハンセン病を患った人、難病患者の人権
8. 犯罪被害者とその家族の人権
9. 情報化社会における人権侵害 (インターネット上での人権侵害、プライバシーに係る人権侵害)
10. 性的少数者 \* 3 の人権
11. 刑を終えて出所した人の人権
12. ホームレスの人権
13. 災害時における人権問題
14. 北朝鮮当局による拉致問題
15. アイヌの人々の人権
16. 働く人の人権 (職場におけるハラスメント \* 4 の問題や長時間労働など)
17. 医療の現場における患者の人権
18. 自殺で亡くなった人やその遺族の人権
19. ひきこもりの状態にある人やその家族の人権
20. 環境問題
21. 公権力 (国や地方公共団体) による人権侵害
22. 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害
23. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)
24. 関心がない

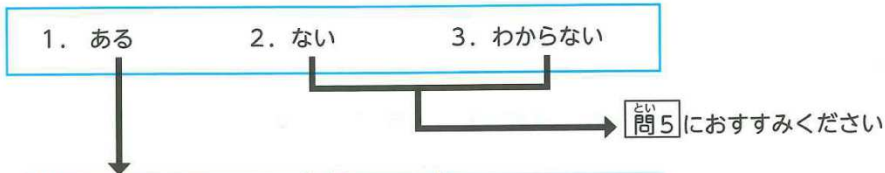
発達障害 \* 1 : 自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害

高次脳機能障害 \* 2 : 脳血管障害や頭部外傷などによる脳損傷の後遺症として認知障害が生じ、これに起因して日常生活・社会生活に制約を受ける障害

性的少数者 \* 3 : 性的指向や性自認、性表現、身体的性など性に関するマイノリティのこと。性的少数者の一例として、Lesbian (レスビアン: 女性同性愛者)、Gay (ゲイ: 男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル: 両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー: 身体の性と性自認が一致しない人) などがあり、頭文字をとって「LGBT」という言葉が使われている。このほかにも、Questioning (クエスチョニング: 性的指向や性自認が明確でない人、定義づけたくない人、わからずに悩んでいる人) や Asexual (アセクシュアル: 性的指向が他者に向かない人) などを加えて「LGBTQ+」「LGBTs」ということもある

職場におけるハラスメント \* 4 : 仕事上の立場を利用した「いじめ」や「嫌がらせ」。セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、妊娠、出産、育児又は介護に関するハラスメントなど

**問4** あなたは、過去5年間に、人権侵害\*を受けましたことがありますか (○は1つだけ)  
 (人権侵害\* : 暴力、いじめ、差別、虐待、プライバシーの侵害など)



**問4**で、「1. ある」と回答された方におたずねします

**問4-1** そのときどうされましたか (○はいくつでも)

1. 相手に直接抗議した
2. 家族や親せきに相談した
3. 友人や先輩に相談した
4. 職場の同僚、上司に相談した
5. 裁判所や弁護士に相談した
6. 法務局や人権擁護委員に相談した
7. (公財)和歌山県人権啓発センターや県の機関 (人権局、子ども・女性・障害者相談センターなど) に相談した
8. 市町村に相談した
9. 自治会役員、民生委員などに相談した
10. 警察に相談した
11. 学校 (先生) に相談した
12. NPOやボランティア団体などの支援団体に相談した
13. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)
14. 何もしなかった

問4-2におすすみください

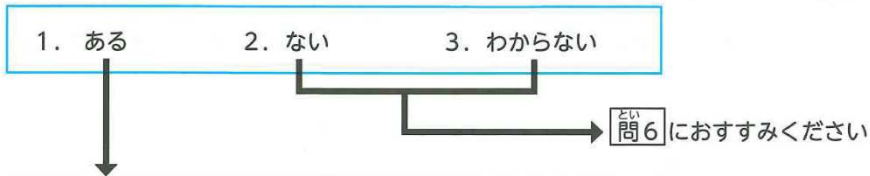
**問4-1**で、「14. 何もしなかった」と回答された方におたずねします

**問4-2** なぜそのようにされたのですか (○はいくつでも)

1. 誰に (どこに) 相談すればよいかわからなかったから
2. 相手に抗議や誰かに (どこかに) 相談しても解決しなかったから
3. 抗議や相談することで相手との関係が悪くなったから
4. 相談するとプライバシーが守られないと思ったから
5. 過去に相談したが解決しなかったから
6. 自分が我慢すればよいと思ったから
7. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)



**問5** あなたは、過去5年間に、他の人が人権侵害を受けたことを見たり聞いたりした  
 ことがありますか (○は1つだけ)



**問5で、「1. ある」と回答された方におたずねします**

**問5-1** そのときどうされましたか (○はいくつでも)

1. 相手に直接抗議した
  2. 人権侵害を受けている本人に話を聞いた
  3. 家族や親せきに相談した
  4. 近所の人、近くに住んでいる友達・先輩に相談した
  5. 職場の同僚、上司に相談した
  6. 裁判所や弁護士に相談した
  7. 法務局や人権擁護委員に相談した
  8. (公財)和歌山県人権啓発センターや県の機関(人権局、子ども・女性・障害者相談センターなど)に相談した
  9. 市町村に相談した
  10. 自治会役員、民生委員などに相談した
  11. 警察に相談した
  12. 学校(先生)に相談した
  13. NPOやボランティア団体などの支援団体に相談した
  14. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
  15. 何もしなかった
- 問5-2におすすみください

**問5-1で、「15. 何もしなかった」と回答された方におたずねします**

**問5-2** なぜそのようにされたのですか (○はいくつでも)

1. 誰に(どこに)相談すればよいかわからなかったから
2. 相手に抗議や誰かに(どこかに)相談しても、解決しなかったから
3. 抗議や相談することで相手との関係が悪くなったと思ったから
4. 相談するとプライバシーが守られないと思ったから
5. 過去に相談したが解決しなかったから
6. 自分の代わりに誰かが対応するだろうと思ったから
7. トラブルに巻き込まれなくなかったから
8. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

ここからは再び全員の方におたずねします

問6 子供、配偶者、高齢者、障害のある人などへの虐待や暴力が、あなたのまわりで起きていることを知った場合、あなたならどのように対応すると思いますが  
(〇はいくつでも)

1. 相手（加害者）に注意・抗議する
2. 虐待や暴力を受けている本人に話を聞く
3. 問題が起きている家族やその親せきに話を聞く
4. 近所の人、近くに住んでいる友達・先輩に相談する
5. 県、市町村、法務局、人権擁護委員に相談する
6. 職場の同僚、上司に相談する
7. 児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する
8. 裁判所や弁護士に相談する
9. NPOやボランティア団体などの支援団体に相談する
10. 子供の通っている保育所、学校などに相談する
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
12. 何もしない

## さまざまな人権課題についてのお考えをおたずねします

問7 女性に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか

(○はいくつでも)

1. 女性の政治への参画や会社役員、管理職などへの登用が少ない
2. 職場において、採用や昇進などで男女の処遇に違いがある
3. 職場においてセクハラ（性的嫌がらせ）がある
4. 職場において妊娠、出産などを理由とした不当な取り扱いがある
5. 「男は仕事、女は家事・育児」など、男女の固定的な役割分担意識がある
6. 家事・育児や介護などを男女が共同で行う社会の仕組みが十分に整えられていない
7. 妊娠や出産など母性健康管理について、十分に保障されていない
8. 医療の現場において、女性が気軽に安心して受診できる体制が整っていない
9. 夫や恋人などから暴力・暴言、危害の恐怖を感じる脅迫や行動制限をうける（ドメスティック・バイオレンス）
10. レイプなどの女性への性暴力が発生している
11. 特定の人にしかくつきまとわれる（ストーカー）
12. 売春、買春、援助交際が行われている
13. 地域において、女性の伝統行事への参加を制限する慣習やしきたりが残っている
14. 商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿・裸体などを使用している
15. 「婦人」「未亡人」など女性だけに用いられる言葉が使われている
16. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
17. 特に問題はない
18. わからない

問8 子供に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか

(○はいくつでも)

1. 「仲間はずれ」や「無視」、身体への暴力や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行う
2. 携帯電話などによるインターネットの書き込みなどで特定の子供が攻撃される
3. 暴力や性など子供にとって有害な情報がたくさんある
4. 子供を成績や学歴だけで判断する
5. 子供の指導のためには教師による体罰もやむを得ないという考えがある
6. 校則で髪型や服装が細かく決められている
7. 登下校時の安全が十分確保されていない
8. 親（保護者）が子供に暴力をふるったり育児を放棄するなどの虐待をする
9. 学校や就職の選択などで、子供の意見を聞かず、大人の意見を押しつける
10. 子供のしつけのためには親（保護者）による体罰もやむを得ないという考えがある
11. 親（保護者）が子供の部屋に勝手に入ったり、メールを見たりする
12. 親の経済格差が広がり、貧困の状態におかれている子供がいる
13. ヤングケアラー\*1の子供がいる
14. 児童福祉施設\*2において対応に不十分な面がある
15. 児童賞春、援助交際が行われている
16. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）
17. 特に問題はない
18. わからない

ヤングケアラー\*1：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子供

児童福祉施設\*2：助産施設、乳児院、保育園、こども園、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、児童家庭支援センターなど

問9 高齢者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか  
(〇はいくつでも)

1. 低所得のために経済的自立が難しい
2. 就労の機会が少ない
3. 仕事やボランティアなどを通して自分の能力を発揮する機会が少ない
4. 高齢者を子供あつかいや邪魔者あつかいし、意見や行動を十分に尊重しない
5. 道路や駅などのバリアフリー化\*が進んでいないため外出しづらい
6. さまざまな建物や製品が、高齢者が利用しやすいようにつくられていない
7. 認知症の内容や認知症患者のニーズが理解されていない
8. スポーツや文化活動などへの参加に対して配慮がされていない
9. 病院・施設や家庭などにおいて高齢者に対して虐待などがある
10. 特別養護老人ホームや在宅介護などの介護や福祉サービスが十分でない
11. アパートなどへの入居を拒否されることがある
12. 悪質商法などの消費者被害が多い
13. 判断能力が十分でない高齢者の財産を勝手に管理したり、処分したりする
14. その他 (具体的に： \_\_\_\_\_ )
15. 特に問題はない
16. わからない

バリアフリー化\*：段差の解消、スロープやエレベーターの設置などにより、障害のある人や高齢者の生活や活動を妨げるものを取り除くなど、利便性を向上させること

**問 10** 障害（身体障害・知的障害・精神障害・発達障害・高次脳機能障害など）のある  
 人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか

(○はいくつでも)

1. 障害についての理解や認識が十分でない
2. 道路や駅などのバリアフリー化が進んでいないため外出しづらい
3. 仕事に就く機会が少なく、また障害のある人が働くための職場の環境整備が十分でない
4. 地域にバリアフリー化された住宅がない
5. 地域の福祉サービスが十分でない
6. 学校の受入体制が十分でない
7. 障害特性に配慮した情報提供（音声案内や字幕など）が十分でない
8. 障害があることを理由に、乗り物への乗車や店・施設の利用を断られる
9. 障害があることを理由に、資格取得などを制限する制度などがある
10. アパートなどへの入居を拒否されることがある
11. スポーツや文化活動などへの参加に対して配慮がされていない
12. 障害のある人を避ける、あるいは傷つける言葉や障害をたとえた表現を使う
13. 本人やその家族の結婚のときに周囲が反対する
14. 病院や施設、家庭などにおいて、障害のある人に対する不当な扱いや虐待がある
15. 障害のある人や障害のある人が利用する施設（障害者施設などの社会福祉施設、精神科の病院やクリニックなど）に対する偏見がある
16. 判断能力が十分でないことに乗じ、詐欺などの被害が発生している
17. 事件報道において精神科への受診歴や疾患名、障害の有無が公表される
18. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
19. 特に問題はない
20. わからない

問 11 日本に居住する外国人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だとおもいますか（○はいくつでも）

1. 外国人の生活習慣や宗教・文化への理解や認識が十分でない
2. 就職や仕事の内容、待遇などで、不利な条件におかれている
3. 日常生活において、外国語による情報が少ないために、十分なサービスを受けることができない
4. 公民権\*が制限されている
5. 子供に対して、自国の宗教や生活習慣にあった教育が行いにくい
6. 外国人のための日本語や日本文化に関する教育の機会が十分でない
7. アパートなどへの入居を拒否されることがある
8. 入店を断られる店や施設がある
9. 結婚のときに周囲の人が反対をする
10. 特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動（いわゆるヘイトスピーチ）がある
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
12. 特に問題はない
13. わからない

公民権\*：選挙権や被選挙権を通じて国または地方公共団体の政治に参加できる権利

問 12 HIV感染者やかつてハンセン病を患った人、難病患者に関する事柄で、人権  
 上、特にどのようなことが問題だと思いますか (○はいくつでも)

1. 病気についての理解や認識が十分でない
2. 医療施設や療養環境が十分でない
3. 医療保険の対象とならない治療方法があるなどの理由で、医療費が高額になり、十分な治療が受けられない
4. 退職や退学するよう求められる
5. 社会復帰が困難である
6. 病気の後遺症が残っている、感染している、難病であるというだけで本人や家族が世間から好奇または偏見の目で見られる
7. 本人やその家族の結婚のときに周囲が反対する
8. アパートなどへの入居を拒否されることがある
9. 興味本位の報道がなされる
10. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)
11. 特に問題はない
12. わからない



問 13 犯罪被害者とその家族に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか (○はいくつでも)

1. 捜査や裁判に関して心理的・時間的・経済的な負担が大きい
2. 被害や被害者などがうわさ話などの対象となり、二次被害を受けている
3. 被害者の苦しみについて職場や学校での十分な理解を得られない
4. 加害者の捜査や裁判について、十分な情報が得られない
5. 被害者に対する相談・支援機関などが十分でない
6. 被害者に対する金銭の公的な支援制度が十分でない
7. 住居の確保が難しい
8. マスメディアによる行き過ぎた取材のため日常的な生活を送ることができない
9. 被害者の写真や履歴などが公表され、プライバシーが侵害されている
10. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)
11. 特に問題はない
12. わからない

問 14 インターネットを利用した人権侵害やプライバシーに係る人権侵害について、特にどのようなことが問題だと思えますか（○はいくつでも）

1. インターネット上に他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現を用いた情報を掲載する
2. インターネット上での誹謗中傷などの書き込みなどを削除しようとしても、削除されない
3. インターネット上で誹謗中傷などを書き込まれた人が、書き込んだ人を特定しようとした場合、時間や費用を要するなど、相当な負担となっている
4. SNSなどが犯罪や自殺を誘発する場となっている
5. インターネット上に加害少年や捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などを掲載する
6. 子供たちの間で、インターネットを利用した「いじめ問題」が発生している
7. インターネット上にわいせつ画像や残虐な画像など、有害な情報を掲載する
8. 個人情報の不正な調査や取り扱い、横流し、流出などが発生している
9. 個人情報の流出により知らない企業や団体からダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘をうける
10. インターネットを利用した詐欺などが発生している
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
12. 特に問題はない
13. わからない

問 15 性的少数者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思えますか

(○はいくつでも)

1. 理解や認識が不足している
2. 侮辱や、いやがらせがある
3. 性的指向・性自認について公表できる・したいと思える社会になっていない
4. 相談・支援体制が十分ではない
5. 就職の時や職場で不利な取り扱いをされることがある
6. 店舗などでサービスを拒否されることがある
7. 医療の現場において、気軽に安心して受診できる体制が整っていない
8. パートナーや恋人などから暴力・暴言、危害の恐怖を感じる脅迫や行動制限をうける（ドメスティック・バイオレンス）
9. レイプなどの性暴力が発生している
10. アパートなどへの入居を拒否されることがある
11. 同性婚ができず、また自治体におけるパートナーシップ制度の導入も進んでいない
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
13. 特に問題はない
14. わからない

きょうりよく  
ご協力ありがとうございます  
ひ つづ さいご ねが  
引き続き最後までよろしく申し上げます

問 16 はたら ひと かん ことがら じんけんじょう とく 働く人に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いませんか

(○はいくつでも)

1. 長時間労働が続く、あるいは休暇が取得しづらい
2. 過労死が発生している
3. サービス残業が発生している
4. 不当に解雇される、あるいは自主的な退職に追い込まれる
5. 職場におけるハラスメントがある
6. 採用や昇進などにおいて、本人の適性や能力以外の面で評価される
7. 非正規雇用者と正規雇用者の待遇に差がある
8. 定年退職後も働き続けられる雇用環境が整備されていない
9. 育児や介護との両立に必要な職場環境の整備が十分でない
10. 心の病などの健康に関して相談する体制が整備されていない
11. その他 (具体的に： \_\_\_\_\_ )
12. 特に問題はない
13. わからない

問 17 医療の現場における患者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だ  
 と思いますか (〇はいくつでも)

1. 医師から治療について、その方法を選択し承諾するのに必要な情報を受ける権利  
 (インフォームドコンセント) が守られていない
2. 診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取 (セカンドオピニオン) を受ける機会が  
 十分ではない
3. 医療過誤 (医療ミス) が発生した場合に、患者の権利が守られる体制がない
4. 救急患者の受け入れが拒否されることがある
5. 入院時の生活環境が悪い
6. 医療の現場における患者のプライバシーが十分に保護されていないことがある
7. 女性専用外来\*が不足している、あるいは近くにない
8. 医師及び医療従事者による虐待行為 (暴言、暴行、性的いやがらせなど) が発生している
9. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)
10. 特に問題はない
11. わからない

女性専用外来\* : 「女性特有の症状に苦しんでいる」「男性医師に相談しにくい」と悩んでいる  
 女性を対象に、窓口を設けて女性医師が診察に当たること

どうわもんだい ぶらくさべつ かんが  
同和問題 (部落差別) についてのお考えをおたずねします

とい 問 18 どうわもんだい ぶらくさべつ  
同和問題 (部落差別) について、どういうきっかけで知りましたか (○は1つだけ)

1. 家族から聞いた
2. 親せきの人から聞いた
3. 近所の人から聞いた
4. 友達から聞いた
5. 学校の授業で教わった
6. 職場の人から聞いた
7. テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った
8. インターネットで知った
9. 講演会・研修会などで聞いた
10. 「県民の友」や市町村の広報誌などから知った
11. 同和問題 (部落差別) は知っているが、きっかけは覚えていない
12. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_ )
13. 知らない

問19 同和問題（部落差別）に関して、現在、どのような問題があると思いますか

（○はいくつでも）

1. 結婚のときに周囲の人が反対をする
2. 就職の時や職場で不利な取り扱いをされる
3. 公共施設などに差別的な落書きがある
4. インターネット上に同和地区と称する地名や画像を掲載したり、関係者を誹謗中傷する書き込みがある
5. 身元調査が行われている
6. 同和問題（部落差別）の理解不足につけ込んだ高額図書の売りつけなどがある
7. 同和地区住民との付き合いを避ける
8. 住宅環境や道路などの生活環境が悪い
9. 進学率が低く、学力格差がある
10. 不安定な就労状態の人が多い
11. 家を購入するときなどは、同和地区や同じ小学校区域を避ける
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
13. 特に問題はない
14. わからない

問20 仮に、あなたに子供がおり、あなたの子供が、結婚しようとする相手の方が、同和地区の人であるとわかったとき、あなたはどうしますか（○は1つだけ）

1. 子供の意思を尊重する
2. 反対だが、子供の意思であれば、仕方がない
3. 家族や親せきに、反対意見があれば、結婚に反対する
4. 絶対に、結婚には反対する
5. わからない

新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルス感染症<sup>かんせんしやう かん</sup>に関する人権侵害<sup>じんけんしんがい</sup>についてのお考えをおたずねします<sup>かんが</sup>

問 21 新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルス感染症<sup>かんせんしやう かん</sup>に関する事柄<sup>ことがら</sup>で、人権上<sup>じんけんじやう</sup>、特にどのようなことが問題<sup>もんだい</sup>だと思<sup>おも</sup>いますか (○はいくつでも)

1. 新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルス感染症<sup>かんせんしやう</sup>についての理解<sup>りかい</sup>や認識<sup>にんしき</sup>が十分<sup>じゆうぶん</sup>でない
2. 感染者<sup>かんせんしや</sup>やその家族<sup>かぞく</sup>、あるいは集団感染<sup>しゅうだんかんせん</sup>が発生<sup>はっせい</sup>した施設<sup>しせつ</sup>に対して誹謗中傷<sup>ひぼうちゆうしやう</sup>が行われる<sup>おこな</sup>
3. マスク<sup>ちやくよう</sup>の着用<sup>せつしゆ</sup>やワクチン接種<sup>せつしゆ</sup>ができない人<sup>ひと</sup>などに対して誹謗中傷<sup>ひぼうちゆうしやう</sup>が行われる<sup>おこな</sup>
4. 感染者<sup>かんせんしや</sup>やその家族<sup>かぞく</sup>の個人情報<sup>こじんじやうほう</sup>あるいは、集団感染<sup>しゅうだんかんせん</sup>が発生<sup>はっせい</sup>した施設<sup>しせつ</sup>の情報<sup>じやうほう</sup>がインターネット上<sup>じやう</sup>に書き込まれる<sup>か</sup>
5. 感染者<sup>かんせんしや</sup>やその家族<sup>かぞく</sup>などの登校<sup>とうこう</sup>、通勤<sup>つうきん</sup>、入店<sup>にゅうてん</sup>を拒否<sup>きよひ</sup>される
6. 医療関係者<sup>いりやうかんけいしや</sup>などに対して差別的<sup>たい</sup>な言動<sup>さべつてき げんどう</sup>が行われる<sup>おこな</sup>
7. 医療施設<sup>いりやうしせつ</sup>や療養環境<sup>りやうやうかんきやう</sup>が十分<sup>じゆうぶん</sup>でない
8. 患者<sup>かんじや</sup>の社会復帰<sup>しやかいふつき</sup>が困難<sup>こんなん</sup>である
9. その他<sup>た</sup> (具体的に:<sup>ぐたいてき</sup> \_\_\_\_\_ )
10. 特に問題<sup>もんだい</sup>はない<sup>とく</sup>
11. わからない



## その他、人権全般についておたずねします

問 22 人権に関する様々な法律や県の条例について知っていますか（○はそれぞれ1つ）

	内容も知っている	内容は知らないが聞いたことはある	まったく知らない
1 障害者差別解消法 (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)	1	2	3
2 障害者雇用促進法 (障害者の雇用の促進等に関する法律)	1	2	3
3 いじめ防止法 (いじめ防止対策推進法)	1	2	3
4 ヘイトスピーチ解消法 (本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)	1	2	3
5 部落差別解消推進法 (部落差別の解消の推進に関する法律)	1	2	3
6 北朝鮮人権侵害対処法 (拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律)	1	2	3
7 男女雇用機会均等法 (雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)	1	2	3
8 育児・介護休業法 (育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律)	1	2	3
9 パワハラ防止法 (労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律)	1	2	3
10 児童虐待防止法 (児童虐待の防止等に関する法律)	1	2	3
11 子どもの貧困対策法 (子どもの貧困対策の推進に関する法律)	1	2	3
12 和歌山県人権尊重の社会づくり条例	1	2	3
13 和歌山県部落差別の解消の推進に関する条例	1	2	3
14 和歌山県新型コロナウイルス感染症に係る 誹謗中傷等対策に関する条例	1	2	3
15 和歌山県犯罪被害者等支援条例	1	2	3

とい 問 23 あらゆる人権問題に関する啓発活動の推進と情報発信の拠点である「(公財) 和歌山県人権啓発センター」のことを知っていますか (○は1つだけ)

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがある
3. 知らない

とい 問 24 すべての人の人権が尊重される社会の実現のため、和歌山県や(公財)和歌山県人権啓発センターでは次のような取組を行っていますが、その中で関心があるのはどの取組ですか (○はいくつでも)

1. 人権侵害を受けた人への相談や支援
2. 人権に関する啓発冊子の作成
3. テレビやラジオなどのメディアを使った啓発活動
4. ホームページやSNSを使った啓発活動
5. 人権啓発イベント(ふれあい人権フェスタなど)の開催
6. 人権に関する講演会の開催
7. ワークショップ\*のような少人数を対象とした研修会の開催
8. NPOなどと連携を深め、その自主的・主体的な人権尊重の活動を支援
9. 人権に関する図書や啓発ビデオなどの資料の収集・貸し出し
10. 広く県民から人権に関する詩やポスターなどの募集
11. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
12. 特に関心のあるものはない

ワークショップ\*: 人権問題について意見を出し合うことで、学んだり、気づいたりする参加体験型学習

かいとう けっか どうけいてき ぶんせき  
 ご回答いただいた結果を統計的に分析するため、  
 さいご じしん  
 最後にあなた自身のことについておたずねします

① あなたの性別を教えてください

1. 男性
2. 女性
3. その他

※この調査では、性別による意識や行動の違いを把握したいため、性別をおたずねしています。「どちらでもない」「わからない」などという方々を「その他」と表記しています

② あなたの年齢を教えてください

1. 10歳代
2. 20歳代
3. 30歳代
4. 40歳代
5. 50歳代
6. 60歳代
7. 70歳以上

③ あなたの職業を教えてください (主なもの1つだけに○)

1. 農林水産業 (農林水産業の事業主とその家族従業員)
2. 自営業 (農林水産業をのぞく商工サービス業、自由業などの事業主とその家族従業員)
3. 公務員
4. 会社員・団体職員
5. パート、アルバイト
6. 学生
7. 家事に従事
8. 無職
9. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)

④ あなたがお住まいの市町村が含まれている地域の番号に○をつけてください

1. 和歌山市
2. 海南市・海草郡
3. 紀の川市・岩出市
4. 橋本市・伊都郡
5. 有田市・有田郡
6. 御坊市・日高郡
7. 田辺市・西牟婁郡
8. 新宮市・東牟婁郡

じんけんもんだい わかやまけん じんけんせさく いけん ようぼう  
◎ 人権問題や和歌山県の人権施策などにご意見・ご要望などがございましたら、以下に  
じゆう か  
ご自由にお書きください

Blank lined area for writing responses.

きょうりよくまこと  
ご協力誠にありがとうございました

みなさまからいただいたご回答は、集計・分析の上、調査報告書としてとりまとめ公表する予定です。この調査にご協力いただき、希望される方には調査報告(概要版)をお送りしますので、下記までご連絡ください。

わかやまけん きかくぶ じんけんきよくじんけんせさくすいしんか  
和歌山県企画部人権局人権施策推進課

でん わ 073-441-2566 ちやくつう  
電話：073-441-2566 (直通)

F A X : 073-433-4540

メール：e0215001@pref.wakayama.lg.jp



和歌山県人権に関する県民意識調査  
調査結果報告書

令和6年3月

発行 和歌山県企画部人権局人権施策推進課  
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
電話(073)441-2566 FAX (073)433-4540